



取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

DYNA



| | |
|----|------------------|
| | 絵で見る目次 |
| | 警告ラベル |
| | 基本操作早わかり |
| 1 | 必読！安全・快適に運転するため |
| 2 | お車をたいせつに |
| 3 | 各部の開閉 |
| 4 | シート・シートベルトの取り扱い |
| 5 | スイッチ・運転装置の取り扱い |
| 6 | メーター・警告灯・表示灯の見方 |
| 7 | ヒーター・エアコンの取り扱い |
| 8 | アクセサリー（装備品）の取り扱い |
| 9 | 正しい運転操作 |
| 10 | 冬期・夏期の取り扱い |
| 11 | キャブチルト |
| 12 | 日常（運行前）点検 |
| 13 | 点検・手入れ |
| 14 | 給油・給脂 |
| 15 | 故障時の処置 |
| | サービスデータ |
| | さくいん |

このたびはトヨタ車をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本書は、安全・快適で社会環境にもやさしい運転をしていただくために正しい取り扱いと簡単な点検・手入れについて説明してあります。

取り扱いや点検・手入れを誤りますと故障や事故の原因になりますので、お車をご使用する前に必ずお読みください。

- 「必読！安全・快適に運転するために」や  危険、 警告、 注意、 アドバイス、 知識、*のマークのところは重要です。これらの記載事項を守らないと傷害を負ったり事故の原因になり、また、保証をお受けできない場合がありますので、よくお読みください。
-  注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく場合があります。
いずれの場合も安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

危険

部品自体が危険性を内包し、取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる事項です。

警告

取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる可能性がある事項です。

注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車などの物的損害につながる可能性がある事項です。

アドバイス

車両の正規性能を確保するために守っていただきたい事項です。

知識

知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことです。

* 取り扱い、運転方法、点検整備に関する参考となる事項です。

知っておいていただきたいこと

- ■、▶、●のマークは、項目の大きさを順に示します。
- 本文中の★印の装置については、お車の仕様により装着されていない場合があります。
- 取扱書は、いつも使用できるように自動車検査証およびメンテナンスノートとともに必ずお車の中に、大切に保管してください。
- 本書は車両本体（シャシ）の説明書です。架装物の取り扱いについては、架装メーカーの「取扱書」をご覧ください。
- 排出ガス規制適合車を表す記号は省略した型式で表示しております。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために本書とメンテナンスノートを必ずお車につけておいてください。
- 本書の内容でご不明な点がありましたら、別冊の「メンテナンスノート」に記載されているトヨタ販売店までお問い合わせください。
- お車の仕様などの変更により、本書の内容の一部があなたのお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
- 単位について：SI 単位と従来単位を併記し、従来単位は { } 内に示しております。
- AdBlue®（アドブルー）はドイツ自動車工業会の登録商標です。
- Bluetooth® は、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

本書に記載している車の型式名

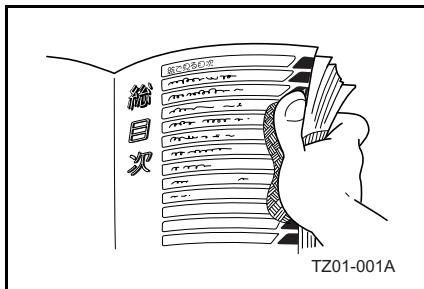
この本は、下に書いてある型式の車について説明しています。お車の型式をご確認の上お使いください。

| 型式 | エンジン型式 |
|---------|---------|
| GDY232 | 3GD-FTV |
| GDY232M | 3GD-FTV |
| GDY282 | 3GD-FTV |
| GDY282M | 3GD-FTV |
| TRY230 | 1TR-FE |

本書には、知りたいことが簡単にさがせるよういろいろな目次を用意してあります。
目的に応じてお使いください。

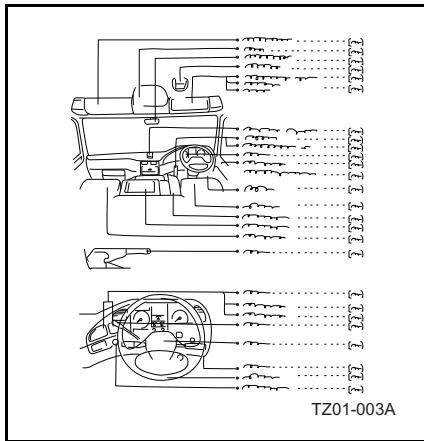
■総目次

この本の構成を知りたいときは、こちらをご覧ください。



■絵で見る目次

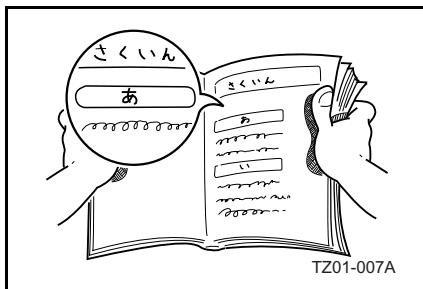
名称がわからないときは、こちらをご覧ください。



■さくいん

名称がわかっているときは、こちらをご覧ください。

各項目が、あいうえお順に書いてあります。

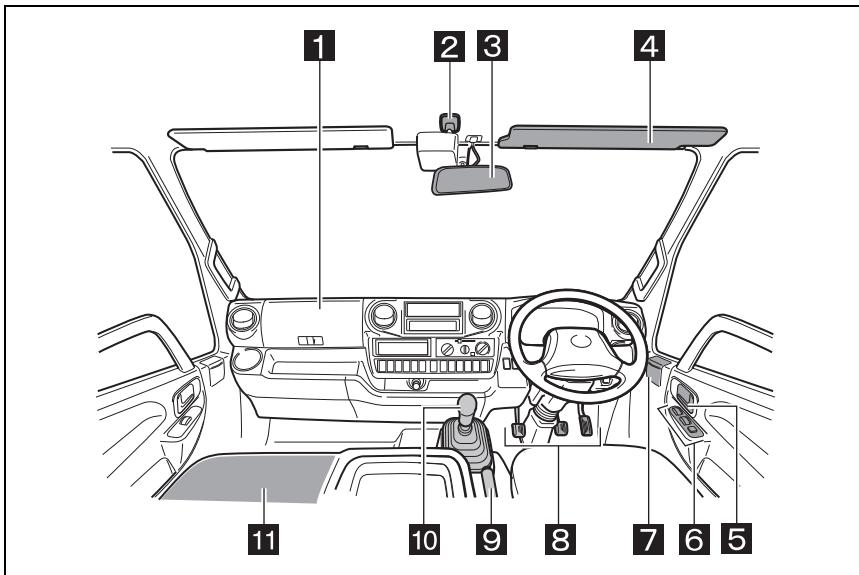


絵目次

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

絵で見る目次

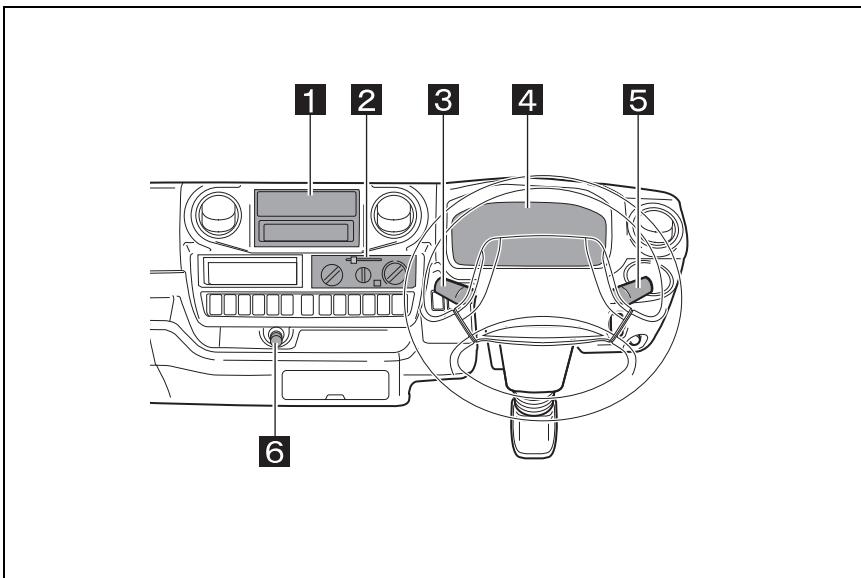
■室内



| | |
|--------------------|--------|
| 1 助手席 SRS エアバッグ★ | P.5-17 |
| 2 フロントルームランプ | P.8-32 |
| 3 バックモニター付きインナーミラー | P.8-34 |
| 4 サンバイザー | P.8-39 |
| 5 インサイドハンドル | P.3-6 |
| 6 パワーウィンドウ | P.3-8 |
| 7 灰皿★ | P.8-41 |
| 8 ペダル | P.5-6 |
| 9 パーキングブレーキレバー | P.5-15 |
| 10 シフトレバー | |
| MT 車 | P.5-7 |
| AT 車 | P.5-8 |
| 11 シート | P.4-2 |

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

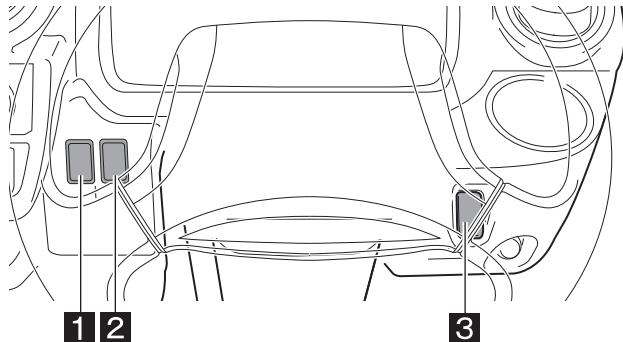
■ インストルメントパネル



| | | |
|---|-------------|------------------|
| 1 | オーディオ | P.8-3 |
| 2 | エアコン | P.7-3 |
| 3 | ワイパー＆ウォッシャー | P.5-23 |
| 4 | メーター類 | P.6-2 |
| 5 | 方向指示 ランプ | P.5-32 P.5-25 |
| | フォグランプ★ | P.5-33 |
| 6 | アクセサリーソケット | P.8-40 |

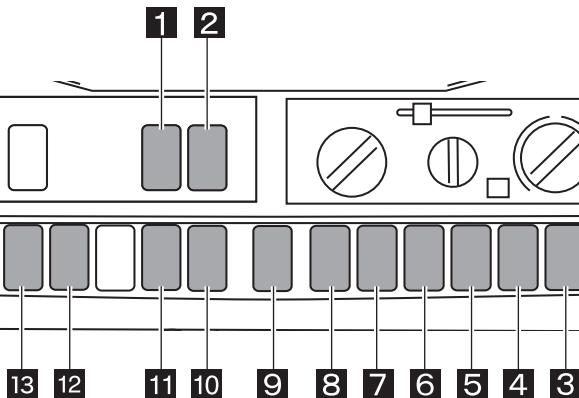
* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スイッチ類



- 1 電動格納式アウターミラー★ P.5-34
 2 ミラーヒーター★ P.5-36
 3 室内 LED 灯★ P.8-33

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



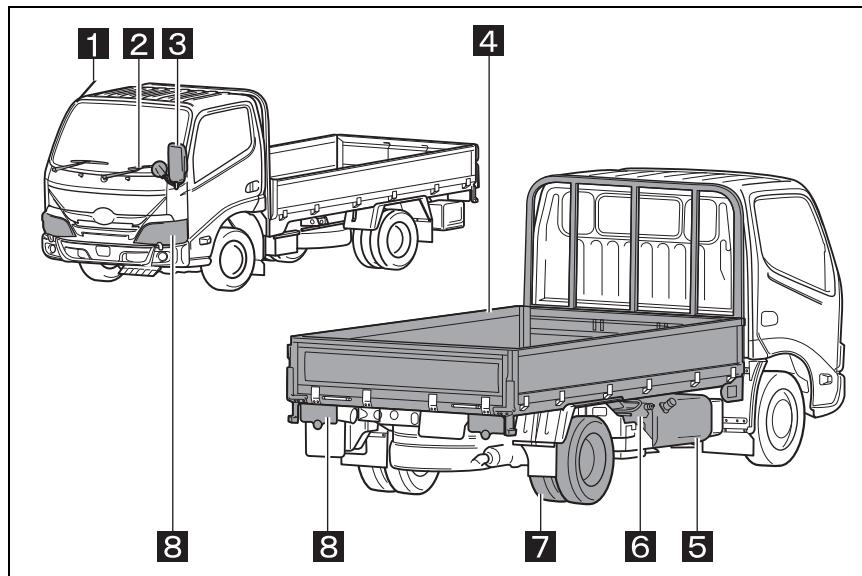
- 1 リヤパワーウィンドウ（左側）★ P.3-8
 2 リヤパワーウィンドウ（右側）★ P.3-8
 3 オートマチックハイビーム P.5-28
 4 アイドルアップ★ P.5-50
 5 バックブザー減音スイッチ P.5-91
 6 非常点滅灯 P.5-32

| | | |
|----|-------------------|--------|
| 7 | 排出ガス浄化装置★ | P.5-48 |
| 8 | ヘッドランプクリーナー★ | P.5-86 |
| 9 | VSC OFF | P.5-51 |
| 10 | ヘッドランプ光軸調整 | P.5-33 |
| 11 | 車線逸脱警報装置 OFF | P.5-53 |
| | PCS OFF | P.5-57 |
| 12 | Stop&Start キャンセル★ | P.5-86 |
| 13 | クリアランスソナー | P.5-81 |

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 外観

▶ シングルキャブ車

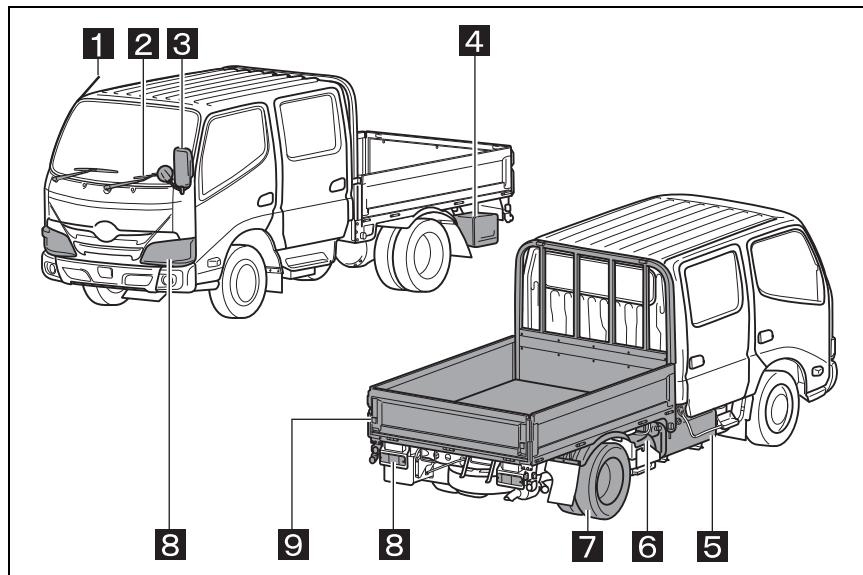


| | | |
|---|---------|---------|
| 1 | アンテナ | P.8-2 |
| 2 | ワイパー | P.13-56 |
| 3 | アウターミラー | P.5-37 |
| 4 | 荷台 | P.3-12 |
| 5 | 燃料タンク | P.3-12 |
| 6 | 尿素水タンク★ | P.13-66 |
| 7 | タイヤ | P.13-32 |

8 ランプ類 P.15-16

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ダブルキャブ車



| | |
|-----------|---------|
| 1 アンテナ | P.8-2 |
| 2 ワイパー | P.13-56 |
| 3 アウターミラー | P.5-37 |
| 4 ツールボックス | P.3-15 |
| 5 燃料タンク | P.3-12 |
| 6 尿素水タンク★ | P.13-66 |
| 7 タイヤ | P.13-32 |
| 8 ランプ類 | P.15-16 |
| 9 荷台 | P.3-12 |

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告ラベル

★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

● 以下の警告ラベルは重要ですので、ご使用前には必ずお読みください。

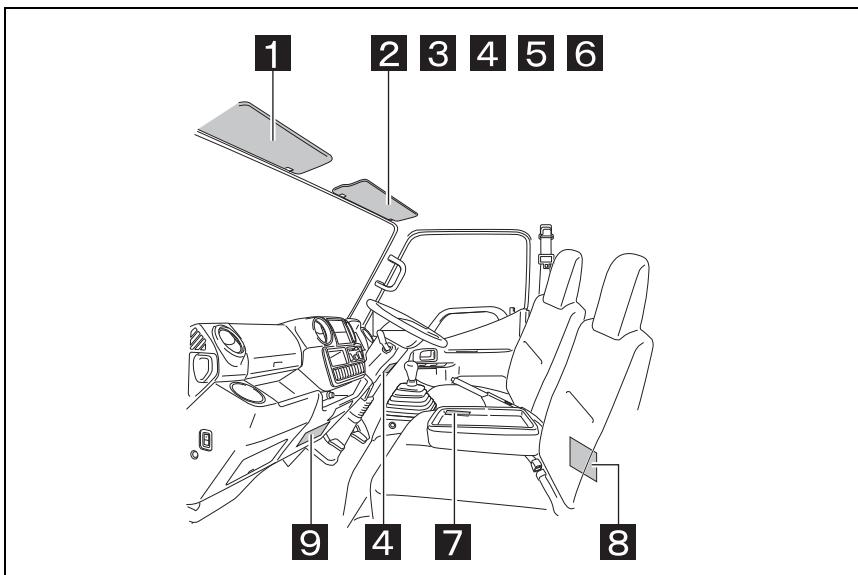
● 記載事項が見にくいものや、損傷のあるもの、はがれているものがある場合には、トヨタ販売店にお申し付けください。

なお、これらの警告ラベルは車両本体（シャシ）についてのものです。架装物に関するものは架装メーカーの資料をご覧ください。

■警告ラベルのシンボルマークと意味

| シンボルマーク | 意味 |
|--|---|
|  危険 | 部品自体が危険性を内包し、取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる事項です。 |
|  警告 | 取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる可能性がある事項です。 |
|  注意 | 取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車などの物的損害につながる可能性がある事項です。 |

キャブ内



1 助手席 SRS エアバッグ★※

※ 助手席 SRS エアバッグ装着車では助手席ベビーシートを取り付けたりチャイルドシートを後ろ向きに取り付けたりしないでください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。(→P.5-21)



2 排出ガス浄化装置★

6 尿素 SCR★

3 運転席 SRS エアバッグ★

7 可倒式パーキングブレーキレバー★

(→P.5-17)

4 後部架装物

8 ジャッキ

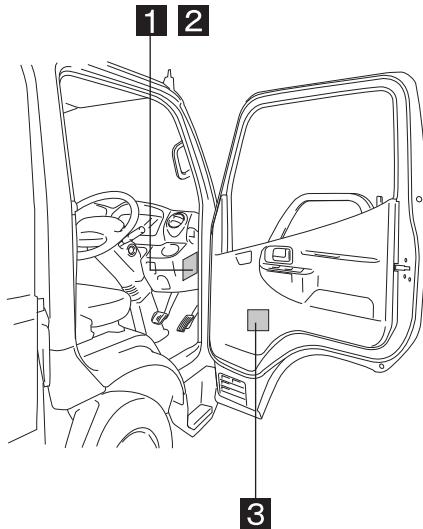
5 クラッチ★

9 ヒューズ

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア周り

警告ラベル



1 ブレーキフルード

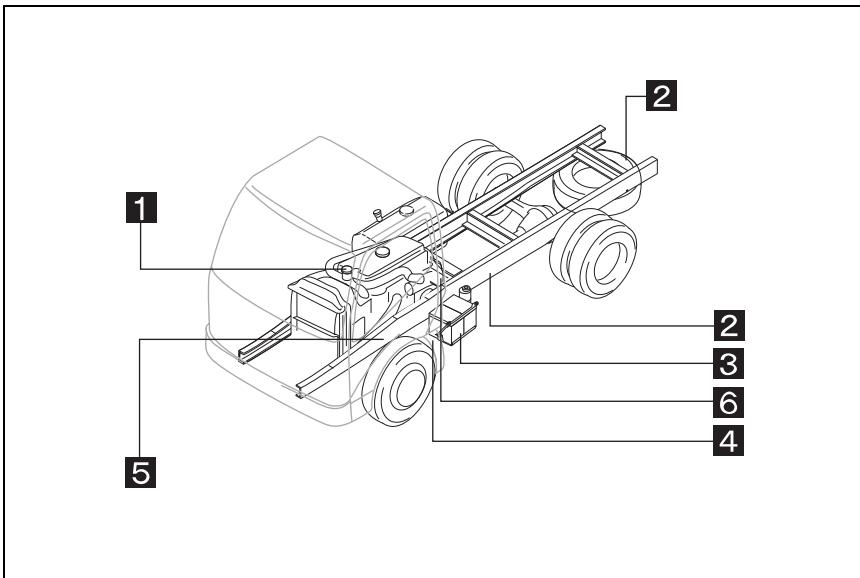
2 尿素 SCR★

3 4WD 車★

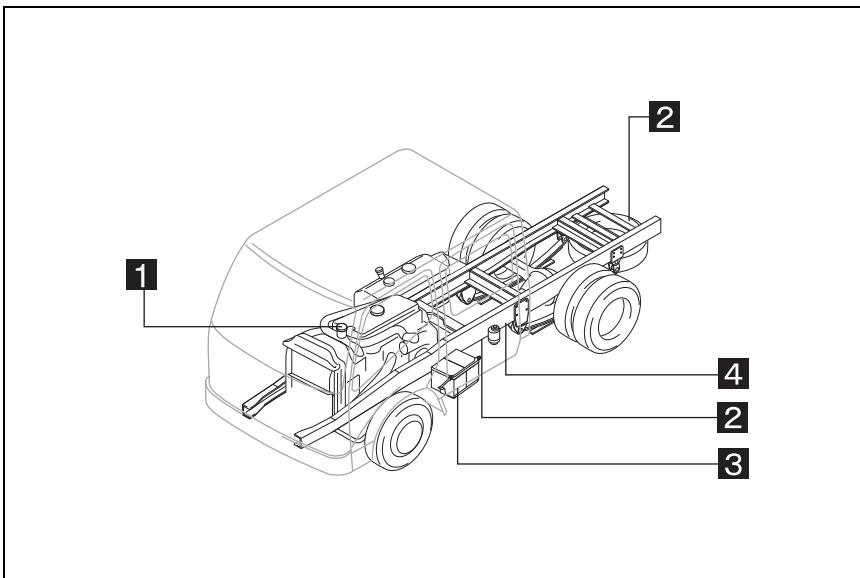
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キャブ外

▶ シングルキャブ車



▶ ダブルキャブ車



1 ラジエーターキャップ

2 スペアタイヤ

3 バッテリー

4 ヒュージブルリンク

5 キャブチルトステー★

6 キャブチルト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本操作早わかり

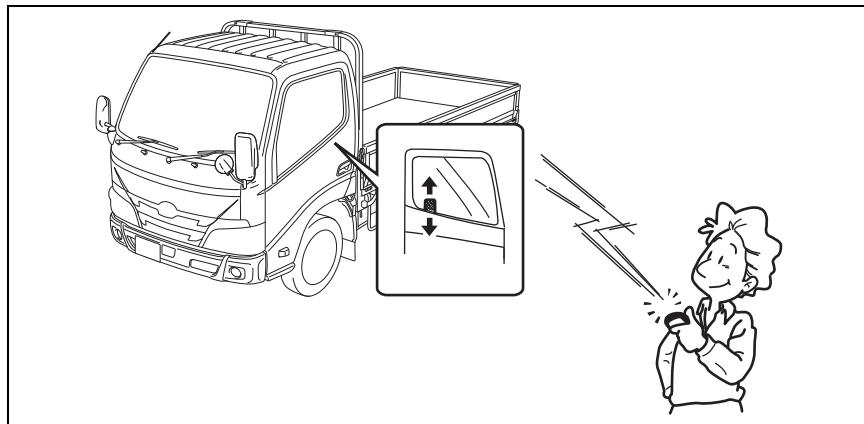
～はじめてこの車にお乗りになる方へ～

この章では、はじめて車を購入された方やトヨタ車にはじめてお乗りになる方のために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。

詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりとお読みください。

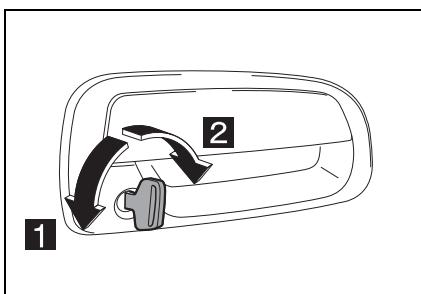
| | |
|--------------------|--------------------|
| ドアの施錠と解錠 | 警告灯に |
| 基本操作早わかり -2 | 関する詳しい紹介は |
| 各部の開閉に関する | 基本操作早わかり -15 |
| 詳しい紹介は | 夜間や雨天時などの走行 |
| 基本操作早わかり -3 | 基本操作早わかり -16 |
| 運転席の調整機能 | 他車への合図 |
| 基本操作早わかり -4 | 基本操作早わかり -16 |
| リヤシートの調整機能 | スイッチに関する |
| (ダブルキャブ車) | 詳しい紹介は |
| 基本操作早わかり -5 | 基本操作早わかり -17 |
| シートに関する詳しい紹介は | エアコンの使い方 |
| 基本操作早わかり -6 | 基本操作早わかり -18 |
| シートベルトの着用のしかた | オーディオの使い方 |
| 基本操作早わかり -7 | 基本操作早わかり -19 |
| シートベルトに関する | エアコン、オーディオに |
| 詳しい紹介は | 関する詳しい紹介は |
| 基本操作早わかり -9 | 基本操作早わかり -20 |
| エンジンのかけ方 | |
| 基本操作早わかり -10 | |
| シフトレバーの動かし方 | |
| (発進時の場合) | |
| 基本操作早わかり -11 | |
| パーキングブレーキレバーの | |
| 使い方 | |
| 基本操作早わかり -12 | |
| 運転装置に関する | |
| 詳しい紹介は | |
| 基本操作早わかり -13 | |
| 警告灯が点灯または | |
| 点滅したままのときは | |
| 基本操作早わかり -14 | |

ドアの施錠と解錠



■ キー

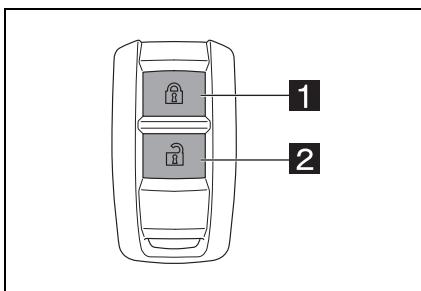
★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。



1 解錠

2 施錠

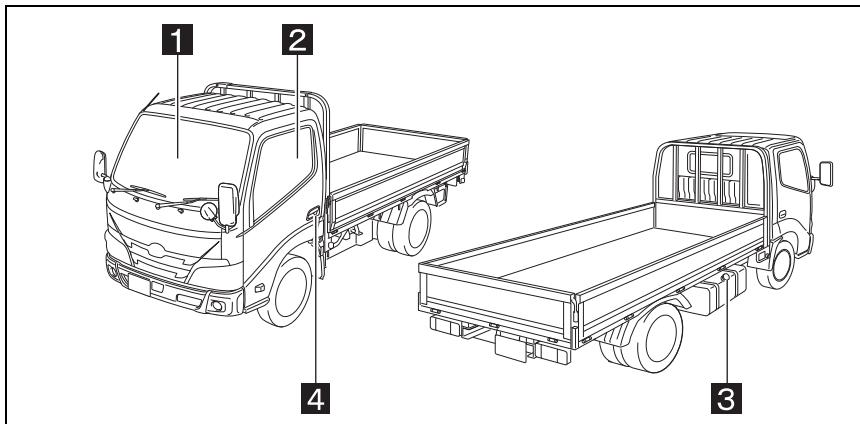
■ 電波キー（リモートキー）★



1 施錠

2 解錠

各部の開閉に関する詳しい紹介は



基本操作早わかり

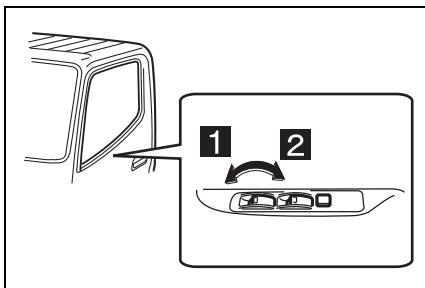
1 キャブチルト

2 ドアガラス開閉

3 燃料補給口

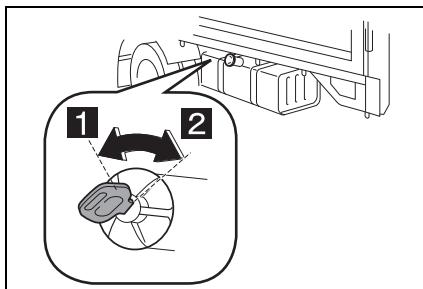
4 ドアの開閉

■ ドアガラスの開閉



1 閉まる

2 開く

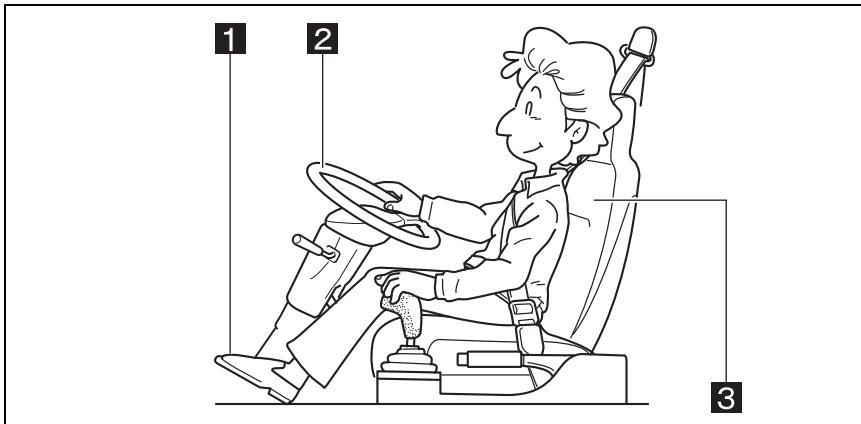


1 解錠

2 施錠

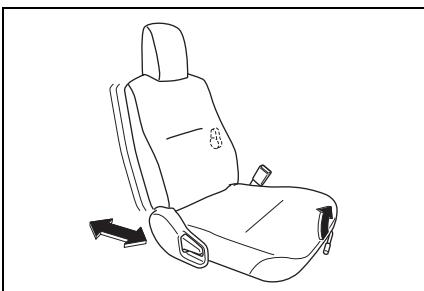
■ フューエルキャップ（燃料補給口）の開閉

運転席の調整機能

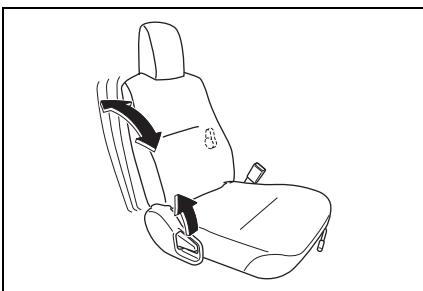


- 1 ペダルが十分に踏み込めるこ
- 2 ハンドルが楽に操作できること
- 3 背もたれから背を離さないこ

■シートスライド

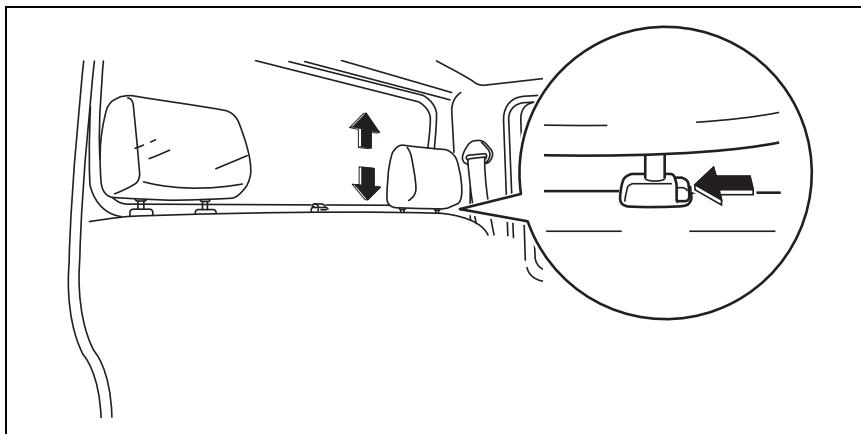


■シートバックの角度

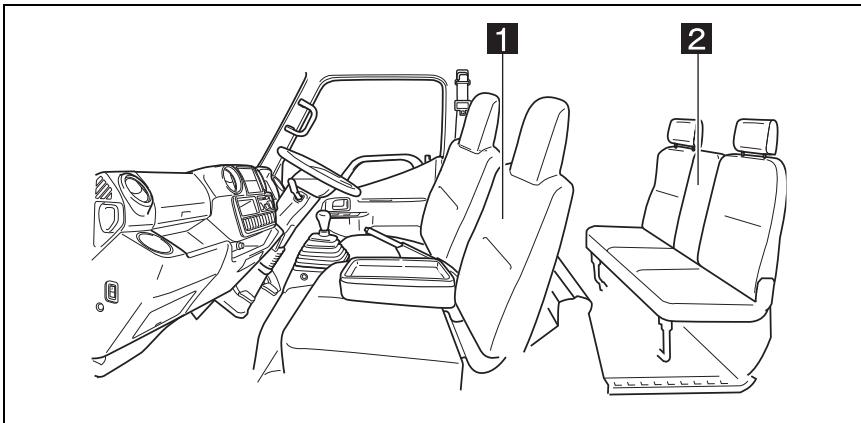


リヤシートの調整機能 (ダブルキャブ車)

▶ ヘッドレスト (脱着式ヘッドレスト装着車)



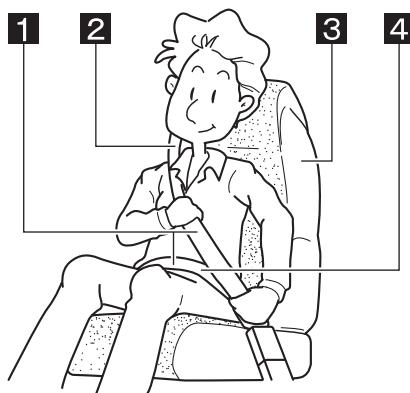
シートに関する詳しい紹介は



1 フロントシートの調整 (→P.4-2)

2 リヤシートの調整 (ダブルキャブ車) (→P.4-2)

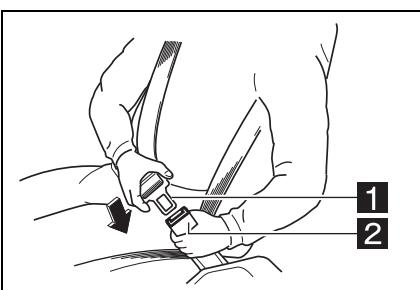
シートベルトの着用のしかた



- 1 ねじっていないこと
- 2 肩の真ん中に十分にかかること
- 3 シートを調整し、上体を起こし深く腰掛けること
- 4 必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

着用のしかた

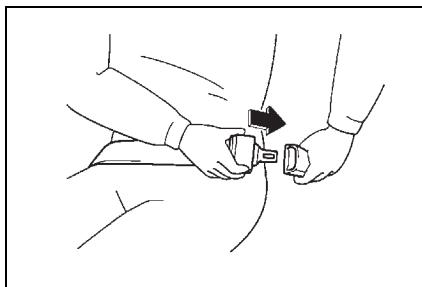
1. ベルトを引き出します。
 2. タングをバックルに挿し込みます。
 3. カチッというまで挿し込みます。
- ▶ 3点式シートベルト



1 タング

2 バックル

- ▶ 2点式シートベルト

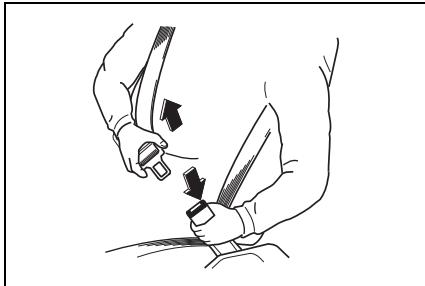


はずしかた

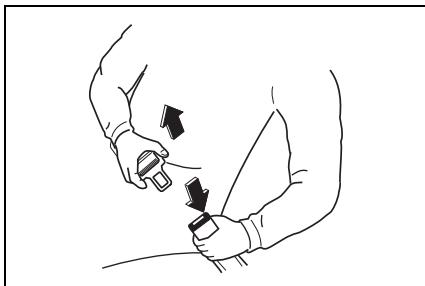
1. バックルのプレスボタンを押します。
2. ベルトを巻き取らせます。

基本操作早わかり- 8

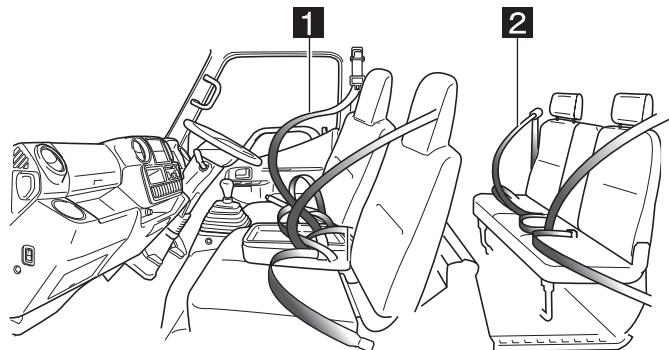
▶ 3点式シートベルト



▶ 2点式シートベルト



シートベルトに関する詳しい紹介は

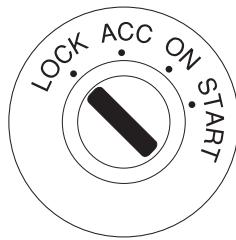


1 フロントシートベルトの着用（→P.4-6）

2 リヤシートベルトの着用（ダブルキャブ車）（→P.4-6）

エンジンのかけ方

■エンジンスイッチの位置



| スイッチの位置 | 詳細 |
|-----------------|---|
| LOCK (ロック) | キーを抜き挿しできる位置。 ハンドルを回した状態で キーを抜くとハンドルが ロックされます。 |
| ACC (アクセサリー) | エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置。 オーディオ、アクセサリーソケットなど。 |
| ON (オン) | エンジン回転中の位置。 予熱付き車は、始動時に予熱します。 |
| START (スタート) | エンジンを始動する位置。 |

- 右足でブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。

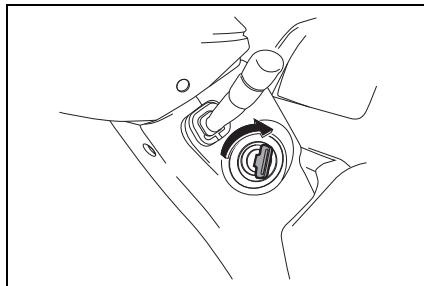


- パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
シフトレバーの位置を確認します。

MT 車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。

AT 車はシフトレバーを「P」にします。

- エンジンスイッチをSTARTまで回します。

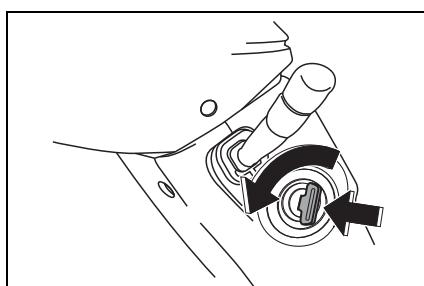


キーの抜き方

MT 車は、シフトレバーを「N」にして行います。

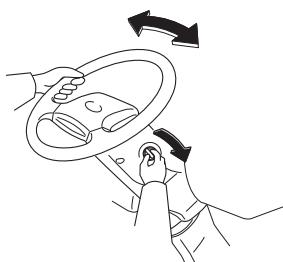
AT 車はシフトレバーを「P」にして行います。

- ACC の位置に合わせてからキーを押し込みます。
- LOCK に回し引き抜きます。



ハンドルロック解除

ハンドルを動かしながらエンジンスイッチを回します。

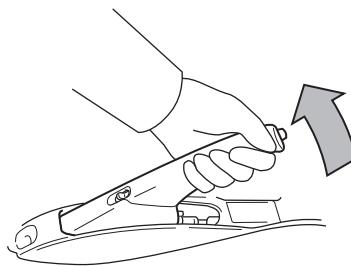


シフトレバーの動かし方 (発進時の場合)

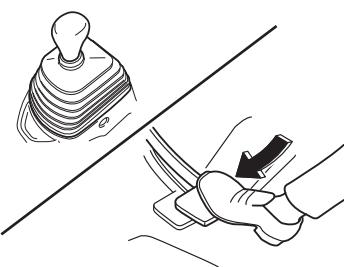
1. 右足でブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. パーキングブレーキがかかるていることを確認します。



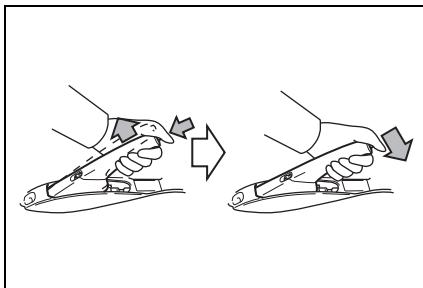
3. MT車はクラッチペダルをいっぱいに踏み込んで操作します。
AT車はシフトレバーを「P」から操作します。



パーキングブレーキレバーの使い方

解除のし方

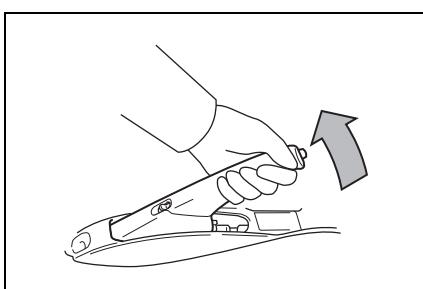
- ブレーキペダルを踏みます。
1. レバーを少し引き上げます。
 2. 解除ボタンを押します。
 3. 完全に下まで降ろします。同時に (P) ランプが消灯します。



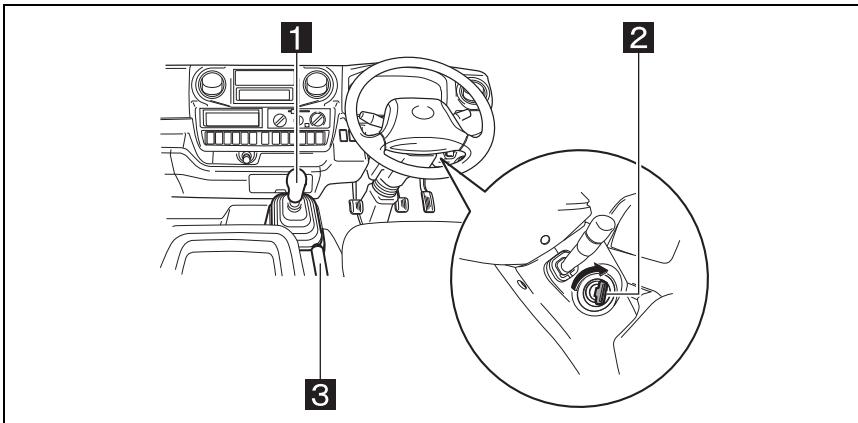
かけ方

右足でブレーキペダルをしっかりと踏みます。

解除ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げます。最後に「カチッ」というノッチ音がすることを確認してください。同時に (P) ランプが点灯します。



運転装置に関する詳しい紹介は

**1 シフトレバー**

MT 車 (→P.5-7)

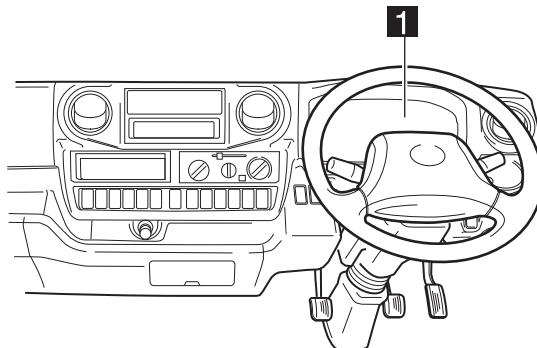
AT 車 (→P.5-8)

2 エンジンスイッチ (→P.5-2)**3 パーキングブレーキレバー (→P.5-15)**

警告灯が点灯または点滅したままのときは

| 表示 | 名前 | 警告理由 |
|---|----------------------|--|
|  | オートマチックトランスマッision油温 | オートマチックトランスマッisionフルードの温度が異常に高くなると点灯します。 |
|  | ブレーキ | <ul style="list-style-type: none"> リザーバータンク内のブレーキフルードが規定量以下になったとき。 ブレーキシステムに異常があるとき。 |
| | バキューム | バキュームタンク内の負圧が低下すると点灯します。 |
|  | 油圧 | エンジン内のオイル圧力の異常です。 |
|  | 燃料・水分離器水位 | <ul style="list-style-type: none"> 燃料に規定レベル以上の水がたまついると点滅します。 燃料が交換時期になると点灯します。 |
|  | ABS | ABS の異常です。 |
|  | 充電 | 充電系統の異常です。 |
|  | シートベルト非着用 (前席) | 前席の乗員がシートベルトを着用していません。 |
|  | SRS エアバッグ | SRS エアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。 |
|  | エンジン | エンジン電子制御システムなどの異常です。 |

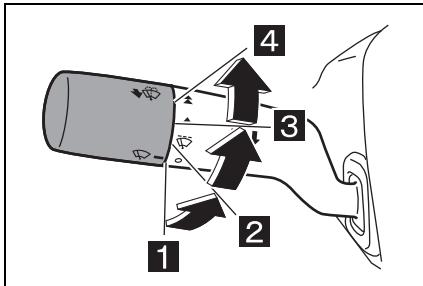
警告灯に関する詳しい紹介は



1 警告灯 (→P.6-9)

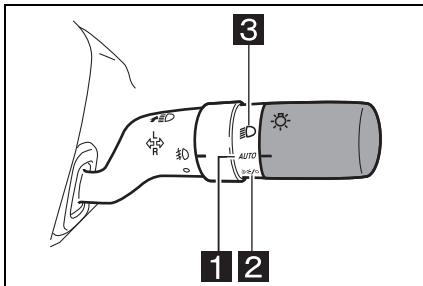
夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方



- 1 停止
- 2 間欠作動
- 3 低速作動
- 4 高速作動

ランプの使い方

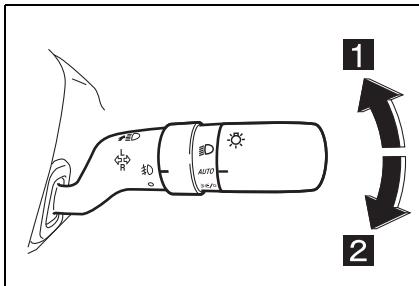


- 1 AUTO
- 2 OFF
- 3 ⚠

レバーを OFF の位置操作し手を離すと、自動的に AUTO の位置へ戻ります。

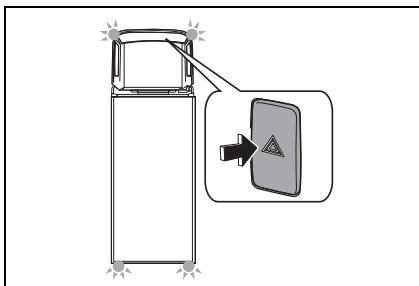
他車への合図

■ 方向指示灯

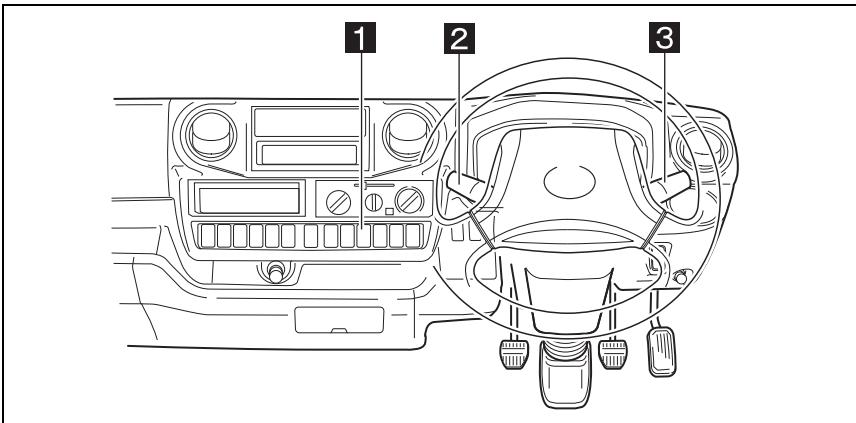


- 1 左折
- 2 右折

■ 非常点滅灯



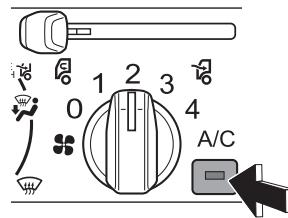
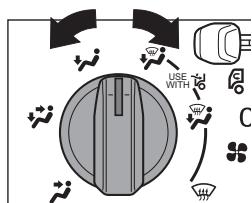
スイッチに関する詳しい紹介は



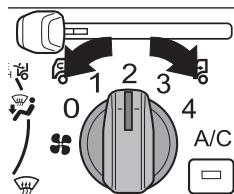
- 1** 非常点滅灯スイッチ (→P.5-32)
- 2** ウオッシャースイッチ (→P.5-23)
ワイパースイッチ (→P.5-23)
- 3** ランプスイッチ (→P.5-25)
方向指示レバー (→P.5-32)

エアコンの使い方

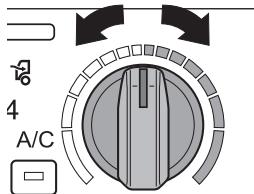
- 吹き出し口を選択します。



- 風量を調整します。



- 希望温度に合わせます。

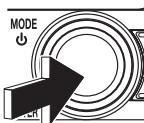


- エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

オーディオの使い方

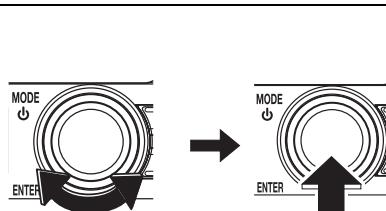
■電源の入・切

ロータリーノブを押して電源を入れます。1秒以上押すと電源が切れます。



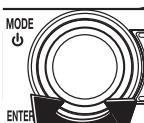
※¹ USB 未接続時はスキップします。

※² AUX プレーヤー未接続時はスキップします。



■音量の調整

ロータリーノブを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。



■放送局の設定（自動選局）

「Tune/Track」ボタンを2秒未満1秒以上押します。

ラジオ局の検索が始まり、ラジオ局が見つかると停止します。



ラジオを聞くには

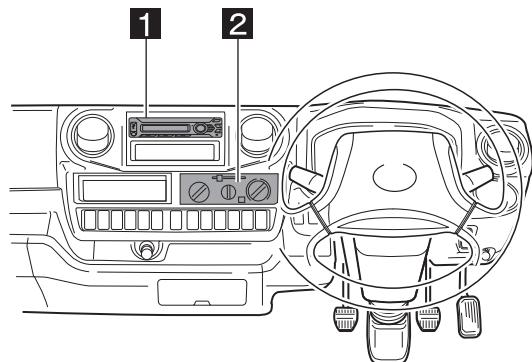
■AM/FM 放送の切り替え

ロータリーノブを回してオーディオモードを選択し、ロータリーノブを押します。

オーディオモードは次の順序で切り替わります。

FM1 → FM2 → FM3 → USB ※¹ →
BT-AUDIO → AUX ※² → AM1 →
AM2 → FM1 …

エアコン、オーディオに関する詳しい紹介は



- 1** オーディオ (→P.8-3)
2 エアコン (→P.7-3)

必読！安全・快適に 運転するための

1

| |
|------------------------|
| 運転前にP.1-2 |
| 安全・快適走行 |
| のためにP.1-7 |
| ターボ車の取り扱いP.1-14 |
| オートマチック車を運転する |
| にあたってP.1-15 |
| 4WD 車の取り扱いP.1-16 |
| 駐・停車するときP.1-18 |
| お子さまを乗せるときの |
| 気くばりP.1-20 |
| これは危ない！ |
| 気をつけてP.1-21 |
| SRS エアバッグ |
| についてP.1-24 |
| DPR（排出ガス浄化装置）の |
| 取り扱いP.1-26 |
| 尿素 SCR |
| （尿素選択式還元触媒） |
| システムP.1-28 |

運転前に

▲警告

■ まず、出発する前に日常（運行前）点検を（→P.12-2）

- 日常点検や定期点検は道路運送車両法により運転者に義務付けされています。
一日一回お車を運転する前に必ず日常点検を行い異常がないことを確認してください。
- 定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。定期点検整備は、専用の設備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。
- 点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすことがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）をこえての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれがあります。
- 点検時、または前日や前回の運転で異常があったときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

■ 指定された燃料を

- ディーゼル車には超低硫黄軽油（S10：硫黄成分 10 ppm 以下、標準として JIS 軽油 2 号）を使用してください。ただし寒冷地では地域に合った燃料を補給してください。指定以外の燃料を補給すると、エンジンに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。また、煤煙の発生により排出ガスが悪化し、白煙の発生や触媒を劣化させる原因にもなります。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。万一誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。
 - ガソリン車にはガソリン（無鉛レギュラーガソリン）を使用してください。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。指定以外の燃料を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノックングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料漏れなどの原因となるおそれがあり危険です。
 - 指定以外の燃料を使用したために生じたエンジン損傷については保証に応じられません。
- #### ■ バイオディーゼル燃料を使用する際は最寄りのトヨタ販売店にお問い合わせください
- バイオディーゼル燃料は人体に有害です。取り扱うときは必ず保護手袋および保護メガネを着用してください。
 - エンジン損傷の原因になりますので、バイオディーゼル燃料を使用する際は、次のことを必ずお守りください。

- バイオディーゼル燃料を使用すると、従来の燃料に比べて水の蓄積が多くなります。燃料フィルターの水抜きを確実に行ってください。水抜きを怠るとコンビネーションメーターに  を表示します。  が表示した場合はすぐに燃料フィルターの水抜きを行ってください。
 - バイオディーゼル燃料は製造日から6カ月以内のものを使用してください。また、燃料補給後3カ月以内に使い切ってください。
 - バイオディーゼル燃料を使用する際は、「揮発油等の品質の確保等に関する法律」に準拠した5%以下のものを使用してください。指示されたもの以外のバイオディーゼル燃料を使用すると、エンジン損傷の原因になります。
 - JIS K2204に適合していないバイオディーゼル燃料に切り替える場合は、タンクおよび配管の洗浄を行い、燃料フィルターエレメントを新品に交換してください。
 - 水の蓄積や微生物の発生を防ぐために、バイオディーゼル燃料の保管タンクは十分清掃してください。
 - エンジンオイルの量は取扱書に従い、正しく点検してください。
- 燃料添加剤や燃料水抜き剤などを使用しないでください**
- 燃料添加剤や燃料水抜き剤、燃費向上添加剤、使用済みエンジンオイル等を使用すると、煤煙の発生やサプライポンプおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良により故障の原因となります。

■ 燃料タンク内に燃費向上装置などを取り付けないでください

取り付けた装置（市販品）の摩耗粉や破片などにより、サプライポンプおよびインジェクターの故障の原因となります。

■ 走行前に全てのドアおよびテールゲート・サイドゲート（荷台装着車）が確実に閉まっていることを確認してください

ドアおよびテールゲート・サイドゲートが確実に閉まっていないと走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ツールボックス装着車は、ツールボックスのフタが確実に閉まっていることを確認してください。

■ 窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください

思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

■ キャブチルト警告灯★が点灯したまま走行しないでください

キャブが確実にロックされていないため、走行中にキャブがはね上がり、思わぬ事故や重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前にシートパックトレイ★が確実に固定されていることを確認してください

確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどにシートパックトレイが不意に動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ フロントの外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは取り除いてください

外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

■ 助手席やセンターシート★、リヤシート★に荷物を積み重ねないでください

● 急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 荷物は荷台または荷室に安定した状態で（例えば、荷物または荷室前方に均等に）で置いてください。

■ キャブと荷台の間に、物を置かないでください

● また、ロープやほろなどを使用する場合は、先端がたれ下がらないように注意してください。（荷台装着車）

● ロープやほろなどの燃えやすいものがたれ下がると、エンジンや排気管の熱により引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フレームの上のすき間に板などを差し込まないでください

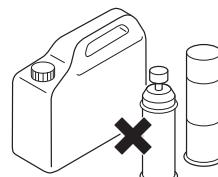
排気管の熱で車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ アウターミラーを格納したまま走行しないでください

アウターミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで

車内に燃料の入った容器やスプレー缶などを持ち込まないでください。万一の事故のとき、破裂または引火するおそれがあり危険です。



TA01-004A

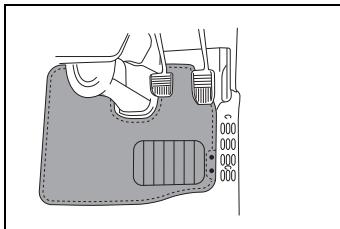
■ 運転席付近の整理整頓

ブレーキペダルやアクセルペダルの下に空缶などがはさまるとブレーキ操作ができなくなるおそれやアクセルペダルが戻らなくなるおそれなどがあり危険です。空缶などがあるときは、取り除いてください。



TA01-035A

- フロアマットはお車に合ったものを正しく敷いてください。フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなどのおそれがあり危険です。また、アクセルペダルを覆ったり、重ねて敷いたりするとアクセルペダルがもどらなくなるなどのおそれがあり危険です。



■ 運転席付近の整理整頓

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認してください。
- 運転する前に以下のことを確認してください。
 - ・ フロアマットが正しい位置に敷かれていることを定期的に確認し、特に洗車後は、必ず確認を行ってください。

- エンジン停止およびシフトレバーが「N」（AT車は「P」）の位置で、各ペダルを踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

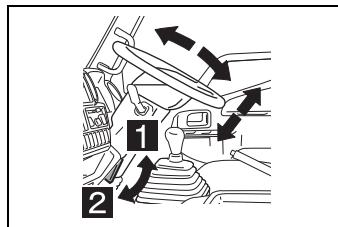
■ 正しい運転姿勢が取れるように

シートの調整、シートベルトの調整、ハンドルの調整は停車しているときに行なってください。走行中に調整すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

● シートの調整（→P.4-2）

シートは前後に動かし確実に固定したことを確認してください。

● ハンドル位置の調整（→P.5-16）



1 解除

2 ロック

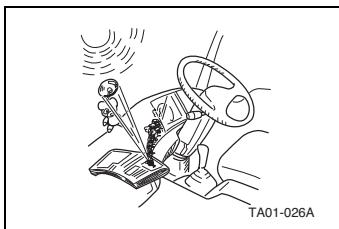
- ハンドルの位置は操作が最も楽な位置に調整してください。
- 調整後は、ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。
- シートベルトの調整（→P.4-6）
 - ・ 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。
 - ・ 妊娠の方や疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。（ただし、かかりつけの医師と相談してから使用してください。）
 - ・ アジャスタブルショルダーベルトアンカー★の高さは、肩部のベルトが首やあごにあたらないように調節してください。

■積荷は正しく（→P.9-12）

積みすぎや片寄った積み方は、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。決められた最大積載量を守り正しい積み方をしてください。過積載は法律で禁止されています。

■ウインドウガラスなどにアクセサリーを取り付けないで

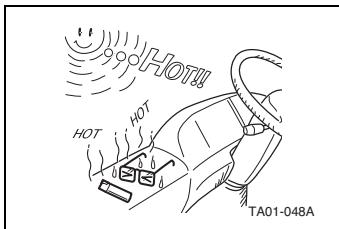
アクセサリー類は運転をさまたげるほか、アクセサリーの吸盤がレンズの働きをして、火災の原因ともなります。



TA01-026A

■メガネやライターを放置したまま、車から離れないで

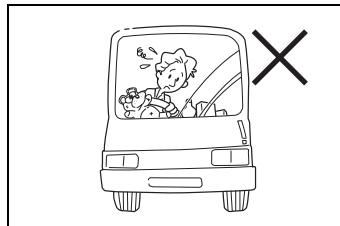
車内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したりして火災の原因となります。また、プラスチック素材のメガネは変形・ひび割れを起こすことがあります。



TA01-048A

■運転のさまたげになるところには物を置かないで

インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行すると、運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて運転のさまたげになるおそれがあります。



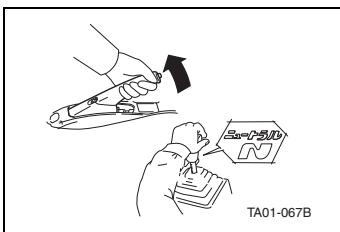
■フロントガラスについて

装飾板を取り付けたりフィルムなどを貼らないでください。前方の視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



■ エンジンを始動するときは
(→P.5-15)

パーキングブレーキを確実に引き、シフトレバーを「N」(AT車は「P」)の位置にあることを確認してください。これらの位置以外でエンジンを始動させると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。



* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・快適走行のために

▲ 警告

■ 渡河などの水中走行はしないでください

- 水中走行はできません。
- 大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。
- ・ エンスト
- ・ 電装品のショート
- ・ 水を吸い込んでのエンジン破損
- ・ グリースが洗い流されたり、グリースに泥などが混入したりすることによる、潤滑不良やゴム製部品・機械部品の故障

- エアクリーナーや DPR クリーナーからエンジンに水が入るとエンジンを破損するおそれがあります。(ウォーターハンマー現象)

* 「水没・冠水したとき (→P.15-45)」を合わせてご覧ください。

■ 冠水路脱出後の車両点検

- 必ず下記の項目などをトヨタ販売店で点検してください。

- ・ エアクリーナーや DPR クリーナーなどに水が入っていないことを確認します。
- ・ 電気系統に浸水がないか各部を点検します。特にバッテリー前方の電装品ボックス内部の点検を行い浸水がないことを確認します。水が入っていた場合は、拭き取り乾燥させます。また、バッテリー端子部の水分も拭き取り、清浄します。
- ・ スターター、オルタネーターを分解し、内部に水が溜まっていないことを確認します。

- ・ブレーキの効き具合を確認します。効きが悪いときは、前後の車に十分注意し低速で走行しながら効きが回復するまで、数回ブレーキを踏みブレーキの湿りを乾かします。
- ・エンジン、トランスミッション、トランスファー、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ・プロペラシャフト、クラッチフォーク、各ペアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

■スタック※したときは

- スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
- ・AT車はシフトレバーを「D」または「R」、MT車は「1」または「R」に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- ・過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- ・過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなつてから徐々にブレーキ操作をしてください。

- ・数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
- スタック脱出には、次の方法が有効です。
 - ・タイヤ前後の土や雪を取り除く
 - ・タイヤの下に木や石などをあてがう
- スタックからの脱出などにけん引フックを使用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、けん引フックやロープに無理な力がかかり破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人やものにあたり重大な障害をあたえるおそれがあり危険です。
- ・けん引してもらう車がなかなか動かないときは、無理にけん引しないでください。
- ・けん引は車に対してできるだけまっすぐに引っ張ってください。
- ・けん引中は車に近寄らないでください。
- けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やJAFなどに依頼してください。

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

- ### ■窓から手や顔を出さないでください
- 走行中、手や顔を出していると、車外のものなどにあたつたり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスなどを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意してください

ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして、生命にかかる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

■ オープントレイ・物入れ内などに転がりやすいものや凹面よりはみ出すものを収納しないでください

急ブレーキ、急旋回したときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ アッパー ボックスなどのフタを開けたまま走行しないでください

急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 湿度が高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えレバーを  の位置にしないでください

外気とウインドウの温度差でウインドウ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ 荷台または荷室には人を乗せて走行しないでください

急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジン回転中はシフトレバーを倒さないでください

万一、ギヤが入っていると車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 走行中にはシフトレバーを「N」にしないでください

走行中にシフトレバーを「N」にすると、エンジンブレーキが効かなくなります。

■ 走行中はドアレバーを引かないでください

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンストしたときは、落ち着いて操作してください

エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

■ 走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

● ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

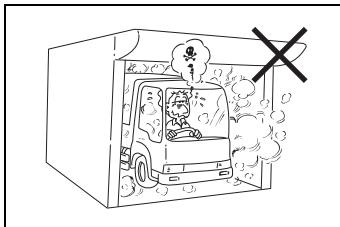
● 警告音は、ブレーキパッドウェインジケーターによるもので、走行中に警告音（「キーキー」という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。

● 警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください
- 十分に減速するようしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■排出ガスには十分気をつけて

- 排出ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。特に車庫や屋内など囲まれた場所では排出ガスが充満し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

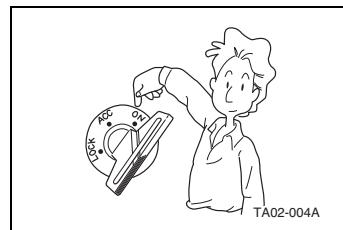


- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また排気管の異常などに気づいたら、必ずトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

- 車内に排出ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、ヒーターの内外気切り替えを外気導入にするなどして、新鮮な外気を車内に入れてください。また、すみやかにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。そのまま放置すると排出ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■走行中はエンジンスイッチを切らないで（→P.5-2）

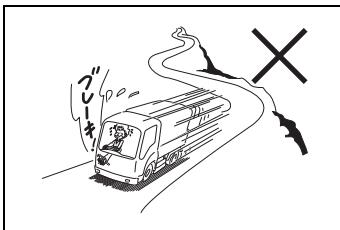
- 走行中は絶対に「ON」の位置以外にしないでください。



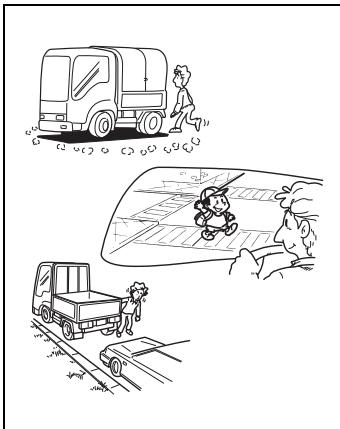
- 「ACC」の位置にするとエンジンが停止し、ハンドル操作が重くなったり、ブレーキの効きが悪くなり危険です。また、スターターキーを抜いたままや「LOCK」の位置にしたままで絶対に走行しないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

■ 坂道を下るときは（→P.9-4）

坂道を下るときは、フットブレーキにたよらず、エンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。



■ 発進前の安全確認



- 車の前後に人や障害物がないことをミラーだけでなく直接自分の目で見て確認してください。ミラーでは確認しきれない死角があります。

- 信号待ちなどで停車したときは、いつも周りの状況に目を配り安全を十分確認してから発進してください。

- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方に障害物がないことを確認してください。

■ 警告灯が点灯したときは（→P.6-9）

警告灯が点灯したりブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、各部を点検してください。警告灯・計器類の警報を無視して運転すると思わぬ事故の原因になります。原因がわからないときや自分で整備できないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

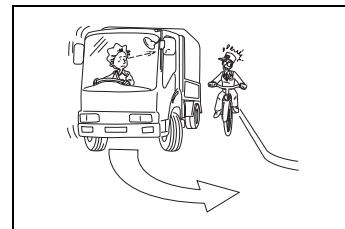
下記の警告灯は一例で、お車の仕様により異なります。



TA01-068A

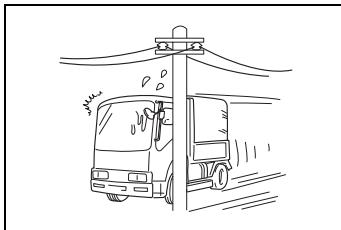
■ カーブの手前では減速を

カーブの手前では十分に減速してください。カーブ途中での急ブレーキや急ハンドルは、荷くずれやタイヤスリップ、横転など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、内輪差に注意し、ミラーで左側の安全を確認し走行してください。



■ミラーに気をつけて

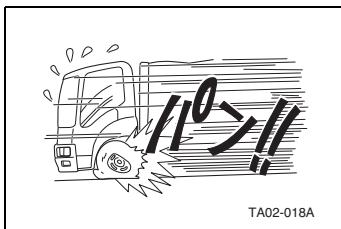
- ミラーは車体より張り出しています。狭い道路を走行するときは、歩行者などに注意してください。



- 運転中にミラーを見ると視界が大きく移動します。前方の安全に注意をしながらミラーでの確認を行ってください。

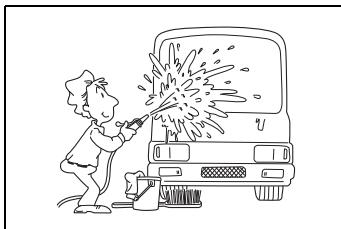
■走行中にタイヤがパンクやバーストしたときは（→P.13-42、15-38）

急ブレーキをかけないでください。ハンドルを強くとられ危険です。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけてスピード落とし、安全な場所に停車してください。また、そのまま走り続けるとタイヤの過熱から出火につながるおそれがあり危険です。



TA02-018A

■洗車後や水たまりを走行した後は



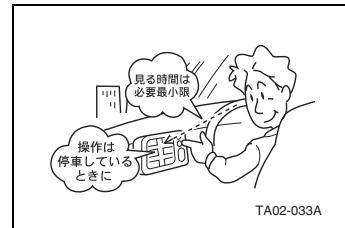
- 低速でブレーキペダルの踏み効き具合を確認してください。ブレーキディスクに水が入ると効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 効きが悪いときは、前後の車に十分注意し低速で走行しながら効きが回復するまで、数回ブレーキを踏みブレーキの湿りを乾かしてください。

■カーナビゲーションシステム★をつかうときは

- 安全のため、運転者は走行中に操作をしないでください。わき見運転や前方不注意、またはハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停止させてから操作してください。

- 画面を見る時間は、必要最小限としてください。



TA02-033A

■運転中は、携帯電話を使用しないで
運転者が自動車電話や携帯電話を使用する場合は、安全な場所に停車してから使用してください。
走行中の使用は、わき見運転や前方不注意による追突事故などにつながるおそれがあるほか、法律で禁止されています。



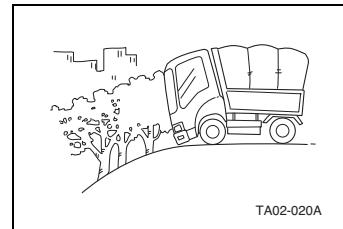
■悪天候時の走行は（→P.9-4）

悪天候時は、速度を控えて走行してください。視界が悪くなるほか、路面が滑りやすくなるため制動距離は乾燥路よりも長くなります。また、急ブレーキ・急ハンドルはスリップしやすくなりますのでエンジンブレーキを併用して減速してください。



■車を移動するときは、必ずエンジンを始動して

坂道などをを利用してエンジンをかけずに移動しないでください。エンジンがかからっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが極端に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



TA02-020A

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

ターボ車の取り扱い★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ ターボ装置とは

エンジンに大量の空気を過給してエンジンからより大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。

■ ターボ車の点検手入れはしっかりと

ターボ装置は毎分 10 数万回転におよぶ高回転、700 °C 以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルと冷却水で行われています。

■ ターボ車の点検手入れはしっかりと

- ターボ性能を保つためには、トヨタ純正エンジンオイル、オイルフィルターの定期的な交換、そしてエアクーラーの定期的な清掃と交換が必要です。
- シビアコンディション時を除きエンジンオイル、オイルフィルターは 20,000km 走行ごとに必ず交換してください。



注意

■ エンジンが冷えているときは空ぶかしや急加速は絶対に行わないで

始動直後に空ぶかしや高速回転をさせないでください。エンジンの不調や故障の原因になります。また、燃料の無駄使いにもなります。

■ マフラーなどには指定以外の部品を使わないで

ターボ装置の故障の原因になります。

■ ターボ車の運転について

- 水温計の指針が動き出すまで暖機運転を行ってください。
- 登坂や高速走行後は、アイドリング運転を行いターボチャージャーを冷却してからエンジンを停止してください。

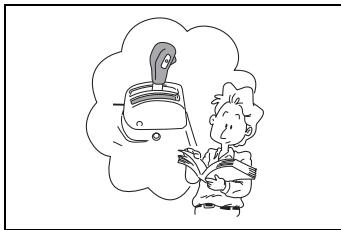
オートマチック車を運転するにあたって★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アドバイス

■オートマチック車の運転操作方法を十分理解して

オートマチック車固有の特性がありますので運転操作方法を十分理解して正しく操作してください。



知識

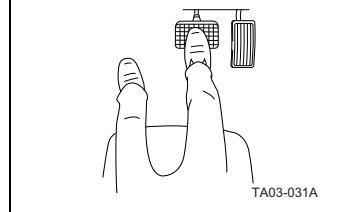
■オートマチック車の発進時のシフトチェンジはブレーキペダルを踏んだままで（→P.5-8）

- ブレーキペダルを踏んだままでないと「P」位置からシフトできません。
- レバーを「R」位置に入れるとブザーが鳴ります。
バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。

▲警告

■発進時のシフトチェンジはブレーキペダルを踏んだままで（→P.5-8）

- エンジン回転が高いときは、ブレーキペダルを踏んでいない状態で「D」・「S」または「R」位置に入れると急発進するおそれがあり危険です。

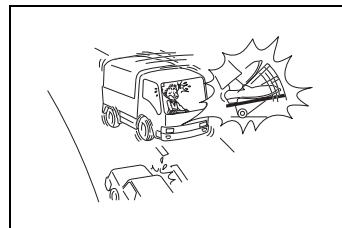


●発進時には必ずブレーキペダルを踏んだまま「P」または「N」位置から「D」または「R」位置にシフトしてください。

●シフト位置を確かめ、周りの安全を確認してから発進してください。

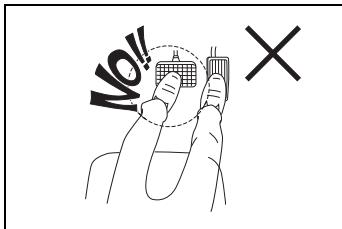
■ぬれた路面・凍結路などでは

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的にシフトダウンしますので滑りやすい路面ではアクセルペダルを急激に踏み込まないでください。タイヤが空転し、車の方向性を失うおそれがあります。



■ ブレーキペダル操作は必ず右足で
(→P.5-6)

右足をアクセルペダルにのせたまま、左足でブレーキペダル操作をすると、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキパッドまたはライニングの摩耗を早めるおそれがあります。



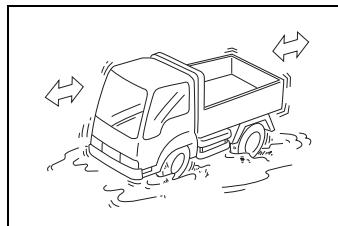
4WD車の取り扱い★

* グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ スタック（立ち往生）したら

タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退を繰り返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときは、タイヤチェーンを利用するのも効果的です。



■ 急坂路を上るときは

上る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、凹凸の少ないところを選びます。上り始めと終わりは、なだらかな斜面を選んでください。

■ 急坂路を下るときは

下る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度に合った変速ギヤを選びます。下る途中での変速やクラッチ操作は避けてください。

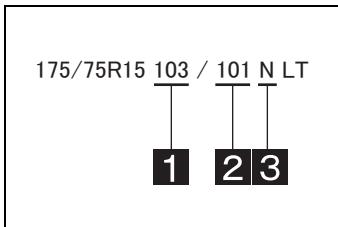
▲ 警告

■ 雪路走行は、慎重に走行してください

アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般的の車と同様に慎重に行ってください。急な操作は思いがけない事故やスタック（立ち往生）のおそれがあります。

■タイヤの点検、交換時の警告

- 必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- 交換後のタイヤはロードインデックスと速度記号が交換前のタイヤと同一またはそれ以上になるタイヤを使用してください。



1 ロードインデックス
(単輪使用時)

2 ロードインデックス
(複輪使用時)

3 速度記号

- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスペルテッドタイヤ、バイアスライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。
- 前後輪の指定サイズが異なる場合、必ず前後ともに指定サイズのタイヤを使用してください。
- スペアタイヤは前後輪と同一サイズを装備しています。スペアタイヤに交換する時は前後輪共に同一サイズに交換してください。

△ 注意

■タイヤを交換するときは

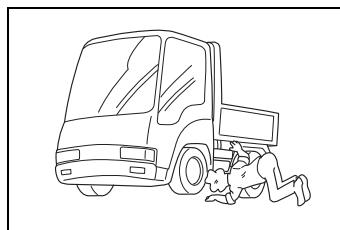
- サイズ、メーカー、銘柄およびトレッドパターン（溝模様）の異なるタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを装着すると、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
- 次の場合も、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。タイヤ空気圧の点検を行ってください。
 - 空気圧の差が著しいとき
 - 空気圧が指定値から外れているとき
- タイヤを交換するときは、次の事項を必ず守ってください。
 - トヨタ販売店に相談する。
- 異常のあるタイヤを装着しない。

■4WD車について

4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般的の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心掛けてください。
4WD車は、あくまで一般走行が目的で不整地、悪路走行を目的としてはおりません。

■ラフロード走行後は、各部点検を忘れずに行って

路面の凹凸などで損傷した箇所はないか下周りなどを入念に点検してください。



駐・停車するとき

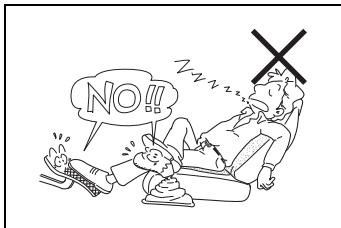
▲警告

■ パーキングブレーキは確実に効かせて

パーキングブレーキレバーはいっぱいに引いてください。パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。

■ エンジンをかけたまま運転席で仮眠しないで

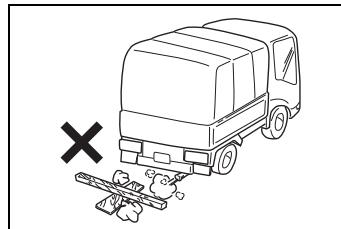
● 仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりシフトレバーを動かしたりして、事故やエンジン・排気管などの異常過熱による火災の原因になり危険です。



● 風通しの悪い所で駐停車しないでください。周囲の状況によっては、排出ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■ 燃えやすい物の付近に車を止めないで

枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。走行直後やDPR再生中は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。



■ 坂道駐車は確実に

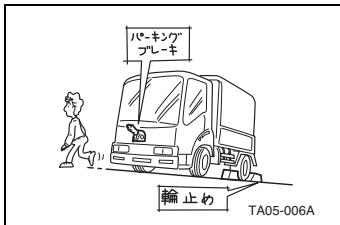
● 坂道の駐車は避け、平らな場所を選んで駐車してください。坂道に駐車すると、駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。

● やむを得ず坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、車が動かないことを確認してからタイヤの前後に輪止めをかけてください。

● レバーの引きしろは適正に調整してください。引きしろが多いと駐車の際にいっぱいに引けなくなります。
(→P.12-11)

■ お車から離れるときは

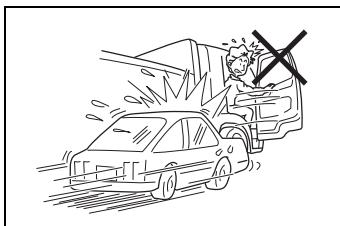
パーキングブレーキを確実に効かせエンジンを止めドアは施錠してください。坂道に駐車するときや長時間の駐車はタイヤの前後に輪止めを併用してください。無人で車が動いたり車両盗難のおそれがあります。また、施錠している車内に貴重品をおいたままにしないでください。



- AT 車はシフトレバーの「P」位置のみで駐車しないでください。駐車の際には車両が完全に停車したことを確認した後、必ずパーキングブレーキを確実に効かせてから、シフトレバーを「P」位置に操作してください。

■ ドアを開けるときは（→P.3-6）

いきなり開けると後続車や歩行者などにぶつかるおそれがあります。前後の安全を十分確かめてから開けてください。



⚠ 注意

- レバーをいっぱいに引いた際、最後に「カチッ」というノック音を確認してください。

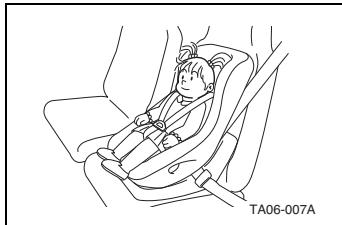
お子さまを乗せるときの気 くばり

▲警告

■ お子さまをひざの上で抱いて乗せな いでください（→P.4-2）

ひざのうえにお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができずお子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまにもシートベルトまたは チャイルドシートを（→P.4-6）



● シートベルトが首やあごにあたる場合や腰骨にかかるないような小さなお子さまには、年令や体の大きさに合った子供専用シート（ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシート）をご使用ください。子供専用シートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

● お子さまはリヤシートに座らせてください。

■ 助手席 SRS エアバッグ装着車

● 助手席 SRS エアバッグ装着車では助手席ベビーシートを取り付けたりチャイルドシートを後ろ向きに取り付けたりしないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 助手席 SRS エアバッグ装着車で、やむを得ず助手席にお子さまを乗せるときでも、必ずシートベルトまたはチャイルドシートを着用させ、シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢で座らせてください。SRS エアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワーウィンドウなどはお子さまに 操作させないで（→P.3-8）

パワーウィンドウは必ずウインドウロックスイッチを使用し、運転席側で操作してください。

お子さまが操作すると、手や頭などをはさんだり思わぬケガをするおそれがあり危険です。

■ 車から離れるときは、お子さまを車 内に残さないで



● お子さまのいたずらにより車が発進したり火災を起こすなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 炎天下の車内は高温となり熱中症になるなどのおそれがあり危険です。

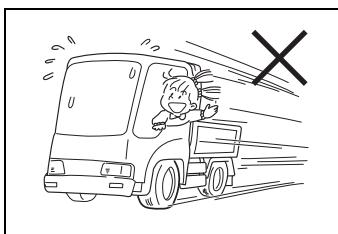
■ 運転装置や装備品には触れさせないで

● お子さまのいたずらなどにより、思わぬ事故や故障の原因になります。

● パワーウィンドウ装着車は、ウインドウロックスイッチを使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意して操作してください。

■ 窓から手や顔を出させないで

車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。



これは危ない！気をつけて

▲ 危険

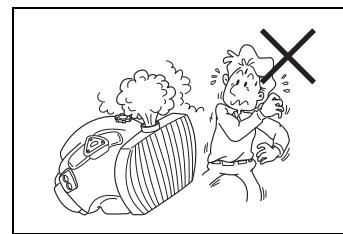
■ 点検整備を行うときは（→P.13-3）

● 点検・取り扱い時には、端子部との接触によるショートが起きないように十分注意してください。感電、爆発などのおそれがあり非常に危険です。

● バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり非常に危険です。

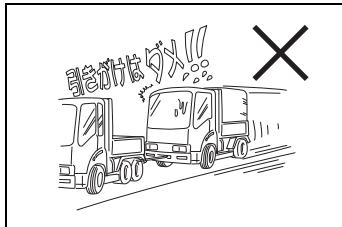
■ ラジエーターキャップに気をつけて（→P.13-23）

ラジエーターキャップが熱いときは、キャップを外さないでください。熱湯・蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。また、ラジエーターキャップは確実に締めてください。



■バッテリーがあがったときは
(→P.15-40)

- 引きがけや坂道で車を動かしてエンジンをかけないでください。追突事故につながるおそれがあり危険です。



▲警告

■灰皿を開けたままにしないで
(→P.8-41)



TA07-001A

- マッチ・タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。火のついたままで入れると吸いがらに燃え移り火災の原因になります。
- 使用後は必ずふたを閉めてください。
- 灰皿の中には吸いがら以外の物を入れないでください。特に紙くずや空箱など燃えやすいものはタバコの火が燃え移り火災の原因になります。
- 灰皿の中には吸いがらをためすぎないでください。

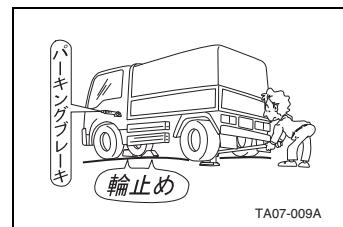
●火のついたタバコや吸いがらなどは、絶対に窓の外に投げ捨てないでください。道路を汚すばかりでなく、捨てたタバコや吸いがらが、火災の原因になります。

■バッテリーがあがったときは
(→P.15-40)

ブースターケーブルで他車のバッテリーと接続するときは、故障車と同じ電圧の車を使用してください。

■ジャッキは正しい位置で
(→P.13-31)

地面がかたい平坦な場所を選んでください。また、パーキングブレーキを確実に効かせ、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めをかけてください。坂道および地面の柔らかいところでは、ジャッキが傾いたり滑ったりして車が落下し思わず事故につながるおそれがあります。



TA07-009A

■電飾品を取り付けるときは

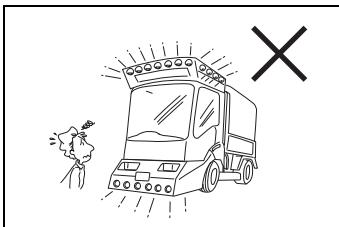
- 市販の電飾品を取り付けるために勝手に配線すると装置の誤作動や電線の過熱により火災の原因になります。
- 電装品（無線機、オーディオなど）を取り付ける際は、トヨタ販売店にご相談ください。

■無線機について

- 電源に注意（V数の異なる仕様の無線機は直接取り付けることはできません。）

- コンピューターやハーネスからできるだけ離して取り付けないと電子部品が誤作動を起こすことがあります。

■不正改造はしないで



- トヨタ自動車が国土交通省に届出をした部品以外の物を取り付けたり、部品を取り外すと法規違反になることがあります。
- トヨタ純正部品以外の部品を取り付けると、車の性能や機能を損なうことがあります、故障や事故の原因になります。アクセサリーを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。SRSエアバッグ装着車はハンドルにSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

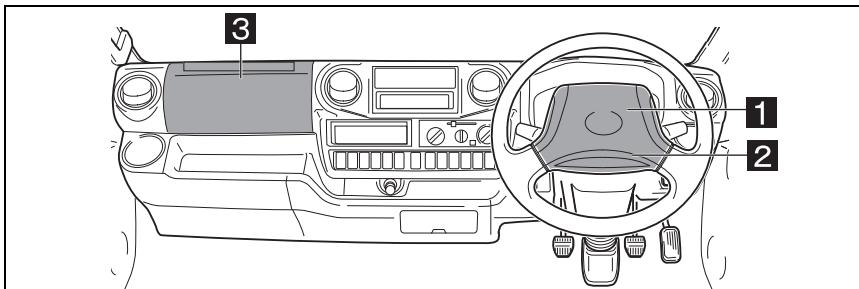
- タイヤ、ディスクホイール、ホイール取り付けナット・ボルトの交換異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行中に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品、無線機などの取り付け、取り外し電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯、ライトセンター及び関連回路は改造しないでください。
- 車幅灯（尾灯と番号灯は除く）及び制動灯を増設する場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 方向指示灯を増設する場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントガラスおよび運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

■荷台について

荷台のテールゲートやサイドゲートを降ろしたまま走行しないでください。降ろしたまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管からの熱でサイドゲートを損傷するおそれがあります。

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグは、運転者または助手席乗員（助手席 SRS エアバッグ装着車）に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて、運転者、乗員の頭や顔などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能があります。



▶ 運転席

- 1** 展開部
2 パッド部
3 展開部

▲ 警告

- シートベルトを必ず着用してください。 (→P.4-6)

SRS エアバッグはシートベルトの補助拘束装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトを正しく着用しないと、衝突や急ブレーキなどで前方に放り出されたとともに、SRS エアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け生命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



- 正しい姿勢で (→P.4-2)

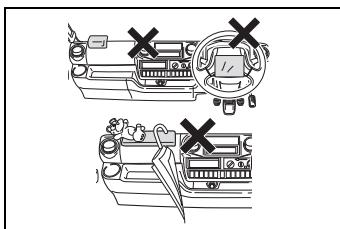


- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとSRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。
- 運転者は正しい運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないように座ってください。

■SRSエアバッグの作動について

- 助手席SRSエアバッグ装着車では、助手席乗員は助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、足を乗せたりしないでください。
- ひざの上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、正常な作動をさまたげたりして危険です。

■SRSエアバッグ展開部に物を置かないでください



- カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。

- 助手席SRSエアバッグ装着車では、インストルメントパネル上部に芳香剤など物を置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■お子さまを乗せるときの注意

- 必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃でお子さまの生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ダブルキャブ車ではお子さまはリヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
 - 助手席SRSエアバッグ装着車では、助手席にはベビーシートなどうしろ向き装着の子供専用シートは絶対に取り付けないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。
 - お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

■車やSRSエアバッグを修理や廃棄するときの注意

- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずケガをするおそれがあります。
- SRSエアバッグにかかる改造や修理を行う場合は、トヨタ販売店にお申し付けください。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、ケガをするおそれがあります。

DPR（排出ガス浄化装置）の取り扱い★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フィルターに捕集したススが一定量堆積すると（一般道走行では数百km※）自動的に捕集したススを燃焼（再生）するクリーニングモードとなります。排出ガス浄化装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

※お客様の走り方によって距離は異なります。

 **アドバイス**

■自動的に捕集したススを燃焼（再生）します

- 排出ガス浄化装置に捕集したススを燃焼（再生）するため、クリーニングモード中は車両が信号待ちなどで停車したときにアイドリング回転数が上がります。
- 車両をアイドリング状態で長時間放置すると白煙排出防止のためアイドリング回転数が上がります。
- 運転条件によっては、排出ガス浄化装置内に捕集したススの燃焼（再生）が完了しない場合があります。このときはメーターパネル内の表示灯が常時点滅します。安全な場所に停車し、アイドリング状態で排出ガス浄化装置スイッチを押して、ススの燃焼（再生）を行ってください。

■次のような特徴があります

- 排出ガス浄化装置により、排出ガスを浄化して放するため、従来のディーゼル車とは排出ガスの臭いが異なります。

- 始動時に排気管から白い煙が出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。
- ススの燃焼（再生）中およびアイドリング状態での長時間放置時にマフラーの周辺から白い煙が出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。

知識

■ DPR とは

Diesel Particulate active Reduction system の略で DPR クリーナー内に排出ガス中のススが一定量堆積すると自動的に捕集したススの燃焼（再生）処理を行います。これにより、ススなどが異常に堆積するのを防ぎ、DPR の浄化能力を常に良好に保ちます。また、高性能触媒と電子制御コモンレール式燃料噴射システムの採用により、走行中にススの燃焼（再生）処理を可能としています。

⚠ 注意

■ 指定（推奨）銘柄のエンジンオイルを使用してください

排出ガス浄化装置の機能を長期間維持するために指定（推奨）銘柄のエンジンオイルをお使いになることを推奨します。

■ 排気管の改造はしないでください

排気管の向きや長さを変更すると排出ガス浄化装置に悪影響をおよぼすおそれがありますので、排気管の改造は行わないでください。

⚠ 警告

■ 指定以外の燃料を補給しないでください

燃料は超低硫黄軽油（S10：硫黄成分 10 ppm 以下）を使用してください。

■ 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を停めないでください

走行直後やクリーニングモード中は排気管やマフラー付近および排出ガスが高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。また、高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。塗装されている路面に停車している場合、路面が変色するおそれがあります。

尿素 SCR (尿素選択式還元触媒) システム★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

尿素 SCR (尿素選択式還元触媒) システムは、マフラー内に AdBlue® (尿素水) を噴射することにより排出ガス中の有毒な NOx を水と窒素に分解して、NOx を低減します。

AdBlue® (アドブルー) はドイツ自動車工業会の登録商標です。



アドバイス

■アフターランについて

- エンジンが停止した後にアフターランが作動すると、ポンプの駆動音が聞こえます。
- メンテナンスを行う際は、アフターランが終了した後に作業してください。



知識

■アフターランとは

AdBlue® (尿素水) の噴射が終了した状態では、尿素水ポンプや配管の中に AdBlue® (尿素水) が残ったままとなっています。それらに残った AdBlue® (尿素水) が寒冷時に凍結したり、乾燥して結晶化しないよう、エンジン停止後、AdBlue® (尿素水) をタンクへ引き戻すシステムです。

■寒冷時の AdBlue® (尿素水) 解凍・保温システムについて

● AdBlue® (尿素水) 解凍システム

AdBlue® (尿素水) は -11 °C 以下で凍結します。低温時でも尿素 SCR システムが正常に作動するように電気ヒーターを用いて尿素水タンク、尿素水ポンプおよび尿素水配管の解凍と保温を行う装置が搭載されています。

● 解凍

エンジン始動時に各温度センサーにて AdBlue® (尿素水) が凍結していると判断した際は、電気ヒーターを用いてタンク、ポンプおよび配管の解凍を行います。その際、凍結した AdBlue® (尿素水) がポンプや配管内を傷めないよう尿素水ポンプは停止しています。

● 保温

システム作動中に温度低下が起こり、AdBlue® (尿素水) が配管内で凍結する可能性があると判断した際は、電気ヒーターを用いてタンク、ポンプおよび配管の保温を行います。尿素水ポンプは、排出ガスを浄化するため稼働しています。

■AdBlue® (尿素水) の保管方法

- AdBlue® (尿素水) は、直射日光の当たらない風通しの良い場所で、容器を密閉した状態で保管してください。
- 高温となる場所での保管は AdBlue® (尿素水) の寿命が低下する原因となります。30 °C 以下の場所での保管が好ましい条件です。

⚠ 注意

■ 装置の故障を防ぐために、必ず以下の点をお守りください

- 使用する AdBlue® (尿素水)

必ず日本工業規格 (JIS) に適合した AdBlue® (尿素水) を使用してください。

- 指定の AdBlue® (尿素水) 以外を補給しないでください。 (→ P.6-21)

AdBlue® (尿素水) 以外のものや水で薄めた AdBlue® (尿素水) をタンクに入れると排出ガスが悪化するだけでなく尿素水ポンプや尿素水インジェクター故障の原因となります。誤って指定の AdBlue® (尿素水) 以外のものを入れた場合は、最寄りのトヨタ販売店に連絡し、指示を受けてください。また、指示があるまでエンジンスイッチを「ON」の位置に回さないでください。

■ アフターラン作動時について

- アフターランが終了するまで尿素 SCR システムは作動しています。

- ・ エンジン停止直後にバッテリーを切ったり、ハーネスなどのコネクタを外さないでください。
- ・ AdBlue® (尿素水) の配管を外さないでください。

■ AdBlue® (尿素水) 解凍・保温システムについて

外気温度センサー、尿素水タンク温度センサーおよび尿素水ポンプの温度をもとに AdBlue® (尿素水) の温度が算出されるため、車両付近に熱源物を近づけないでください。解凍・保温システムが作動しないおそれがあります。

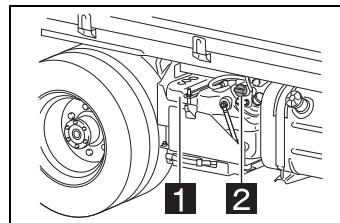
■ AdBlue® (尿素水) の保管方法

- AdBlue® (尿素水) は、-11 °C で凍結します。凍結による体積膨張で、容器を破損するおそれがありますので、満水位以上の保管はしないでください。

- AdBlue® (尿素水) を、他の薬剤と混合したり、加熱したり、希釈しないでください。

■ 尿素水タンクについて

荷台昇降時、尿素水タンクやフィラーキャップに足をかけないでください。破損の原因となります。



1 尿素水タンク

2 フィラーキャップ

お車をたいせつに

2

保証についてP.2-2

車の点検についてP.2-3

新車時の取り扱いP.2-5

車台番号P.2-6

2

お車をたいせつに

保証について

お買い上げいただいたお車は、高度の技術と徹底した品質管理のもとに製造しておりますので、性能と機能ともに十分お客様にご満足いただけるものと確信しております。しかし、万一材料または製造上の不具合がありました場合、保証書に記載されている範囲内において無料で整備させていただきますので保証書をご持参のうえ、トヨタ販売店にお申し付けください。保証書は「メンテナンスノート」にとじ込まれています。

点検整備と取り扱いについて

取り扱いの不注意による故障、および「メンテナンスノート」に定められた点検整備を怠ったために生じた故障については保証に応じられません。日頃から正しい取り扱いと点検整備を実施してください。

保証の対象外

■ 純正品以外の部品の使用による故障

純正以外の部品、油脂類および追加装着部品の使用による故障については保証できません。

■ 不正改造による故障

法律で定められている基準に適合しなくなるような改造（用品類の不正な取り付け方も含みます。）は禁止されています。したがって、これらに伴う故障についても保証できません。

■ 燃料

エンジン性能を確保するため指定された燃料のみ使用してください。不適切な燃料の使用によるエンジン故障の場合は保証を受けられません。

純正部品について

部品、油脂類などを購入するときは、「トヨタ純正部品」をご指定ください。「トヨタ純正部品」は、弊社がその品質を保証しておりますので、安心してご使用いただけます。

トヨタのサービス網

- 別冊の「サービスネットワーク」には、全国のトヨタ販売店の所在地が記載されています。
- 点検整備や一般整備は、トヨタ販売店をご利用ください。

車の点検について

お車の性能を維持し、いつも安全・快適に、また末永くご使用いただくためには、予備整備として定期的な点検・整備を実施していただくことが大切です。

日常（運行前）点検

1日1回お車を運転する前に必ず日常点検を行い、異状がないことを確認してください。（→P.12-1）

簡単な点検により、常にお車の状態を知っておくと、思わぬトラブルを未然に防止できます。なお、「日常点検」は法律で義務づけられています。

新車時点検

ご使用開始後1,000kmと5,000km走行時の2回については、「点検整備記録簿」にもとづき工賃無料（油脂液代・部品代などは有料）で点検・調整をいたします。

別冊の「メンテナンスノート」をご持参のうえ、トヨタ販売店にお申し付けください。

なお、お車の性能維持のためにも、「新車時点検」時に、次のオイル交換をお勧めします。

- 1,000km時：エンジンオイル
- 5,000km時：パワーステアリングフルード

定期点検

定期点検では法令で定められた期間（自家用自動車は6カ月ごと・12カ月ごと、事業用自動車は3カ月ごと・12カ月ごと）での実施が義務づけられています。また、法定点検に加え弊社では一部のメーカー指定点検項目を定めてあります。

別冊の「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿にしたがって実施してください。

■ 走行距離（稼働時間）ごとに行う点検整備

油脂液類・エレメント類は使用期間よりも走行距離に大きく影響されますので、使用期間とは別に走行距離ごとの点検・交換（有料）を行ってください。

定期交換部品

自動車部品のうち安全上重要なゴム部品などは、時間の経過とともに材質が変化して劣化が進みます。

定期点検時は、いつまで安全に使用できるか予測がしにくいものです。

お車の機能、性能と安全を保持するために重要な役割をもっている部品ですから、弊社が指定する期間ごとに定期交換を行ってください。

この定期交換部品および時期は、別冊の「メンテナンスノート」に詳しく記載してありますのでご覧ください。

点検・手入れ

- お車の性能を維持していただくために、「メンテナンスノート」に定められた定期点検項目のうち、車両の構造と装置の基礎知識があれば皆様にもできる点検項目について、また、お車を快適にお使いいただくための点検・手入れについてまとめてあります。
- 安全のため「点検・調整作業にあたっての注意」を必ずお読みください。（→P.13-3）

アドバイス

■ 故障を未然に防ぐには

- お車は使用する期間と使い方に応じて劣化が進み、その構成部品や装置に性能低下が生じます。
- 故障を未然に防ぎ社会環境に悪影響をおよぼす公害の防止のためにも定期点検・整備は必ず実施してください。

■ 保障修理や交換時期について

- 定期交換は、お客様の責任と費用のご負担により実施していただくもので保証修理とは異なりますのであらかじめご了承ください。
- この交換時期は弊社が標準的な走行距離にもとづいて期間を定めたものです。
お車の走行条件その他の事情により、定期交換時期前であっても早めに交換が必要となることがありますので、トヨタ販売店にご相談ください。



■ 点検項目について

車両総重量 8 トン以上の車またはレンタカー（乗用車は除く）は、事業用車と同じ取り扱いとなりますので事業用定期点検項目および期間で実施しなければなりません。

新車時の取り扱い

ならし運転

新車時の取り扱い方によっては、お車の性能や寿命に影響がでます。

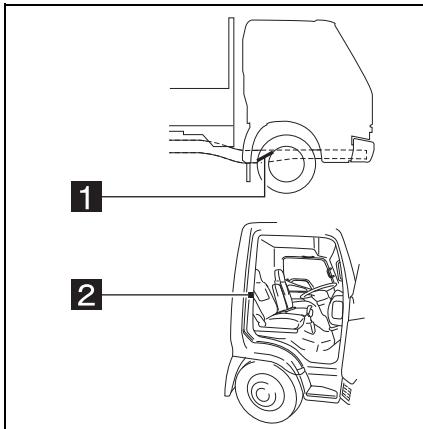
走行距離が 1,000 km ぐらいまでは、エンジン回転数を控えめにし、速度をおさえて走行してください。

その後、徐々に低速から高速までならし運転を行ってください。

車台番号

お車の登録および車検時に必要です。また、部品注文や整備をお申し付けの際、一緒にご連絡いただければより適切な処理が行えます。

車台番号



1 打刻位置

車両右側フレームのフロントホイール付近に、車両型式と車台番号が打刻してあります。

2 ラベル

運転席ドアを開いたピラー部に車両型式と車台番号を記載したラベルが貼り付けてあります。

各部の開閉

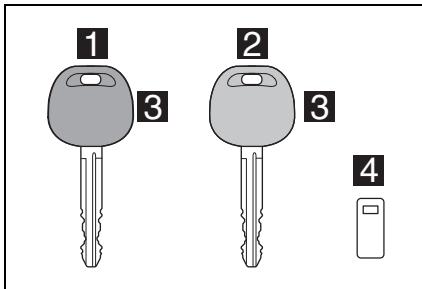
3

| | |
|----------------------------|--------|
| キー | P.3-2 |
| ワイヤレスドアロック | P.3-3 |
| ドア | P.3-6 |
| ドアガラスの開閉 | P.3-8 |
| エンジン点検口の開閉 ... | P.3-10 |
| 車両への乗り降り | P.3-11 |
| フューエルキャップ (燃料補給口) | P.3-12 |
| 荷台 | P.3-12 |
| ツールボックス | P.3-15 |

3

キー

▶ エンジンイモビライザ機能付きキー



1 メインキー（黒色）

2 サブキー（灰色）

3 キーグリップ

4 キーナンバープレート

次のときは車がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。

- キーグリップに金属製のリングなどが接しているとき
- キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき
- キーが他の車のエンジンイモビライザーシステム用キーと近いとき

知識

■ エンジンイモビライザ機能とは

- 車両盗難防止のために、メインキーおよびサブキーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにした機能です。
- キーに登録された信号は車ごとに異なります。

- キーの操作状況・環境等により、ごくまれにエンジンの始動ができないことがあります。エンジンの始動ができなかった場合は、いったんキーを抜き、10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ エンジンイモビライザ機能付きキーについて

- メインキーを紛失しないように十分注意してください。メインキーを全て紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- キーは、同じ車でメインキーは最大5本、サブキーは最大3本まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ キーナンバープレートについて

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないように、キーナンバーをキーナンバープレートに打刻しています。

- 車両以外の場所で大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーを作製できます。

△ 注意

■ エンジンイモビライザーシステムについて

エンジンイモビライザーシステムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

■エンジンイモビライザー機能付きキーについて

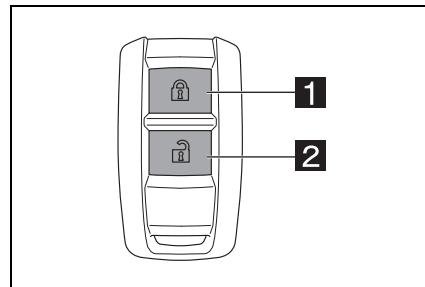
故障を防ぐために次のことをお守りください。

- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えることなくください。
- インストルメントパネルの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
- キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。
- 水に濡らさないでください。

ワイヤレスドアロック★

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電波キー（リモートキー）の操作により、離れたところからドアの施錠・解錠ができます。また、車両の非常点滅灯点滅による応答で施錠・開錠の確認ができます。



1 施錠（非常点滅灯 1 回点滅）※

2 解錠（非常点滅灯 2 回点滅）※

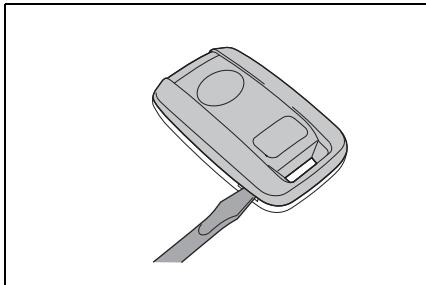
※ ドアが開いている、または半ドア状態では電波キー（リモートキー）は作動しません。

※ ボタンは 1 秒以上確実に押してください。

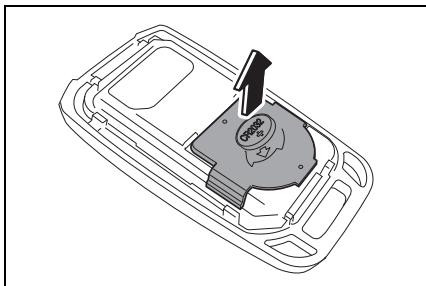
電池の交換

電波キー（リモートキー）を操作しても施錠・解錠できないときは電池の消耗が考えられます。電池が消耗したときは、新しい電池と交換してください。

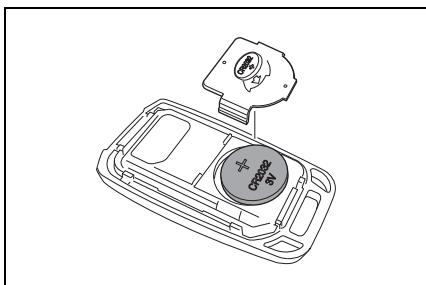
1. 凹部にドライバーを差し込み、カバーを外す。



2. バッテリーカバーを外す。



3. 電池を新品の電池と交換する。



4. 電池交換後は、取り外しの逆の手順で取り付ける。

■電池の種類

| 使用電池 | 数量 |
|-------------|----|
| リチウム CR2032 | 1 |

アドバイス

■電池の交換について

使用済の電池は、地方自治体の条例または規則にしたがって、適切に処置してください。

■電波キー（リモートキー）について

電波キー（リモートキー）を紛失したときは、トヨタ販売店にご相談ください。

知識

- キャブから約 5m 以内で作動します。周囲の状況や電波ノイズなどにより、作動距離が変わることがあります。
- 電波キー（リモートキー）で解錠したときは、30秒以内にドアを開けなければ、自動的に施錠します。同時に、非常点滅灯が 1 回点滅します。（アンサーバック機能）

- 次のようなときは、作動しません。

- ・ エンジンがかかっているとき
- ・ スターターキーがささっているとき
- ・ ダブルキャブ車のリヤドアを除くいずれかのドアが開いているとき

■電池の消耗について

電池の寿命は使用条件により変わることがあります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき

- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数の電波キー（リモートキー）が近くにあるとき
- 電波キー（リモートキー）が金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- 電波キー（リモートキー）をパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■ 航空機に乗るときは

航空機に電波キー（リモートキー）を持ち込む場合は、航空機内で電波キー（リモートキー）のスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

▲ 警告

■ 電波キー（リモートキー）の電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

● 電波キー（リモートキー）にはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

● カバーがしっかりと閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

● 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

● 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

● 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

△ 注意

■ 電波キー（リモートキー）について

● 水にぬらしたり、分解したり、落としたり、強い衝撃を与えたたりしないでください。故障の原因になります。

● 高温になる場所に放置しないでください。電池の寿命低下や故障の原因になります。

● 磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

■ 電池交換後、正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない（錆の原因になります）
- 本体に燃料や艶出剤などの油脂を付着させない
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

■ 電波キー（リモートキー）は電波法の認証に適合しています

必ず以下のことをお守りください。

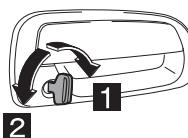
- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

ドア

ドアの施錠・解錠

■ 車外から

▶ 運転席・助手席・後部席★



車両前方 → TC11-004B

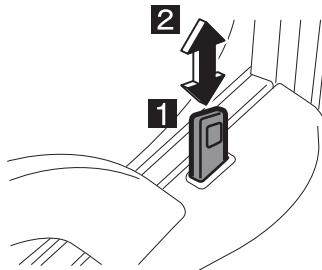
1 施錠

2 解錠

* 運転席ドアをキーで操作すると、助手席側も同時に施錠・解錠ができます。

■ 車内から

▶ 運転席・助手席・後部席★



1 施錠

2 解錠

* 運転席側のロックノブを操作すると、助手席側も同時に施錠・解錠ができます。

■ 車外からのキーを使わない施錠

▶ 運転席・助手席・後部席★

1. ロックノブを施錠側にする。

2. アウトサイドハンドルを引き上げたままドアを閉める。

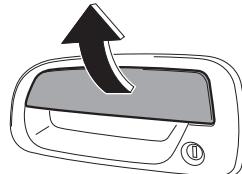
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアの開閉

■車外から

▶ 運転席・助手席・後部席★

ロックが解除されるまでアウトサイドハンドルを引き上げます。



■車内から

▶ 運転席・助手席・後部席★

ロックが解除されるまでインサイドハンドルを引きます。



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ドアの開閉について

傾斜した場所では平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

■キー抜き忘れ防止警報（チャイム）

スタートキーが「LOCK」または「ACC」の位置に差し込まれたままで運転席ドアを開けると、チャイムが鳴り、キーの抜き忘れを知らせます。

▲警告

■走行前に全てのドアが閉まっていることを確認してください

- ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はドアレバーを引かないでください。
- お子さまにドアの操作をさせないでください。
- 閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

△注意

■ドアの施錠・解錠について

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせエンジンを止めドアを施錠してください。

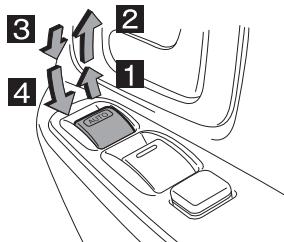
- お子さまづれのときは、車内にお子さまを残したままお車を離れないでください。

ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ

エンジンスイッチが「ON」位置のときにドアガラスの開閉ができます。

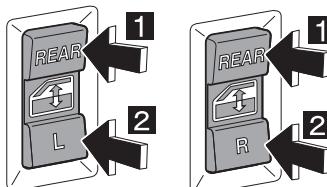
▶ 運転席、助手席



- 1 閉める（少し引き上げる）
- 2 自動全閉（運転席のみ）※
- 3 開ける（少し押し下げる）
- 4 自動全開（運転席のみ）※

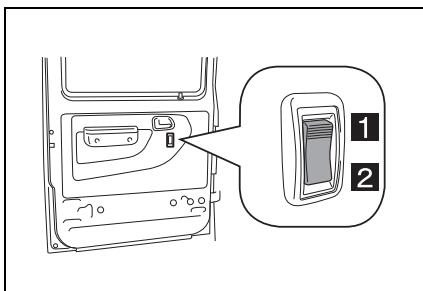
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

▶ ダブルキャブ車運転席側スイッチ（後部ドアガラス用）



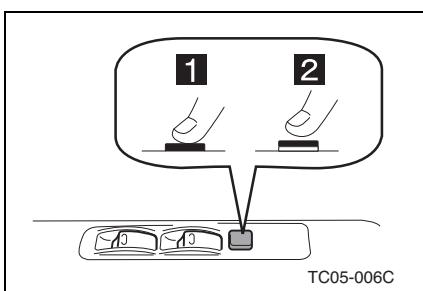
- 1 閉める
- 2 開ける

▶ ダブルキャブ車後部席側スイッチ（後部ドアガラス用）



- 1** 閉める
2 開ける

ウインドウロックスイッチ



- 1** LOCK
2 LOCK 解除

助手席側または後部席側ドアガラスをロックするスイッチです。

▲ 警告

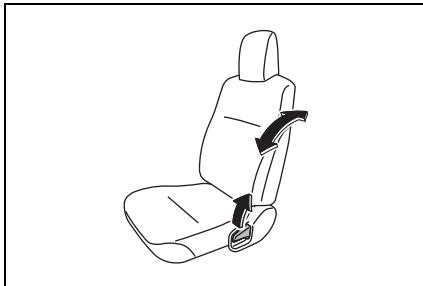
- 走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスなどを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください
- 走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどにあたったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスやサイドウインドウを開閉するときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにドアガラスやサイドウインドウの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン点検口の開閉★

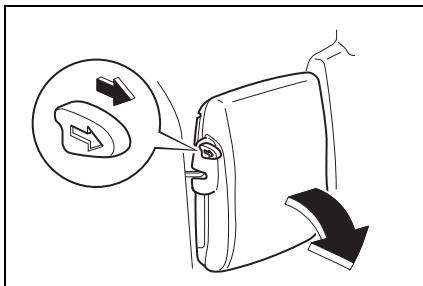
* : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

開け方

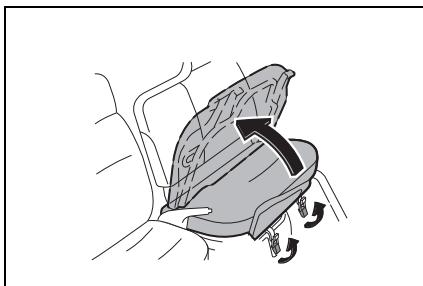
1. 助手席のシートバックを倒す。



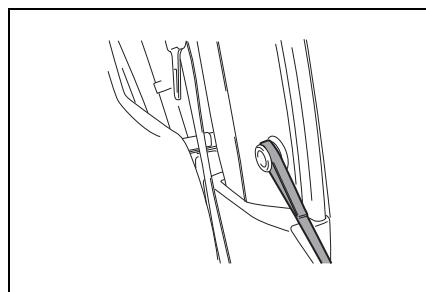
2. 中央席のシートバックを倒す。



3. フロアマットをめくり助手席足元にあるレバー2カ所のロックを外し、エンジン点検口をシートごと持ち上げる。



4. バンドをフックに掛けて固定する。



閉じ方

- 閉じるときは、開けたときの逆の手順で行います。
- エンジンカバーを閉めるときは、フロアマットやバンド、シートベルトがかみ込まないように注意して、確実にロックしてください。

▲警告

■エンジン点検口を閉める前に

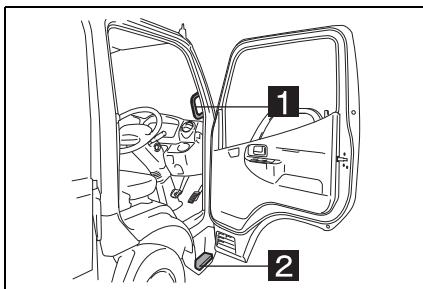
エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。

■エンジン点検口を閉めた後は

走行前にシートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、走行中にシートが動き思わず事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

車両への乗り降り

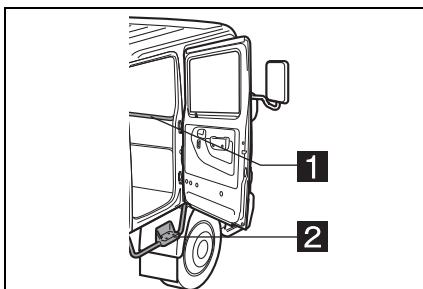
▶ シングルキャブ車



1 グリップ

2 ステップ

▶ ダブルキャブ車



1 グリップ

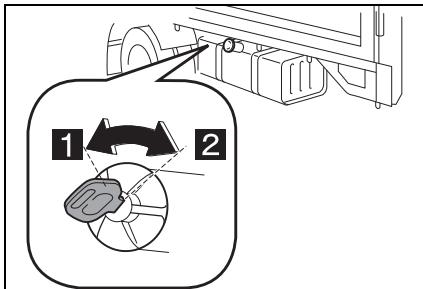
2 ステップ

△ 注意

■ 乗降のしかた

- 車両への乗り降りは必ずステップを使用してください。
- くつ底に油やグリース、雪などが付着していると乗降時やペダル操作時に滑ったりするおそれがありますので、できるだけ付着物を落として乗車してください。
- ステップがぬれていたり着氷している場合は滑らないように注意してゆっくり乗降してください。
- 風の強いときは、乗降中に突然ドアが開閉することがありますので十分注意してください。

フューエルキャップ（燃料補給口）



1 解錠

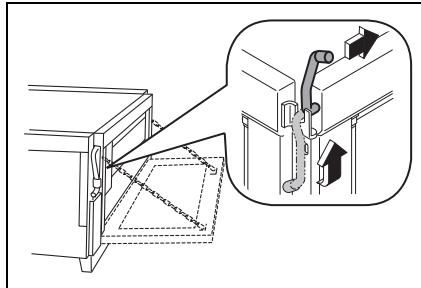
2 施錠

* 1 解錠位置ではキーの取り外しができません。

荷台

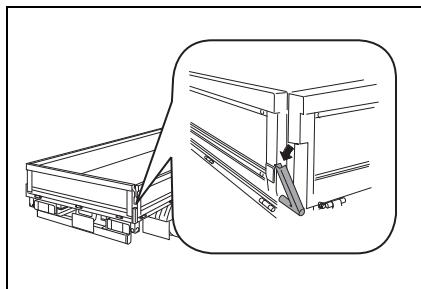
テールゲートの降ろし方

左右のレバーを上に回し内側に押し込んでロックを外すとテールゲートが開きます。

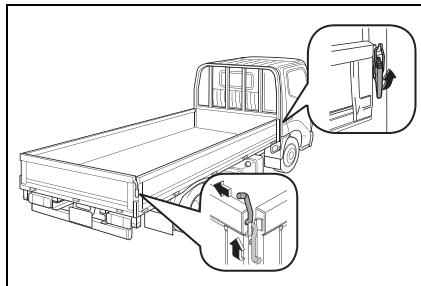


サイドゲートの開け方

1. ボデー後部のレバーを後ろに倒す。

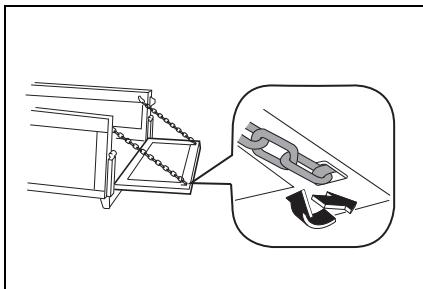


2. サイドゲートの前後にあるレバーを引き上げてロックを外す。

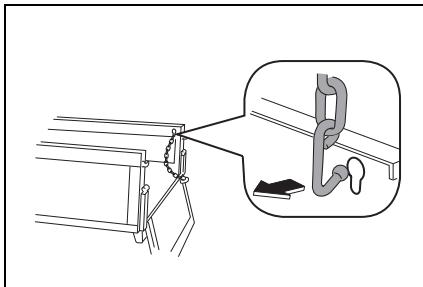


チェーンの外し方

- テールゲート側のチェーンを外す。



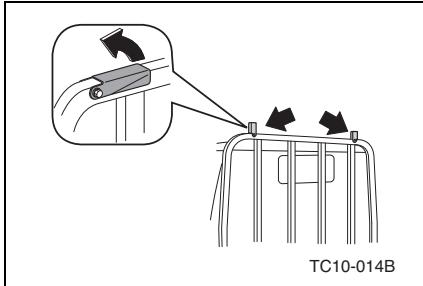
- サイドゲート側のチェーンを外す。



ガードフレームストッパー

ガードフレーム上に積荷を載せる場合は、必ずガードフレームストッパー間に載せ、ロープでしっかりと固定します。

使用するときはストッパーを引き上げます。



アドバイス

■ ガードフレームストッパーについて

ガードフレームには重量物を載せないでください。

▲ 警告

■ テールゲート・サイドゲートを操作するときは、次のことをお守りください

- 荷台には人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行前にテールゲート・サイドゲートが確実にロックされていることを確認してください。ゲートが確実に閉まっていないと、走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- テールゲートを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。ゲートが開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- テールゲートを閉めるときは、チェーン（チェーン装着車）がかみ込んでいないことを確認し、ハンドルで確実にロックしてください。ロックが不十分だと、走行中にゲートが開くなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- テールゲート・サイドゲートを閉めるときは、周囲の安全を確かめ、ゲートで指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- お子さまにはテールゲート・サイドゲートの操作をさせないでください。お子さまが操作すると、手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- テールゲート・サイドゲートを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、ゲートが車外のものなどにあたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行する前に、必ずゲートが閉まっていることを確認してください。
- テールゲート・サイドゲートのハンドルやレバーを操作するときは、しっかりと握り、確実に操作してください。手を挟んだけがをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- テールゲート・サイドゲートのハンドルやレバーをはずすときは、ゲートをしっかりと支えてください。車両の傾斜や積荷の重みで急に開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 傾斜地では、平坦な場所よりもテールゲート・サイドゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。指などを挟まないよう十分注意してください。

● テールゲートを閉めるときは、チェーンがかみ込んでいないことを確認してください。かみ込んだままロックすると、ゲートやチェーンを損傷するおそれがあります。(チェーン装着車)

- テールゲート・サイドゲートを開閉する前に、ゲートが安全に開閉できるように、荷台および車外のゲート付近の状態を必ず確認してください。
- ガードフレームストッパーの破損を防ぐため、ガードフレームストッパーに過度に重いものを乗せないでください。

■ テールゲートを開けるときは、必ずエンジンを止めてください

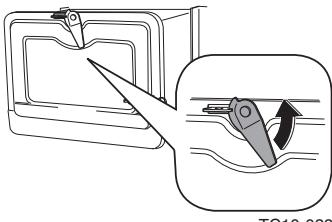
マフラー出入口付近では高温の排出ガスが出るためエンジンをかけたままテールゲートを開けると、テールゲート本体および表面デザインの変形・変色、断熱材入りテールゲートの断熱材が溶けることによる外板剥離、骨格部材の変形などが発生します。

 **注意**

- テールゲート・サイドゲートには積荷の重量をかけないでください
- テールゲート・サイドゲートには積荷の重量をかけないでください。ゲートなどが損傷するおそれがあります。

ツールボックス

レバーを回すと開きます。



TC10-023B

3

各部の開閉



シート・シートベルト
の取り扱い

4

シートP.4-2

シートベルトP.4-6

4

シート・シートベルトの取り扱い

シート

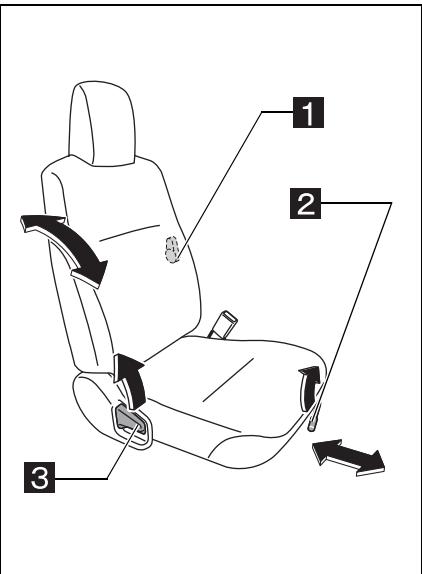
ドライバーシート

■正しい運転姿勢



- シートバックから背を離さない
- ペダルを十分に踏み込める
- ハンドルが楽に操作できる
- シートベルトが正しく着用できる
- シフトレバーの操作が楽にできる

■各部の調整



1 ランバーサポート★

腰部の硬さを調整できます。

2 シートスライド

シートを前後に調整できます。

3 シートバック角度

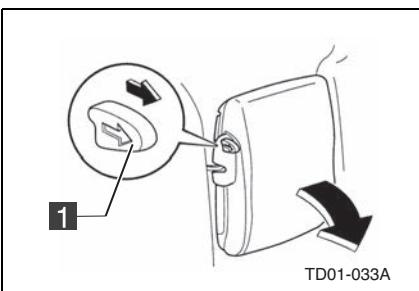
背もたれの角度が調整できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

センターシート★

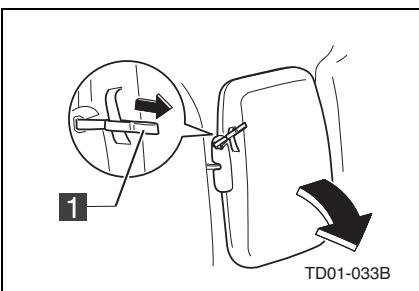
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートバック（背もたれ）を前方に倒すときは、ロック解除レバーまたはロック解除ストラップを引きます。



TD01-033A

1 ロック解除レバー

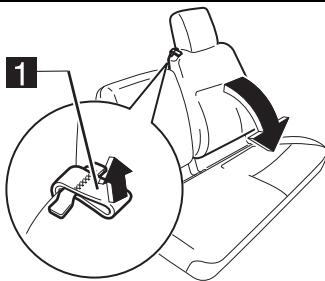


TD01-033B

1 ロック解除ストラップ

アシスタントシート

ロック解除レバーまたはロック解除ストラップを引くと、背もたれが倒れます。



1 ロック解除ストラップ

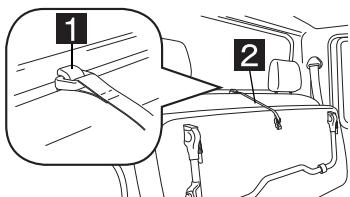
リヤシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ダブルキャブ車

■ 折りたたみ

- シートを折りたたむことができます。
- シートクッションのバンドをフックに掛けて固定します。

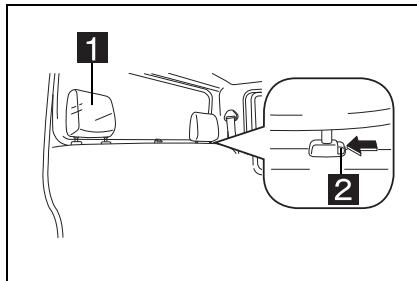


1 フック

2 バンド

■ ヘッドレスト

- 上げるときは、ヘッドレストを持ったまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは、固定ボタンを押したまま引き抜きます。



1 ヘッドレスト

2 固定ボタン

▲ 警告

■ 走行中はドライバーシートの調整をしないでください

- 調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートを調整したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートの下に物を置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。

- 背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 助手席やセンターシート（センター・シート装着車）、リヤシート（ダブルキャブ車）に荷物を積み重ねないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害をうけるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートの操作をするときは、必ず平坦な場所で行ってください。不整地や傾斜地では、操作中に不意にシートが動き手足を挟まれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートバックトレイ装着車は、センターシートを倒した上に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体が飛ばされ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- **■ シートを折りたたんだ状態で、空いたスペースに人を乗せて走行しないでください**
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 脱着式ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 脱着式ヘッドレスト装着車でヘッドレストを取り付けるときは、「カチッ」と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- **■ 倒した背もたれの上や、荷室に人を乗せて走行しないでください**
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などにシートが倒れたり、荷室内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ リヤシートについて

シートクッションを折りたたむときは、バンドがフックに確実に掛かっていることを確認してください。

- 車内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などにあたり、けがをするおそれがありますので十分に注意して行ってください。

■ 背もたれにもたれかかったままシートバックの角度調整をしないでください

- 背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- シートを操作するときは、可動部や結合部に手足を挟まないように注意してください。けがをするおそれがあります。
- 背もたれをうしろに倒した状態で、荷物などを背もたれの上に載せないでください。シートを損傷するおそれがあります。

△ 注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

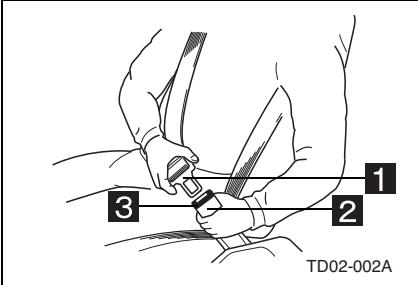
シートベルト

運転する前には必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減するだけでなく危険な場合があります。

なお、着用は法律によって義務づけられています。

シートベルトの注意事項を十分理解し、正しく取り扱ってください。



1 タング

2 バックル

3 プレスボタン

■ ELR (緊急ロック式巻き取り装置)

● 通常ベルトは体の動きに合わせて自由に伸縮できますが、万一衝突や急停車のとき、自動的に固定し体を守ります。

● ベルトを急に引き出すと途中で固定することがあります。

■ プリテンショナー付きシートベルト★

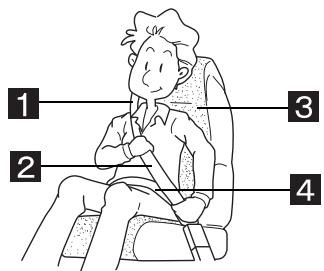
* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方から一定以上の強い衝撃を受けると、着用しているシートベルトが瞬時に巻き取られ、運転者をシートに拘束し、衝撃の緩和とともにSRSエアバッグの効果を高める装置です。

■ 装着方法

1. シートバックは倒さずにシートに深く腰掛けて座る。
2. 確実に肩にベルトをとおしてタングを持って引き出し、ねじっていないことを確認する。

* シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引い



- 1 肩の真ん中に十分にかかること
- 2 ねじれていないこと
- 3 シートを調整し、上体を起こし深く腰掛けること
- 4 必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

3点式シートベルト

ドライバーシート・アシスタントシートのシートベルトは ELR が装着されています。

てから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

3. タングをバックルに「カチッ」と音がするまで、確実に差し込む。

* エンジンスイッチが「ON」のときは、シートベルト未着用警告ランプが消灯したことを確認してください。

4. 腰部ベルトを密着させる。

* 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

5. 肩部ベルトをかける。

* 肩部ベルトは、必ず肩に十分にかかるようにします。このとき、ベルトが首にあたったり、肩からはずれないようしてください。

■取り外し方法

プレスボタンを押します。ベルトは自動的に巻き込まれます。

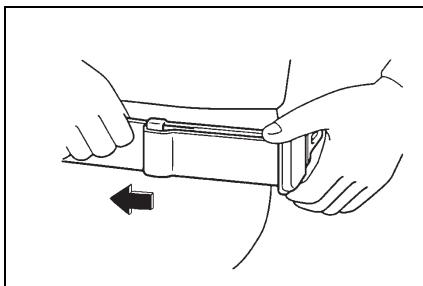
2点式シートベルト★

* グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

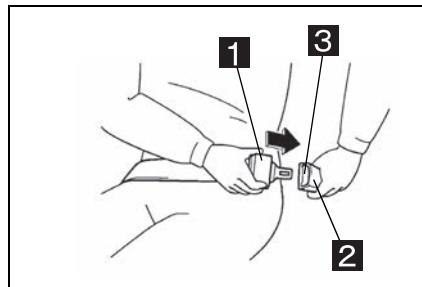
► センターシート

■装着方法

1. ベルトを引いて必要な長さにする。



2. ベルトにねじれがないようにタングをバックルに「カチッ」と音がするまで確実に差し込む。

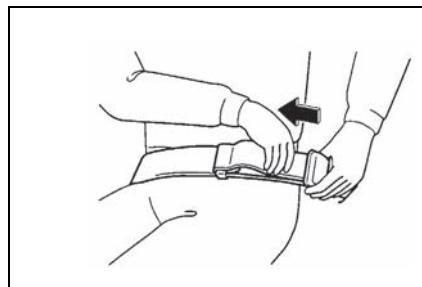


1 タング

2 バックル

3 プレスボタン

3. ベルトを引いて腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。



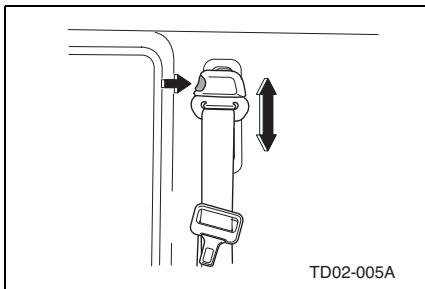
■取り外し方法

プレスボタンを押します。

アジャスタブルショルダーベルトアンカー

ベルトが肩に十分かからないとき使用します。高さは5段階に調節できます。

プッシュボタンを押しながら上下に動かし、ベルトが肩に十分かかる位置でボタンから手を離し固定します。調整後、確実に固定されていることを確認します。



お子さま用シート選択の目安

| 種類 | 体重 (kg) | 身長 (cm) | 参考年齢 |
|----------|------------|--------------|------------|
| ベビーシート | ~ 10 未満 | ~ 75 以下 | ~ 12 カ月 |
| チャイルドシート | 9 ~ 18 未満 | 75 ~ 105 以下 | 9 カ月 ~ 4 才 |
| ジュニアシート | 15 ~ 32 以下 | 100 ~ 135 以下 | 4 才 ~ 10 才 |

アドバイス

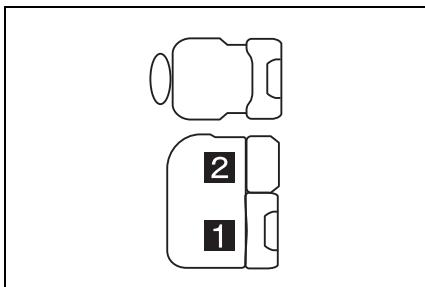
■プリテンショナー付きシートベルトについて

一度作動すると、引き出すことも巻き取ることもできなくなり再使用できません。ただちにトヨタ販売店で交換してください。

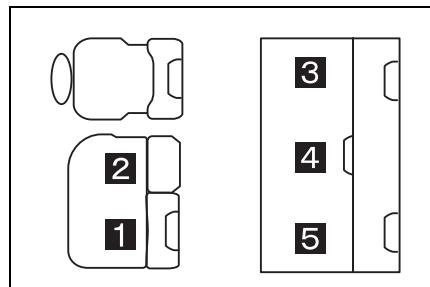
シート位置別チャイルドシートの適合性について

■シート位置別チャイルドシート適合性

▶ シングルキャブ車



▶ ダブルキャブ車



| | シングルキャブ | ダブルキャブ |
|---|---------|--------|
| 1 | | |

| | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 2 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 3 | — | <input type="checkbox"/> U <input type="checkbox"/> L |
| 4 | — | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 5 | — | <input type="checkbox"/> U <input type="checkbox"/> L |

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カタゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表に記載されたチャイルドシートに適合しています。

チャイルドシートを取り付けることはできません。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

| シート位置の番号 | 着座位置 | | | | |
|-------------------------------------|------|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無） | 無 | 無 | 有 | 無 | 有 |
| アイサイズ着座位置（有／無） | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 |
| 搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1／L2） | × | × | × | × | × |
| 搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1／R2X／R2／R3） | × | × | × | × | × |
| 搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3） | × | × | × | × | × |
| 搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3） | × | × | × | × | × |

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイル

ドシートの車種別適合リストを参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

| 治具 | 使用の向き・形状・大きさ |
|-----|-----------------|
| F3 | 全高前向きチャイルドシート |
| F2 | 低型前向きチャイルドシート |
| F2X | 低型前向きチャイルドシート |
| R3 | 大型うしろ向きチャイルドシート |
| R2 | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R2X | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R1 | うしろ向きチャイルドシート |
| L1 | 左向き寝台式チャイルドシート |
| L2 | 右向き寝台式チャイルドシート |
| B2 | ジュニアシート |
| B3 | ジュニアシート |

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

| 質量 グループ | 推奨チャイルドシート | 着座位置 | | | | |
|------------------|--------------------------------|------|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 0、0+ (13kgまで) | トヨタ純正 NEO G - Child baby | × | × | ○ | × | ○ |
| | トヨタ純正 NEO G - Child ISO leg | × | × | × | × | × |
| II、III (15~36kg) | トヨタ純正 ジュニアシート | × | × | ○ | × | ○ |

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただきないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



知識

■運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザーについて

- 運転席・助手席シートベルト非着用のまま、車速が約20km/h以上になると警告ブザーが鳴り始めます。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままにしているときは、30秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり90秒間鳴ります。

▲警告

■シートベルトについて

- 走行前に必ず着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 上体を起こし、シートに深く腰を掛けた状態で着用してください。正しい姿勢で着用しないと十分な効果を発揮しないおそれがあります。
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部からずれると衝突したときなどに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。
- ねじれたまま着用しないでください。衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができずケガをするおそれがあります。
- 首・あご・顔にあたらないように着用してください。
- 3点式シートベルトは、腕の下に通して着用しないでください。ベルトが十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されケガをするおそれがあります。

●シートベルトは1人用です。2人以上で1組のベルトを使用しないでください。衝突したときなどにベルトの機能が正常に働かずケガをするおそれがあります。

●シートの背もたれを必要以上に傾けて走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。

●炎天下に車両を屋外に停車させているとシートベルトのタングなどの金属部分が高温となりやけどをするおそれがありますので金属部分を直接触れないようにご注意ください。

●アジャスターの調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないとき、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

・調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

●妊娠・疾患のある方が着用するときは、かかりつけの医師と相談してから使用してください。衝突のときなど腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。

●シートベルトをドアやシートにはさんで傷つけないように注意してください。

●ほつれ・すり切れがあったりバックルが正常に作動しないときは、交換してください。

- 万一事故を起こした後は、必ずシートベルトを新品に交換してください。外観上に異常がなくても正常に作動しないことがあります。軽い衝撃でもトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 改造や取り外しをしないでください。また、バックルや巻き取り部に異物などを入れないでください。ベルトの機能が低下し危険です。
- 汚れは中性洗剤を用いて洗い落としてください。ガソリン・シンナーなどの揮発剤は、シートベルト地を著しく弱める原因になりますので絶対に使用しないでください。

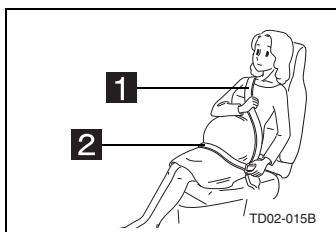
■シートベルトの取り扱いについて

- 取り外し、取り付け、分解などをしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って引き込み重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 下記を修理するときは、トヨタ販売店にお申し付けください。不適切な修理を行うと正常に作動しなくなるおそれがあります。
 - シートベルト付近の修理
 - キャブの板金、塗装

■妊娠中のシートベルト着用について

- 妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)

- 妊娠中の着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



1 お腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用のこと

2 腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用のこと

● 疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)

■車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまは、体に合った子供専用シートに座らせてください

● 乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していません、また頭は他の部分に比べて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。

● 幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

■ 子供専用シートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください

● 使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 子供専用シートについては、販売会社にご相談ください。

● 子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

■ プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください

● プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ シートベルトを正しく着用する
(→P.4-6)
- ・ シートベルトを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する (→P.4-2)

● プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし、分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● プリテンショナー付シートベルトが作動すると SRS エアバッグ警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

 **注意**

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

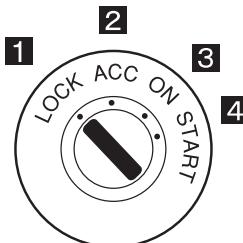
● 前席の乗員の身体を守るための装置です。正しく着用しないと効果が半減するおそれがあります。

● 廃棄するときは、トヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付きシートベルトが思いがけなく作動しケガをするおそれがあります。

| | | | |
|---------------------------------|--------|------------------------|--------|
| エンジンスイッチ | P.5-2 | 電動格納式アウターミラー | |
| エンジンのかけ方 | P.5-3 | スイッチ | P.5-34 |
| エンジンの止め方 | P.5-4 | ミラーヒーター | |
| ペダル類 | P.5-6 | スイッチ | P.5-36 |
| マニュアル トランスミッション (MT 車) | P.5-7 | 手動式ミラー | P.5-37 |
| オートマチック トランスミッション (AT 車) | P.5-8 | ワイドビューミラー | P.5-37 |
| パーキングブレーキ レバー | P.5-15 | バックガイドモニター | P.5-39 |
| ハンドル | P.5-16 | 2面鏡ミラー | P.5-47 |
| ホーンボタン | P.5-17 | 排出ガス浄化装置 | |
| SRS エアバッグ (シートベルト 補助拘束装置) | P.5-17 | スイッチ | P.5-48 |
| ワイパー＆ウォッシャー | | アイドルアップ | |
| スイッチ | P.5-23 | スイッチ | P.5-50 |
| ランプスイッチ | P.5-25 | VSC・TRC | P.5-51 |
| オートマチック ハイビーム | P.5-28 | 車線逸脱警報装置 | P.5-53 |
| 非常点滅灯スイッチ | P.5-32 | PCS (プリクラッシュ セーフティ) | P.5-57 |
| 方向指示レバー | P.5-32 | 誤発進抑制機能 | |
| フォグランプスイッチ | P.5-33 | システム | P.5-73 |
| ヘッドランプ光軸調整 スイッチ | P.5-33 | クリアランスソナー | |
| | | システム | P.5-81 |
| | | ヘッドランプクリーナー | |
| | | スイッチ | P.5-86 |
| | | Stop & Start システム | |
| | | (AT 車) | P.5-86 |
| | | バックブザー減音 | |
| | | スイッチ | P.5-91 |

エンジンスイッチ

キーポジション



- 1 スターターキーを抜き差しする位置

キーを抜くとハンドルがロックされます。

- 2 エンジン停止時、電装品が使用できる位置

オーディオ・アクセサリーソケットなど。

- 3 エンジン回転中の位置

- 4 エンジンを始動する位置

アドバイス

■ スターターキーの取り扱い

- スターターキーはエンジンスイッチの奥まで確実に押し込んでください。

- 「LOCK」の位置で、スターターキーの抜き差しやスターターキーが回しにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら行ってください。

- 「ACC」から「LOCK」の位置に回すときは、スターターキーを押し付けながら回します。AT車はシフトレバーを「P」、ギヤ入れ駐車実施時は、ギヤ入れ状態で、スターターキーを「LOCK」の位置に回してください。

- 長時間駐車するときは、スターターキーを抜いておいてください。

▲ 警告

- 走行中は、エンジンスイッチを絶対に「ON」の位置以外にしないでください

「ON」の位置以外にするとエンジンが停止し、ハンドル操作が重くなったり、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

- スターターキーを抜いたままや「LOCK」の位置で絶対に走行しないでください

スターターキーが抜かれた状態になるとハンドルがロックされ操作ができないなり危険です。

△ 注意

■ エンジンスイッチの取り扱い

- エンジン始動後、再度「START」の位置に回さないでください。スターターの故障の原因になります。

- エンジンを止めた状態で「ON」や「ACC」の位置のまま長時間放置したり、ラジオなどを長時間使用しないでください。バッテリー上がりを起こし、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。

エンジンのかけ方

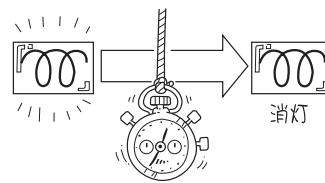
エンジンをかける前に

1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認する。
2. シフトレバーを「N」または「P」の位置にする。

■クラッチスタートシステム★ (MT車)

クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないと、エンジンがかからないうようになっています。

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



2. 消灯と同時に、クラッチペダル(AT車を除く)をいっぱいに踏み込んでエンジンスイッチを「START」の位置に回し、エンジンをかける。

アドバイス

■バッテリーあがりを防止するために

- 1度でエンジンがかからないときは、バッテリーの機能回復のため「ACC」の位置に戻し、30秒ほど待ってからかけなおしてください。
- 始動時にアクセルペダルを必要以上に踏むと、黒煙の発生につながります。
- 予熱(始動補助装置)★は消費電力が大きいため、繰り返し作動させると、バッテリーの負担が大きいので、できるだけ避けてください。

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エンジンイモビライザー機能付き車について(→P.3-2)

システムにより、エンジンがかからないうことがあります。その場合、いったんキーを抜き、10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

始動方法

■通常またはエンジンが暖まっているとき

エンジンスイッチを「START」の位置に回しエンジンをかける。

- * MT車はクラッチペダルをいっぱいに踏み込んで行います。このときアクセルペダルは踏まないでください。
- * AT車はブレーキペダルを踏み込んで行います。このときアクセルペダルを踏まないでください。

寒冷時にエンジンをかけるとき

■予熱(始動補助装置)付き車

1. スターターキーを差し込み「ON」の位置にする。
- * 予熱表示灯が約2秒点灯します。
- * 冷却水温が0°C以下のとき予熱表示灯が約5秒点灯します。

■エンジン始動を容易にするには

- 予熱表示灯の消灯後ただちにエンジンスイッチを回すと、エンジンが容易に始動します。
- 寒冷地域では大容量バッテリーを使用すると始動性が良好になります。

▲警告

■エンジンの始動

- ドライバーシートに座っていない状態でエンジンをかけないでください。思わぬ急発進にそなえ必ずドライバーシートに座りエンジンをかけてください。必ず「エンジンをかける前に」を行ってください。(→P.5-3)
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■スターターの使用について

スターターは15秒以上連続して使用すると、スターターが故障したり、バッテリーあがりの原因となります。

エンジンの止め方

停止前のアイドリング

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを「N」または「P」の位置にする。

* AT車は、「P」位置以外でエンジンを停止しないでください。

2. エンジンを停止させる前に、アイドリング状態でエンジンを冷却する。

● 約2分程

* 登坂や高速走行直後はエンジン各部が高温になっていますので、十分にエンジンを冷却します。

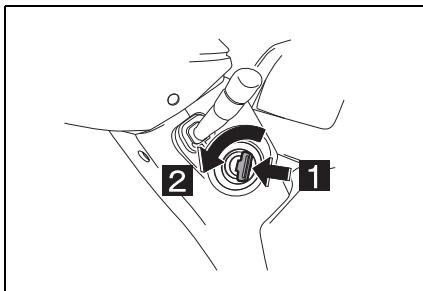
停止方法

1. エンジンスイッチを「ACC」の位置にしてエンジンを止める。



1 ACC

2. スターターキーを抜き取るときは、キーを「ACC」の位置で押し付けながら「LOCK」の位置に回す。



1 押す

2 回す

👉 アドバイス

■ ターボチャージャーについて

ターボチャージャー付きエンジンは、エンジン停止前に必ずアイドリング状態にしエンジンを冷却してください。走行直後にエンジンを止めるとターボチャージャーに悪影響をあたえます。

⚠ 警告

■ 駐車するときは

坂道に駐車するときや、長時間の駐車および車両の点検・整備などの作業をするときは、危険防止のため必ずタイヤの前後に輪止めをかけてください。

■ ギヤ入れ駐車について

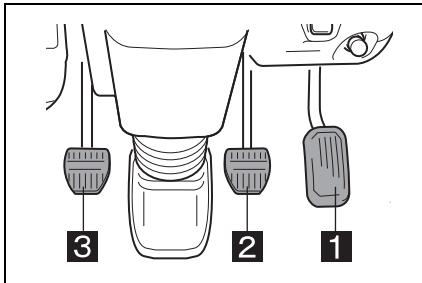
トランスミッションのギヤを入れた状態で駐車する必要があるときは、パーキングブレーキを使用しエンジンが回されても始動しないように、スタートキーを抜き、さらにタイヤに輪止めをかけてください。

■ 車両火災の防止

枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。走行直後は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

ペダル類

各ペダルを確実に操作するため、フロアマットを正しく敷いてください。



- 1 アクセルペダル
- 2 ブレーキペダル
- 3 クラッチペダル★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブレーキペダル

ブレーキペダルの踏みしろに応じて制動力の大小が変化します。

知識

■ エンジンの空ぶかしはしないでください

燃料の無駄使いおよび公害（排出ガス・騒音）のもとになります。

▲ 警告

■ 運転席付近の整理整頓

ブレーキペダルの下に空缶などがはさまると、ブレーキ操作ができなくなるおそれがあり危険です。空缶などがあるときは取り除いてください。

■ アクセルペダルの異常について

操作に異常（踏力軽すぎ、戻り不良、しぶりなど）を感じたときは、そのまま運転を続けないでください。速度のコントロールができなくなるおそれがあり大変危険です。トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

▲ 注意

■ クラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください

力が出ないばかりでなくクラッチの寿命を縮めます。

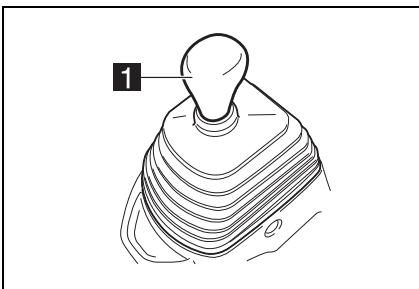
■ 変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください

クラッチペダルの踏み込みが浅いと、クラッチやトランスミッションを損傷させるおそれがあります。

マニュアルトランスマッショ n (MT 車)

「R」の位置にシフトすると後退灯が点灯し、同時にキャブ内および車外のバックブザーが鳴ります。

- * 誤操作を防ぐために、「5」から「R」に直接シフトすることが出来ません。一旦「N」にしてから「R」にシフトしてください。
- * バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。
- * 後退するときは、車両後方および左右の安全を十分確認してください。

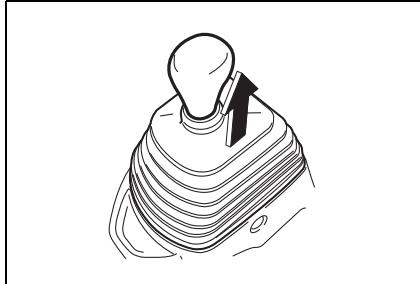


1 シフトレバー

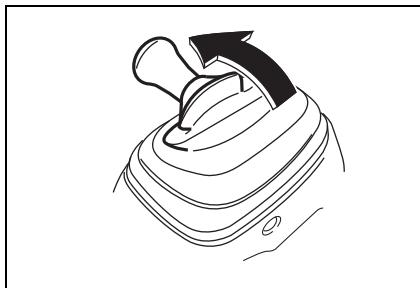
可倒式シフトレバー

シフトレバーを、助手席側に倒すことができます。

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを「N」の位置にする。
2. シフトレバーを上方に引き上げる。



3. シフトレバーを引き上げたまま、助手席側へ倒す。



4. 戻すときは、シフトレバーをそのまま起こす。

知識

■ オーバーランとは

エンジンを許容最高回転数を超えて回転させることをいい、このような状態にすると各部に無理が生じて、エンジンなどを破損されることになります。

▲ 警告

■ 可倒式シフトレバーについて

- 倒すときは、必ず停車して、パーキングブレーキを確実に効かせ、「N」の位置にシフトしてから行ってください。万一「N」位置以外にギヤが入っていると、車両が動きだし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- エンジン始動時には、シフトレバーが確実にロックされていることを確認してください。
- シフトレバーを可倒用に上方に引き上げたままシフトチェンジしないでください。レバー内部の可倒機構が破損するおそれがあります。
- 走行中にはシフトレバーを「N」にしないでください
エンジンブレーキが効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 部品の損傷を防ぐために
 - 前進から後退、後退から前進に変速するときは、車両を完全に止めてから行ってください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
 - シフトダウンするときは、減速してから1段ずつ行ってください。エンジンがオーバーランを起こし、破損するおそれがあります。

△ 注意

- 変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください

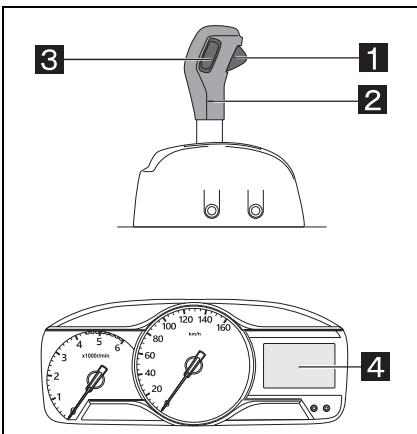
クラッチペダルの踏み込みが浅いと、トランスミッションを損傷させるおそれがあります。

オートマチックトランスミッション (AT車)

電子制御6速オートマチック (ロックアップ付き)

■シフトレバーとセレクト位置

トランスミッションは前進6段、後退1段でセレクト位置はメーターパネル内のマルチインフォメーションのシフトインジケーターで表示されます。



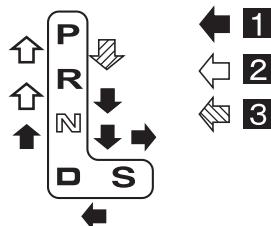
1 セレクトボタン

2 シフトレバー

3 シーケンシャルスイッチ

4 シフトインジケーター

■シフトレバーの操作

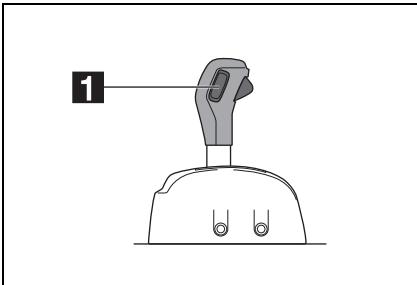


- 1 セレクトボタンを押さずに操作
- 2 セレクトボタンを押して操作
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトボタンを押して操作

| セレクト位置 | 目的 |
|--------|---|
| [P] | <ul style="list-style-type: none"> 車輪が固定されます。 エンジン始動時および駐車時に使用してください。 駐車時は、必ず「P」位置にしてください。 「P」位置のみエンジンスイッチからキーが抜き取れます。 |
| [R] | <ul style="list-style-type: none"> 車両を後退させるとときに使用します。 「R」位置に入れると後退灯が点灯し、キャブ内および車外のバックブザーが鳴り「R」の位置にあることを知らせます。 バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。 |
| [N] | <ul style="list-style-type: none"> 動力が伝わらない状態の位置です。 「N」位置でもエンジンは始動できますが安全のため「P」位置で行ってください。 |
| [D] | 通常の走行時に使用します。 |
| [S] | <ul style="list-style-type: none"> シーケンシャルスイッチを操作し、任意のギアを最高段として設定することができます。 エンジンブレーキが必要な場合に使用します。 |

■シーケンシャルスイッチ

シフトレバーを「S」位置にしスイッチの「+」と「-」を押すと、自動变速の最高段を設定できます。設定が完了するとメーター内のシフトインジケーターに最高ギヤ段が表示されます。



1 シーケンシャルスイッチ

| シフトインジケーター表示 | 自動变速される段数 |
|--------------|-----------------------|
| 6 | 1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4 ⇄ 5 ⇄ 6 |
| 5 | 1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4 ⇄ 5 |
| 4 | 1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4 |
| 3 | 1 ⇄ 2 ⇄ 3 |
| 2 | 1 ⇄ 2 |
| 1 | 1 |

■油温警告灯

エンジンスイッチを「ON」にすると  ランプが点灯し、エンジンをかけて消灯すれば正常です。

■油温警告灯が点灯したとき

トランスミッションのオイルの温度が高くなると点灯します。

1. 警告灯が点灯したときは、すみやかに車両を安全な場所に停止して、「P」位置にする。

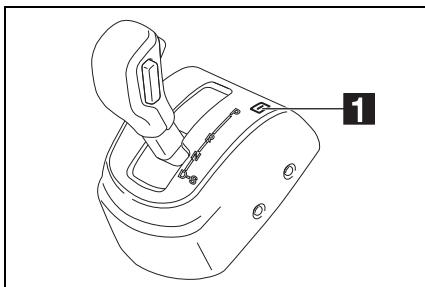
2. エンジン回転数をアイドリング回転時より若干高めにし、冷却する。

- * 警告灯が消灯すれば、通常走行ができます。
- * アイドリング回転を続けて警告灯が消灯しないとき、または走行中に頻繁に点灯するときは、トヨタ販売店に連絡してください。
- * 通常は数分以内に消灯します。

■シフトロック解除

「P」から「R」位置へシフトする際、ブレーキペダルを踏んでもシフトができないときに使用します。

- * 安全のため、エンジンを停止させパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んだ状態で、作業をおこなってください。
- * 先端を保護したマイナスドライバーなどをシフトロック解除キャップの穴に差し込み、横に倒して取りはずします。
- * 内部にあるシフトロック解除リンクを押しながら、シフトレバーを操作してください。
- * シフトロック解除リンクを押している間、シフトレバーを操作することができます。



1 シフトロック解除キャップ

■運転操作

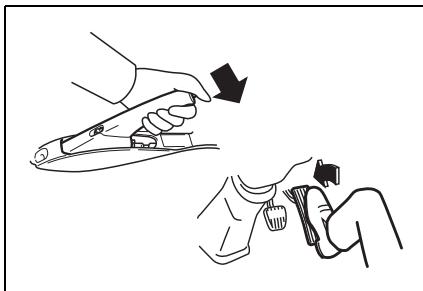
踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。

■エンジンの始動

1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認する。
 2. レバーが「P」位置に入っていることを確認する。
 3. ブレーキペダルを右足で踏む。
 4. エンジンスイッチを「START」の位置にしてエンジンをかける。
- * 「N」の位置でも始動できますが、安全のためタイヤが固定される「P」の位置で行ってください。
 - * 押しがけやけん引によるエンジン始動はできません。

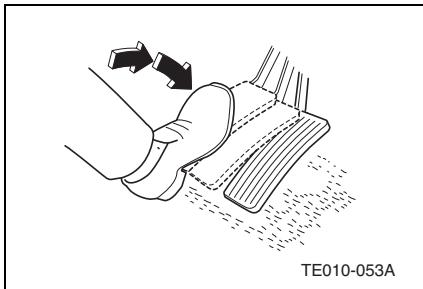
■発進および通常走行

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏む。
 - * レバーを「D」・「S」・「R」位置に入れると、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても車両が動き出します。発進前はブレーキペダルをしっかりと踏み、車両が動かないようにしてください。
 2. レバーを「D」・「S」・「R」位置にする。
 3. パーキングブレーキレバーを戻し、ブレーキペダルを徐々にゆるめる。アクセルペダルをゆっくり踏む。
- * 車速と負荷に応じて自動的に変速されます。



■ キックダウン

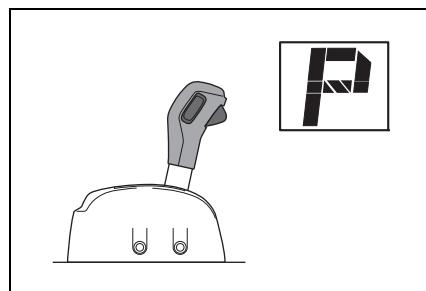
- * 「D」位置で走行中、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンし、加速力が大きくなります。



2. 「P」位置にする。

ブレーキペダルを離し、エンジンを止める。

- * 坂道に駐車するときは必ずタイヤの前後に輪止めをかけてください。



■ 停車

- 「D」位置のまま必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。坂道などではパーキングブレーキを確実に効かせます。
- 停車時間が長くなるときは「P」または「N」位置にシフトします。
- 停車後、再発進するときは「D」位置にあることをしっかりと確認してから発進してください。

■ 駐車

1. 車両を確実に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキを確実に効かせる。

■ アドバイス

■ オートマチックトランクション保護機能について

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランクションが高温になり損傷するおそれがあります。このとき、トランクションが損傷しないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。トランクションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

■ 知識

■ シフトロックシステムとは

- この装置は、ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ「P」の位置からのレバー操作ができないようになっています。よく理解して正しい操作に役立ててください。
- エンジンスイッチが「ACC」または「LOCK」位置のときに、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- 「P」の位置以外ではエンジンスイッチからスタートキーは抜けません。「P」の位置にしてからスタートキーを抜いてください。
- 「P」の位置以外では、エンジンスイッチを「ACC」から「LOCK」位置に回せません。
- 「P」からレバー操作するときに、「R」位置方向に引いたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

■ クリープ現象とは

シフトレバーが走行位置にあるとき、エンジンのアイドリング回転により、アクセルペダルを踏んでいなくても車両がゆっくり動き出す現象をいいます。

■ シフトレバーの操作について

- エンジンスイッチが「ACC」または「LOCK」位置のときに、ブレーキペダルを踏んでも「P」の位置からレバー操作できません。
- ブレーキペダルを踏んだままでないと「P」位置からシフトできません。
- 「R」の位置に入れるとバックブザーが鳴り、「R」の位置であることを運転者に知らせます。

■ 坂道走行について

安全や走行性能を確保するため、シーケンシャルスイッチ操作をしても、エンジンオーバーラン防止のため、シフトダウンされないときがあります。この場合、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

■ オーバーランとは

エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、このような状態にすると各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることになります。

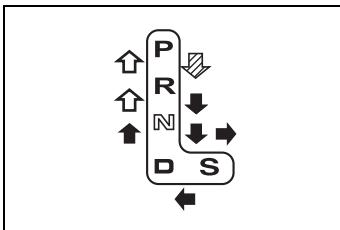
▲ 警告

■ 高回転時のレバーの取り扱い

エンジン回転が高いとき（始動直後など）は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で「D」・「S」・「R」位置に入れないと危険です。

■シフトレバーの操作

→の操作はセレクトボタンを押さないで操作してください。常にセレクトボタンを押して操作していると意に反して「P」・「R」位置に入れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。



■発進および通常走行について

シフトレバー操作時は絶対にアクセルペダルを踏み込まないでください。車両が急発進し危険です。

■坂道走行について

- フットブレーキは使いすぎないでください。長い下り坂でブレーキを使いすぎると過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、「D」または「S」位置に入れたまま惰性で後退したり、「R」位置に入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

■停車時エンジンの空ぶかしはしないで

「P」または「N」位置以外に入っていると急発進して危険です。

■走行中は「N」位置にしないで

エンジンブレーキが効かないため、思わぬ事故の原因になります。

■シフトレバーについて

- 発進時には、必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま「P」または「N」位置から「D」・「S」・「R」位置にシフトしてください。
- ブレーキペダルを踏んでもレバーが動かないときは、ブレーキペダルを踏んだままシフトロック解除リンクを押してレバーを操作してください。また、そのまま使用し続けず、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- エンジン始動直後などアイドリング回転数が高くなるとクリープ現象が強くなり、車両が動こうとする力が強まります。ブレーキペダルは確実に踏み込んでください。
- 「P」位置にシフトするときは、確実に「P」位置に入れ、セレクトボタンを離してください。
- 運転席から助手席に移動するときなどレバーにつかまらないでください。
- 車両が完全に止まらないうちにシフトレバーを「P」位置にしないでください。車両が完全に止まらないうちに、シフトレバーを「P」位置にすると異音や異常振動が発生し、場合によってはトランスミッション部品の破損や重大事故につながるおそれがあります。シフトレバーを「P」位置にするときは、車両が完全に停車したことを確認してからシフトレバーを操作してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除リンクを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除リンクを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■キックダウンについて

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的にシフトダウンしますので、滑りやすい路面ではアクセルペダルを急激に踏み込まないでください。タイヤが空転し、車の方向性を失うおそれがあります。

■上り坂で停車するときは

上り坂でブレーキを使用せずにエンジンの動力を使っての停車はしないでください。右足でしっかりとブレーキペダルを踏み、必ずパーキングブレーキをかけてください。

■けん引時の注意

- AT 車をけん引するときは必ず後輪を持ち上げて行ってください。
- 後輪を持ち上げずにワイヤーロープなどでけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。外さないでけん引するとトランスミッション焼き付きの原因になります。
- AT 車は、車を引いたり押したりしてエンジンをかけることはできません。

△ 注意

■オートマチックトランスミッション保護機能について

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

■油温警告灯が点灯したとき

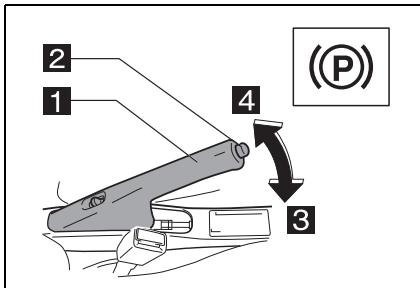
- すぐにエンジンを止めないでください。トランスミッション焼き付きの原因となります。
- 警告灯が消灯してからエンジンを止めてください。

■シフトレバーの操作

- 前進から後退、または後退から前進へとシフトするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み必ず車両が停止してから行ってください。また、レバー位置を必ず目で確認してください。
- ぬかるみから脱出するときは「D」 ⇄ 「N」位置、または「R」 ⇄ 「N」位置を交互にシフトしてください。
- 「P」または「N」以外の位置で、ブレーキを踏みながらエンジンを高回転させないでください。

パーキングブレーキレバー

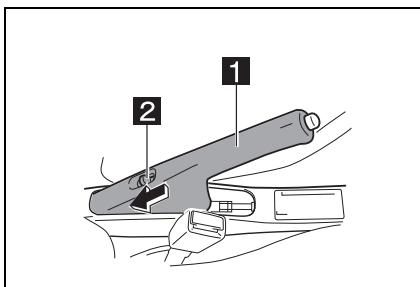
パーキングブレーキレバーの操作



- 1 パーキングブレーキレバー
- 2 解除ボタン
- 3 解除（下げる）
- 4 作動（上げる）

- 解除ボタンを押さずに、レバーをいっぱいに引き、最後に「カチッ」というノック音がすることを確認してください。同時に警告灯が点灯します。
- レバーを戻すときは、レバーを少し引き上げ解除ボタンを押しながら戻します。警告灯が消灯したことを確認してください。

可倒式パーキングレバー



- 1 パーキングブレーキレバー

2 可倒ノブ

* パーキングブレーキを効かせた状態で、パーキングブレーキレバーを倒すことができます。

■ 倒すとき

可倒ノブを手前に引き、パーキングブレーキレバーを下げます。（可倒ノブ上部に赤色マークがあらわれます）

■ 戻すとき

パーキングブレーキレバーを元の位置まで引き上げます。（可倒ノブ上部の赤色マークが隠れたことを確認してください）

知識

■ パーキングブレーキの警報について (パーキングブレーキ引きずり防止ブザー)

パーキングブレーキが掛かっている状態で、車速が 5 km/h 以上になるとブザーが鳴ります。

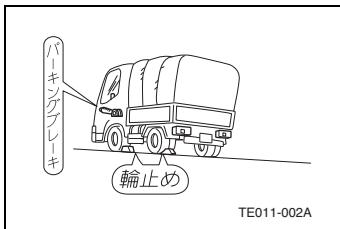
▲ 警告

■ パーキングブレーキを使用するにあたっての注意

- 緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。走行中にパーキングブレーキを使用すると、後輪がロックして車両が不安定になり事故につながるおそれがあります。
- 緊急時にパーキングブレーキを使用したときは、故障していないか必ず点検してください。
- パーキングブレーキの使用状況によって随時点検・整備を行ってください。

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品の早期摩耗を招くほか、過熱で効きが悪くなったり火災の原因ともなります。

- 坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、タイヤの前後に輪止めをかけてください。



■ パーキングブレーキレバーはいっぱいに引いてください

- パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。

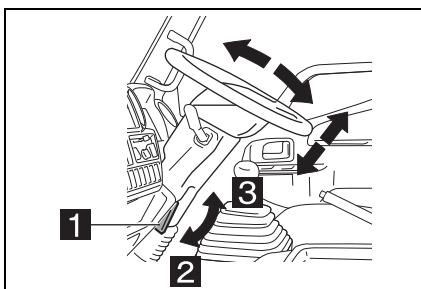
- パーキングブレーキレバーを引いた際にレバーが正しく噛み合っていないと、レバーがずれて車が動き事故につながるおそれがあります。レバーをいっぱいに引き、最後に「カチッ」というノッチ音がすることを確認してください。

- (P) ランプの点灯は、パーキングブレーキレバーの引きが十分であることを示すものではありません。レバーは常にいっぱいに引いてください。

ハンドル

ハンドル位置の調整方法

ハンドル位置を上下と前後に調整ができます。



1 ロックレバー

2 ロック

3 解除

1. ロックレバーを引き上げて、ハンドル操作のしやすい高さと角度に調整する。
2. 調整後、ロックレバーを押し下げて確実にロックする。
3. ハンドルを上下前後にゆすり、ロックされたことを確認する。

▲ 警告

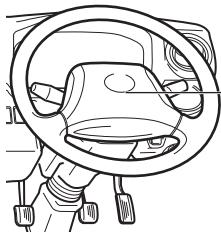
■ ハンドルについて

- ハンドル位置の調整は停車しているときに行ってください。走行中に調整すると運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が故障する原因になります。

ホーンボタン

ハンドル中央部のホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

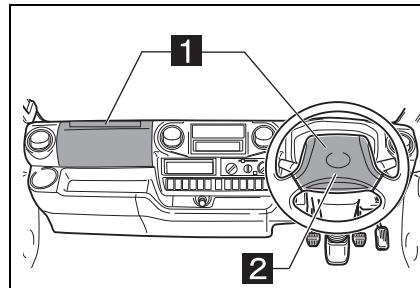


1 ホーンボタン

SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置）★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

SRS エアバッグは、運転者または乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて、運転者または乗員の頭や顔などに作用する衝撃力を分散、緩和させる機能があります。



1 展開部

2 パッド部

* シートベルトについて (→P.4-6)

知識

■ SRS とは

Supplemental Restraint System の略で補助拘束装置の意味です。

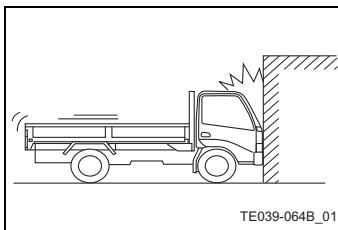
■ SRS エアバッグの作動について

- 衝突により車両前部が大きく変形しても、乗員への衝撃は大きくならない場合がありますので、車両の変形、損傷と SRS エアバッグの作動とは必ずしも一致しません。

- 強い前面衝突時において、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や顔などの上体が受ける重大な傷害を軽減する装置です。シートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれのない衝突では、SRS エアバッグは作動しにくくなっています。

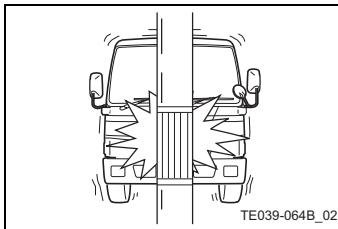
■ 車両前部が受ける衝撃が弱いときは、作動しない場合があります

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が低い場合。



TE039-064B_01

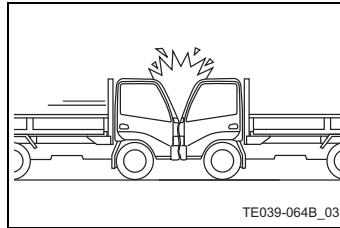
- 衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても衝突速度が低い場合。



TE039-064B_02

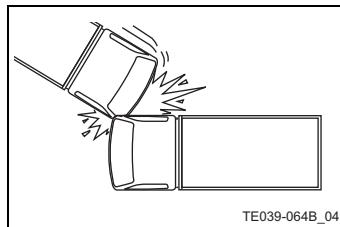
- 衝突したものが変形したり、移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、SRS エアバッグの作動する車速は高くなります

- 停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、SRS エアバッグは作動しないことがあります。



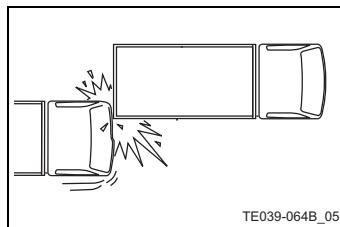
TE039-064B_03

- 衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても SRS エアバッグは作動しないことがあります。



TE039-064B_04

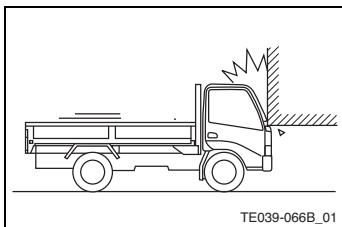
- 片側衝突（オフセット衝突）した場合でも、ラップ量が小さいか、または衝突速度が低い場合には、SRS エアバッグは作動しないことがあります。



TE039-064B_05

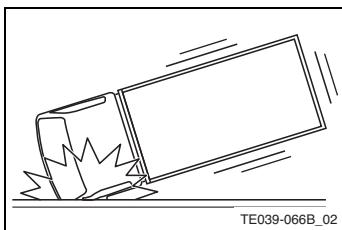
■次のような場合も衝突による衝撃が緩められ、作動しないことがあります

●障害物の下へもぐりこみ衝突した場合



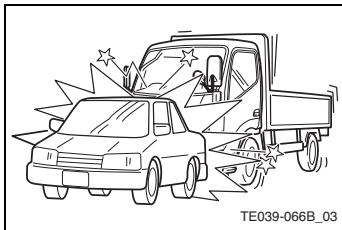
TE039-066B_01

●前方の斜めの方向から衝撃を受けた場合



TE039-066B_02

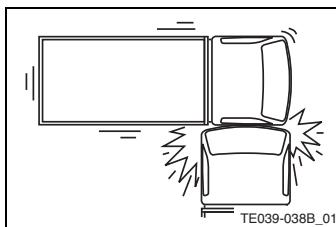
●乗用車と衝突した場合



TE039-066B_03

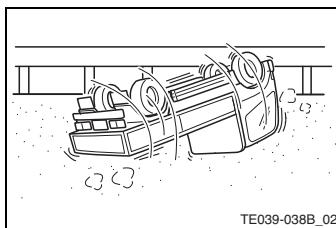
■次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません

●側面や後方から衝撃を受けた場合



TE039-038B_01

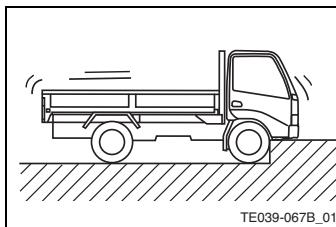
●車両が横転、転覆した場合



TE039-038B_02

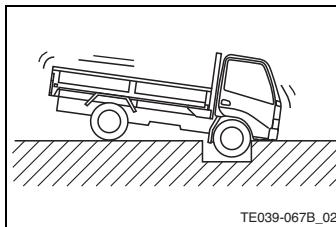
■次のような、車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動することができます

●縁石などにぶつかった場合



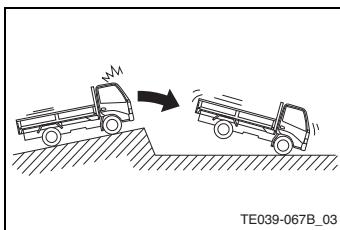
TE039-067B_01

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えた場合



TE039-067B_02

- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合



■ SRS エアバッグの作動について

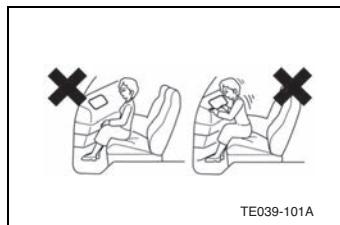
- SRS エアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRS エアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、衝突時などに助手席 SRS エアバッグがふくらむことによって、車両のフロントガラスが破損することがあります。

▲ 警告

■ SRS エアバッグについて

- SRS エアバッグはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。乗車するときには必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどに SRS エアバッグの効果を十分に発揮させることができず、生命にかかるわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと急ブレーキなどで前方に放り出されたと同時に SRS エアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。

- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢で座ってください。SRS エアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。
- 運転者は正しい運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。
- 助手席乗員は助手席 SRS エアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。



- シートの調整、正しい運転姿勢については (→P.4-2)
- ひざの上に物をかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRS エアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、正常な作動を妨げたりして危険です。
- お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグがふくらんだときの強い衝撃でお子さまの生命にかかるわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ダブルキャブなどのリヤシートのある車両ではお子さまはリヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。リヤシートがお子さまにとって最も安全な乗車位置と言われています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートなどの子供専用シート（ダブルキャブではリヤシート）を着用してご使用ください。
- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、助手席にはベビーシートなど後ろ向き装着の子供専用シートは絶対に取り付けないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能な子供専用シートでも後ろ向きには絶対に取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。なお、やむを得ず助手席に前向きで子供専用シートを取り付ける場合には、必ずシートベルトを着用させ、シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢で座らせてください。



- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

- 車両の整備作業の場合には必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。これらの作業が必要なときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

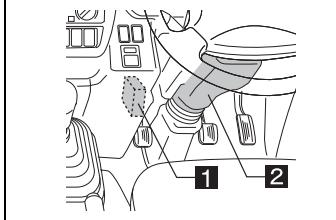
- SRS エアバッグおよびインストルメントパネル（助手席 SRS エアバッグ装着車）の取り外し、取り付け、分解修理などをしないでください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRS エアバッグが正常に作動しなくなります。
- 車両前部の改造や架装物の取り付けをしないでください。SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRS エアバッグが正常に作動しなくなります。

〔車両前部の改造や架装物の例〕

バンパー改造（はりだし）、前方格納式クレーン、スノープラウ（雪かき）、消防車（バンパーステップ前出し）、キャンパー（フロントスペアタイヤ）

- カー用品など装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。

- 助手席 SRS エアバッグ装着車では、インストルメントパネル上部に芳香剤など物を置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRS エアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド、インストルメントパネル上部（助手席 SRS エアバッグ装着車）など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は SRS エアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品は大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- カバーの奥に SRS エアバッグセンサーが装着されています。次の事項をお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- カバーおよびその取り付け部付近には SRS エアバッグセンサーやそのほかの電気部品があります。強い衝撃を与えたり、水などをかけないでください。



1 センサー

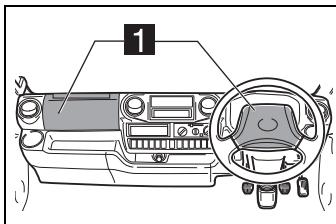
2 カバー

■ SRS エアバッグの廃棄について

車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し、ケガをするおそれがあります。

■ SRS エアバッグの交換について

- SRS エアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずケガをするおそれがあります。



1 パッド部

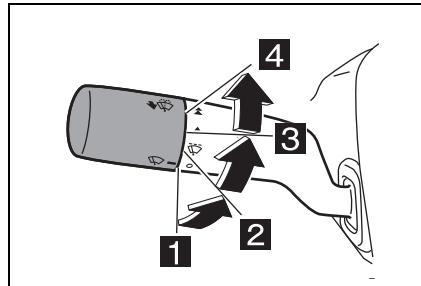
- SRS エアバッグが作動すると、作動音と共に白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 一度作動した SRS エアバッグは、2 回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1 回目の衝突で SRS エアバッグが作動すれば、2 回目の衝突では SRS エアバッグは作動しません。

ワイパー＆ウォッシャースイッチ

ワイパー（フロント）

■ ワイパーの動かしかた

レバーを回すと作動します。



1 停止

2 間欠作動 (INT)

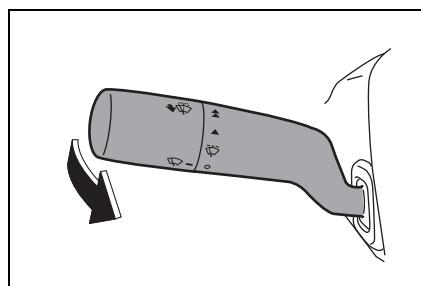
3 低速作動 (LO)

4 高速作動 (HI)

■ ウォッシャー液の噴射方法

- レバーを引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。
- レバーを引き続けると（約 0.5 秒以上）ウォッシャー液が噴射されたあと、ワイパースイッチが「停止」の位置でもワイパーが 2 ～ 3 回作動します。

* 1 回の噴射は 15 秒以内にしてください。



▲警告

■寒冷地では

フロントガラスが暖まるまでは、
ウォッシャー液を噴射させないでください。
ガラスに噴射された液が凍結し、
視界不良を起こすことがあります。

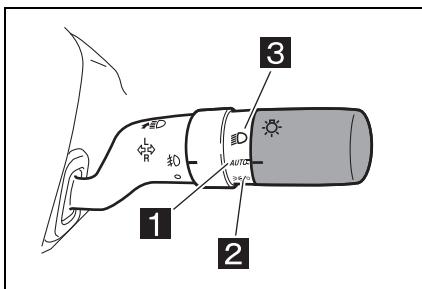
△注意

■ワイパー＆ウォッシャースイッチの取り扱い注意

- ガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーブレードを傷つけるおそれがあります。必ずウォッシャー液を噴射してから作動させてください。
- 凍結などでワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーブレードが損傷したりモーターが故障するおそれがあります。
- ウォッシャー液がないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。ウォッシャーモーター焼き付きの原因になります。
- ワイパーを長期間使用していなかったときには、ワイパーブレードとガラスの間にほこりや砂などがたまっていることがあります。そのまま作動させるとガラスに傷をつけますので清掃してから使用してください。
- ウォッシャースイッチは周囲の状況をよく確認してから操作してください。使用状況によってはウォッシャー液が周囲に飛散する恐れがあります。

ランプスイッチ

レバーを回すと、次の各ランプが点灯します。



- 1 AUTO
- 2 AUTO/○
- 3 ○

* レバーを **2** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **1** の位置へ戻ります。

| スイッチ位置 | 点灯状態 | |
|-------------------------|---|---|
| | 周囲が明るいとき | 周囲が暗いとき |
| 1 * ¹ | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドライトが消灯 ・ スモールランプが消灯 *² ・ デイタイムランニングランプが点灯 *³ | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドライトが点灯 ・ スモールランプが点灯 ・ デイタイムランニングランプが消灯 |
| 2 * ¹ | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドライトが消灯 ・ スモールランプが点灯 ・ デイタイムランニングランプが点灯 *⁴ | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドライトが消灯 *⁵ ・ スモールランプが点灯 ・ デイタイムランニングランプが消灯 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドライトが点灯 ・ スモールランプが点灯 ・ デイタイムランニングランプが消灯 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドライトが点灯 ・ スモールランプが点灯 ・ デイタイムランニングランプが消灯 |

上記のスモールランプは、車幅灯、尾灯、番号灯、インストルメントパネルランプを意味します。

* 1 レバーを **2** の位置で 1 秒以上保持すると、**2** による点灯状態に切り替わります。

(周囲が暗い時は停車中のみ切り替え可能)

その後、レバーを **2** の位置へ操作すると、**1** による点灯状態に切り替わります。

* 2 尾灯と番号灯については、曇りや影に入ったときなど周囲からの光が弱い時は点灯します。

- * 3 エンジンスイッチを「LOCK」から「ON」にしてパーキングブレーキを解除すると点灯を開始します。
- * 4 フォグランプ点灯時はデイタイムランニングランプは消灯します。
- * 5 停車中のみ可能。車両を発進させると **1** による点灯状態に切り替わります。

消灯のしかた

駐車ブレーキをかけた状態でレバーを **2** の位置で 3 秒以上保持すると、次のように作動しヘッドライト、スマートランプ、デイタイムランニングランプが消灯します。

- ▶ スイッチ位置 **1** の点灯状態から消灯させる場合

| 点灯状態 | |
|--|---|
| 周囲が明るい時 | 周囲が暗い時 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 1 秒経過時 ヘッドライト消灯、スマートランプ点灯、デイタイムランニングランプ点灯 *6 | <ul style="list-style-type: none"> ● 1 秒経過時 ヘッドライト消灯、スマートランプ点灯、デイタイムランニングランプ消灯 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 3 秒経過時 ヘッドライト消灯、スマートランプ消灯、デイタイムランニングランプ消灯 | <ul style="list-style-type: none"> ● 3 秒経過時 ヘッドライト消灯、スマートランプ消灯、デイタイムランニングランプ消灯 |

- * 6 フロントフォグランプ点灯時はデイタイムランニングランプは消灯します。

- ▶ スイッチ位置 **2** の点灯状態から消灯させる場合

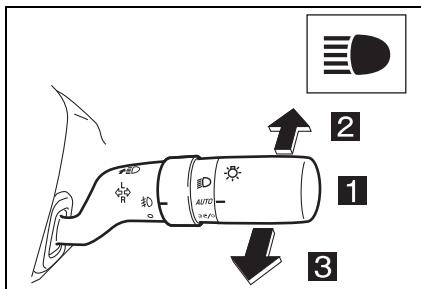
| 点灯状態 | |
|---|---|
| 周囲が明るい時 | 周囲が暗い時 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 1 秒経過時 ヘッドライト消灯、スマートランプ消灯、デイタイムランニングランプ点灯 | <ul style="list-style-type: none"> ● 1 秒経過時 ヘッドライト点灯、スマートランプ点灯、デイタイムランニングランプ消灯 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 3 秒経過時 ヘッドライト消灯、スマートランプ消灯、デイタイムランニングランプ消灯 | <ul style="list-style-type: none"> ● 3 秒経過時 ヘッドライト消灯、スマートランプ消灯、デイタイムランニングランプ消灯 |

消灯中に以下の操作をすると消灯状態が解除されます。

- ・ 駐車ブレーキを解除 (補足: AUTO に戻る)
- ・ レバーを **2** の位置へ操作 (補足: 1 秒未満操作をすると AUTO に戻る)
)* 7

- レバーを **3** の位置へ操作
- * 7 レバーを **2** の位置で保持し続けた場合、以下のように作動します。
- 周囲が明るい時は、1秒経過するとスイッチ位置 **2** による点灯状態に切り替わります。
続けて3秒経過した場合、再度消灯状態となります。
- 周囲が暗い時は、1秒経過するとスイッチ位置 **1** による点灯状態に切り替わります。
続けて3秒経過した場合、再度消灯状態となります。

ハイビーム、パッシング



1 ロービーム（下向き）

2 ハイビーム（上向き）

3 パッシング（上向き）

- ヘッドランプを点灯させた状態でレバーを前方に押すと、ヘッドランプが上向きに切り替わります。
- ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間はヘッドランプが点灯し上向きになります。
- ヘッドランプが上向きのときは、同時に表示灯が点灯します。

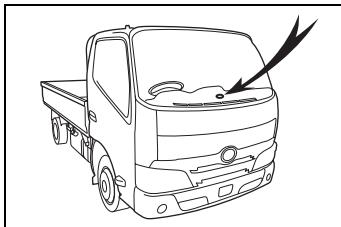
アドバイス

■ ヘッドランプの点灯について

- 不用な点灯、消灯の繰り返しはしないでください。寿命を短くする原因になります。
- エンジンスイッチが「LOCK」または「ACC」の位置の場合は点灯しません。
- トンネル等の多い地域では、「AUTO」位置を使用せず、ヘッドランプを点灯させたままにすることを推奨します。
- 故障等により「AUTO」位置で夜間にヘッドランプ、尾灯が点灯しない場合は、位置に変更して走行してください。

 **知識**
■ ライトセンサーについて

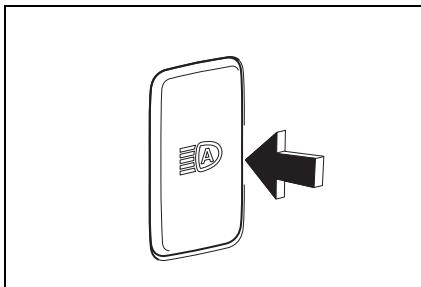
本車両には周囲の明るさを検知するライトセンサーが装着されています。このセンサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。


オートマチックハイビーム

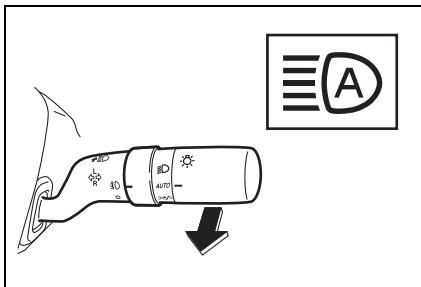
フロントガラスに設置された画像センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

オートマチックハイビームの使い方

1. ランプスイッチを AUTO または  にする。
2. オートマチックハイビームスイッチを押す。



3. レバーを押し下げるとき、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



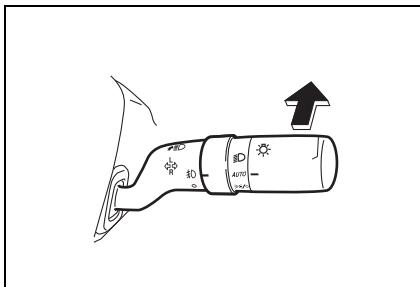
手動切りかえのしかた

■ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどします。

※オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

※オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを押し下げます

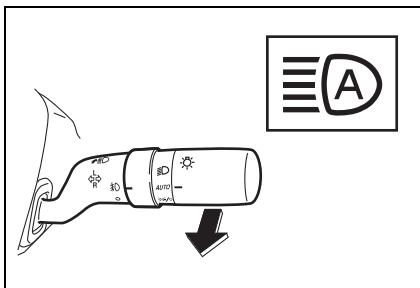


■ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押します。

※オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

※オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します



ハイビームとロービームの自動切り替え条件

■次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します

●車速が約 30km/h 以上

●画像センサーが車両前方を暗いと判定

●画像センサーがランプを点灯した対向車または先行車を検出していない

●前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

■次の条件のいずれかのとき、ハイビームを消灯します

●車速が約 25km/h 以下

●画像センサーが車両前方を明るいと判定

●画像センサーが前方にランプを点灯した車両を検出

●前方の道路沿いの街路灯の光が多い

オートマチックハイビームの異常

オートマチックハイビームに異常が発生した場合、メーター内の

（橙色）が点灯します。点灯したときは、オートマチックハイビームは使用せず、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

知識

■オートマチックハイビームの使い方について

手順を間違えると、操作途中でハイビームが点灯し歩行者や前方車両にまぶしさを与える可能性があります。

オートマチックハイビームを使用する際は、「オートマチックハイビームの使い方」の手順に従って操作を行ってください。

■ハイビームとロービームの自動切り替えについて

- オートライティングにより、ヘッドランプが点灯しても周囲が明るい場合は、ロービームが点灯します。
- 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・他車が前方を横切ったとき
 - ・対向車のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切り替わる場合があります。
 - ・街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームからロービームに切り替わる場合があります。
 - 次のような要因により、ハイビームとロービームが切り替わるタイミングは、必ずしも毎回同一ではありません。
 - ・対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・対向車または先行車の動きや向き
 - ・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・乗車人数や荷物の量
 - オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されずハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。

- ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・炎天下に駐車するなど、室内温度が上昇し、画像センサーの周辺温度が非常に高いとき
- ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・フロントウインドウガラスにフィルムなどを貼っているとき
- ・ダッシュボードの上に置いた物などが、フロントウインドウガラスに映り込んでいるとき
- ・画像センサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・パンク、過積載やけん引などにより車両が傾いているとき
- ・メーターに  (橙色) が点灯しているとき

- ・ハイビームとロービームの切り替えが頻繁に繰り返されるなど、違和感を感じるとき
- ・ハイビームにより、歩行者や前方車両にまぶしさを与えている可能性があるとき

- 純正以外のフロントガラスに交換しない

▲警告

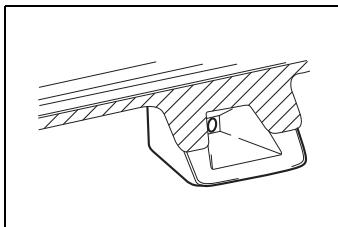
■オートマチックハイビームについて

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

⚠ 注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください

- 画像センターのレンズにふれない



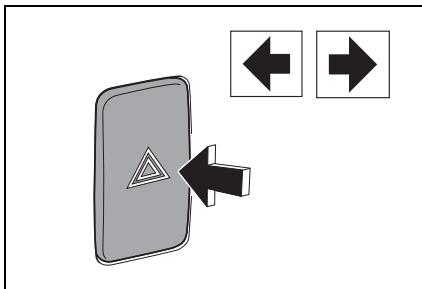
- 画像センターに強い衝撃を与えない
- 画像センターを分解しない
- 画像センターに液体をかけない
- 画像センターの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- 画像センター周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない

非常点滅灯スイッチ

路上で緊急停車するときなどに使用します。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。同時に表示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。

* このランプはエンジンスイッチの位置に関係なく点滅します。



アドバイス

■スイッチについて

路上における緊急停車時以外は使用しないでください。

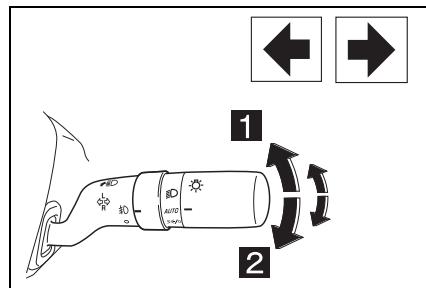
注意

■スイッチについて

エンジンを止めたまま長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

方向指示レバー

- レバーを上に押すと左側、下に押すと右側の方向指示灯が点滅します。同時に表示灯が点滅します。
- 車線変更時は、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯が点滅し、表示灯も点滅します。



1 L (左折)

2 R (右折)

* レバーはハンドルを戻すと自動的に戻りますが、ゆるいカーブなどで自動的に戻らないときは手で戻してください。

* 方向指示灯はエンジンスイッチの位置に関係なく点滅します。

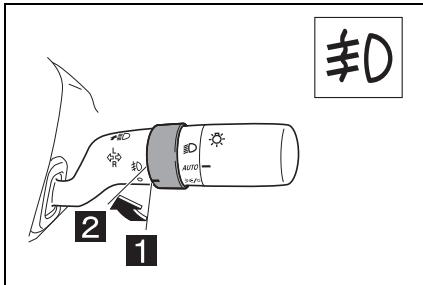
* エンジンを止めたまま長時間使用しないでください。

フォグランプスイッチ★

* グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

霧などで見通しが悪いときに使
用します。

ランプスイッチレバーを  の位
置に回すとフォグランプが点灯し、
同時に表示灯が点灯します。



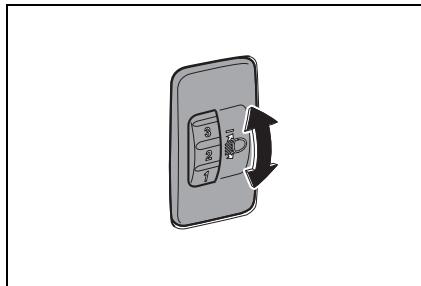
1 OFF

2 ON (フロント)

ヘッドランプ光軸調整ス イッチ

- ヘッドランプの照射角度を、状
況に応じて調整できます。
- ヘッドランプを点灯させ、ス
イッチを回すとヘッドランプの
照射角度を下向き 10 段階 (0.5
~ 5) に切り替えられます。

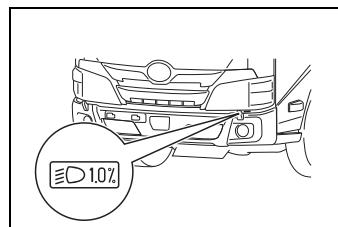
* スイッチは「0」の位置が標準です。



知識

■ 光軸調整について

- 車検などで光軸調整するときは、ス
イッチ位置を「0」(光軸が一番上向
き) にしてから行ってください。
- 光軸調整時にスイッチ位置が「0」の
ときの光軸基準を示す数値が、ヘッ
ドランプ下部に刻印してあります。



⚠ 注意

■ 照射角度について

必要以上に照射角度を下向きにしないでください。夜間の視界が悪くなります。

**電動格納式アウターミラー
スイッチ★**

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

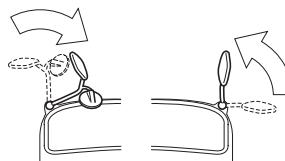
スイッチを 1 度押すとミラーが格納され、もう一度押すと定位置に復帰します。



1 格納／復帰

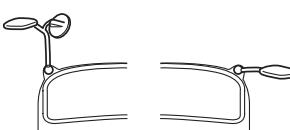
■ 運転席・助手席側格納式

▶ ON (格納)



TE027-021A

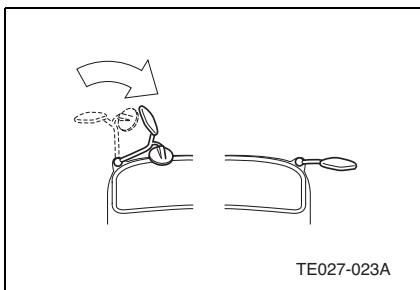
▶ OFF (定位置)



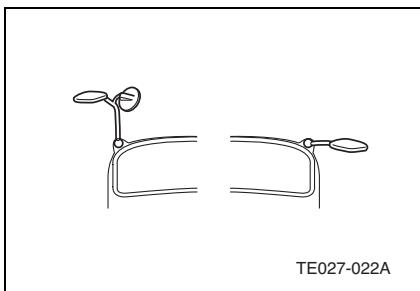
TE027-022A

■助手席側格納式

▶ ON (格納)



▶ OFF (定位置)



知識

■スイッチの作動について

- エンジンスイッチが「ACC」または「ON」の位置のとき使用できます。
- エンジンスイッチが「LOCK」の位置でスイッチを「OFF」側にしたままエンジンスイッチを「ACC」または「ON」の位置にするとミラーステーが定位置に戻りますので注意してください。

▲警告

■ミラーの操作について

ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方視界が確認できず事故につながるおそれがあります。

▲注意

■ミラーの操作について

- 走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 電動格納式アウターミラーを操作しているとき、ミラーステーに手で触れたりしないでください。手をはさまれてケガをするおそれがあり、また電動格納式アウターミラーの故障の原因になります。

■電動格納式アウターミラーの故障について

- ミラーステーにはつかまらないでください。故障の原因になります。
- 電動格納式アウターミラーのモーターに無理な力がかかると安全装置が働き、作動が停止することがあります。このときスイッチを再度操作し正常に作動することを確認してください。たびたび作動が停止するときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- スイッチでミラー操作できないときは、手で調整してください。この場合はトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

ミラーヒータースイッチ★

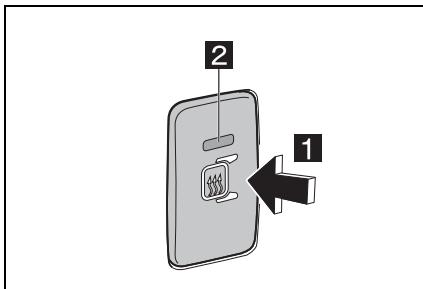
★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

アウターミラーの鏡面を暖めて、
霜やくもりなどを取り除きます。

■バッテリーあがりを防止するため

エンジンを止めたときは使用しないで
ください。バッテリーあがりを起こし
エンジンが始動できなくなるおそれが
あります。

- スイッチを押すとミラーヒー
ターが作動し、もう一度押すと
停止します。
- 作動中は、内蔵の表示灯が点灯
します。



1 押す

2 表示灯

アドバイス

■ミラーヒーターについて

エンジンスイッチが「ON」位置のとき
に使用できます。

注意

■ミラーヒーターについて

作動中は、アウターミラーの表面が熱
くなりますので、手をふれないでくだ
さい。やけどをするおそれがあり危険
です。

手動式ミラー★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ミラー角度調整のしかた

アウターミラー全体を手で調整します。調整した後は、運転席に座り、アウターミラーで後方確認が十分できるか確認してください。

アウターミラーの格納・復帰

ミラーを手で車両前方に倒して格納します。走行前には元の位置に戻し、運転席に座りアウターミラーで後方確認が十分できるか確認してください。

▲警告

■ミラーの調整について

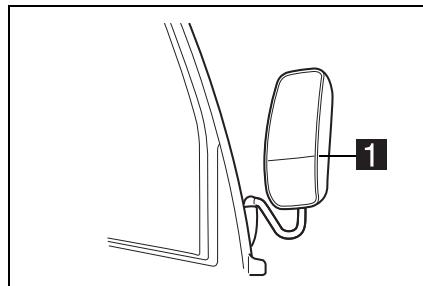
- 走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。

ワイドビューミラー★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶タイプI

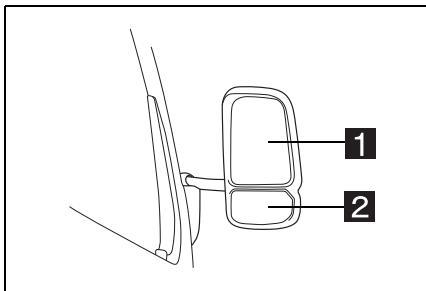
ワイドビューミラーとは、境界線より上側と下側のミラーの曲率を変えたアウターミラーです。境界線より上側は通常のアウターミラーと同じ範囲の視界ですが、境界線より下側は通常のアウターミラーよりもより広い範囲まで視界が確保できるようになっています。



1 境界線

▶タイプII

- ワイドビューミラーとは、メインミラーと補助ミラーの曲率を変えたアウターミラーです。
- メインミラーは通常のアウターミラーと同じ範囲の視界ですが、補助ミラーは通常のアウターミラーよりもより広い範囲まで視界が確保できるようになっています。



1 メインミラー

2 補助ミラー

知識

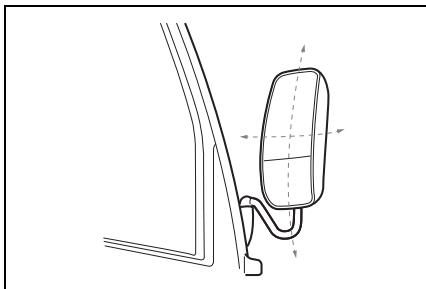
■ ミラーの見え方について

境界線より下側に映る物は上側に比べ（タイプI）、補助ミラーに映る物はメインミラーに比べ（タイプII）、実際よりも遠くにあるように見えます。

ミラー角度調整のしかた

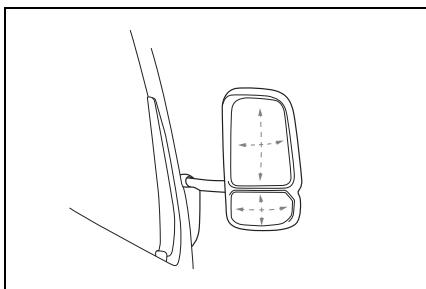
▶ タイプI

ワイドビューミラー全体を手で調整します。



▶ タイプII

- メインミラーの鏡面を手で調整します。
- 補助ミラーの鏡面を手で調整します。

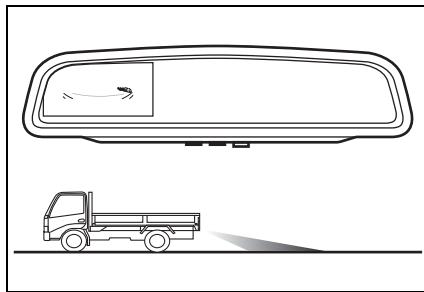


バックガイドモニター

車両後方の映像とガイド線をミラー内のディスプレイに映し出し、駐車時などの後退操作を補助および積荷時などに目視しにくい後方視界を確認する装置です。

- 本文中で使用されている画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

▶ 近接後方（小画面）



▲警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

■ バックガイドモニターをお使いになる前に

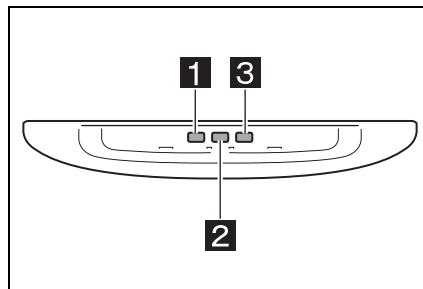
- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ、それぞれの違いを認識した上で安全運転を心がけてください。

■ 運転時の注意について

- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。

● バックガイドモニターは、後退操作を補助する装置です。バックガイドモニターを過信しないでください。

● シフトレバーを「R」位置に操作しても映像が切り替わらなかったり、ミラーのスイッチで操作ができない場合、配線やミラー本体の故障の恐れがあります。車両後方の映像が表示されず危険なためトヨタ販売店の整備工場で点検を受けてください。



1 山電源スイッチ

2 梅輝度スイッチ

3 ハカメラスイッチ

* 電源スイッチ、カメラスイッチを操作しても画面の切替には影響ありません。

* バックモニター付きインナーミラー
(→P.8-34)

■ デジタルミラーモード

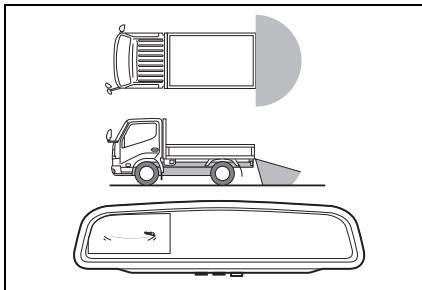
▶ 近接後方（小画面）

エンジンスイッチがONのとき、シフトレバーを「R」位置にすると近接後方の映像を小画面で表示します。

画面の見方について

近接後方の映像が表示されているとき、警告メッセージとガイド線が画面に表示されます。ガイド線

- は車両や路面の状況により、誤差を生じることがあります。
- 表示されるガイド線はバンパー後端から距離目安となります。



* 画面に映る範囲は、カメラの取付け位置により異なります。

知識

- 明るさは尾灯が ON、OFF それぞれの状態で調整できます。
- 明るさは 8 段階で調整することができ、エンジンスイッチを「ON」から「OFF」にしても明るさのレベルは記憶されます。
- 初期設定は、尾灯 ON 時はレベル 3、OFF 時はレベル 8 となります。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることができます。適度な明るさに調整してください。

バックモニターの注意点について

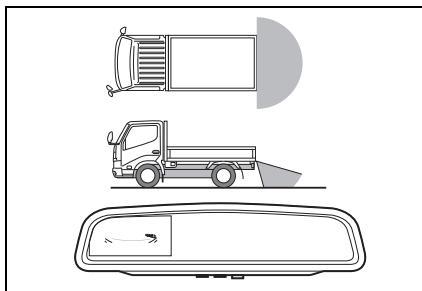
■ 画面に映る範囲について

バックモニターは、車の後方が映ります。

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バンパーの下にあるものは映りません。

- カメラのレンズの特性により、路面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

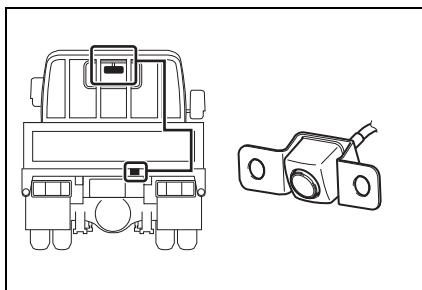
▶ 近接後方（小画面）



* 画面に映る範囲は、カメラの取付け位置により異なります。

■ カメラについて

バックモニターのカメラは、荷台にあります。



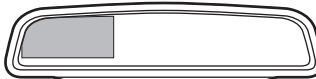
* イラストは説明のための例であり、お車の種類により、取り付け位置は異なります。

■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると鮮明な画像を見ることができません。水滴・雪・泥などの汚れが付着したときは水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどいときは、大量の水でカメラの汚れを洗い流してください。

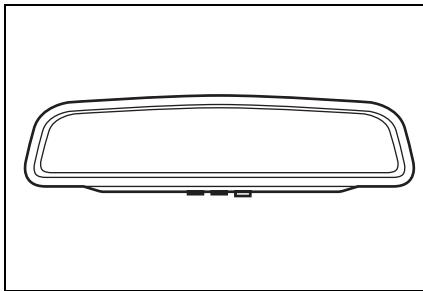
作動条件一覧表

▶ エンジンスイッチ ON 時

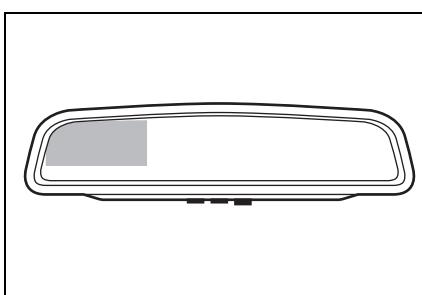
| シフト ポジション | モード |
|--------------|--|
| 「R」以外 |  <p>鏡面ミラー</p> <p>山 電源スイッチ OFF; カメラスイッチランプ（消灯） 山 電源スイッチ ON; カメラスイッチランプ（点灯）</p> |
| 「R」 |  <p>近接後方（小画面）</p> <p>山 電源スイッチ OFF; カメラスイッチランプ（点灯） 山 電源スイッチ ON; カメラスイッチランプ（点灯）</p> |

モードを切り替えるには

- 鏡面ミラーモード：シフトレバーが「R」位置以外のとき、映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



ラーの左側に「近接後方」が小さく表示されます。

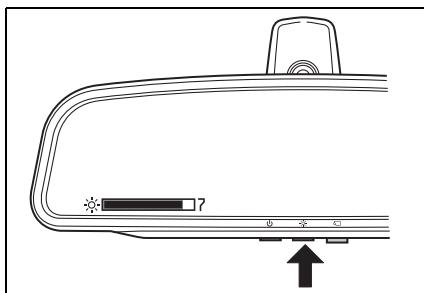


画面表示

▶ 輝度

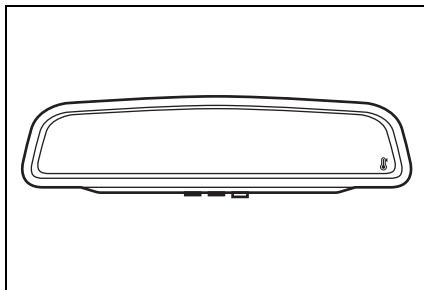
輝度スイッチを押して、モニターの明るさを調整します。

- デジタルミラーモード「近接後方（小画面）」：シフトレバーを「R」位置にするとインナーミ



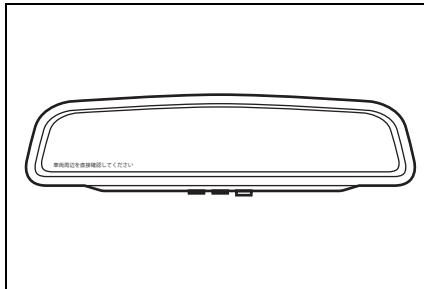
▶ 温度異常ウォーニング

バックモニター付きインナーミラーの温度が非常に高いときに表示されます。



▶ 警告メッセージ 1

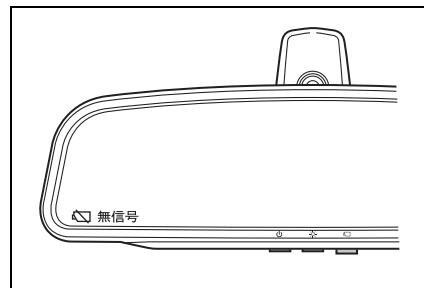
デジタルミラーモード「近接後方(小画面)」が作動しているときに表示します。



▶ 警告メッセージ 2

バックカメラの接続不良や電源供給に不具合が発生したとき、モニターに警告メッセージを表示しま

す。バックモニター付きインナーミラーは不具合を検知して7秒後にシステムをOFFにし、鏡面ミラーへ移行します。



自己診断機能について

バックモニター付きインナーミラーは不具合を検知すると、カメラスイッチを点滅させ、運転者に通知します。

■ LCD パネルモジュールのオーバーヒート

- カメラスイッチ部が3回点滅します。

● LCD パネルが非常に高温となり、異常が発生しています。

■ LED ドライバーおよびバックライトエラー

- カメラスイッチ部が4回点滅します。

● LED ドライバーに異常が発生しています。

■ LCD パネルモジュール故障

- カメラスイッチ部が5回点滅します。

● LCD パネルに異常が発生しています。

■バックカメラ入力信号異常

- カメラスイッチ部が6回点滅します。
- バックカメラからの映像に異常またはケーブルの断線が発生しています。
- **バックカメラ電源供給異常**
- カメラスイッチ部が7回点滅します。

- バックカメラへの電源供給が過負荷またはケーブルのショートが発生しています。

■システム異常

- カメラスイッチ部が8回点滅します。
- LCDパネル内部の通信異常が発生しています。

故障とお考えになる前に

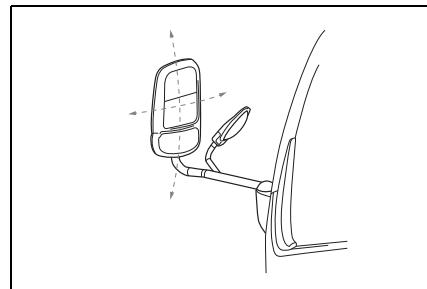
バックモニターを使用時に下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 |
|----------------------|--|--|
| ディスプレイに表示される映像が見にくい。 | ミラー表面が汚れている。 | 乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 強い光（太陽やヘッドライトの光）がバックモニター付きインナーミラーに当たった。 夜間暗いところで使用した。 テレビ局、放送局、発電所、漁港など強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した。 カメラの付近温度が高いまたは低い。 外気温が低い。 太陽光やヘッドライトの光が直接カメラレンズに当たった。 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した。 排気ガスが映りこんでいる。 | カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。 |
| | カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物が付着している。 | 大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。 |

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|-----------------------------|--|
| ディスプレイに表示される映像が見えない。 | 荷台のあおりが下がっている。 | 荷台のあおりを閉めてください。 |
| | カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物が付着している。 | 大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。 |
| ディスプレイに表示される映像がずれている。 | カメラ部に強い衝撃が与えられた。 | トヨタ販売店で点検を受けてください。 |
| カメラスイッチが点滅する。 | システムに異常が発生した。 | トヨタ販売店で点検を受けてください。 |
| ディスプレイに「  」が表示されている。 | バックモニター付きインナーミラーの温度が非常に高い。 | ミラーの温度下げるために車室内の温度を下げるなどを推奨します。ミラーの温度が下がると「  」が消えます。ミラーの温度が下がっても「  」が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。 |

2面鏡ミラー★

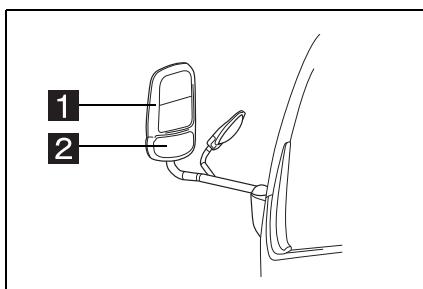
- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 2面鏡ミラーとは、境界線より上側と下側でミラーの曲率を変えたアウターミラーと、補助ミラーを一体化したアウターミラーです。
- 境界線より上側は、通常のアウターミラーに比べてより高いなめ上方の位置まで確認ができます。
- 境界線より下側は、通常のアウターミラーと同じ範囲の視界となります。
- 補助ミラーは、助手席下方および車両側方を広範囲に確認できます。



知識

■ミラーの見え方について

境界線より上側および補助ミラーに映る物は、通常のアウターミラーに比べて、実際よりも遠くにあるように見えます。



1 境界線★

2 補助ミラー

- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ミラー角度調整のしかた

2面鏡ミラー全体を手で調整します。

排出ガス浄化装置スイッチ

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メーター内の  ランプが常時点滅したときは、排出ガス浄化装置スイッチを押して排出ガス浄化装置に捕集されたススを燃焼（再生）させてください。

* この操作を行わないまま走行を続けると、ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、すみやかにススを燃焼（再生）処理してください。ブザーが鳴ったまま走行を続けると

 ランプが点灯します。 ランプが点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* 始動後に一定時間のみ排出ガス浄化装置表示灯が点滅した場合は、排出ガス浄化装置スイッチを押してススの燃焼（再生）処理が可能な状態です。ただし、このとき通常は排出ガス浄化装置に捕集されたススは自動的に燃焼（再生）されますので、必ず排出ガス浄化装置スイッチを操作する必要はありません。お客様の使い方に合わせて操作を行うことができます。

* ススの燃焼（再生）処理中は、アクセルペダルを操作しないでください。ススの燃焼（再生）処理が終了する前に、アクセルペダルを踏み込んだり、空ぶかしたりすると、ススの燃焼（再生）処理が中断されます。処理中に作動が停止してしまった場合は、もう一度操作をやりなおすください。

排出ガス浄化装置表示灯

エンジンを始動したとき、ススが一定量堆積していると、 ランプが点滅します。

* 常時点滅しているときは、排出ガス浄化装置スイッチを押してススの燃焼（再生）処理を行う必要があることを示しています。

* 始動後に一定時間のみ点滅したときは、お客様の使い方に合わせて排出ガス浄化装置スイッチによるススの燃焼（再生）処理を行えることを示しています。

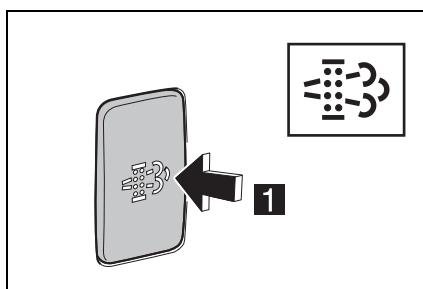
操作方法

1. 車両を安全な場所に停車させる。
2. パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを「N」または「P」の位置にする。

* エンジンはかけたままにしておきます。

3. 排出ガス浄化装置スイッチを押す。

*  ランプが点滅から点灯に変わり、アイドリング回転数が上がります。



1 押す（作動）

4.  ランプが消灯し、アイドリング回転数が元に戻ったらススの燃焼（再生）処理は終了です。

- * クリーニングモード中は車両が信号待ちなどで停車したときにアイドリング回転数が上がります。このときに排出ガス浄化装置スイッチを押すとアイドルアップをキャンセルすることができます。この状態で、再びスイッチを押すとススの燃焼（再生）処理が始まり、アイドリング回転数が上がりります。

👉 アドバイス

■ススの燃焼（再生）について

- ススの燃焼（再生）が自動で行われやすくするために、停車時はシフトレバーを「N」または「P」の位置にすることを推奨します。
- エンジンが冷えているときよりも運転直後に行う方が早く終了します。エンジンが冷えている場合は、暖機を行った後に燃焼（再生）処理を行いますので30分以上の時間がかかる場合があります。

■DPRは次のような特徴があります。

- DPRにより、排出ガスを浄化して放出するため、従来のディーゼル車とは排出ガスの臭いが異なります。
- 始動時に排気管から白い煙が出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。
- ススの燃焼（再生）中にマフラーの周辺から白い煙が出ることがありますが、これはマフラー周辺に溜まった水分が水蒸気として排出されているもので異常ではありません。

知識

■ススの燃焼（再生）について

DPR付き車は一定距離ごとにススを排出ガス浄化装置に捕集して自動的に燃焼（再生）しますが、運転条件によってはススの燃焼（再生）が完了しない場合があります。そのときは、 ランプが常時点滅します。これは、排出ガス浄化装置の機能を回復するもので故障ではありません。点滅したときは、排出ガス浄化装置スイッチを押して、ススの燃焼（再生）を行ってください。

■DPRとは

Diesel Particulate active Reduction systemの略で DPR-クリーナー内に排出ガス中のススが一定量堆積すると自動的に捕集したススの燃焼（再生）処理を行います。これにより、ススなどが異常に堆積するのを防ぎ、DPRの浄化能力を常に良好に保ちます。また、高性能触媒と電子制御コモンレール式燃料噴射システムの採用により、走行中のススの燃焼（再生）処理を可能としています。

■排出ガス浄化装置スイッチによるススの燃焼（再生）処理について

- 約15分～30分で終了しますが、外気温により異なります。
- マフラー内の温度が高いほど早く終了します。
- 終了するまでは、アクセルペダルを操作しないでください。

■DPRは次のような特徴があります。

DPRではスス堆積量表示の本数に関わらず、メーター内の表示灯が点滅することがあります。これは触媒性能を維持するための機能であり異常ではありません。ススの再生と同様に排出ガス浄化装置スイッチを押して、ススの燃焼（再生）を行ってください。

▲警告

- 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください
- 走行直後やクリーニングモード中は排気管やマフラー付近および排出ガスが高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。また、高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。塗装されている路面に停車している場合、路面が変色するおそれがあります。
- ススの燃焼（再生）処理は、風通しの良い野外の広い場所で行ってください。排出ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

△注意

- 排出ガス浄化装置スイッチの操作について
 - この操作は表示灯が常時点滅をはじめてから 150km 走行以内に行ってください。
 - ススの燃焼（再生）処理はできるだけ 1 回で完了させるようにしてください。ススの燃焼（再生）処理を頻繁に中断させると、エンジンオイルが燃料により、希釈されるなど、エンジン故障の原因になる場合があります。

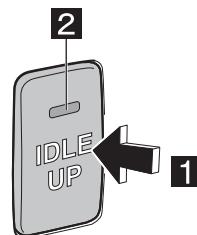
★アイドルアップスイッチ

- ★ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

寒いときにエンジンを始動して、早くヒーター（暖房）およびデフロスターを効かせたいときや長時間停車中のヒーター（暖房）効果を高めたいときに使用します。

アイドルアップスイッチ

スイッチを押すと表示灯が点灯し、エンジンのアイドル回転数が上がります。



1 押す（作動）

2 表示灯

□知識

■作動条件

- 停車中でエンジンがかかっているとき
- シフトレバーが、オートマチック車は P または N、マニュアル車は N の位置にあるとき

■エンジンが暖まっているときは

- アイドルアップスイッチをONにしても、コンピューターがアイドルアップの必要がないと判断し、作動しない場合があります。

VSC・TRC

VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、旋回時に発生する車両の横滑りやロール現象を抑えるため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

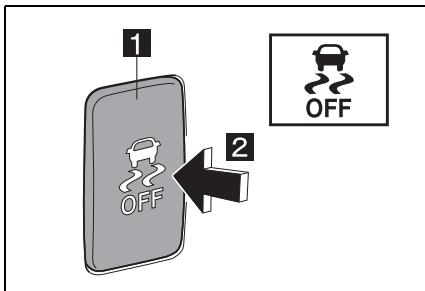
■作動時

- 車両が横滑りしそうになったときはVSCが作動し、スリップインジケーター⁵が点滅します。
- 通常走行時は、必ずVSC OFFスイッチをVSCの作動状態（ランプ消灯）にしておいてください。エンジンスイッチを「ON」の位置にした初期状態ではVSCは作動状態になります。

■解除方法

停車時にVSC OFFスイッチを3秒以上押すと、ランプが点灯し、作動が解除されます。

- *スイッチをもう一度押すと、作動状態に戻ります。
- *作動が解除されているときは、ブリクリラッシュブレーキアシスト・ブリクリラッシュブレーキの作動も停止します。



1 VSC OFF スイッチ

2 押す（作動停止）

TRC（トラクションコントロール）

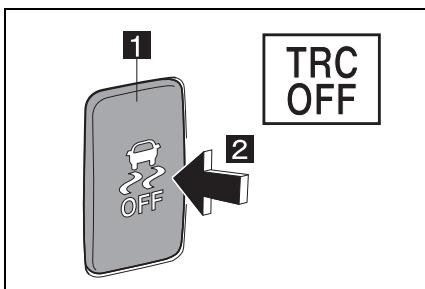
雪路など滑りやすい路面での発進および加速時にタイヤの空転を抑え、走行の安定性を高めます。

- 駆動輪が空転したときは TRC が作動し、スリップインジケーター  が点滅します。

■解除方法

VSC OFF スイッチを押すと TRC ランプが点灯し、TRC の作動が解除されます。

- * スイッチをもう一度押すと、作動状態に戻ります。



1 VSC OFF スイッチ

2 押す（作動停止）

アドバイス

■解除について

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、VSC や TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がりらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

知識

■ロール現象とは

走行中の車両が旋回したり横風を受けたとき、車両が横方向に傾く現象です。

■TRC 付き車の運転上の注意

TRC を装着していてもアクセル、クラッチ、ハンドルの急な操作は避けてください。特に滑りやすい路面での発進は、半クラッチを効果的に使い、静かに発進してください。

■VSC や TRC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- ・ エンジンスイッチを「OFF」にしたとき
- ・ (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき。

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ ランプが点灯しているとき

VSC・TRC いずれかのシステムに異常があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

▲警告

■VSC を過信しないでください

VSC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

■TRC を過信しないでください

TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

■TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。慎重に運転してください。

■VSC・TRC の作動停止について

必要なときを除いて、VSC と TRC の作動を停止しないでください。作動させているときも路面状況に応じた速度で、慎重に運転してください。

■ ランプが点滅しているとき

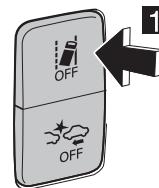
VSC 作動中を示しています。慎重に運転してください。

車線逸脱警報装置

車両が通行区分帯を外れると、警報音「ピッピッピッ」を発するとともに、 ランプが点滅しドライバーに注意を促します。

車線逸脱警報 OFF スイッチ

スイッチを押すごとに車線逸脱警報装置の ON と OFF が切り替わります。



表示灯・警告灯

| ランプ | 詳細 |
|---|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> 車線逸脱警報装置が作動すると点滅します。 車線逸脱警報装置に異常が発生すると点灯します。 画像センターの動作保証温度外のときに点灯します。室内が適温になれば消灯します。 フロントガラスが汚れてたり曇っていると点灯します。フロントガラスの汚れや、曇りが取れると消灯します。 |



車線逸脱警報装置の OFF 時に点灯します。

操作方法

エンジンスイッチを「ON」の位置にします。車線逸脱警報 OFF スイッチを押すことで、機能の ON/OFF を設定します。

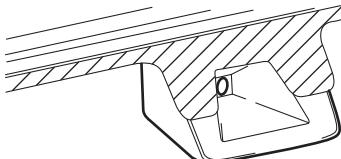
* エンジンスイッチを「ON」の位置にした後は、車線逸脱警報 OFF スイッチを操作しない限り車線逸脱警報装置は常に ON 状態となります。

機能の一時解除

- 方向指示スイッチ作動中
- 車速が約 60 km/h 以下のとき
- 走行中、車線が認識できなくなったとき
- 車線逸脱警報が作動したとき（車線逸脱警報装置の作動を解除後に再作動させたときは、数秒間経過するまで作動は再開しません）

画像センサーについて

- 画像センサーは、インナーミラー付近に取り付けられています。



- 画像センサーは人の目と似た特性を持っているため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、画像センサーも同様に車線を認識しづらくなります。

- 画像センサーは前面の汚れを自動で判定する機能を備えているが、万全ではありません。
- 画像センサーの前をふさいだことにより、しばらくするとコンビネーションメーター内の表示灯が点灯する可能性がありますが、元の状態に戻せば表示は消えます。

車線逸脱警報装置が正しく作動するため

- フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
- 雨露、結露、氷雪などの付着によって機能低下することがあります。
- 画像センサーに強い衝撃を加えたり、分解しないでください。
- 画像センサーの取り付けを変更したり、取り外したりしないでください。もし、取り外した場合は、トヨタ販売店にて画像センサーの調整を受けてください。
- 寒冷時などフロントガラスが曇っていると映像に影響を与えるのでデフロスタでフロントガラスの曇りを取ってください。
- 室内灯をつけたまま走行しないでください。
- 画像センサーのレンズを触ったり傷付けたりしないでください。

- 画像センサーのレンズの前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
- ワイパーは純正部品をご使用ください。
- フロントガラスは純正品をご使用ください。
- 周辺部品や天井の改造をしない。
- ウィンドシールドガラスの画像センサー前部にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けない。ウィンドシールドガラスをガラスコーティング剤により撥水させていても、画像センサー前部に水滴が付着した場合は、ワイパーでふき取る必要がある。
- ウィンドシールドガラスに傷、ひびなどが生じた場合、ウィンドシールドガラスを交換する。
- フロントガラス内側の画像センサー取り付け部が汚れた場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントガラスにフィルムを張らない。
- 画像センサーのレンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ワイパーラバーは早めに交換する。
- ボンネットやグリルの上など、車両前側にアクセサリー類を取り付けない。
- 画像センサーの視野範囲内に車両のルーフに積んだ荷物が入らないようにする。

知識

■ 炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し画像センサーの周辺温度が適温になると作動開始します。

▲ 警告

- 次のいずれかの場合は、車線を正確に検知できず、警報機能が正常に作動しないことがあります
 - 車線が無い道路またはセンターラインのみの道路を走行するとき
 - 車線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
 - 雨、雪、霧、逆光などで車線が見えにくいとき
 - ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
 - 急激な明るさの変化が連続するとき
 - 路面補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまたわだちなど、車線と紛らわしい線が見えるとき
 - 太陽光や水たまりなどで路面が光っているとき
 - 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
 - 分岐路やインター出入り口、急なカーブ路などを走行するとき
 - 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
 - 車線の幅が狭いときや広いとき
 - うねった道路や荒れた道路を走行するとき

- 荷物が偏って積載された状態のとき
- 周辺車両の水、雪、土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気、砂、煙などで視界が十分でないとき
- 強い日光や対向車のハイビームなどの強い光を前方から受けたとき
- 夜間またはトンネル内で街灯や照明などの十分な明るさがないとき
- 夜間またはトンネル内で自車がヘッドライトを点灯していないとき
- 周囲一面が同じような色合い(一面に雪景色など)で、コントラストが取れないととき
- 路面勾配が急激に変化するとき(急な上り坂、急な下り坂)
- トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
- 周囲が薄暗いとき(夕方、朝方など)
- 過積載のとき
- サスペンションを改造したり、タイヤサイズを変更した場合などで、車高が変わっているとき
- フロントガラスに雪、氷、汚れ、霜、土ぼこり、油膜が付着しているとき
- フロントガラスが曇っているとき
- 雨滴やウォッシャーの水滴、またはフロントワイパードが画像センサーの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- 車両のルーフ上に積載したカヌーなどがカメラの視界を遮っているとき
- ヘッドライトに汚れや氷雪、泥などが付着しているとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき

- ホイールベース改造を行った場合

■車線逸脱警報装置を過信しないでください

車線逸脱警報装置の認識性能、制御性能には限界があります。事故につながるおそれがありますので車線逸脱警報装置を過信せず、常に周囲の状況に注意し安全運転を心掛けてください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

この装置は、進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の危険性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の危険性がさらに高まると判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

システムの作動対象

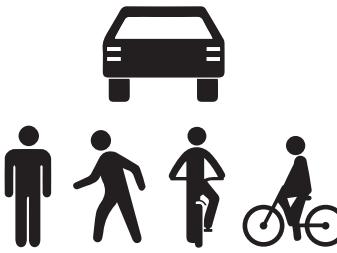
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



車両データの記録について

PCSシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- PCSシステムの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- 前方カメラの画像情報（プリクラッシュブレーキ作動時のみ）

■データの取り扱いについて

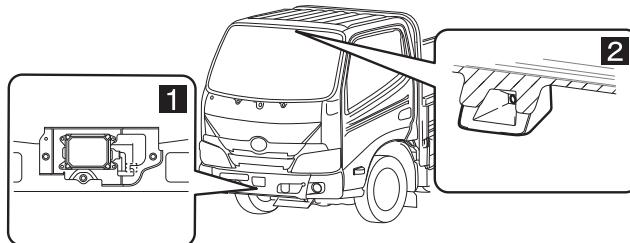
トヨタ自動車はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することができます。なお、次の場合を除き、トヨタ自動車は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

前方センサー

フロントバンパーとフロントウインドウガラスにある2種類のセンサーにより、必要な情報を認識します。



1 レーダーセンサー

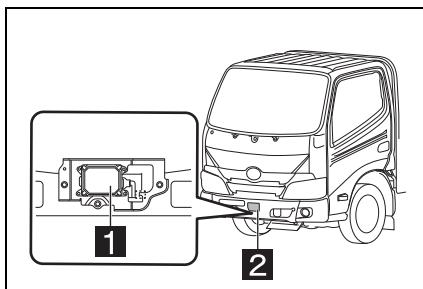
2 画像センサー

PCSが正しく作動するために

レーダーセンサー前面やバンパーに著しく汚れ、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、レーダーセンサーとバンパーカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。手が届かない場合は、ホース洗車などで付着物を取り除いてください。

1 レーダーセンサー

2 バンパーカバー



表示灯

| ランプ | 詳細 |
|---|---|
|  (点滅) | ● PCS が作動すると点滅します。 |
|  (点灯) | ● PCS システムに異常が発生すると点灯します。 * PCS システムが「OFF」のときは消灯します。 |
|  (点灯) | ● PCS システムに異常が発生すると点灯します。 ● PCS システムが「OFF」のときに点灯します。 ● PCS システムが作動を停止しているとき点灯します。 |

作動

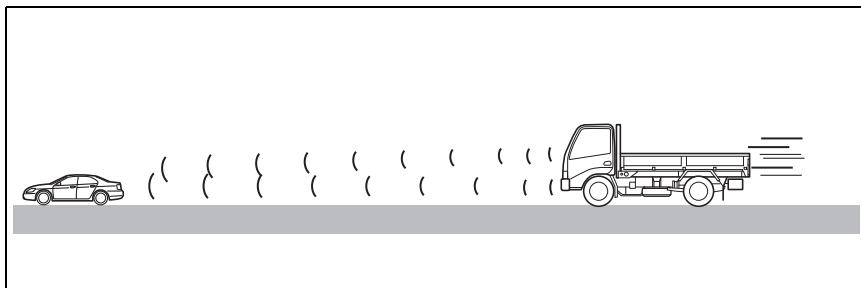
前方センサーで自車線上の作動対象との相対距離や相対速度を感知・分析し、相対距離が近づきすぎるなどの衝突の恐れが高いとコンピュータが判断した場合コンビネーションメーター内の警告灯とブザー警報により、運転者に注意を促します。

さらに衝突の可能性が高いと判断すると、強いブレーキを作動させ、衝突時の被害を軽減させます。万一、回避操作が無い場合はブレーキが作動して衝突速度を低減します。(ブレーキ作動中は制動灯が自動点灯します)

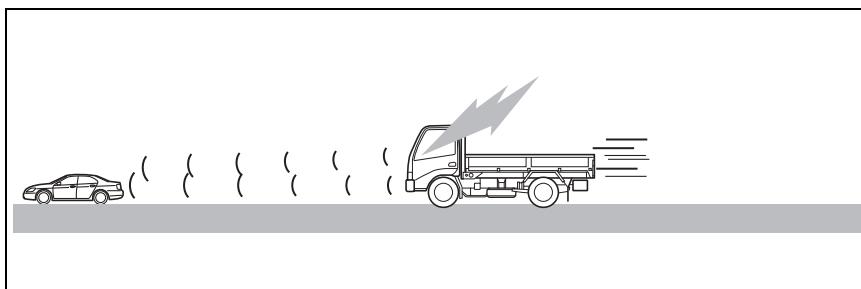
なお、作動対象を検出した時点で、作動対象との相対距離が短い場合には、衝突が避けられないとコンピュータが判断し、作動対象の感知後すぐに警告灯表示・警報音吹鳴と同時に強いブレーキが作動することがあります。

■PCS 作動イメージ図（停止車両、低速走行中の先行車の場合）

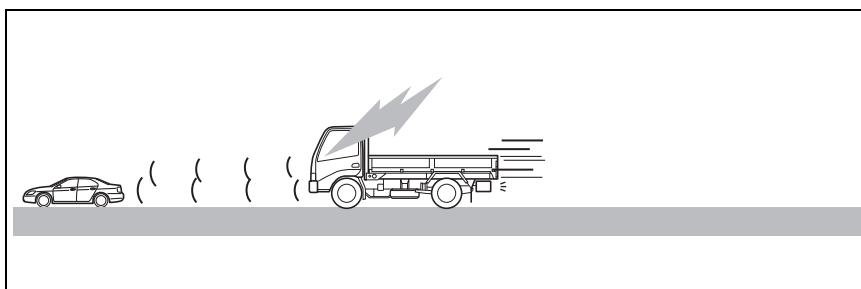
- 前方センサーが前方の作動対象を検出する。



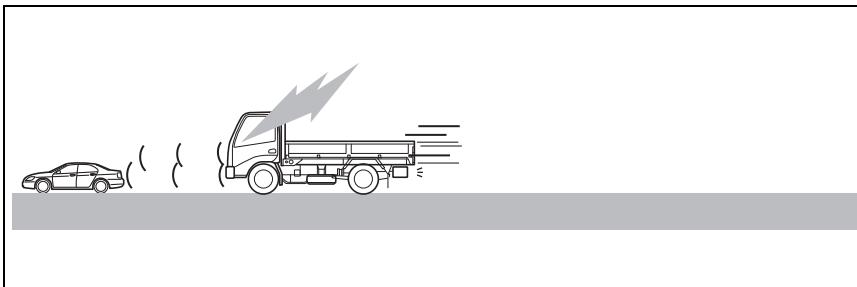
- 作動対象を検出後、ブザーと警告表示で危険を知らせる。



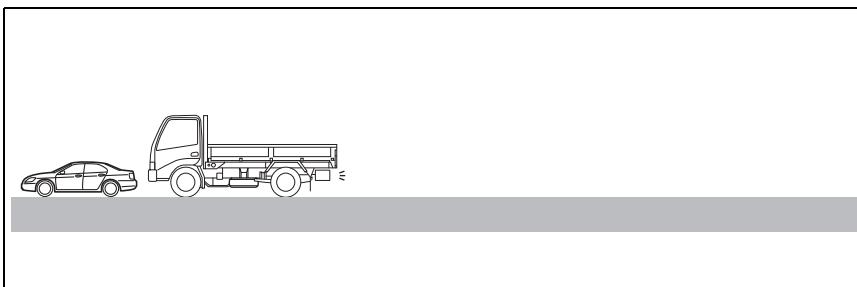
- 衝突の可能性が高いとコンピューターが判断すると、ブザーと警告表示に加え、弱いブレーキを作動させて運転者に注意を促すとともに、制動灯を点灯させて後続車にも注意を促す。



- 衝突が避けられないとコンピューターが判断すると、ブザーと警告表示に加え、さらに強いブレーキを作動させる。



- 衝突回避・被害軽減



■システムの作動条件

PCS システムが「ON」で、前方の車両や歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 10 km/h 以上（検出対象が歩行者・自転車運転者のときは、自車速度約 12 ~ 80 km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者・自転車運転者との相対速度約 10 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

- ・ 自車速度約 10 km/h 以上（検出対象が歩行者・自転車運転者の

ときは、自車速度約 12 ~ 80 km/h）

- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者・自転車運転者との相対速度約 10 km/h 以上
- 次のときシステムは作動しません
 - ・ 障害物が対向車のとき
 - ・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
 - ・ シフトポジションが「R」位置のとき
 - ・ VSC に異常が発生しているとき
 - ・ ランプが点灯しているとき
- * PCS 作動開始タイミングは自車速度が遅い場合、または運転者の運転操作（一定以上のハンドル操作、ウイン

カー操作、ブレーキ操作、アクセル操作)が行われている場合、遅くなります。

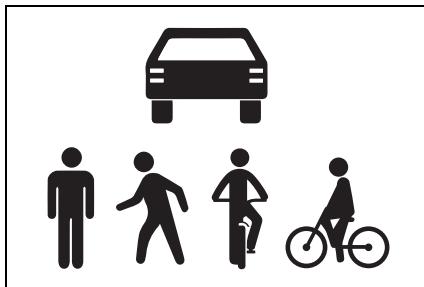
- * 前記の作動条件以外で、下記のような路面や周囲の環境によってはPCSが作動する場合としない場合があります。

■歩行者および自転車運転者検出について

対象の大きさ、輪郭、動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者・自転車運転者の動き、姿勢、角度などによっては歩行者・自転車運転者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

- プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
 - ・ アクセルペダルを全開まで踏み込む
 - ・ ハンドルを大きくきる、またはやく操作する

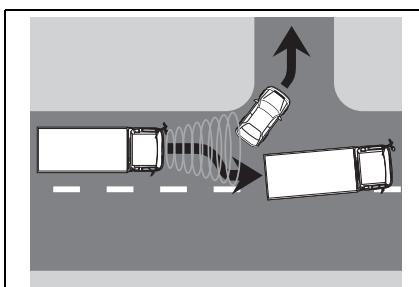
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

詳細は「作動解除条件」および「PCSを”OFF”にするには」を参照ください。(→P.5-68)

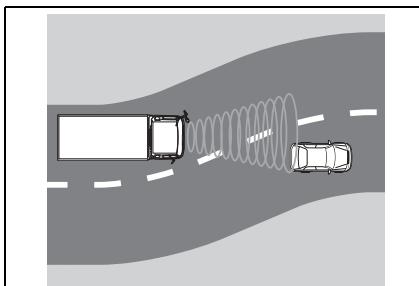
■作動条件以外で作動する場合、しない場合

衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき。

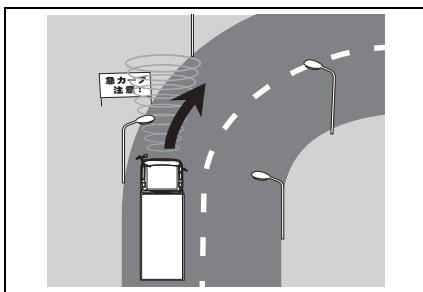
- 右左折する先行車を追い越すとき



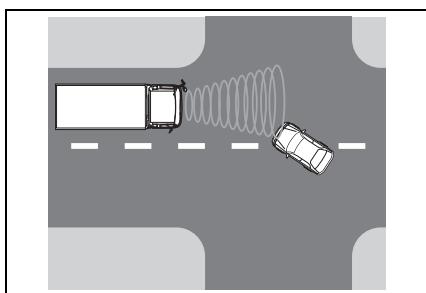
- 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道(曲がりくねった道など)を走行するとき



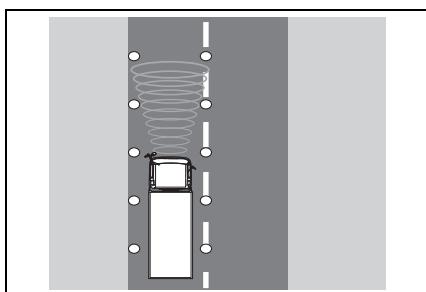
- カーブ入口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき



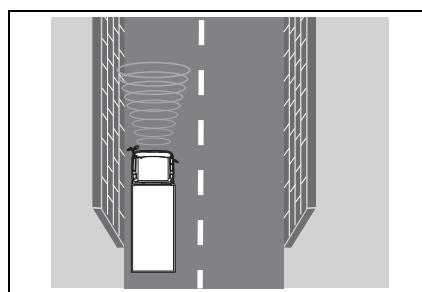
- 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



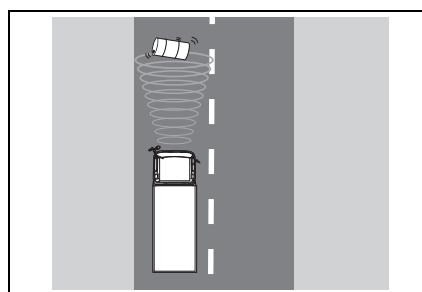
- 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近づいたとき



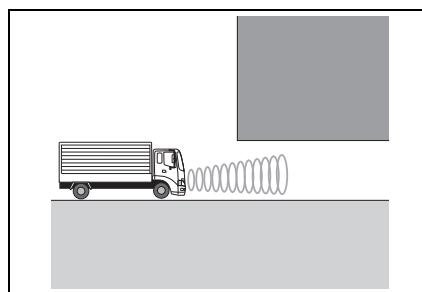
- 道路脇が構造物に囲まれた道（トンネル・鉄橋）を走行するとき



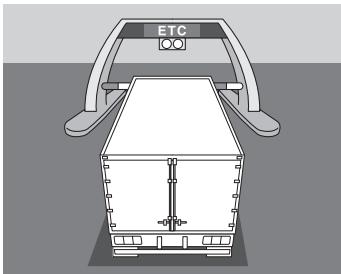
- 路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき



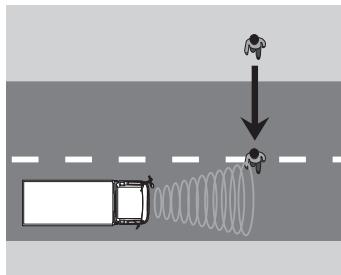
- 道路上方に構造物（トンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき



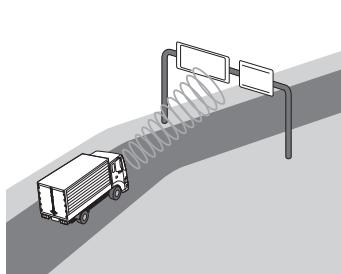
- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき



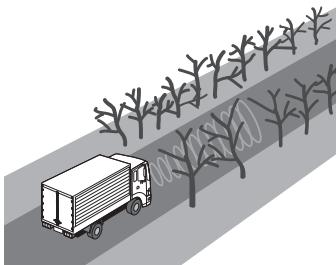
- 横断する歩行者・自転車運転者が車両のすぐそばに近づいたとき



- 上り坂で道路上に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



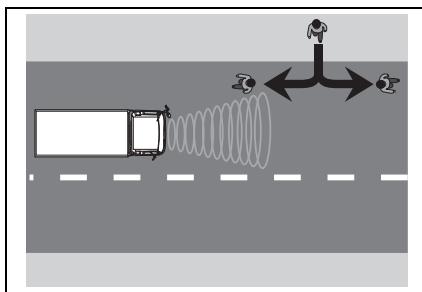
- 車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



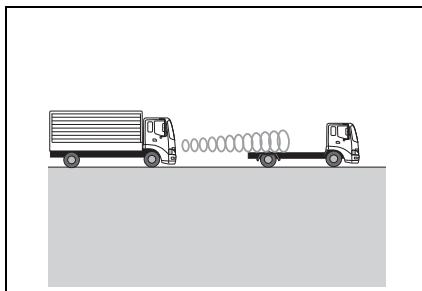
- 車両や歩行者・自転車運転者のすぐそばを通過するとき
- 車線変更して先行車を追い越すとき
- 車線変更している先行車を追い越すとき
- 先行車が急減速したとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- 洗車機を使用するとき
- 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の近くを走行するとき
- テレビ塔・発電所・放送局など、強い電波やノイズが発生する近くを走行するとき
- 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルや

トラス橋、砂利道、轍のある雪道など)

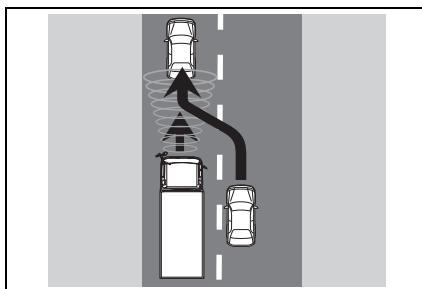
- 路面または壁などに車両・歩行者・自転車運転者との区別がつきにくい模様やペイントがあるとき
- 歩行者や自転車運転者が歩道上から車道に向かって移動した場合



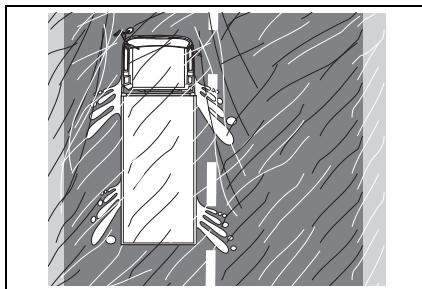
- 料金所等で係員に急接近したとき
- 前方センサーの向きがずれているとき
- システムが正常に作動しないおそれがあるとき
- 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



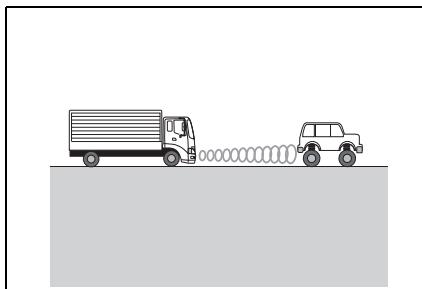
- 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたとき



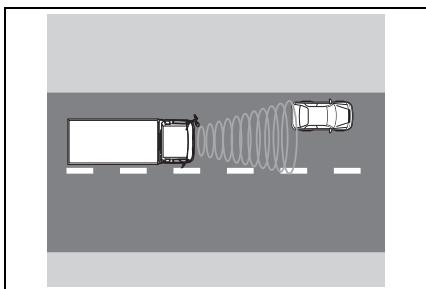
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき



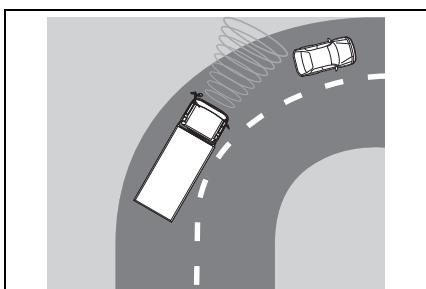
- 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- 前方車両と自車の中心がずれているとき



- カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間



- 前方から自車に向かって車両が近づいてくるとき
- 前方車両がオートバイのとき
- 前方車両が横向きのとき
- 前方車両の後端面積が小さいとき（低床トレーラーなど）
- 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）

- 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドライト光など）が画像センサーに直接あたっているとき
- 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 自車が横滑りしているとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ホイールアライメントがずれているとき
- ワイパーブレードが画像センサーの視界をさえぎっているとき
- ふらつき運転をしているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 坂道を走行しているとき
- 前方センサーの向きがずれているとき
- 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の

鉄板、他の車両などのそばにいるとき

- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき

次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります

- ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・加熱している・濡れているなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- 砂利道や滑りやすい路面を走行しているとき

次のような歩行者・自転車運転者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります

- 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしたりしていて、体の一部が隠れている歩行者・自転車運転者
- ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
- 集団でいる歩行者・自転車運転者
- 白っぽい服に日差しが反射している歩行者・自転車運転者

- 夜間やトンネル内など暗闇にいる歩行者・自転車運転者

- 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者・自転車運転者
- 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者・自転車運転者
- 路面金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者・自転車運転者

- 速度を急激に変化させている歩行者・自転車運転者

- 物陰から飛び出してきた歩行者・自転車運転者

- 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者・自転車運転者

- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）の自転車運転者

- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または2m以上のとき

- 歩行者・自転車の輪郭があいまいな時（レインコート・ロングスカートを着ている場合など）

- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき

- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき

■ が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。

次のときは、状況が改善されると  が消灯し、作動可能状態になります。

- 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
- 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
- レーダーセンサーやバンパーカバー周辺に著しく雪や汚れなどが付着しているとき

- フロントウィンドウガラスの画像センサー付近にシールが貼られているときなど、画像センサー—前方がさえぎられているとき

 が点灯したままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

■ VSC の作動を停止したとき

VSC の作動を停止したときは、プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

■ 作動解除条件

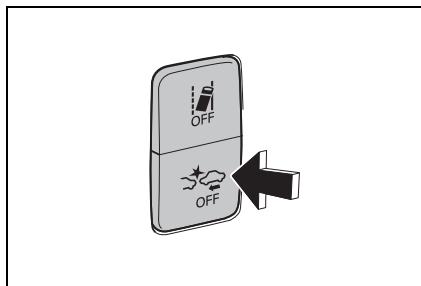
PCS 作動中（警報またはブレーキ）に、下記操作を行うとシステムは解除します。

- アクセルペダルを全開まで踏み込む

PCS を “OFF” にするには

- 停車時にブレーキペダルを踏んだ状態で、PCS OFF スイッチを長押しすると PCS が解除され作動しなくなります。同時に

 ランプが点灯します。もう一度押しこむと PCS が復帰（作動状態）し、 ランプが消灯します。このとき、誤発進抑制機能の「ON」と「OFF」も同時に切り替わります。



- 通常走行時は、必ず PCS OFF スイッチを PCS の作動状態

（ ランプ消灯）にしておいてください。エンジンスイッチを「ON」の位置にした初期状態では PCS は作動状態となります。

- 故障車等をけん引するとき、または故障によりけん引されるとときは予期しない作動をするおそれがあるので PCS OFF スイッチを押して PCS システムを解除（ ランプ点灯）してください。

システムの異常

システムに異常が発生した場合は、 ランプが点灯します。

 ランプが点灯したときは、PCS は作動を停止します。最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

■ PCS システムの異常

PCS システムに異常がある場合、 ランプが点灯し、同時にブザーが鳴ります。

▲ 警告

PCS システムが故障したまま走行を継続すると PCS システムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せず PCS が作動し、事故につながるおそれがあります。PCS システムが故障した場合は、必ず最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

■ ブレーキ制御（ABS）系統の異常

ブレーキ制御（ABS）系統に異常があると  ランプが点灯します。

■ レーダー汚れ

レーダーセンサーまたはバンパーカバーに著しく泥、雪または氷などの付着があると  ランプが点灯します。

□ 知識

■ PCS とは

● Pre-Crash Safety の略です。（衝突被害軽減ブレーキ）

● 運転者が衝突回避操作を行うことによって PCS が作動しないことや、解除することがあります。

● VSC が故障した場合、PCS は作動しません。また、 ランプが点灯します。

● 路面や周辺の環境によって、一時的に  が点灯するときがあります。その後、センサーが正常に検知できるようになると、 が消灯し、システムは自動的に復帰します。

▲ 警告

■ PCS について

PCS は、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害の軽減に寄与することを目的としています。PCS システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

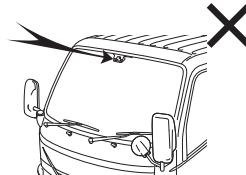
■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください

お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーセンサーとバンパーカバーは常にきれいにしておく。

● レーダーセンサー やバンパーカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。

- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける。レーダーセンサー・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
 - レーダーセンサーを分解しない。
 - レーダーセンサーやバンパーカバーを改造したり、塗装したりしない。
 - レーダーセンサー・バンパーカバー・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
 - レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。
- 画像センサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください**
- お守りいただかないと、画像センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントウインドウは常にきれいにしておく
 - フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、画像センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- 画像センサーの前をふさいだことにより、しばらくするとコンビネーションメーター内に表示灯が点灯する可能性がありますが、元の状態に戻せば表示は消えます。
 - 画像センサーは前面の汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではなく状況によっては画像センサー前面の汚れを判定できない場合があります。
 - フロントウインドウガラスの画像センサー前部にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。
- 
- フロントウインドウガラスの画像センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く
 - フロントウインドウガラスの画像センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーラバーまたはワイパークリーナー・ワイパークリーナーブレードの交換（→P.13-56）
 - フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
 - トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない
 - フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する。フロントウインドウガラスの交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - 画像センサーに液体をかけない。

- 画像センターに強い光を照射しない。
- 画像センターのレンズを汚したり、傷を付けたりしない。フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 画像センターに強い衝撃を加えない。
- 画像センターの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない。
- 画像センターを分解しない。
- 画像センター付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない。
- 過積載にしない。
- ヘッドランプに汚れや氷雪、泥などが付着した場合取り除いてください。
- ヘッドランプの光軸がずれた状態にしない。
- ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造しない。
- フロントガラス内側の画像センター取り付け部が汚れた場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントガラスにフィルムを張らない。
- レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- インナーミラーなどの画像センター周辺部品や天井を改造しない。
- ワイパーラバーは早めに交換する。

- ウィンドシールドガラスをガラスコーティング剤により撥水させていても、画像センター前部に水滴が付着した場合は、ワイパーでふき取る必要がある。
 - インナーミラーなどの画像センター周辺部品や天井を改造しない。
 - ルーフ・フロントバンパーに、画像センターの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - 全長の長い荷物を積むときは、画像センターの視界をさえぎらないようにする。
 - ヘッドランプなどのランプ類を改造しない。
- 安全にお使いいただくために
- 安全運転を行う責任は運転者があります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PCSシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。PCSシステムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● PCS システムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・衝突の可能性がなくても PCS システムが作動するおそれがあるとき
(→P.5-62)

- ・PCS システムが正常に作動しないおそれがあるとき (→P.5-65)

● お客様ご自身で PCS システムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プリクラッシュブレーキについて

● プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

● プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

● プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。プリクラッシュブレーキは車両が停止してから約 2 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

● ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ PCS システムを OFF にする必要があるケース

次のときは、システムを OFF にしてください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパー やフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
(→P.12-8)
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき (→P.12-9)
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

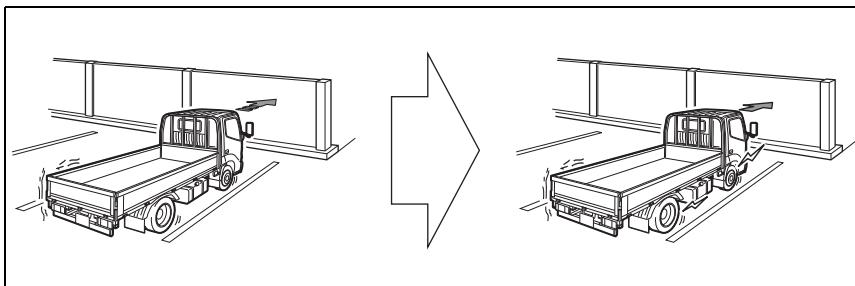
誤発進抑制機能システム

この装置は、駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進およびシフトポジション選択を誤っての発進時に、前方ソナーセンサーが進路上の障害物を検知するとシステムが作動し、エンジントルクカット制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の危険性がさらに高まると判断した時は、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

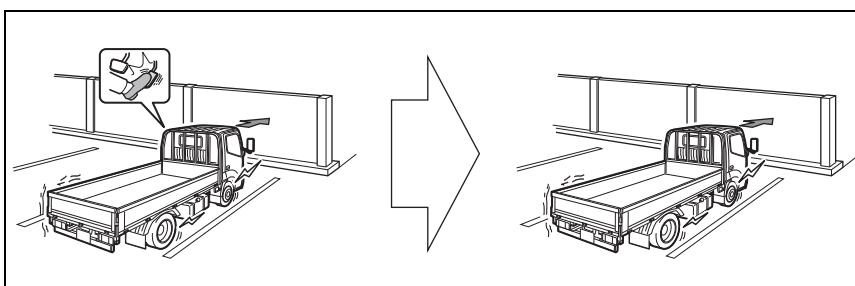
システム作動例

次のようなときに進行方向の障害物を感知してシステムが作動します。

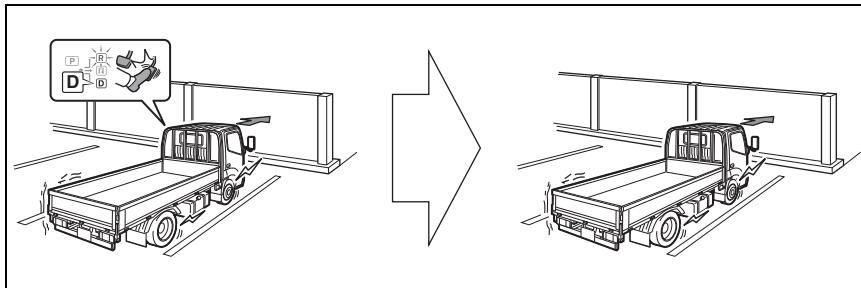
- 低速走行中にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき



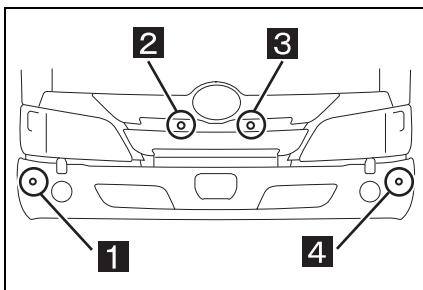
- アクセルペダルを踏みすぎてしまった、または踏み間違えてしまったとき



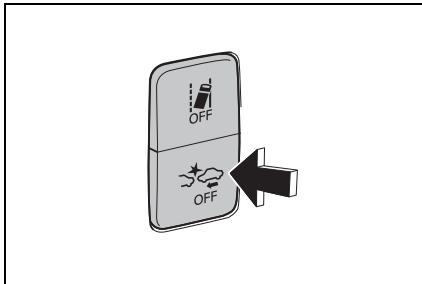
- シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



センサーの位置・種類



- コーナーセンサー R
- センターセンサー R
- センターセンサー L
- コーナーセンサー L



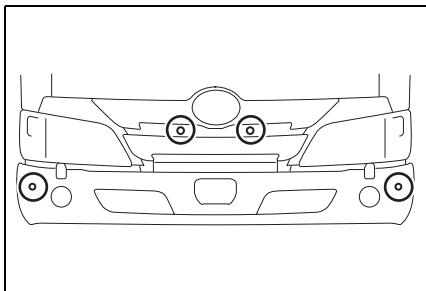
- 誤発進抑制機能が「ON」の時は、表示灯が消灯します。
- エンジンスイッチを「ON」にしたとき、自動的に誤発進抑制機能は「ON」になります。

誤発進抑制機能の設定変更

- 停車時にブレーキペダルを踏んだ状態で、PCS OFF スイッチを長押しすると、誤発進抑制機能が「OFF」になります。もう一度押し込むと「ON」になります。このとき、PCSの「ON」と「OFF」も同時に切り替わります。

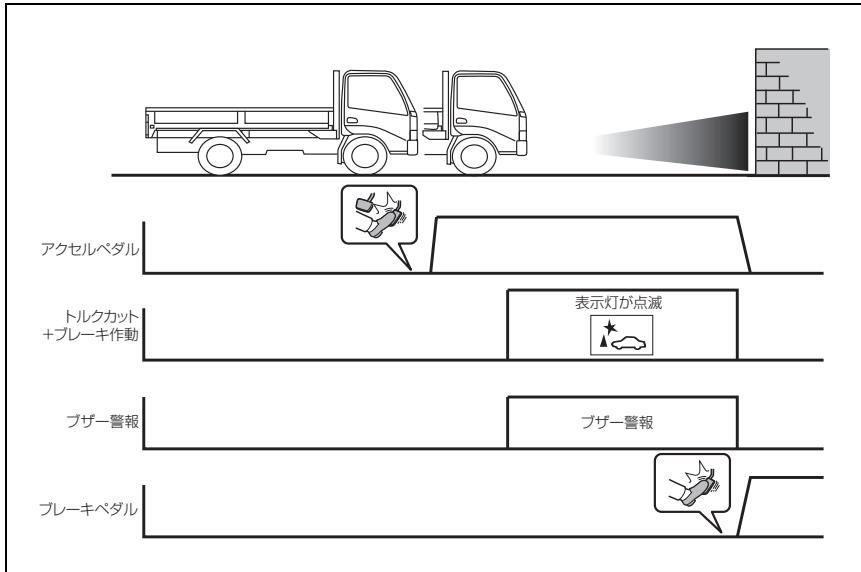
誤発進抑制機能が正しく動作するため

ソナーセンサーに著しく汚れ、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、ソナーセンサーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。汚れが落ちにくい場合は、ホース洗車などで付着物を取り除いてください。



作動について

前方ソナーセンサーで壁などの障害物を感知・分析し、相対距離が近すぎるなどの衝突のおそれが高いとコンピューターが判断した場合、ブザー警報と注意喚起およびトルクカット制御により衝突回避操作を補助します。さらに衝突の可能性が高いと判断すると、強いブレーキを作動させ、衝突時の被害を軽減させます。



作動条件

- PCS OFF スイッチによりシステムが「ON」の状態
- シフトレバー位置が「R」位置以外かつパーキングブレーキが「OFF」のとき（MT 車）
- 自車速度約 10 km/h 以下のとき
- 自車の進行方向に障害物があるとき
- シフトレバー位置が「P」「R」位置以外のとき（AT 車）
- エンジンスイッチが「ON」の状態

作動解除条件

- PCS OFF スイッチによりシステムが「OFF」の状態
- ブレーキ制御により車両停止後、約 5 秒が経過
- 車両停止後にブレーキ操作
- 自車の進行方向にあった障害物が消失したとき
- パーキングブレーキが「ON」かつ車両停止状態（MT 車）
- シフトレバー位置が「P」位置のとき（AT 車）

作動条件以外で作動する場合、しない場合

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 狹い道路を走行するとき
- 砂利や草むらなどを走行するとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー、ETC レーンのバー、駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル、狭い鉄橋、狭い道路などを走行するとき）
- 縦列駐車をしたとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）を走行したとき
- 急な登坂路を走行するとき
- 冠水している道路でソナーセンサーに水が被ったとき
- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば正常に復帰します）
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞、フォグランプ、フェンダーポール、

無線アンテナなど）を取り付けたとき

- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方向ズレが発生したとき
- 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
- 車、二輪車、自動車、歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 炎天下や寒冷時でソナーセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 風が強いとき
- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば正常に復帰します）
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート

ト＜特に蛍光灯タイプ＞、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナなど）を取り付けたとき

- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方向ズレが発生したとき

■表示灯が以下の状態のとき

-  が消灯、かつ  が点灯
 - ・ バッテリーの脱着により、一時的に使用できない状態となっています。しばらく走行することで正常に復帰します。
 - ・ ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着していることが考えられます。この場合はソナーセンサーの氷、雪、泥などを取り除けば正常に復帰します。また、低温時にはソナーセンサーの凍結などにより、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ正常に復帰します。
-  が点灯、かつ  が点灯
 - ・ ソナーセンサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

万一、踏切などで誤発進抑制機能が誤って作動したとき

万一、踏切などで誤発進抑制機能が誤って作動しても、ブレーキ制御は約5秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでもブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し脱出できます。

知識

■センサーの感知範囲について

誤発進抑制機能の感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲とは異なります。そのため、クリアランスソナーが障害物と接近をお知らせしても、誤発進抑制機能は作動しない場合があります。

■システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、誤発進抑制機能が停止して誤発進抑制機能 OFF 表示灯が点灯します。

■システムの復帰について

システムの作動により誤発進抑制機能が停止したときに、誤発進抑制機能を復帰させたい場合は、再度、PCSシステムを「ON」にして停止を解除するか、エンジンスイッチを一旦「OFF」にしてから再度「ON」にしてください。進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れ替わった（前進から後退に切り替えた）とき、もしくはシフトレバーが「P」位置のとき、システムが自動的に復帰します。

■センサーが感知しない障害物について

次のような障害物はソナーセンサーが感知しない恐れがあります。

- 人や綿、雪などの音波を反射しにくいもの（特に人は衣類の種類によって感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打つるもの
- 背の低いもの
- 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

▲警告

■安全にお使いいただくために

誤発進抑制機能システムは認識性能、制御性能に限界があります。システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。誤発進抑制機能は状況によっては作動しない場合があります。
- 誤発進抑制機能は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることが出来たとしても、ブレーキ制御は約5秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- お客様ご自身で誤発進抑制機能の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- システムが故障したまま走行を継続するとシステムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せず誤発進抑制機能が作動し、事故につながるおそれがあります。誤発進抑制機能システムが故障した場合は、必ず最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

■システムを正しく作動させるために

ソナーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかないと、ソナーセンサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 改造、分解、塗装などを行わないでください。
- 純正品以外に交換しないでください。
- ソナーセンサー周辺へ衝撃を与えないでください。ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリルに衝撃を受けた際は、必ず最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- ソナーセンサーに傷をつけたりせず、常にきれいにしてください。
- ソナーセンサー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリルの脱着や交換が必要な場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、ソナーセンサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

⚠ 注意

■ソナーセンサーの故障を防ぐために

- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、ソナーセンサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナーセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■不要な作動を防ぐために

次のときは、誤発進抑制機能システムを OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシローラー・シャーシダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションを取り付けた場合
- 洗車機を使用する場合

■マニュアル車でのクラッチ接続状態によっては、誤発進抑制機能によるブレーキ作動では障害物を回避できない可能性があります。

■エンストの可能性

MT 車において、クラッチの踏み込みの有無にかかわらず誤発進抑制機能が作動し、エンストするおそれがあります。

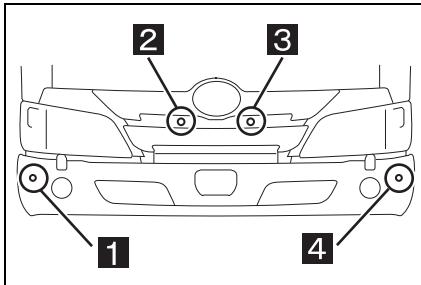
表示灯

| ランプ | 詳細 |
|--|--|
|  (点灯) | <ul style="list-style-type: none"> ● 誤発進抑制機能が「OFF」のときに点灯します。 ● 誤発進抑制機能に異常が発生すると点灯します。 ● 誤発進抑制機能が作動を一時停止しているとき点灯します。 ● 誤発進抑制機能が作動し車両停止すると点灯します。 |
|  (消灯) | 誤発進抑制機能が「ON」のときに消灯します。 |
|  (点灯／点滅) | <ul style="list-style-type: none"> ● 誤発進抑制機能に異常が発生すると点灯します。 ● 誤発進抑制機能が作動していると点滅します。 |
|  (消灯) | 上記以外のときに消灯します。 |

クリアランスソナーシステム

この装置はメーターパネル内に障害物との位置を表すランプが点灯し、ブザー音と共に障害物との接近を運転者に通知します。

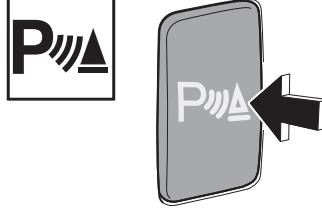
センサーの位置・種類



- 1 コーナーセンサー R
- 2 センターセンサー R
- 3 センターセンサー L
- 4 コーナーセンサー L

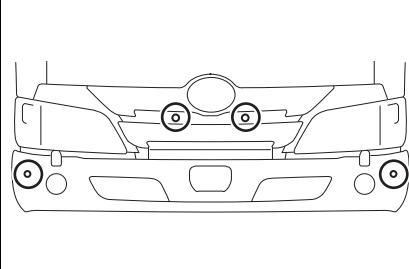
クリアランスソナーの設定変更

- クリアランスソナースイッチを押すごとにクリアランスソナーの「ON」と「OFF」が切り替わります。
- クリアランスソナーが「ON」のときは、表示灯が点灯します。
- * エンジンスイッチを「ON」にした時、自動的にクリアランスソナーは「ON」になります。



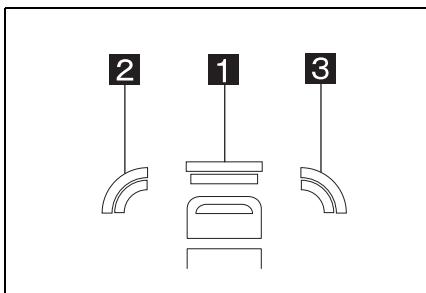
クリアランスソナーが正しく作動するために

ソナーセンサーに著しく汚れ、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、ソナーセンサーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。汚れが落ちにくい場合は、ホース洗車などで付着物を取り除いてください。



クリアランスソナーの表示のしかた

クリアランスソナーが障害物を検知すると、障害物の方位に合わせて作動表示を行います。



2 コーナーセンサー L 作動表示

3 コーナーセンサー R 作動表示

1 センターセンサー作動表示

距離表示について

| ブザー吹鳴パターン | 障害物までのおおよその距離 | |
|-----------|---------------|--------------|
| | センターセンサー | コーナーセンサー |
| 断続音 | 約 100 ~ 60 cm | — |
| | 約 60 ~ 45 cm | 約 60 ~ 45 cm |
| | 約 45 ~ 35 cm | 約 45 ~ 35 cm |
| 連続音 | 約 35 cm 以下 | 約 35 cm 以下 |

ブザーについて

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が近づくと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が約 35 cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

作動条件

- クリアランスソナースイッチによりシステムが「ON」の状態

- パーキングブレーキが「OFF」のとき
- 自車速度約 10 km/h 以下のとき
- 自車の進行方向に障害物があるとき
- シフトレバー位置が「P」位置以外のとき (AT 車)
- エンジンスイッチが「ON」の状態

作動解除条件

- クリアランスソナースイッチによりシステムが「OFF」の状態
- パーキングブレーキが「ON」のとき
- 車両の進行方向にあった障害物が消失したとき

- シフトレバー位置が「P」位置のとき（AT車）

作動条件以外で作動する場合、しない場合

衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき。

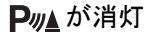
- 狹い道路を走行するとき
- 砂利道や草むらなどを走行するとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー、ETC レーンのバー、駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル、狭い鉄橋、狭い道路などを走行するとき）
- 縦列駐車をしたとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）を走行したとき
- 急な登坂路を走行するとき
- 冠水している道路でソナーセンサーに水が被ったとき
- ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば正常に復帰します）
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレー

ト＜特に蛍光灯タイプ＞、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナなど）を取り付けたとき

- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方に向ズレが発生したとき
- 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- システムが正常に作動しないおそれがあるとき
 - 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
 - 車、二輪車、自動車、歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
 - 炎天下や寒冷時でソナーセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - 風が強いとき
 - ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば復帰します）
 - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
 - 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
 - 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき

- ソナーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞、フォグランプ、フェンダー・ポール、無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 衝突など、ソナーセンサーの方向ズレが発生したとき
- ソナーセンサーが感知しない障害物について**

次のような障害物はソナーセンサーが感知しないおそれがあります。

 - 人や綿、雪などの音波を反射しにくいもの（特に人は衣類の種類によって感知できない場合があります）
 - 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打つてるもの
 - 背の低いもの
 - 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの
 - バンパーに非常に近いもの
- 表示灯が以下の状態のとき**
 -  が消灯
 - ソナーセンサーに氷、雪、泥などが付着していることが考えられます。この場合はソナーセンサーの氷、雪、泥などを取り除けば正常に復帰します。また、低温時にはソナーセンサーの凍

結などにより、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ正常に復帰します。

-  が点灯、かつ  が点灯
 - ソナーセンサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

クリアランスソナーシステムは認識性能、制御性能に限界があります。システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者があります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。クリアランスソナーシステムは、状況によっては作動しない場合があります。
- お客様ご自身でクリアランスソナーシステムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- システムが故障したまま走行を継続するとシステムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せずクリアランスソナーシステムが作動し、事故につながるおそれがあります。クリアランスソナーシステムが故障した場合は、必ず最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

■システムを正しく作動させるために

ソナーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかない場合、ソナーセンサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 改造、分解、塗装などを行わないでください。
- 純正品以外に交換しないでください。
- ソナーセンサー周辺へ衝撃を与えないでください。ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリルに衝撃を受けた際は、必ず最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- ソナーセンサーに傷をつけたりせず、常にきれいにしてください。
- ソナーセンサー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。
- ソナーセンサー、フロントバンパー、フロントグリルの脱着や交換がある場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、ソナーセンサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

△ 注意

■ソナーセンサーの故障を防ぐために

- 高压洗浄機を使用して洗車するときは、ソナーセンサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナーセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

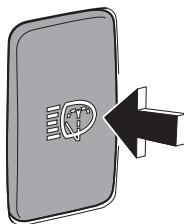
表示灯

| ランプ | 詳細 |
|---|---|
|  (点灯) | クリアランスソナーが「ON」のときに点灯します。 |
|  (消灯) | <ul style="list-style-type: none"> ●クリアランスソナーが「OFF」のときに消灯します。 ●クリアランスソナーシステムに異常が発生すると消灯します。 ●クリアランスソナーが作動を一時停止しているとき消灯します。 |

ヘッドランプクリーナースイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドランプクリーナースイッチを押している間、ヘッドランプウォッシャーが噴射されます。



アドバイス

1回の噴射は15秒以内にしてください。また、ウォッシャー液がないときは、ヘッドランプクリーナースイッチを操作しないでください。ウォッシャーモーターが故障するおそれがあります。

* ウィンドウウォッシャー液の補給
(→P.13-55)

Stop & Start システム (AT車)★

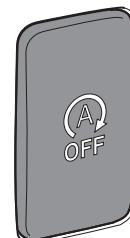
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

信号待ちなどの停車時に自動的にエンジンを停止させ、燃費向上と排出ガス低減を図り、発進時には自動的にエンジンを始動します。

Stop & Start システムのエンジン自動停止時に Stop & Start 表示灯 (A) が点灯します。

Stop & Start キャンセルスイッチ

- スターターキーが「ON」の位置で、スイッチを押すと Stop & Start の作動が停止します。同時に (A) OFF ランプが点灯します。
- もう一度押すと作動が復帰し、(A) OFF ランプが消灯します。



Stop & Start システムの作動

■ 自動停止のしかた

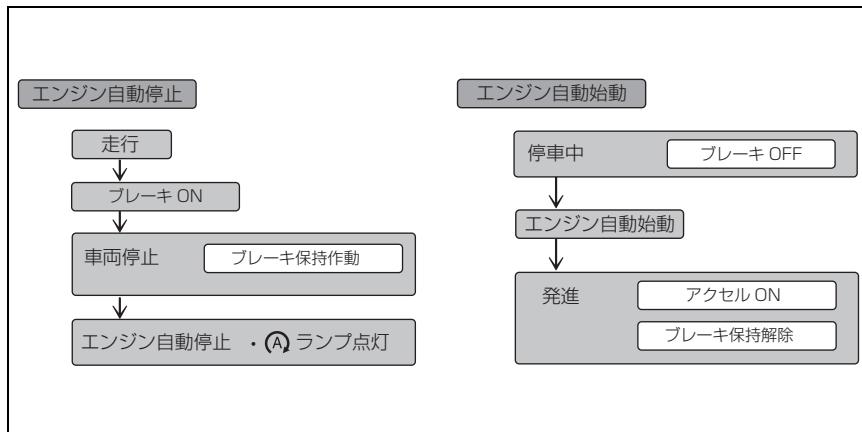
シフトレバーが「D」の位置にあるときにブレーキペダルを踏み続けてください。

- * 自動停止時のブレーキ認識は道路勾配の角度によってブレーキペダルを踏む踏力認識を変化させています。

■自動始動のしかた（下記のいずれかの条件で自動始動します）

- ブレーキペダルから足を離したとき
- シフトレバーを「D」位置以外にしたとき
- 運転席シートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- ブレーキをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
- バッテリーの充電量が低下したとき
- * ブレーキペダルを離し自動始動したあと再度自動停止するには車速 15 km/h 以上の走行経験が必要です。

Stop & Start システムの作動の流れ



知識

■ 警告灯について

- Stop & Start におけるエンジン自動停止の場合、エンジン警告灯および充電警告灯は点灯しません。

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

- システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキ保持機能

- Stop & Start によるエンジン停止後、ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■ 運転席を離れるときは

スタートキーを「OFF」の位置にし、パーキングブレーキを確実にかけてください。車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ エンジン停止中の走行はパワーステアリングが効かない等、非常に危険です

自動停止中はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

△ 注意

■ Stop & Start が作動しないときは

バッテリー低下を検出している可能性があります。一度スタートキーを「OFF」にし、20秒ほど待ち、再度エンジンを始動してください。

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ 一度、走行したあと
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ シフトレバーが「D」のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 外気温が-5 °C以上のとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが異常ではありません。
 - ・ 定期的な充電中のとき

- ・ バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
- ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ・ エンジン再始動後の経過時間が短いとき
- ・ 滑滞などで、断続的に停車するとき
- ・ エンジン冷却水温やトランスマッシャン油温が低いとき、または高すぎるとき
- ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
- ・ ハンドル操作をしているとき
- ・ 標高が高いとき
- ・ バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
- ・ バッテリーを脱着した後、しばらくの期間

■ 自動停止後、すぐに自動始動をしようとすると

始動が若干遅れることがあります。これは機構上、エンジンが完全に停止してから始動するためであり異常ではありません。

■ Stop & Start 作動中について

Stop & Start 中にドアが開くと警報ブザーが鳴り、表示灯が点滅します。ブザーを止めるにはドアを閉めてください。

■ Stop & Start キャンセル作動中について

Stop & Start キャンセル中にスタートキーを「OFF」にすると、キャンセルは解除されます。

■長時間停車するときは、スターターキーを「OFF」の位置にしてください

エンジン自動停止のまま放置すると、バッテリーあがりの原因になります。

■Stop & Start 作動時の発進について

- エンジンが始動してからアクセルペダルを踏んでください。

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

■Stop & Start システムについて

- スターター作動回数が規定値以上に達した場合、エンジンスイッチを「ON」の位置にしたとき、または Stop & Start キャンセルスイッチを「ON」にしたときに  ランプが点滅し、その後、常灯して Stop & Start システムが作動しなくなります。Stop & Start システムを作動させるには、スターターとスターターリレーを交換し、スターター作動回数をクリアする必要があります。スターター作動回数のクリア方法はトヨタ販売店へお問い合わせください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

- Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、エアコンが OFF になり、送風のみになります。空調の効きをよりよくしたい場合は、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき

- Stop & Start キャンセルスイッチを押し、エンジンを再始動してください。断続的にフロントウインドウガラスが曇る場合は、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコンふきだし口から臭いが発生したとき

- Stop & Start キャンセルスイッチを押して、Stop & Start システムの作動を停止してください。

■バッテリーを交換するときは

バッテリーの劣化が進むと、Stop & Start システムが作動しない場合があります。（→P.13-57）

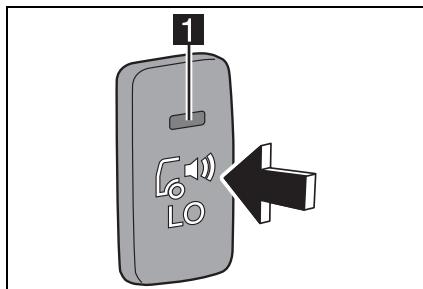
■ブレーキ保持機能について

- ブレーキから音が発生することがあります、異常ではありません。
- Stop & Start によるエンジン停止中に、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりする場合がありますが、異常ではありません。

バックブザー減音スイッチ

エンジンスイッチが「ON」の位置のとき、スイッチを1度押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、車外のバックブザーを小さい音量で鳴らすことができます。

もう1度押すと表示灯が消灯し、通常の音量に戻ります。



1 表示灯

知識

■バックブザー減音スイッチについて

エンジンスイッチが「OFF」から「ON」にしたとき、スイッチは表示灯消灯の状態となり、車外のバックブザーは通常の音量になっています。

注意

■バックブザー減音スイッチの操作について

- バックブザーは車両の後退を周囲に知らせるための装置です。車両後方の安全を十分に確認できる状況で、かつ、小さい音量でも周囲にブザーが鳴っていることを周知できる静かな環境下でのみ小さな音量で使用してください。
- 安全が確認できない状況では必ず通常音にて使用してください。

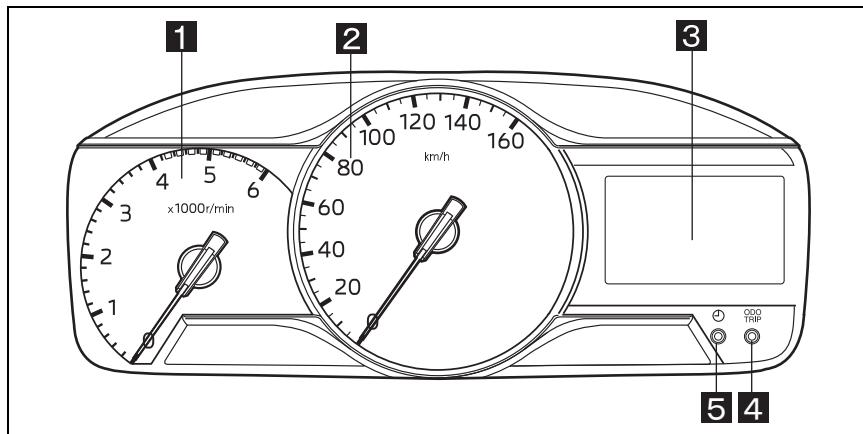
メーター・警告灯・表示灯
の見方

6

| | |
|------------------------------|--------|
| メーター類の配置 | P.6-2 |
| スピードメーター | P.6-3 |
| タコメーター | P.6-3 |
| マルチインフォメーション | P.6-4 |
| 警告灯・表示灯 | P.6-9 |
| オーバーヒート警告灯 | P.6-13 |
| ブレーキ警告灯・ バキューム警告灯 | P.6-13 |
| バキューム警告ブザー | P.6-14 |
| 油圧警告灯 | P.6-15 |
| 燃料・水分離器水位警告灯 | P.6-15 |
| ABS警告灯 | P.6-16 |
| 充電警告灯 | P.6-17 |
| シートベルト非着用警報灯 | P.6-17 |
| SRSエアバッグ /プリテンショナー 警告灯 | P.6-18 |
| エンジン警告灯 | P.6-18 |
| 尿素水残量警告灯 | P.6-19 |
| 尿素SCRシステム警告灯 | P.6-21 |
| 予熱装置異常警告灯 | P.6-22 |
| キャブチルト警告灯 | P.6-22 |

メーター類の配置

本書の内容はお車の仕様により装着されていない場合があります。



- 1** タコメーター（→P.6-3）
2 スピードメーター（→P.6-3）
3 マルチインフォメーションディスプレイ（→P.6-4）

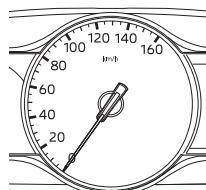
- 燃料計
- 水温計
- オドメーター・トリップメーター・燃費表示
- シフトインジケーター★
- スス堆積量計★
- 尿素水残量計★
- 時計
- 後席シートベルト警報★

- 4** オドメーター・トリップメーターカタリ替えボタン
5 日時設定ボタン

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

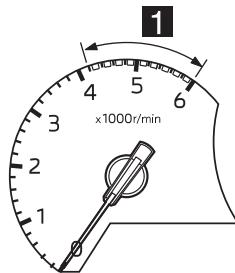
スピードメーター

走行中の速度 (km/h) を示します。



タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を示します。



1 レッドゾーン

オーバーランを示しています。

* 車型によりレッドゾーンの範囲が異なります。

知識

■ オーバーランとは

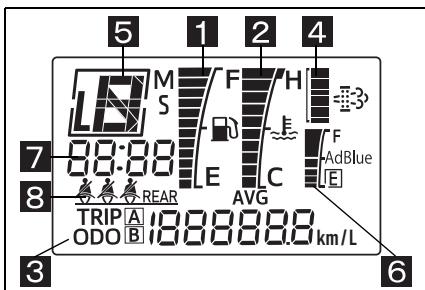
エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、このような状態にすると各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることができます。

注意

■ 下り坂やシフトダウン時、レッドゾーンに入らないように注意してください

エンジンが破損するおそれがあります。

マルチインフォメーション

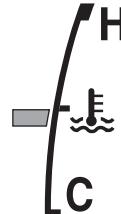


- 1 燃料計
 2 水温計
 3 オドメーター・トリップメーター
 4 スス堆積量計★
 5 シフトインジケーター★
 6 尿素水残量計★
 7 時計
 8 後席シートベルト警報★

*: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

- 燃料が残り少なくなると最下部の目盛りが点滅します。早めに燃料を補給してください。

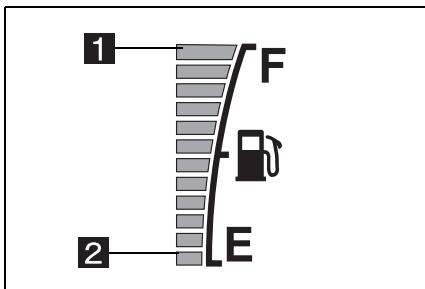
水温計



- エンジンの冷却水温度に応じてバーが移動します。
- 運転中は中央付近にバーが位置するのが正常です。
- バーが最上部で点滅したときは、オーバーヒート状態を示します。
- オーバーヒートしたとき
(→P.15-14)

燃料計

燃料残量を目盛りで示します。

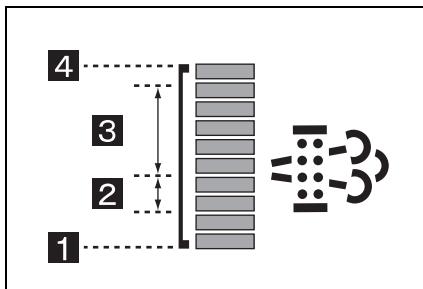


- 1 満量 (F)
 2 残り少ない (E)

スス堆積量計★

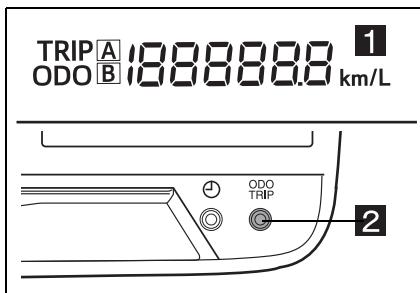
*: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

ススの堆積量を目盛りで示します。



- 1 再生完了後は目盛りが消えます。

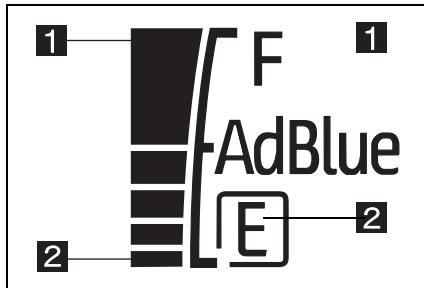
- 2** 目盛りが4本のときは自動的にススの燃焼（再生）を行います。
- 3** 目盛りが7～9本のときは手動再生が必要です。
- 4** 目盛りがいっぱいになると、ランプが点灯します。
- 手動再生については、「排出ガス浄化装置スイッチ」を参照してください。（→P.5-54）
 - 目盛りがいっぱいになる前に必ず手動再生を行ってください。万一、ランプが点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



- 1** オドメーター・トリップメーター
- 2** 切り替えボタン

尿素水残量計

尿素水残量を目盛りで示します。



1 満量 (F)

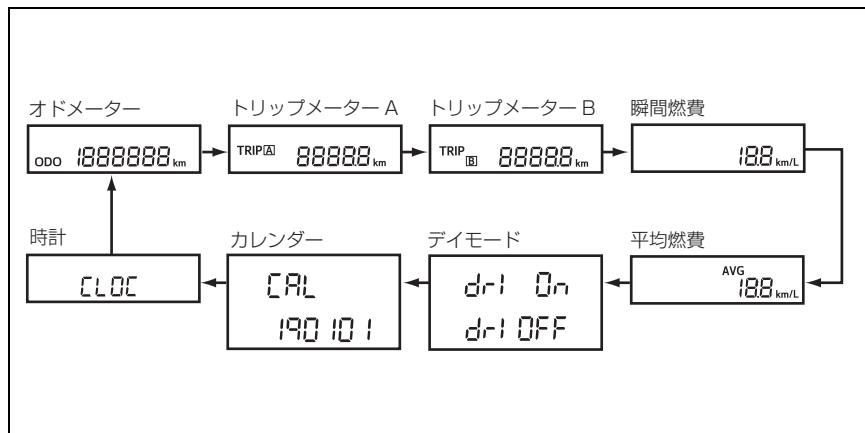
2 残り少ない (E)

- 残り0%でE枠が点灯します。
- 残量警告については「尿素水残量警告灯」を参照してください。（→P.6-19）

オドメーター・トリップメーター

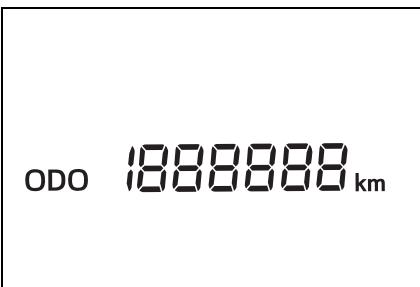
■オドメーター・トリップメーター切り替えボタン

押すごとに次のように表示が切り替わります。



■オドメーター

走行した総距離を km の単位で表示します。



■トリップメーター

2種類の区間距離（トリップ A、トリップ B）を km の単位で表示します。

* トリップ A、トリップ B のどちらかを表示させ、切り替えボタンを押し続けると 0 にもどります。

TRIP A 8888.8 km
TRIP B 8888.8 km

■燃費計

▶ 瞬間燃費

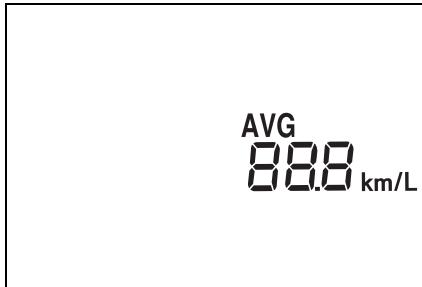
走行中の燃費を km/L の単位で表示します。



▶ 平均燃費

平均燃費を km/L の単位で表示します。

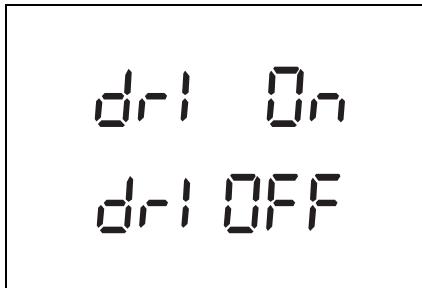
- * 切り替えボタンを押し続けると 0 にもどります。
- * 表示される平均燃費は、参考として利用してください。



■ デイモード

照明減光キャンセル設定の ON/OFF を表示します。

- * メーター盤面、指針などの減光はキャンセルできません。
- * 切り替えボタンを押し続けると ON/OFF が切り替わります。

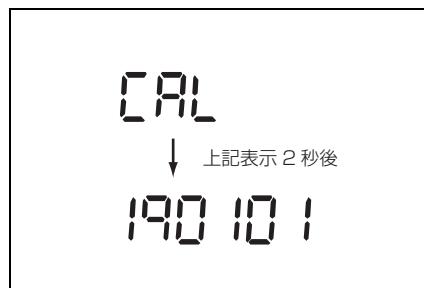


カレンダー

- カレンダー（年 / 月 / 日）を表示します。

- カレンダー表示後、切り替えボタンを長押しするとカレンダーの設定ができます。

- * 設定画面では操作対象のセグメントが点滅状態になります。
- * 切り替えボタンを短押しし、設定したいセグメントを選択します。
- * 日時設定ボタンを短押しし、年 / 月 / 日を変更します。
- * 切り替えボタンを長押しすると設定が完了します。

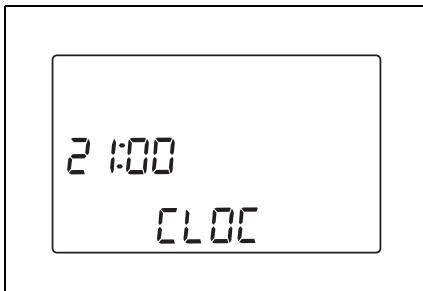


時計

- 時刻（24 時間表記）を表示します。

- 切り替えボタンを長押しすると時刻の設定ができます。

- * 設定画面では操作対象のセグメントが点滅状態になります。
- * 切り替えボタンを短押しし、設定したいセグメントを選択します。
- * 日時設定ボタンを短押しし、時 / 分を変更します。
- * 切り替えボタンを長押しすると設定が完了します。



後席シートベルト警報★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンスイッチが「ON」の位置のとき、後席の乗員がシートベルトを着用していないと該当の席が点灯します。

* シートベルトを着用すれば消灯します。

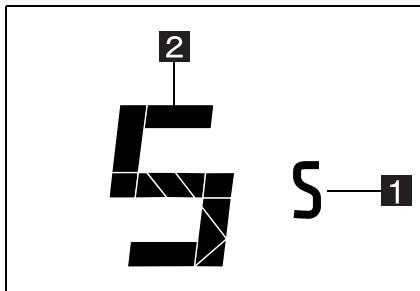


シフトインジケーター★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シフトレバー位置、またはシーケンシャルスイッチにて設定した最高変速ギヤ段数を表示します。

* オートマチックトランスミッション
(→ P.5-11)



1 「S」 レンジ時

2 ギヤポジション・最高変速ギヤ段数

* イラストは説明のために表示したもので、実際の表示とは異なります。

▲ 危険

■ 冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを外さないでください

熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

△ 注意

■ 水温計のバーが最上部で点滅したときは

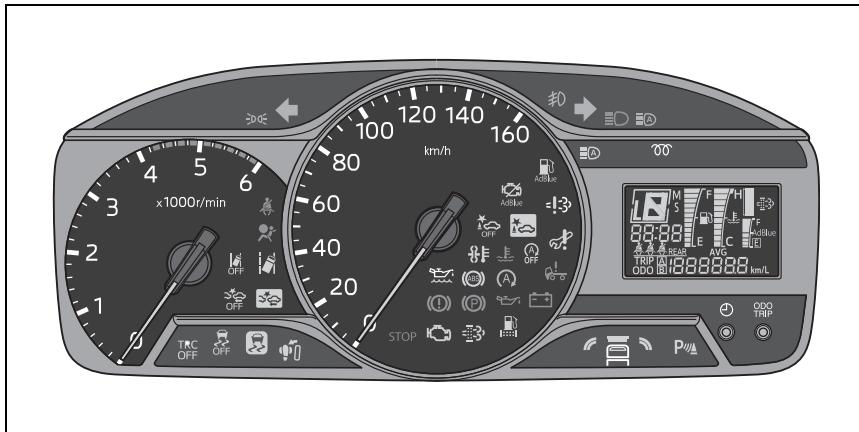
停車後、すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

■ 指定燃料について

指定された以外の燃料は使用しないでください。エンジントラブルの原因になります。(→ P.1-2)

警告灯・表示灯

本書の内容はお車の仕様により装着されていない場合があります。



* イラストは説明のために表示したもので、実際の表示とは異なります。

■警告灯・表示灯一覧表

| 表示 | 名称 | 地色 | 警報内容・表示内容 | 参照ページ |
|---|----------------------|----|--|-------|
|  | オートマチックトランスマッショントン油温 | 橙 | オートマチックトランスマッショントンフルードの油温が高くなったとき | 5-8 |
|  | メンテナンス要求 | 橙 | メンテナンス項目があるとき | — |
| | エンジンオーバーラン | | エンジンがオーバーランしたとき | |
|  | ブレーキ | 赤 | <ul style="list-style-type: none"> リザーバータンク内のブレーキフルードが規定量以下になったとき ブレーキシステムに異常があるとき | 6-13 |
| | バキューム | | バキュームタンク内の負圧が低下したとき | |
|  | パーキングブレーキ | 赤 | パーキングブレーキ作動時 | 5-15 |
|  | オイルプレッシャー | 赤 | エンジンの油圧が異常に低下したとき | 6-15 |

| 表示 | 名称 | 地色 | 警報内容・表示内容 | 参照ページ |
|---|-------------------|----|--|-------|
|  | ABS | 橙 | ABS の異常 | 6-16 |
|  | 充電 | 赤 | 充電系統の故障 | 6-17 |
|  | シートベルト非着用 (前席) | 赤 | シートベルト (前席側) が未装着のとき | 6-17 |
|  | SRS エアバッグ | 赤 | SRS エアバッグのシステムおよびプリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 | 6-18 |
|  | エンジン | 橙 | システムの異常 | 6-18 |
|  | キャブチルト | 赤 | キャブチルトロックの異常 | 6-22 |
|  | 尿素 SCR システム★ | 橙 | 尿素 SCR ★のシステム異常時 | 6-21 |
|  | エンジンオイルレベル 低下 | 橙 | エンジンオイル量の低下を検出したとき | — |
|  | オーバーヒート | 赤 | 冷却水の温度が高くなつたとき | 6-13 |
|  | 予熱 | 橙 | 予熱 (始動補助装置) 作動時 | 6-22 |
|  | ハイビーム | 青 | ヘッドライト上向き点灯時 | 5-25 |
| | パッシング | | ヘッドライト上向き点灯時 | 5-25 |
|  | 非常点滅灯 | 緑 | 全方向指示灯の点滅時 | 5-32 |
| | 方向指示灯 | | 方向指示灯の点滅時 | 5-32 |
|  | フロントフォグランプ | 緑 | フォグランプ点灯時 | 5-33 |

| 表示 | 名称 | 地色 | 警報内容・表示内容 | 参照ページ |
|---|----------------|----|---|-------|
|  | 排出ガス浄化装置★ | 橙 | [点滅] 排出ガス浄化装置★の手動による再生が必要なとき [点灯] 排出ガス浄化装置★が再生中のとき | 5-48 |
|  | スリップ | 橙 | VSC、TRC の作動、および異常表示 | 5-51 |
|  | VSC OFF | 橙 | VSC 作動停止時 | 5-51 |
|  | PCS OFF | 橙 | PCS OFF 時およびシステム作動停止時 | 5-57 |
|  | 車線逸脱警報装置 | 橙 | 車線逸脱警報装置が ON 時に車線を越えたときおよび車線逸脱警報装置に異常が発生したとき | 5-53 |
|  | 車線逸脱警報装置 OFF | 橙 | 車線逸脱警報装置の OFF 時 | 5-53 |
|  | TRC OFF | 橙 | TRC 作動停止時 | 5-51 |
|  | クリアランスソナー | 緑 | クリアランスソナーが ON の状態 | 5-81 |
|  | 誤発進抑制機能 OFF | 橙 | 誤発進抑制機能が OFF のとき | 5-73 |
|  | 車幅灯 | 緑 | 車幅灯が点灯しているとき | 5-25 |
|  | オートマチックハイビーム | 緑 | オートマチックハイビームが ON のとき | 5-28 |
|  | オートマチックハイビーム異常 | 橙 | オートマチックハイビームが故障したとき | 5-28 |
|  | PCS | 橙 | PCS 作動時およびシステムの異常 | 5-57 |

| 表示 | 名称 | 地色 | 警報内容・表示内容 | 参照ページ |
|---|--------------------------------|----|--|-------|
|  | 尿素水残量★ | 橙 | AdBlue® (尿素水) ★の残量が少なくなっているとき | 6-19 |
|  | 誤発進抑制機能 | 橙 | <ul style="list-style-type: none"> 誤発進抑制機能に異常が発生したときに点灯 誤発進抑制機能が作動しているときに点滅 | 5-73 |
|  | エンジン停止 | 赤 | <ul style="list-style-type: none"> エンジンの油圧が異常に低下したときに点滅 冷却水の温度が高くなったときに点滅 | — |
|  | 燃料・水分離器水位★ | 橙 | <ul style="list-style-type: none"> 燃料中に含まれている水が規定レベル以上燃料フィルター内にたまつたときに点滅 燃料フィルターが交換時期になると点灯 | 6-15 |
|  | ドライブスタートコントロール/ブレーキオーバーライドシステム | 橙 | <ul style="list-style-type: none"> アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏み込まれたとき アクセルペダルを踏みこんだまま、シフトレバーを操作したとき | — |
|  | Stop & Start 中 | 緑 | Stop & Start 自動停止中 | 5-86 |
|  | Stop & Start キャンセル | 橙 | Stop & Start の作動解除時 | 5-86 |

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーバーヒート警告灯

- エンジンがオーバーヒートした場合、警告灯が点灯し、同時にブザーが吹鳴します。
- 水温計の目盛りが最上部を示したときは、ただちに安全な場所に車両を停車させ、エンジン回転数をアイドリング回転数より高めにし、目盛りが中央付近を示したらエンジンを止めてください。
- 冷却水量および冷却系統の水漏れがないかまた、Vベルトの張り具合を点検してください。なお、冷却水量が適量で、水漏れがないときには、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。

アドバイス

■ オーバーヒートした場合

すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

▲ 危険

■ 冷却水が高温のときは

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

- * オーバーヒートしたときは、「オーバーヒートしたとき」を参照ください。 (→P.15-14)

ブレーキ警告灯・バキューム警告灯

■ ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを「ON」の位置にすると警告灯 ((!)) が点灯し、負圧に異常が無く、ABSが正常であれば数秒後に消灯します。

エンジンスイッチが「ON」の位置で次のような場合に点灯します。

- リザーバータンク内のブレーキフルードが規定量以下になったとき
- ブレーキシステムの異常があるとき

■ バキューム警告灯

バキュームタンク内の負圧が低下したとき警告灯 ((!)) が点灯します。

知識

■ バキューム警告灯

- くり返しブレーキペダルを踏むと警告灯が点灯し、ブザーが鳴ることがあります。数秒後に消えれば異常ではありません。

- ABS装着車は、エンジン始動時やくり返しブレーキペダルを踏むと、キャブ後方または足元から“ ウィーン ”、“ トン ”などの音がすることがあります。これはブレーキ装置のポンプなどの作動音であり、異常ではありません。

▲警告

- ブレーキ警告灯が消えないときは
 - ブレーキ液を補給しても点灯したままのときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。
 - ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

バキューム警告ブザー

ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下すると、警告ブザーが鳴ります。なお、ブザーは車両を停止してパーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。

知識

■ ブザーについて

エンジンスイッチが「ON」の位置で次のような場合は、ブザーが鳴ることがあります。異常ではありません。この場合、エンジンをかけると鳴りやみます。

- エンジン停止状態が続いたとき
- エンストしたとき

▲警告

- ブザーが鳴ったときは絶対に走行しないでください
 - ブレーキが十分に効かないため危険です。
 - エンジン回転中にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンをアイドリング回転してください。
 - パーキングブレーキ解除時にブザーが鳴らなくなるまで負圧を上昇させてください。この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
 - アイドリング回転をしてもブザーが鳴るときはトヨタ販売店に連絡してください。

油圧警告灯

- エンジンの油圧が異常に低下したとき、警告灯 () が点灯し、同時にブザーが吹鳴します。ブザーは車両を停止させ、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
- 警告灯 () が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車させエンジンを止め、エンジンオイル量およびオイル漏れがないかを点検します。オイル漏れが認められたときは、最寄りのトヨタ販売店に連絡してください。

⚠ 注意

■ 警告灯が点灯したときは

- 警告灯が点灯したときは、走行しないでください。エンジン焼き付きの原因になります。
- 急ブレーキ時などに点灯する場合があります。停車後に消灯すれば異常ではありません。

燃料・水分離器水位警告灯



★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 燃料中に含まれている水が規定レベル以上燃料フィルター内にたまると、警告灯 () が点滅します。
- 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車させ、エンジンを止めた後、燃料フィルターの水抜きを行ってください。
- 燃料フィルターが交換時期になると点灯します。点灯した場合、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

* 水抜き要領について (→P.13-11)

⚠ 注意

■ 警告灯 () が点滅したときは

警告灯 () を点滅させたまま走行を続けないでください。噴射系部品が焼き付き、エンジンが損傷するおそれがあります。点灯したときは、すみやかに排水してください。

ABS 警告灯

エンジンスイッチを「ON」の位置にすると警告灯（（ABS））が点灯し、ABSが正常であれば数秒後に消灯します。

知識

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

- 雪路などの滑りやすい路面で急ブレーキをかけても車輪がロックしないようにし、車両の尻ぶりなどを抑え車両を安定した状態で停止しやすくする装置です。
- 滑りやすい路面では乾いた路面よりも制動距離が長くなります。

▲ 警告

■ ABS 警告灯について

警告灯が点灯中に次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車させ、トヨタ販売店に連絡してください。

- 警告灯（（!））も点灯したままのとき
- 警告灯（（!））の点灯と同時にバキューム警告ブザーも鳴ったとき
この場合、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

▲ 注意

■ ABS 警告灯について

- エンジンスイッチを「ON」の位置にしても警告灯が点灯しないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- 走行中、ABSに異常があると警告灯が点灯し運転者に警報します。
- 警告灯が点灯したときは、すみやかにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- スピードメーター・テスターを使用しているときやエンジンを空ぶかしのままにしたときに、まれに警告灯が点灯することがありますが、異常ではありません。いったんエンジンを停止させ、リセットしてください。
- 警告灯が点灯しているときは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキは、タイヤがロックすることがあります。

充電警告灯

- 充電系統に故障が起きたとき、
警告灯 () が点灯し運転者
に警報します。
- エンジンスイッチを「ON」の位
置にすると警告灯 () が点
灯し、オルタネーターが発電を
始めると消灯します。

⚠ 注意

■ 警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車させ、エン
ジンを止めて、オルタネーターのベル
トの張り具合や損傷がないかを点検し
てください。異常があるときはトヨタ
販売店に連絡してください。

シートベルト非着用警報灯

▶ 前席側

シートベルトを着用せずに、エン
ジンスイッチを「ON」の位置にす
ると警告灯 () が点灯しま
す。

* シートベルトを着用すれば消灯しま
す。

* 荷物などをおいた場合にも点滅する場
合があります。

▶ 後席側★

エンジンスイッチが「ON」の位置
のとき乗員がシートベルトを着用
していないと警告灯 () の
該当の席が点灯します。

* シートベルトを着用すれば消灯しま
す。

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

SRS エアバッグ / プリテンショナー警告灯★

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

エンジンスイッチを「ON」の位置にすると SRS エアバッグおよびプリテンショナー付きシートベルトのシステム作動確認を行うため、

警告灯（）が約 6 秒間点灯し異常がないときは消灯します。

▲ 警告

■ 警告灯が次のようなときはシステムの異常が考えられます

衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。次の場合は、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

● エンジンスイッチを「ON」の位置にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき

● 走行中に点灯したとき

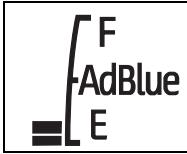
エンジン警告灯

- システムに異常や故障が発生すると、警告灯（）が点灯し、同時にブザーが吹鳴します。ブザーは車両を停止させパーキングブレーキレバーを引き、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
- エンジン回転中にエンジン電子制御システムまたは電子制御スロットルに異常があると警告灯（）が点灯します。
- エンジンの力不足やエンジンの異常振動などの状態になっている場合は、システムに異常や故障が発生しています。このまま走行を続けることができますが、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

尿素水残量警告灯★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タンク内の AdBlue® (尿素水) の残量が 16% 以下になると、警告灯が点滅します。また、残量が 0% になると、警告灯 () が点灯します。

| 状態 | AdBlue® (尿素水) | 警告灯 | 車両制限 |
|-------------------------------|--|---|------------------------------|
| 第 1 段階 (注意喚起) 残り 16% 未満 |  |  点滅 | — |
| 第 2 段階 (使用制限) 残り 0% |  (E 枠点灯) |  点灯 | エンジンスイッチを「ON」以外の位置にすると、再始動不可 |

タンクが空になった場合の処置

1. AdBlue® (尿素水) を 5L 以上補給してください。
2. エンジンスイッチを「ON」の位置にして、尿素水計の目盛りが表示され、警告灯が点灯から点滅または消灯していることを確認してください。
3. エンジンを再始動させてください。

 注意

- タンクが空の状態で、エンジンスイッチを「ON」以外の位置にすると、エンジンの再始動ができなくなります。警告灯が点灯したら、早めに AdBlue[®]（尿素水）を補給してください。
- AdBlue[®]（尿素水）を満量補充後の走行可能距離は、車両の使われ方によって変化します。
- AdBlue[®]（尿素水）を補充する際は、こぼさないようにしてください。
- 車両が傾いた状態では残量が正しく検知されないため、水平な場所で作業してください。

尿素 SCR システム警告灯★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

不適切な尿素水の使用や尿素水噴射装置に故障が発生すると、警告灯 (=! 3, H-□) が点滅します。警告灯が点滅後、300km 走行を続けると点灯に変わります。警告灯が点灯した場合は、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

| 状態 | 警告灯 | 車両制限 |
|----------------------------|--|------------------------------|
| 正常時 | — | — |
| 第 1 段階 (故障検出) |   点滅 | — |
| 第 2 段階 (故障検出後、300km 走行) |   点灯 | エンジンスイッチを「ON」以外の位置にすると、再始動不可 |

⚠ 注意

尿素水噴射装置の故障を検出後、エンジンスイッチを「ON」以外の位置にするとエンジンの再始動ができなくなります。警告灯が点灯した場合は、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

予熱装置異常警告灯★

- * : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 予熱異常

エンジン始動時の自動予熱中に、システムに異常が発生すると表示灯（）が点滅します。なお、この場合には、すみやかに最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

■ 予熱中

エンジン始動時、自動予熱が正常に行われている場合、表示灯（）が点灯します。

- * 再予熱をする際は、エンジンスイッチを「LOCK」の位置に戻してから「ON」の位置にしてください。
「START」の位置から「ON」の位置にしただけでは再予熱されません。

キャブチルト警告灯★

- * : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- エンジンスイッチが「ON」の位置にあるとき、キャブのチルトロックに異常があると警告灯（）が点灯し、ブザーが鳴ります。

- 警告灯（）が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車させキャブを確実にロックしなおしてください。

* 警告灯が消灯すればそのまま走行できます。

* 消灯しない場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

▲ 警告

■ 走行する前に警告灯が消灯していることを必ず確認してください

点灯したままだとキャブがロックされていないため、走行中にキャブが上がるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

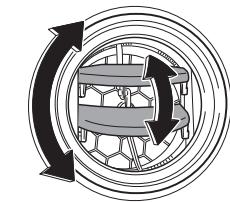
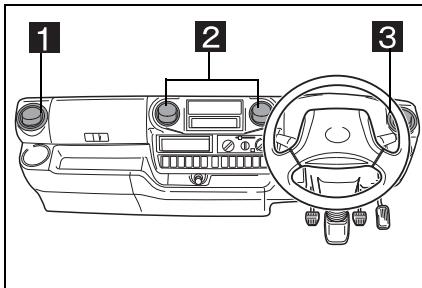
吹き出し口の調整P.7-2

エアコンP.7-3

リヤクーラーP.7-8

リヤヒーターP.7-8

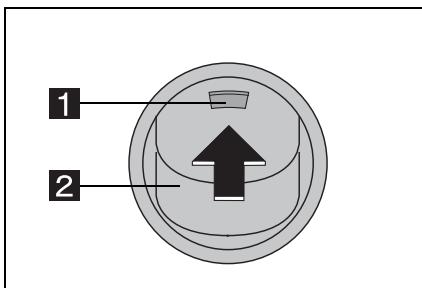
吹き出し口の調整



- 1** 助手席側吹き出し口
- 2** 中央吹き出し口
- 3** 運転席側吹き出し口

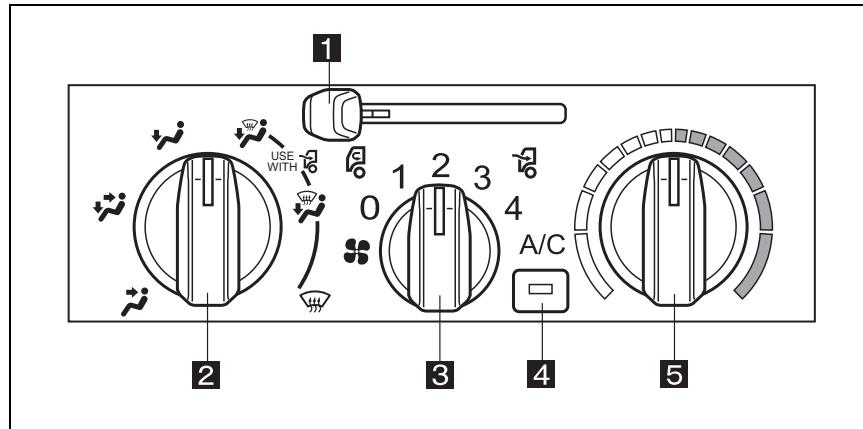
調整方法

1. フィンのくぼみを押して、吹き出し口を開ける。



- 1** くぼみ
 - 2** フィン
2. フィンを動かして、風向きを調整する。
- * 閉めるときはフィンを押し下げます。

エアコン



- 1 内外気切り替えレバー
- 2 吹き出し口切り替えダイヤル
- 3 風量切り替えダイヤル
- 4 エアコンスイッチ
- 5 温度コントロールダイヤル

■ 基本設定

■ 風量の調節

- ③を右(増)または左(減)へ回します。

* 「0」に回すと送風が止まります。

■ エアコンの ON/OFF

- ④を押すたびにエアコンの作動・停止が切り替わります。

* エアコン作動中は、スイッチ内蔵の表示灯が点灯します。

* ③が「0」のときは、④が「ON」でもエアコンは作動しません。

■ 温度の調節

- ⑤を右(暖)または左(冷)へ回します。

* ④が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

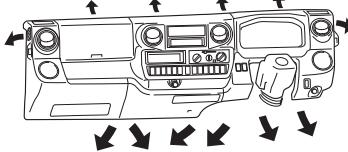
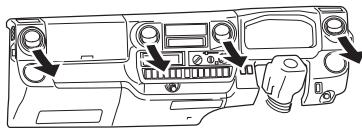
■ 吹き出し口の切り替え

- ②のダイヤルを回して吹き出し口を切り替えます。

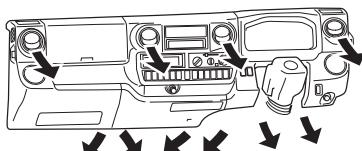
* ダイヤルの位置を各吹き出し口の中間に合わせると、吹き出し口を細かく選択できます。

* 矢印の大きさは風量を現しています。

■ 上半身へ送風



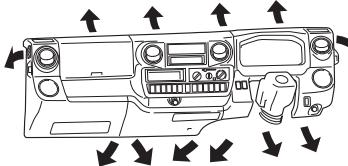
■ 上半身と足元へ送風



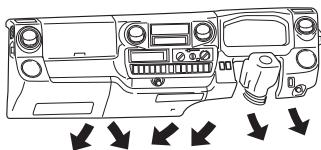
■ 足元へ送風、窓ガラスのくもりを取る

1 のレバーを  の位置にして使用します。

* 4 を押してエアコンを ON にすると、曇りが早く取れます。



■ 足元へ送風



■ 窓ガラスのくもりを取る

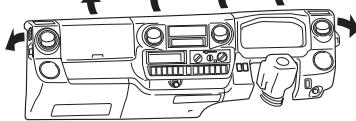
1 のレバーを  の位置にして使用します。

* 4 を押してエアコンを ON にすると、曇りが早く取れます。

■ 足元へ送風、窓ガラスのくもりを取る

1 のレバーを  の位置にして使用します。

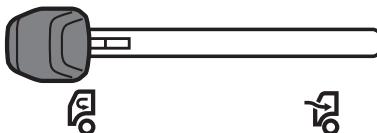
* 4 を押してエアコンを ON にすると、曇りが早く取れます。



吸入口の切り替え

■ 外気導入・内気循環の切り替え

- 1 のレバーを左右に動かします。



- 外気導入にするには の位置にします。
- 内気循環にするには の位置にします。

冷房・除湿

■ 普通冷房およびおだやかな冷房

- 2 を の位置にする。
- 4 を押す。
- 3 および 5 で風量と温度を調整する。

■ 強力冷房（急速に冷房したいとき）および外気温が高いとき

- 2 を の位置にする。
- 1 を の位置（内気循環）にする。
- 4 を押す。
- 3 を一番右に 5 を一番左にする。

暖房

- 2 を の位置にする。
- 3 および 5 で風量と温度を調整する。

換気

走行中の自然換気および 3 による強制換気することができます。

- 1 を の位置（外気導入）にする。
- 強制換気するときは 3 を操作して送風量を調整します。

くもり取り

- 2 を の位置にする。
足元への暖房も同時にいきたいときは、
2 を または の位置にする。
- 1 を の位置（外気導入）にする。

3. **4**を押す。
4. **3**および**5**で風量と温度を調整する。

バイレベル

暖房時、顔がほてるときなど、暖かい風を足元へ、比較的温度の低い風を上半身に送風します。

1. **2**をの位置にする。
2. **1**をの位置（外気導入）にする。
3. **3**でお好みの風量に調整する。
4. **5**を中間の位置にする。

エンジンを暖機運転しながらの暖房

1. **2**をの位置にする。
2. **1**をの位置（内気循環）にする。
3. **5**を右端の位置にする。
4. **3**を右端または右から2番目の位置にする。

アドバイス

■冷房・除湿について

- 炎天下、アイドリング状態でエアコンを使用する場合は、**1**をの位置（内気循環）にして使用してください。

- ドアガラスが凍るようなときは、

2をまたはし、運転席側および助手席側の吹き出し口がドアガラスに当たるよう操作してください。

知識

■内外気切り替えについて

- トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときには、**1**で内気循環にすると効果的です。
- 長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

■吹き出し口について

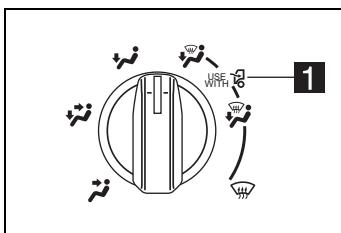
2をの位置にし、**5**を中間位置で使用すれば、暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が中央および運転席側、助手席側吹き出し口から送風されます。

■より早くガラスの曇りを取るには
ガラスの曇りを取る（前ページ参照）の操作と併せて、次の操作を行います。

- 風量を増す（**3**を操作する）
- 設定温度を上げる（**5**を操作する）

■窓ガラスの曇りを取るときに

吹き出し口を、またはにして窓ガラスの曇りを取るとときは内外切り替えダイヤルで外気導入にして使用してください。



1 外気導入 () に切り替え

ることを示すマークです。

■エアコンの臭いについて

● エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

■内気循環の状態で長時間使用する

室内の空気が汚れたりガラスがくもることがありますので、外気導入にするか窓を開けるなどして空気を入れ替えてください。

■冷房・除湿について

● 外気温が 0 ℃以下のときは、**4** を「ON」にしても、エアコンの圧力スイッチが働きコンプレッサーが停止しますので **1** を外気導入にして使用してください。

● 炎天下に長時間駐車したときは、

3 を「4」の位置にして窓を開け、換気を行った後に、エアコンを作動させると効果的です。

● 冷房時湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがあります、異常ではありません。

■暖房について

暖機運転中や長時間停車中にアイドルアップスイッチを「ON」にすると暖房の効果を高められます。

* アイドルアップスイッチの取り扱い。
(→P.5-50)

▲ 警告

■吹き出し口の切り替えについて

温度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、**2** を  の位置にしないでください。外気と窓の温度差で窓外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。

■運転席での仮眠について

運転席での仮眠はしないでください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりシフトレバーを動かしたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

△ 注意

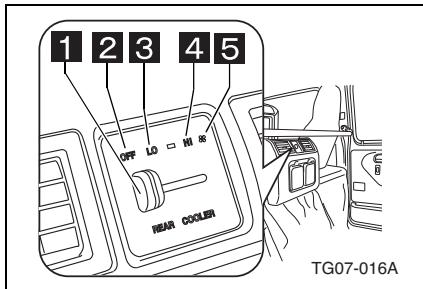
■エアコンの作動について

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

リヤクーラー★

* : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

フロントエアコンが「OFF」のときは、冷房、除湿機能は作動せず
送風のみとなります。スイッチで
クーラーの「ON」、「OFF」および
風量の調整ができます。



1 ファンスイッチ

2 停止

3 微風

4 弱風

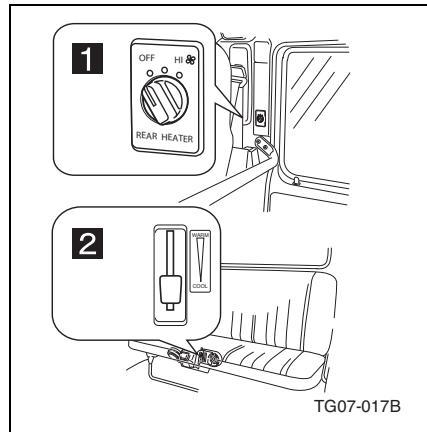
5 強風

リヤヒーター★

* : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

リヤシート下にリヤシート専用
ヒーターが装備されています。

► ダブルキャブ車



1 ファンスイッチ

スイッチを押すごとにヒーターの作動と
停止の切り替えができます。

2 温度調整レバー

低めから高めまで無段階に暖房温度を調
整できます。

| | |
|---------------------------|--------|
| オーディオを上手にお使い いただくために | P.8-2 |
| アンテナ | P.8-2 |
| オーディオの種類 | P.8-3 |
| ラジオの使い方 | P.8-5 |
| 機能設定モード | P.8-7 |
| Bluetooth® 対応機器登録の しかた | P.8-9 |
| 選局操作 | P.8-11 |
| USB の操作 | P.8-12 |
| エラー表示について | P.8-17 |
| Bluetooth® オーディオの 操作 | P.8-18 |
| AUX 端子の使い方 | P.8-22 |
| Bluetooth® 電話の使い方 | P.8-24 |
| オーディオシステムに ついて | P.8-29 |
| ルームランプ | P.8-32 |
| リヤルームランプ | P.8-33 |
| 室内 LED 灯 | P.8-33 |
| バックモニター付き インナーミラー | P.8-34 |
| サンバイザー | P.8-39 |
| アクセサリーソケット | P.8-40 |
| 灰皿 | P.8-41 |
| コンソールボックス類 | P.8-42 |

オーディオを上手にお使い いただくために

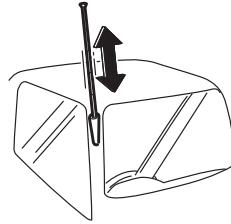
ラジオの受信について

車両の移動にともないアンテナの位置も変わるために電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することができないことがあります。

アンテナ

伸縮タイプ

ラジオを聞くときに、いっぱいに引き出します。



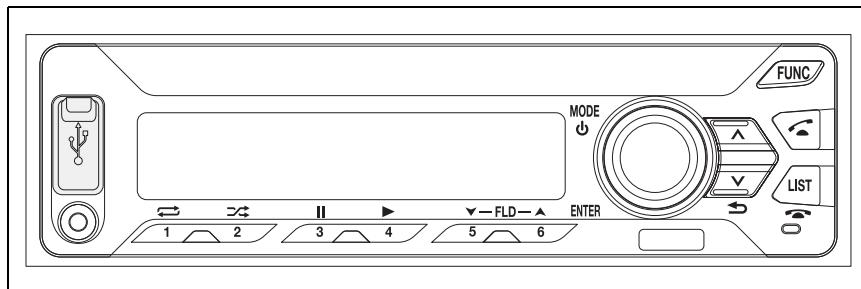
知識

■ アンテナについて

伸縮タイプはアンテナをいっぱいに引き出さないと、ラジオの性能が十分に発揮されません。

オーディオの種類

- ▶ Bluetooth® 対応のラジオ /USB プレーヤー



基本的な使い方

オーディオシステムの基本的な機能について説明します。お使いのシステムには当てはまらない場合があります。

- キーを「ACC」または「ON」にすると、オーディオシステムが動作します。
- システムのオン/オフを切り替える場合

ロータリーノブを押すと、オーディオシステムのオン / オフが切り替わります。以前に別の機能が有効になっていた場合は、元の機能に戻ります。

- 機能を切り替える場合

電源が入っている状態で機能を切り替える場合は、ロータリーノブを押します。

■ 音色とバランス

音色とバランスについて、詳しくはお使いのオーディオシステムの説明書をご覧ください。

● 音色

オーディオプログラムの音質は、主に高音部と低音部の調整によって決まります。

● バランス

左右のステレオチャンネルのバランスも音質にとって重要です。ステレオ録音した音楽や放送を聞く場合は、左右のバランスを変えると片方の音量が大きくなり、もう片方の音量が小さくなります。



知識

■携帯電話の使用について

オーディオを聴いているときに、車内または車外の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

■USB スロットの使用について

充電用の USB スロットではありません。



警告

- プレーヤーは、必ず車両の停止中に操作してください。走行中に操作すると事故の原因になります。
- 音量は、車外の音が聞こえるように調節してください。車外の音が聞こえないと、事故を防ぐことが難しくなります。
- 車の無線アンテナの近くに無線機のアンテナを設置しないでください。ラジオに不要なノイズが発生する可能性があります。



注意

プレーヤーに水がかからないようにしてください。プレーヤーが損傷する可能性があります。

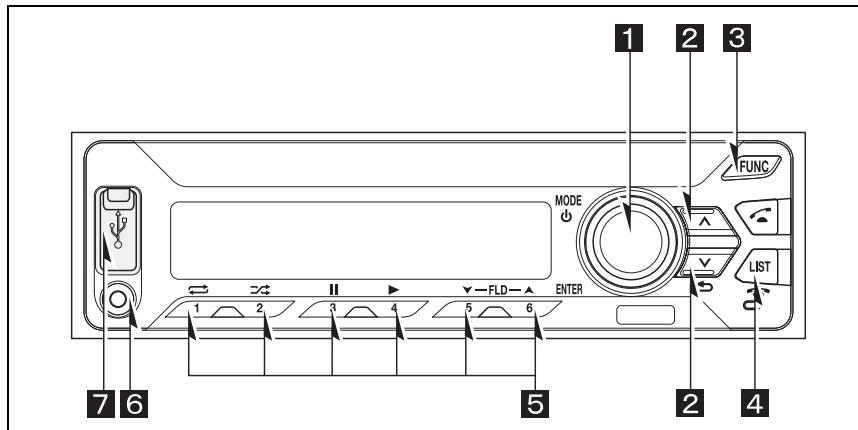
■バッテリー上がりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

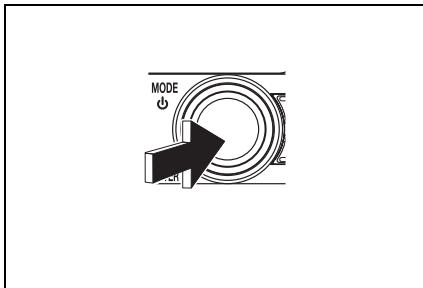
オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方



- 1** ロータリーノブ
- MODE スイッチ
 - POWER/ENTER ボタン
 - 音量調節ノブ
- 2** Tune/Track ボタン
Back ボタン
- 3** FUNC ボタン
- 4** LIST ボタン
- 5** Preset ボタン
- 6** ミニジャック
- 7** USB 端子

電源を入れる



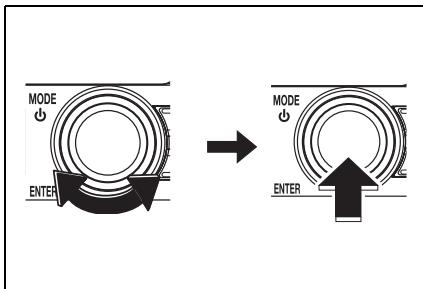
ロータリーノブを押して電源を入れます。1秒以上押すと電源が切れます。

△ 注意

オーディオモードで音楽を聴いているときにロータリーノブを押すと、電源が切れます。もう一度ロータリーノブを押すと、直前のオーディオモードに戻ります。

オーディオモードを切り替える

1. ロータリーノブを押します。



2. ロータリーノブを回してオーディオモードを選択し、ロータリーノブを押します。オーディオモードは次の順序で切り替わります。

FM1 → FM2 → FM3 → USB ^{※1} →
BT-AUDIO → AUX ^{※2} → AM1 →
AM2 → FM1 …

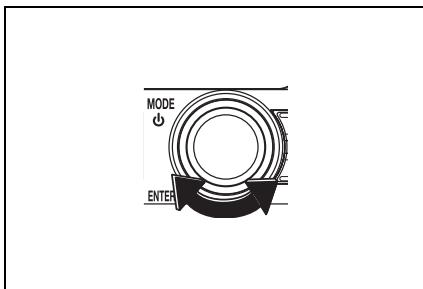
^{※1} USB 未接続時はスキップします。

^{※2} AUX プレーヤー未接続時はスキップします。

注意

- ロータリーノブは止まるまで回り続けます。ただし、音量自体には制限があり、ロータリーノブを右回りまたは左回りに回し続けても音量は一定に保たれます。
- 音量が最大の状態で電源を入れたり切ったりすると、機器や聴覚を損なうことがあります。適度な音量に設定してください。

音量の調節



ロータリーノブを右または左に回して音量を調節します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。

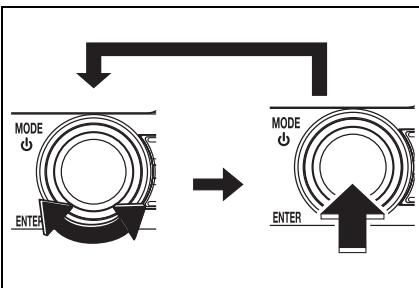
機能設定モード

操作により、サウンドを微調整できます。

低音の調整



1. 「FUNC」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「BASS」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右に回す：低音域が強調されます。
左に回す：低音域が弱くなります。

高音の調整

1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「TREBLE」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右に回す：高音域が強調されます。

左に回す：高音域が弱くなります。

フェーダーの調整

1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「FADER」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右回り：フロントスピーカーが強調されます。

左回り：リアスピーカーが強調されます。

バランスの調整

1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。

3. ロータリーノブを回して「BALANCE」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回してレベルを調整し、ロータリーノブのスイッチを押します。

右に回す：右スピーカーを強調します。

左に回す：左スピーカーを強調します。

時計モード

1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「CLOCK」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを右または左に回して下記からモードを選択し、ロータリーノブを押します。

選択できるモード：

OFF (時計表示 OFF) ⇄ ON (時計表示 ON) ⇄ SET (時刻設定)

時刻を設定する

1. 時計モードの時に「SET」を選択します。
2. ロータリーノブを回して時刻（時）を設定し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して時刻（分）を設定し、ロータリーノブを押します。

右に回す：1 時間進みます。

左に回す：1 時間戻ります。

3. ロータリーノブを回して時刻（分）を設定し、ロータリーノブを押します。

右に回す：1 分進めます。

左に回す：1 分戻します。

△ 注意

時計（分）を設定中に「Back」ボタンを押すと、時計（時）設定モードに戻ります。

△ 注意

時計モードをオフにすると、時刻はリセットされません。

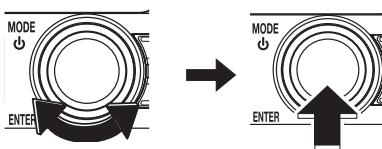
Bluetooth® 対応機器登録の しかた

はじめて Bluetooth® 対応機器を利用するときは、オーディオに登録（ペアリング）する必要があります。Bluetooth® 機器（携帯電話や Bluetooth® 対応オーディオプレーヤー）を本機に接続すると、Bluetooth® 機器の操作やハンズフリーでの通話、音楽を聞くことができます。Bluetooth® 接続が確立すると、ディスプレイに「」が表示されます。

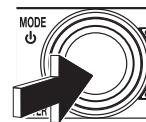
Bluetooth® 対応機器を登録する



1. 「FUNC」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。



3. ディスプレイに「PAIRING」が表示されているときは、ロータリーノブを押します。

すでに Bluetooth® 機器が本機に登録されている場合は、ロータリーノブを回して「PAIRING」を選択してください。

4. 「CAR AUDIO」と表示された後、ディスプレイに4桁のパスキーが表示されたら、Bluetooth® 機器を操作してパスキーを入力します。

操作方法については、携帯機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

Bluetooth® 機器の登録が完了すると、ディスプレイに「CONNECTED」と表示されます。パスキーを入力してもディスプレイに「FAILED」と表示された場合は、再度登録してください。

△ 注意

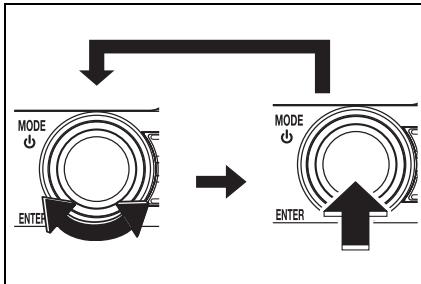
運転中に Bluetooth® 機器を登録しないでください。安全な場所に駐車してから登録してください。

知識

本機に登録できる Bluetooth® 機器は 5 台までです。登録数を超えた場合は「DEL DEVICE?」と表示されますので、登録した Bluetooth® 機器を削除してください。

Bluetooth® 機器と自動接続する

1. 「FUNC」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「A.CONNECT」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回して ON/OFF を切り替え、ロータリーノブを押します。

CONNECT ON: 自動接続をオンにします。

CONNECT OFF: 自動接続をオフにします。

Bluetooth® 設定の初期化

本機に保存されている Bluetooth® 設定や履歴を初期化できます。

1. 「FUNC」ボタンを押します。

2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。

3. ロータリーノブを回して「RESET DATA」を選択し、ロータリーノブを押します。

4. ディスプレイに「RESET DATA?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。

初期化が始まると、ディスプレイに「PLEASE WAIT」と表示されます。

初期化が完了すると、ディスプレイに「COMPLETED」と表示されます。

注意

運転中に Bluetooth® 機器を登録しないでください。安全な場所に駐車してから登録してください。

知識

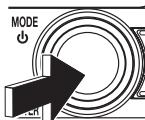
■ 初期化した Bluetooth® の設定や履歴は復元できません。初期化の際はご注意ください。

■ 廃車の際は、オーディオシステムに登録されている個人情報をすべて削除してください。次のハンズフリー / Bluetooth® オーディオデータを削除してください。

- 発信 / 着信 / 不在着信の履歴
- ハンズフリー設定
- Bluetooth® 電話
- 携帯機器
- 携帯機器の接続設定

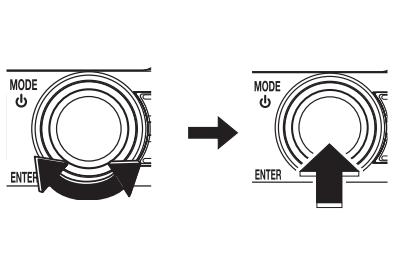
選局操作

選局

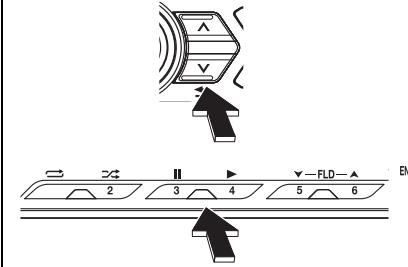


ラジオの電源を入れる。

1. ロータリーノブを押します。



2. ロータリーノブを回して「FM1」、「FM2」、「FM3」、「AM1」、「AM2」のいずれかを選択し、ロータリーノブを押します。



3. 次のいずれかの方法で選局します。

「Tune/Track」ボタンを押します。

「Preset」ボタンを押します。

ラジオの電源を入れる。

ロータリーノブを1秒以上押します。ラジオの電源を入れるには、もう一度ロータリーノブを押します。

▶ 手動選局



「Tune/Track」ボタンを1秒未満押します。

ボタンを押すたびに周波数が上がり(または下がり)、お好みの放送局が選択されます。

▶ 自動選局

「Tune/Track」ボタンを2秒未満1秒以上押します。

ラジオ局の検索が始まり、ラジオ局が見つかると停止します。

「Tune/Track」ボタンを2秒以上押します。ラジオ局は周波数帯域内のラジオ局を検索し続けます。

キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押してください。

知識

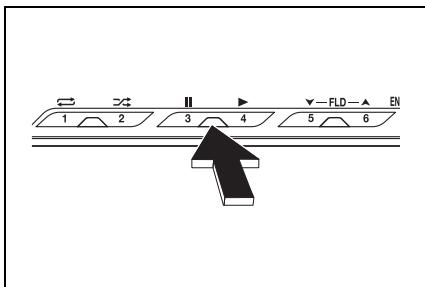
- 「Tune/Track」ボタン(▲)を押すと高い周波数に、「Tune/Track」ボタン(▼)を押すと低い周波数に選択されます。
- いずれの場合も、ラジオ局が見つからない場合は検索を続けます。

ラジオ局を登録する (PRESET)

お気に入りのラジオ局を「Preset」ボタンに登録すると、ワンタッチでラジオ局を登録できます。

最大30局まで登録できます。

AM:12局(AM1とAM2に6個ずつ)、FM:18局(FM1、FM2、FM3に各6個)



- 登録するラジオモードを「FM1」、「FM2」、「FM3」、「AM1」、「AM2」から選択します。
- お好みのラジオ局に合わせてください。
- 登録したい「Preset」ボタンを2秒以上押し続けます。ステーションが登録されると、ディスプレイに「Preset」ボタン番号と登録された周波数が表示されます。

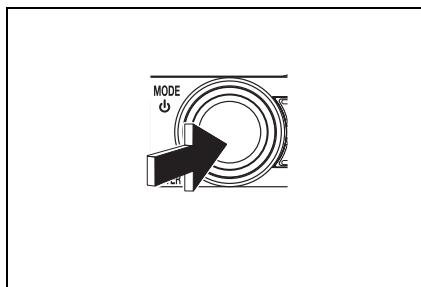
USB の操作

音楽データ(MP3/WMAファイル)が収録されているUSB機器を接続すると音楽を再生できます。

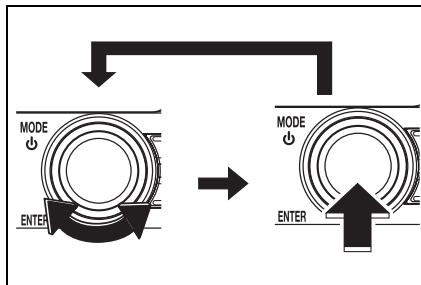
USBメモリー内の音楽ファイルを再生する(USBメモリーを接続していない場合)

USBメモリーをUSB端子に接続すると、USBメモリー内の音楽を聞くことができます。

- USBメモリーをUSB端子に接続します。



- ロータリーノブを押します。



- ロータリーノブを回して「USB」を選択し、ロータリーノブを押します。音楽ファイルが再生されます。

USBメモリー内の音楽ファイルを再生する(USBメモリーを接続している場合)

1. ロータリーノブを押します。
2. ロータリーノブを回して「USB」を選択し、ロータリーノブを押します。
音楽ファイルの再生が始まります。

注意

運転中にUSBメモリーを抜き差ししないでください。安全な場所に駐車してから登録してください。

知識

- USBメモリーにアクセス中(再生中)は、USBメモリーを抜いたり、スタートースイッチを「LOCK」にしたりしないでください。データが破損するおそれがあります。誤って消去してしまった場合に備えて、データのバックアップをお勧めします。
- USBメモリーの種類(ノーブランド製品、外部要因により破損したUSBメモリ)によっては、接続できない場合や動作が不安定になる場合があります。
- USBモードを他のモードに切り替えてから再度切り替えると、本体は最後に再生した音楽ファイルに戻ります。

ファイル選択



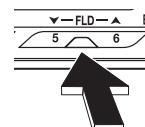
「Tune/Track」ボタン(▲、▼)を押して、好きな音楽ファイルを選びます。

▲: 次のファイルに進みます。

▼: 再生中のファイルの先頭に戻ります。

前のファイルに戻るには、もう一度ボタンを押します。

フォルダ選択



「5」または「6」ボタンを押して、MP3/WMAフォルダを選択します。

▲: 次のフォルダに進みます。

▼: 前のフォルダに戻ります。

早送り/早戻しする



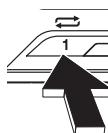
「Tune/Track」ボタン(▲、▼)を押し続けると、早送り / 早戻しができます。

▲: 早送りします。

▼: 早戻しします。

早送り / 早戻しを止めるときは、ボタンから指を離します。

繰り返し再生



「1」ボタンを押すと、同じファイルを繰り返し再生します。

ディスプレイに「 \Rightarrow 」が表示されます。

キャンセルする場合はボタンを2回押すと「 \Rightarrow 」が消えます。

「1」ボタンを2回押すと、同じフォルダを繰り返し再生します。最後のファイルを再生すると、同

じフォルダの最初のファイルを再生します。

ディスプレイに「FLD \Rightarrow 」と表示されます。キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD \Rightarrow 」が消えます。

ランダム再生



「2」ボタンを押すと、USBメモリー内のすべてのファイルがランダムに再生されます。

「 \Rightarrow 」が表示されます。

キャンセルする場合は、ボタンを2回押します。「 \Rightarrow 」が消えます。

「2」ボタンを2回押すと、USBメモリー内の再生中のフォルダのファイルがランダムに再生されます。

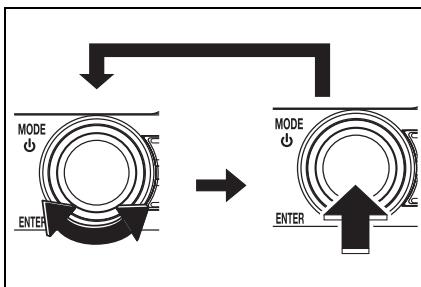
最後のファイルが再生されると、同じフォルダの最初のファイルが再生されます。

ディスプレイに「FLD \Rightarrow 」が表示されます。キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD \Rightarrow 」が消えます。

カテゴリー一覧から音楽ファイルを選ぶ



1. 「LIST」ボタンを1秒未満押します。ディスプレイに「LIST」が表示されます。カテゴリー選択を解除するには、もう一度「LIST」ボタンを押すか、「Back」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回してカテゴリーを選択し、ロータリーノブを押します。カテゴリーは次の順で切り替わります。

PLAYING ⇄ FOLDER ⇄ FILE ⇄ PLAYING ...

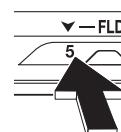
3. ロータリーノブを回して、リストからフォルダーまたはファイルを選択し、ロータリーノブを押します。

ファイルが選択されると、プレーヤーはファイルの再生を開

始します。

「FOLDER」が選択されている場合は、フォルダー内のファイルを選択して再生を開始します。リストまたはカテゴリー選択モードに戻るには、「Back」ボタンを1秒未満押します。カテゴリー選択モードを解除するには、「Back」ボタンを1秒以上押します。

最初の位置に戻る(ホームジャンプ)



USBメモリーのどの位置からでも、再生中の最初のフォルダーの最初のファイルに戻ることができます。この機能を「ホームジャンプ」と呼びます。

例: フォルダー4のファイル5を再生中に「ホームジャンプ」を使うと、フォルダー1のファイル1に戻って再生を開始します。

「5」ボタンを1秒以上押します。

文字情報を表示する

1. 「LIST」ボタンを1秒以上押し続けます。
2. ロータリーノブを回して表示項目を選び、ロータリーノブを押します。

表示項目は次の順序で切り替え
ります。

FL/TR NO (フォルダ一番号 /
ファイル番号) ⇄ TIME (再生時
間) ⇄ FOLDER (フォルダ一名)
⇨ FILE (ファイル名) ⇄ ALBUM
(アルバムタイトル) ⇄ *TRACK
(トラックタイトル) ⇄ ARTIST
(アーティスト名) ⇄ FL/TR NO

...

* WMA ファイル再生中は表示されませ
ん。

知識

- 文字情報が大きすぎてディスプレイ
に収まらない場合は、「FUNC」ボタ
ンを 1 秒以上押して次のページに切
り替えてください。
- 英数字と記号以外の文字が録音され
ている場合は、「*」が表示されます。
- 文字情報が保存されていない場合は、
「NO TITLE」と表示されます。

エラー表示について

オーディオには、システム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。障害が発生したときは、各種のエラーが表示されますので、対処方法にしたがって障害を取り除いてください。

エラーが表示された場合

状態に応じて以下のメッセージが表示（点滅）されます。

| エラー表示 | 説明 |
|-------------------------|---|
| READING | USB 機器のファイルフォーマットを読み込み中に表示されます。 |
| USB ERROR 1 | プレーヤーが何らかの理由で操作できない場合に表示されます。オーディオシステムから USB 機器を外してください。 |
| USB ERROR 2 | 接続した USB 機器が無効の場合に表示されます。別の USB 機器を接続してください。 |
| USB ERROR 3 | USB ハブが接続されている場合に表示されます。オーディオシステムから USB ハブを取り外します。 |
| NO MUSIC (音楽なし) | 何も入っていない USB 機器や拡張子の付いたファイルが入っていない USB 機器を接続したときに表示されます。 |
| READ ERROR (読み込みエラー) | USB 機器に異常が検出されたときに表示されます。USB 機器を取り外し、USB 機器を確認してください。 |
| NO SUPPORT (サポートなし) | USB 機器に MP3/WMA データ（拡張子 MP3/WMA を含む）がない場合、または SKIP FILE のみの場合に表示されます。 |

上記以外のエラーが表示されたときは、本体の電源を切り、トヨタ販売店にご相談ください。

Bluetooth® オーディオの操作

Bluetooth® 対応のオーディオプレーヤーや携帯電話（以下、携帯機器）を本機に接続すると、本機で操作したり、音楽を聴いたりできます。

また、本機と携帯機器は無線接続のため、ケーブル接続の必要はありません。

本機は Bluetooth® に対応しています。Bluetooth® とは、携帯機器を有線接続せずに音楽を聴くことができる無線通信のことです。

携帯機器が Bluetooth® に対応していない場合は、この機能を利用できません。

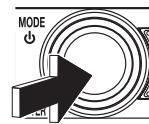
△ 注意

運転中は携帯機器を接続しないでください。安全な場所に駐車してから接続してください。

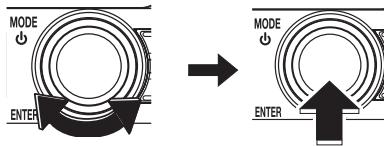
□ 知識

- 携帯機器を車内に放置しないでください。（猛暑の場合、車内が高温になることがあります）
- 機器を本機に近づけすぎないでください。機器と本機が近すぎると、音質の劣化や接続不良の原因となります。

音楽を再生する



1. ロータリーノブを押します。



2. ロータリーノブを回して「BT-AUDIO」を選択し、ロータリーノブを押します。

接続している Bluetooth® 対応機器の音楽が再生されます。
登録した機器が接続されていない場合は、ディスプレイに「NO CONNECT」と表示されます。

△ 注意

以下の操作を行う前に、携帯機器を本機に接続してください。

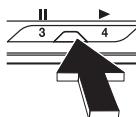
- 「Bluetooth® 機器を登録する」
(→ P.8-9)
- Bluetooth® オーディオの操作は、携帯機器の対応状況によります。
- 本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

- 本機に接続した Bluetooth® 対応携帯機器によっては、音楽が再生されず、一時停止することがあります。
- AVRCP Ver.1.0 対応携帯機器と接続した場合、ディスプレイに「STREAMING」と表示され、一部機能が制限されることがあります。

再生を停止する

他のオーディオモードに切り替える。

音楽を一時停止する



「3」ボタンを押して音楽を一時停止します。

トラック選択



「Tune/Track」ボタン(▲、▼)を押して、好きなトラックを選びます。

▲: 次のトラックに進みます。

▼: 再生中のトラックの先頭に戻ります。

前のトラックに戻るには、もう一度ボタンを押します。

知識

本機での操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

早送り / 早戻しする

「Tune/Track」ボタン(▲、▼)を押し続けると、早送り / 早戻しができます。

▲: 早送りします。

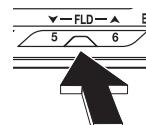
▼: 早戻しします。

早送り / 早戻しを止めるときは、ボタンから指を離します。

知識

本機での操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

アルバムの選択



「5」または「6」ボタンを押して、アルバムを選択します。

▲: 次のアルバムに進みます。

▼: 前のアルバムに戻ります。

知識

本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

繰り返し再生



「1」ボタンを押すと、同じファイルを繰り返し再生します。

ディスプレイに「 \rightleftarrows 」が表示されます。

キャンセルする場合はボタンを2回押すと「 \rightleftarrows 」が消えます。

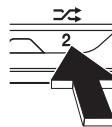
「1」ボタンを2回押すと、同じアルバムを繰り返し再生します。最後のファイルを再生すると、同じアルバムの最初のファイルを再生します。

ディスプレイに「FLD \rightleftarrows 」と表示されます。キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD \rightleftarrows 」が消えます。

知識

本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

ランダム再生



「2」ボタンを押すと、Bluetooth[®]オーディオの全トラックがランダム再生されます。

ディスプレイに「 \rightleftarrows 」が表示されます。

キャンセルする場合は、ボタンを2回押します。「 \rightleftarrows 」が消えます。

「2」ボタンを2回押すと、再生中のアルバムの曲がランダムに再生されます。

最後の曲を再生すると、同じアルバムの最初の曲が再生されます。

ディスプレイに「FLD \rightleftarrows 」と表示されます。

キャンセルする場合は、もう一度ボタンを押します。「FLD \rightleftarrows 」が消えます。

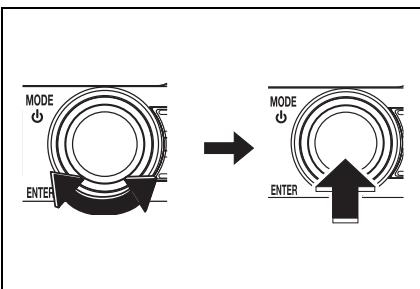
知識

本機を介した携帯機器の操作は、携帯機器の仕様によって異なります。

文字情報を表示する



1. 「LIST」ボタンを1秒以上押し続けます。



2. ロータリーノブを回して表示項目を選び、ロータリーノブを押します。
表示項目は次の順序で切り替わります。

TR NO/TIME (トラック番号 / 再生時間) ⇄ ALBUM (アルバムタイトル) ⇄ TRACK (トラックタイトル) ⇄ ARTIST (アーティスト名) ⇄ TR NO/TIME ...

知識

- 文字情報が大きすぎてディスプレイに収まらない場合は、「FUNC」ボタンを1秒以上押して次のページに切り替えてください。
- 英数字と記号以外の文字を録音した場合は、「*」(アスタリスク)が表示されます。
- 文字情報が保存されていない場合は、「NO TITLE」と表示されます。

登録した携帯機器を表示する



1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「LIST AUDIO」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回して機器名を選択し、ロータリーノブを押します。
5. ロータリーノブを回して任意の表示項目を選択し、ロータリーノブを押します。

- 選択：
登録した携帯機器を接続します。
ディスプレイに「SEARCHING」が表示されます。

- 切断：
登録した携帯機器の接続を解除します。
ディスプレイに「DISCONNECT?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。
- 削除：
登録した携帯機器を削除します。
ディスプレイに「Delete?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。
- 方法：
接続方法を切り替えます。本機から操作して接続する場合は、「FROM VEHICLE」を選びます。
本機から接続する場合は、「FROM AUDIO」を選びます。

ディスプレイに「ERROR」と表示された場合

ディスプレイには、状態に応じて以下のメッセージが表示（点滅）されます。

| メッセージ | 説明 |
|------------|----------------------------|
| NO CONNECT | 本機と携帯機器が接続されていないときに表示されます。 |

AUX 端子の使い方

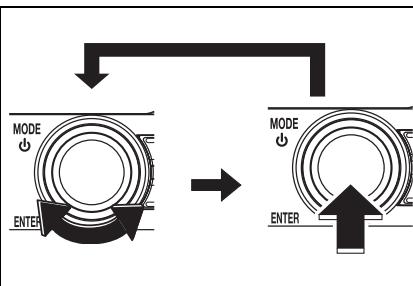
お手持ちのポータブルオーディオ機器の3.5 mm ヘッドフォンジャックをミニジャックに接続して、お手持ちの音楽を聞くことができます。

AUX の操作

1. ミニプラグケーブルを使って、ポータブルオーディオ機器を「ミニジャック」に接続します。



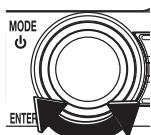
2. ロータリーノブを押します。



3. ロータリーノブを回して「AUX」を選択し、ロータリーノブを押します。
ミニプラグケーブルを「ミニジャック」に接続すると、AUXモードになり、ポータブルオーディオ機器が使用できるようになります。

ミニプラグケーブルを本体から抜くと、AUX モードは解除されます。

音量の調節



ロータリーノブを右または左に回して音量を調節します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。

知識

- AUX モードで調整した音量は、AUX モードでのみ有効です。
- 本体からAUX機器をコントロールすることはできません。
- スピーカーの損傷を防ぐため、AUX の音量を下げてください。

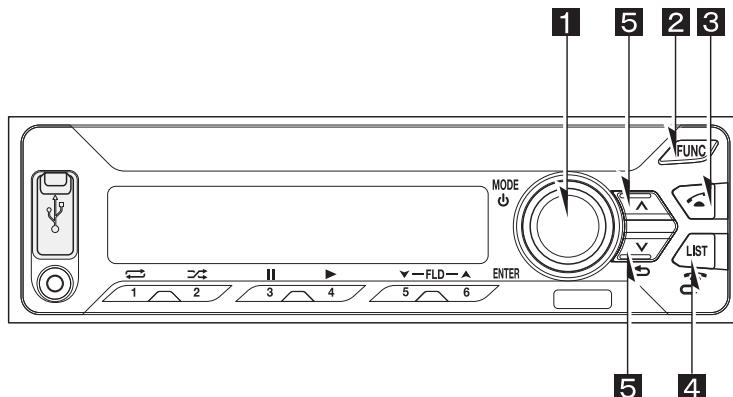
⚠ 注意

- ポータブルオーディオ機器とミニプラグケーブルは、運転の妨げにならない場所に置くか、一時的に固定してください。運転の妨げとなり、交通事故の原因となります。
- ミニプラグケーブルの端子には触れないでください。
- 運転中にポータブルオーディオ機器を接続、操作、取り外しをしないでください。

Bluetooth® 電話の使い方

本機は Bluetooth® に対応しています。Bluetooth® とは、携帯電話を接続しなくても電話をかけることができる無線通信システムです。

お使いの携帯電話が Bluetooth® に対応していない場合、本機は動作しません。



1 ロータリーノブ

- MODE スイッチ
 - POWER/ENTER ボタン
 - 音量調節ノブ
- 2 FUNC ボタン
- 3 オフフックボタン
- 4 オンフックボタン
- 5 レベル調整ボタン

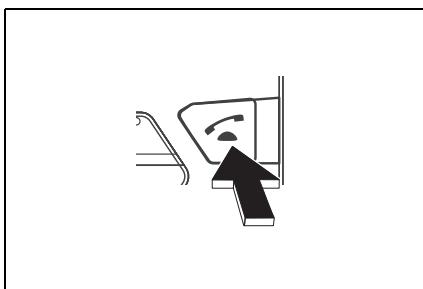
△ 注意

- 以下の操作を行う前に、携帯機器を本機に接続してください。
「Bluetooth® 機器を登録する」
(→ P.8-9)
- 携帯電話を車内に放置しないでください。車内が高温になると、携帯電話が故障するおそれがあります。

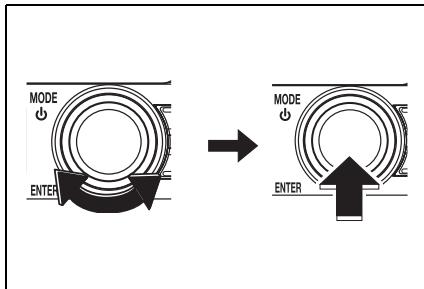
- 次のような場合は、正常に動作しないことがあります。

- 携帯電話の電源が入っていない。
- 通信エリア外である。
- 携帯電話が接続されていない。

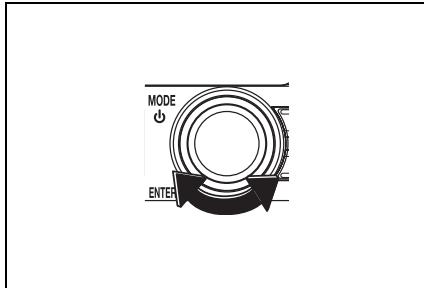
電話番号を入力して電話をかける



1. 「オフフック」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「ENTER NUMBER」を選択し、ロータリーノブを押します。ディスプレイに「INPUT NUMBER」が表示されます。

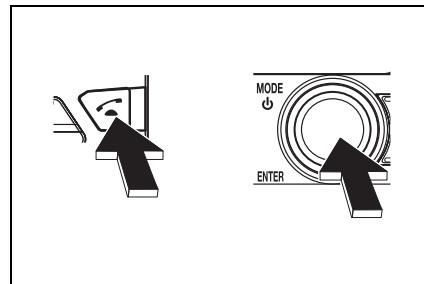


3. ロータリーノブを回して電話番号を選択します。電話番号は1桁ずつ入力できます。

数字(0～9)と記号(*、#、+)が使用できます。記号(+)は1桁目にのみ使用できます。

「レベル調整」ボタン(▲):次の桁に進みます。

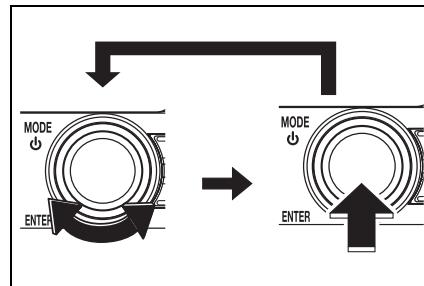
「レベル調整」ボタン(▼):入力した桁を削除します。



4. 電話番号を入力したら、「オフフック」ボタンまたはロータリーノブを押します。ディスプレイに「CALLING」と表示され、選択した電話番号に電話がかかります。相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。

不在着信履歴を使って電話をかける

1. 「オフフック」ボタンを押します。



2. ロータリーノブを回して「MISSED」を選択し、ロータリーノブを押します。
直前の不在着信の電話番号が表示されます。
3. ロータリーノブを回して電話番号を選び、ロータリーノブを押します。
ディスプレイに「CALLING」と表示され、選んだ電話番号に電話がかかります。
「オフフック」ボタンを押して電話をかけることもできます。
相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。
2. ロータリーノブを回して「OUTGOING」を選択し、ロータリーノブを押します。
呼び出した相手（電話番号）が表示されます。
3. ロータリーノブを回して相手（電話番号）を選び、ロータリーノブを押します。
ディスプレイに「CALLING」と表示され、選んだ電話番号に電話がかかります。
「オフフック」ボタンを押して電話をかけることもできます。
相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。

着信履歴を使って電話をかける

1. 「オフフック」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「INCOMING」を選択し、ロータリーノブを押します。
前回の着信者（電話番号）が表示されます。
3. ロータリーノブを回して相手（電話番号）を選び、ロータリーノブを押します。
ディスプレイに「CALLING」と表示され、選択した電話番号に電話がかかります。
「オフフック」ボタンを押して電話をかけることもできます。
相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。

発信履歴を使って電話をかける

1. 「オフフック」ボタンを押します。

2. ロータリーノブを回して「OUTGOING」を選択し、ロータリーノブを押します。
呼び出した相手（電話番号）が表示されます。
3. ロータリーノブを回して相手（電話番号）を選び、ロータリーノブを押します。
ディスプレイに「CALLING」と表示され、選んだ電話番号に電話がかかります。
「オフフック」ボタンを押して電話をかけることもできます。
相手が電話を受けると、ハンズフリーで通話できます。

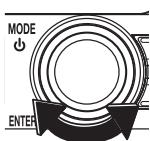
電話に出る

本機に電話がかかってくると、ディスプレイに「INCOMING」に続いて相手（電話番号）が表示されます。

- プライベートコールの場合は、ディスプレイに「UNAVAILABLE」が表示されます。
 - 着信中に「オフフック」ボタンを押すと、着信を拒否できます。
「オフフック」ボタンを押し、ハンズフリーで通話します。
- 通話が終わったら、「オフフック」ボタンを押します。

音量を調整する

■ 通話音量



通話中にロータリーノブを回します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。

調整した音量値が保存されます。

■ 着信音の音量

通話中にロータリーノブを回します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。

調整した音量値が保存されます。



知識

携帯電話の仕様により、音量やマイクのゲインの設定が異なります。

内蔵マイクの感度を設定する



自分の声が小さすぎたり、相手に聞こえにくかったり、エコーやハ

ウリングがあったりする場合は、マイクの感度で調整できます。

通話中に「レベル調整」ボタンを押します。

「レベル調整」ボタン(▲)：感度を上げます。(音の伝わりが良くなります)

「レベル調整」ボタン(▼)：感度を下げます。(音の伝わりが悪くなります)

0～MAX(10)の範囲で調整できます。(デフォルト:5)

▲ 注意

ボタン操作中は、「MIC LEVEL」が表示されます。操作終了後、2秒で「MIC LEVEL」の表示が消え、元の表示に戻ります。

携帯電話で通話中(プライベートモード)

本機(ハンズフリーモード)から携帯電話への通話を切り替えることができます。

通話中に「オフフック」ボタンを1秒以上押します。

電話番号を入力する



1. 通話中に「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して、電話番号を選択します。電話番号は1桁ずつ入力できます。数字(0~9)と記号(*、#、+)が使用できます。記号(+)は1桁目にのみ使用できます。



3. 「レベル調整」ボタン(▲)を押します。選択した音色番号が送信されます。次の手順に進み、必要に応じて音色番号を選び直します。

通話中着信時の通話

ディスプレイに通話中と表示されているときは、最初の通話を保留にしたまま次の通話を受けたり応答したりできます。

- 通話中に着信音が鳴ったら、「オフフック」ボタンを押します。
- 通話中の通話を保留にしている間は、次の通話相手に接続されます。
 - 通話中着信をオフにしたいときは、「オフフック」ボタンを押します。

- 通話中着信をオフにすると、保留中の最初の通話相手に接続されます。
- もう一度「オフフック」ボタンを押すと、通話中着信の通話相手を切り替えることができます。

知識

この機能は、電話機が通話中着信機能に対応している場合のみ使用できます。

登録済み携帯電話の接続状態の切り替え

1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「LIST PHONE」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回して携帯電話名を選び、ロータリーノブを押します。
5. ロータリーノブを回して表示項目を選び、ロータリーノブを押します。

- 選択: 登録した携帯電話を接続します。
ディスプレイに「SEARCHING」が表示されます。
- 切断: 登録した携帯電話を切断します。ディスプレイに「DISCONNECT?」と表示されたら、ロータリーノブを押します。
- 削除: 登録した携帯電話を削除します。
ディスプレイに「DELETE?」と

表示されたら、ロータリーノブを押します。

ハンズフリー音量を調節する

1. 「FUNC」ボタンを押します。
2. ロータリーノブを回して「BLUETOOTH」を選択し、ロータリーノブを押します。
3. ロータリーノブを回して「HF SOUND」を選択し、ロータリーノブを押します。
4. ロータリーノブを回して調整項目を選択し、ロータリーノブを押します。
5. ロータリーノブを回します。

右に回す：音量を上げます。

左に回す：音量を下げます。調節した音量が保存されます。

着信中や通話中に音量を調節する場合は、「音量を設定する」(→ P.8-6)

オーディオシステムについて

USB メモリの規格

- 対応ファイルシステム:FAT16/32
- 再生可能なオーディオフォーマット:MP3/WMA
- 対応機器:USB2.0(フルスピード)
- 対応機器:USB マスストレージクラス
- 本機は外付けハードディスク(ポケットハードディスクドライブ)には対応していません。
- HUBなどをを使った接続には対応していません。

再生可能な MP3 ファイルの規格

- 対応規格:MPEG-1 Audio Layer III、MPEG-2 Audio Layer III
- 対応サンプリング周波数:MPEG-1:32, 44.1, 48 (kHz)、MPEG-2:16, 22.05, 24 (kHz)
- 対応ビットレート：
MPEG1:32, 40, 48, 56, 64, 80, 96, 112, 128, 160, 192, 224, 256, 320 (kbps)
MPEG2:8, 16, 24, 32, 40, 48, 56, 64, 80, 96, 112, 128, 160 (kbps)
- 可変ビットレート(VBR)がサポートされています。
- フリーフォーマットはサポートされていません。
- デジタル著作権管理(DRM)はサポートされていません。

- 対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

再生可能な WMA ファイル規格

- 対応チャンネルモード：
WMA Ver. 7, WMA Ver. 8, WMA Ver. 9
- 対応サンプリング周波数：
32, 44.1, 48 (kHz)
- 対応ビットレート：
Ver. 7, 8: CBR 48, 64, 80, 96, 128, 160, 192 (kbps)
Ver. 9 (9.1/9.2): CBR 48, 64, 80, 96, 128, 160, 192, 256, 320 (kbps)
2 チャンネル再生のみ対応
- 可変ビットレート (VBR) に対応しています。
- 可逆圧縮には対応していません。

ID3 タグ /WMA タグ

- MP3/WMA ファイルには、曲名やアーティストなどのデータを保存するための情報を入力できる「ID3 タグ /WMA タグ」があります。
- 本デッキは ID3 Ver.1.0、1.1、2.2、2.3、WMA タグに対応しています。

MP3/WMA ファイル / フォルダ名の表示順序

同階層内の MP3/WMA フォルダー / ファイル名は以下の順序で表示されます。

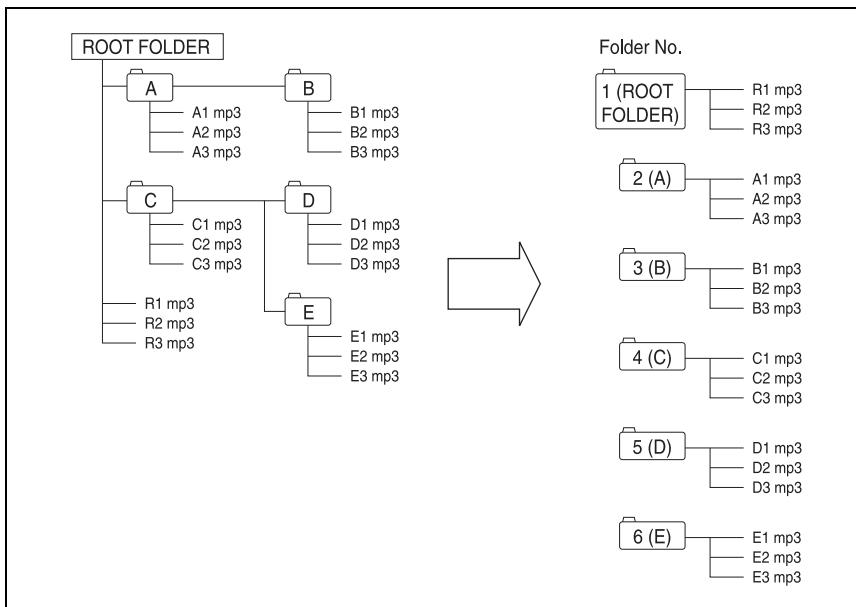
1. 「MP3/WMA」フォルダを数字、アルファベットの昇順で表示し

ます。USB メディアのルート直下に保存されているファイルは「ROOT FOLDER」に保存されます。

2. 次にファイルを数字、アルファベットの昇順で表示します。USB メディアはすでに本機にセットされているものとします。

MP3/WMA ファイル構成例

ユーザーが作成したフォルダを以下のように再構成します。



知識

- ここでは、上記の MP3/WMA ファイルの構成例に基づいて説明します。
- 通常は、ファイルの先頭から順に再生されます。

Bluetooth® について



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社デ

ンソーテンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商号は、それぞれの所有者に帰属します。

対応する Bluetooth® の仕様

:Bluetooth® 仕様 Ver.5.1+EDR

対応プロファイル：

- ハンズフリープロファイル (HFP) Ver.1.5
- Advanced Audio Distribution Profile (A2DP) Ver.1.2
- オーディオ/ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP) Ver.1.3

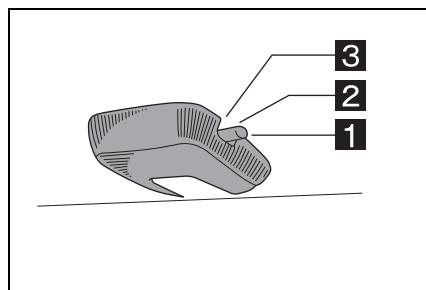
Bluetooth® ハンズフリー / オーディオの動作は、携帯電話との互換性に依存します。

Bluetooth® ハンズフリーの動作は、携帯電話のネットワークや端末、運転状況によって影響を受ける場合があります。

携帯電話の機種によっては、システムの機能が一部制限される場合があります。

本機を介した携帯機器の動作は、携帯機器の仕様によって異なります。

ルームランプ



1 ON

ドアの開閉にかかわらずランプが点灯します。

2 OFF

ドアの開閉にかかわらずランプが消灯します。

3 DOOR

ドアを開けると点灯し、閉じると消灯します。

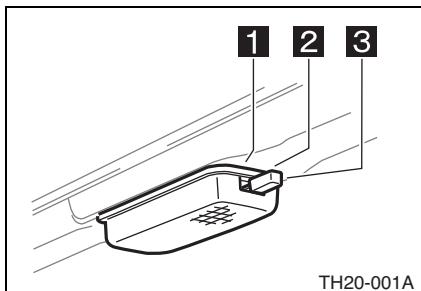
アドバイス

■ ルームランプについて

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。
- ダブルキャブ車は、リヤドア開閉によるランプ点灯消灯切り替えは行えません。

リヤルームランプ★

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



1 ON

ドアの開閉にかかわらずランプが点灯します。

2 OFF

フロントドアの開閉にかかわらずランプが消灯します。

3 DOOR

フロントドアを開けると点灯し、閉じると消灯します。

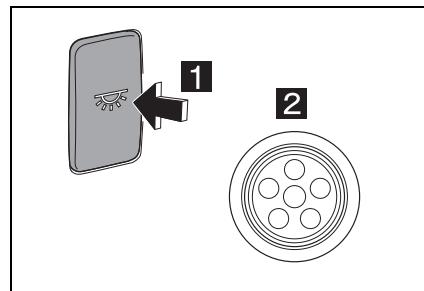
アドバイス

■ リヤルームランプについて

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。
- リヤドア開閉によるランプ点灯消灯切り替えは行えません。

室内 LED 灯★

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



1 ON/OFF

2 室内 LED 灯

* エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

アドバイス

■ 室内 LED 灯について

エンジンを止めた状態で長時間点灯させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。

▲ 警告

■ 室内 LED 灯について

走行中使用しないでください。明るくなつた室内がガラスに写るため、外の道路状況が判断しにくくなり事故の原因になります。

バックモニター付き インナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する運転補助装置です。

荷物や架装などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるので、優れた後方視認性を確保できます。

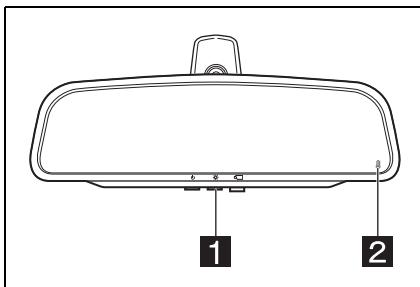
▲警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

■バックモニター付きインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ、それぞれの違いを認識した上で安全運転を心がけてください。

各部の名称



1 液晶輝度スイッチ

ディスプレイの明るさを調整します。

2 温度異常ウォーニング

バックモニター付きインナーミラーの温度が非常に高いときに表示されます。

モードを切り替えるには

知識

■デジタルミラーモード「近接後方（小画面）」

シフトレバーを「R」位置にするとインナーミラーの左側に「近接後方」が小さく表示されます。

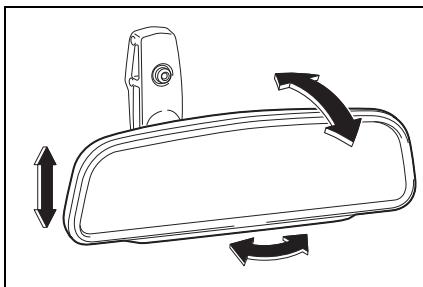
■デジタルミラーモードについて

- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。
 - ・映像の色と実際の色が異なって見える。
 - ・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える。
 - ・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する。
- バックモニター付きインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間が掛かる場合があります。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすことがあります。

調整をするには

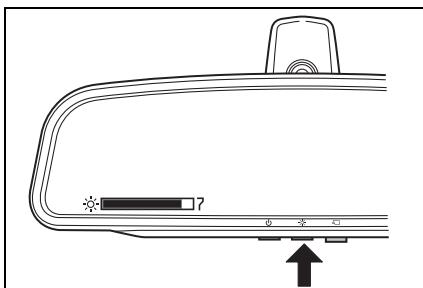
■ミラー本体の調整

インナーミラー本体を持ち、運転姿勢にあわせてインナーミラーを調整します。



■モニターの調整（デジタルミラーモード）

輝度スイッチを押して、モニターの明るさを調整します。



知識

- 明るさは尾灯がON、OFF それぞれの状態で調整できます。
- 明るさは8段階で調整することができ、エンジンスイッチを「ON」から「OFF」にしても明るさのレベルは記憶されます。
- 初期設定は、尾灯ON時はレベル3、OFF時はレベル8となります。

- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。

▲警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な障害に及ぶか、最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

- バックモニター付きインナーミラーをお使いになる前に
 - 走行前にミラーの調整を行ってください。
 - モニターに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

■走行中の注意事項

- 走行中はミラーの位置やスイッチ操作をしないでください。バックモニター付きインナーミラーの操作スイッチは安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作するとハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。デジタルミラーモード使用時は、モニター上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。夜間など暗いところで後続車が接近した場合は、周囲が暗く映る場合があります。
- シフトレバーを「R」位置に操作しても映像が切り替わらなかったり、ミラーのスイッチで操作ができない場合、配線やミラー本体の故障の恐れがあります。車両後方の映像が表示されず危険なためトヨタ販売店の整備工場で点検を受けてください。

お手入れについて

■ バックモニター付きインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見にくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそつとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像が得られません。水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着したときは、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

△ 注意

■ バックモニター付きインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

バックモニター付きインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

- カメラ部は取り外し・分解・改造をしないでください。

- カメラレンズを水で洗うときは大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

- カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

- 寒いときにお湯をかけるなど、急激な温度変化を与えないでください。

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになつたときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

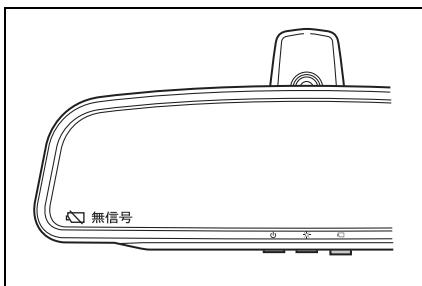
処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 |
|----------------------|--|---|
| ディスプレイに表示される映像が見にくい。 | <p>ミラー表面が汚れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強い光（太陽やヘッドラップの光）がバックモニター付きインナーミラーに当たった。 ・ 夜間暗いところで使用した。 ・ テレビ局、放送局、発電所、漁港など強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した。 ・ カメラの付近温度が高いまたは低い。 ・ 外気温が低い。 ・ 太陽光やヘッドラップの光が直接カメラレンズに当たった。 ・ 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した。 ・ 排気ガスが映りこんでいる。 | <p>乾いたやわらかい布などで汚れをそつとふき取ってください。</p> <p>カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。</p> |
| ディスプレイに表示される映像が見えない。 | <p>カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物が付着している。</p> | <p>大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。</p> |
| 荷台のあおりが下がっている。 | | 荷台のあおりを閉めてください。 |

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|----------------------------|---|
| ディスプレイに表示される映像がずれている。 | カメラ部に強い衝撃が与えられた。 | トヨタ販売店で点検を受けてください。 |
| カメラスイッチが点滅する。 | システムに異常が発生した。 | トヨタ販売店で点検を受けてください。 |
| ディスプレイに「  」が表示されている。 | バックモニター付きインナーミラーの温度が非常に高い。 | ミラーの温度下げるために車室内の温度を下げるなどを推奨します。ミラーの温度が下がると「  」が消えます。ミラーの温度が下がっても「  」が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。 |

警告メッセージについて

バックカメラの接続不良や電源供給に不具合が発生したとき、モニターに警告メッセージを表示します。バックモニター付きインナーミラーは不具合を検知して7秒後にシステムをOFFにし、鏡面ミラーへ移行します。



自己診断機能について

バックモニター付きインナーミラーは不具合を検知すると、カメラスイッチを点滅させ、運転者に通知します。

■LCDパネルモジュールのオーバーヒート

- カメラスイッチ部が3回点滅します。

- LCDパネルが非常に高温となり、異常が発生しています。

■LEDドライバーおよびバックライトエラー

- カメラスイッチ部が4回点滅します。

- LEDドライバーに異常が発生しています。

■LCDパネルモジュール故障

- カメラスイッチ部が5回点滅します。
- LCDパネルに異常が発生しています。

■バックカメラ入力信号異常

- カメラスイッチ部が6回点滅します。
- バックカメラからの映像に異常またはケーブルの断線が発生しています。

■バックカメラ電源供給異常

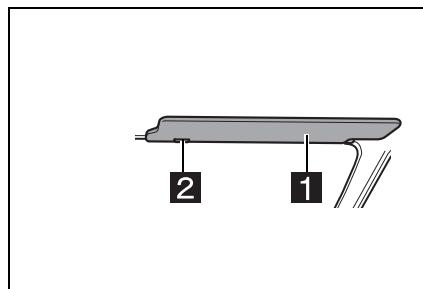
- カメラスイッチ部が7回点滅します。
- バックカメラへの電源供給が過負荷またはケーブルのショートが発生しています。

■システム異常

- カメラスイッチ部が8回点滅します。
- LCDパネル内部の通信異常が発生しています。

サンバイザー

直射日光から目を保護します。
角度を自由に変えて使用します。
ドアガラス側に回すことにより
サイドバイザーとしても使用できます。



1 サンバイザー

2 フック

* フロントガラスでサンバイザーを使用するときは、必ずフックに掛けてください。

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが「ACC」または「ON」位置のとき、市販されている 12V の電気器具を接続し使用することができます。



- 12V 電気器具のプラグを接続し、使用することができます。
 - 使用するときは 12V ソケットのキャップを開けて、電気器具のプラグを接続します。
- * 24V 電気器具は使用しないでください。

● ヒューズ類は必ず既定のアンペア (15A) のものを使用してください。また、ヒューズの代わりに針金や銅線を使わないでください。規定アンペア以上のものを使用すると、配線の過熱などによる火災の原因になります。

- 故障やショートの原因となりますのでソケット部に異物をいれたり、水や液体をかけないでください。また、使用しないときはフタを必ず閉じてください。
- エンジン停止した状態で電気器具を使用するとバッテリーあがりを起こす原因となります。

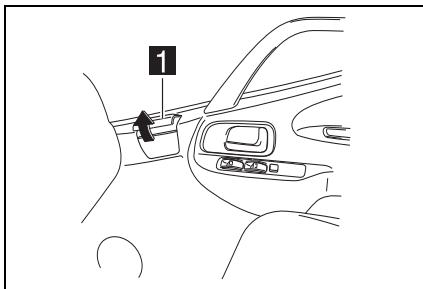
▲警告

- 許容負荷は 12V ソケットが 10A (12V-120W) です。許容負荷以上で使用するとヒューズの早期切れまたはソケットおよび配線が過熱して火災の原因になります。
- ソケット、コネクターの電源は 12V です。電源の合っていない電気器具を使用すると器具が過熱し、故障や火災の原因になります。
- ソケットの金属部分に触れないでください。過熱し、やけどをするおそれがあります。

灰皿★

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 前部席のドア側

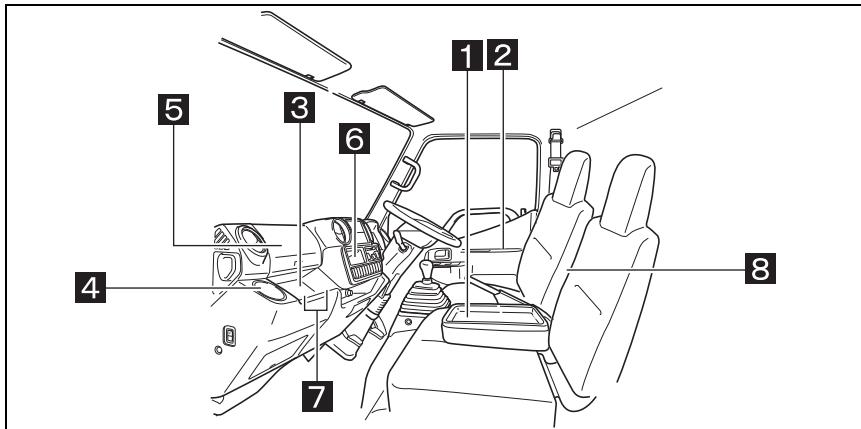


1 灰皿

▲警告

- 火災を防ぐために以下のことを必ず守ってください。
- マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿に入れてください。吸いがらに延焼して火災の原因になります。
- 使用後は必ずふたを閉めてください。
- 灰皿の中には吸いがら以外の物（特に紙くずや空箱などの燃えやすいもの）を入れないでください。
- 灰皿の中には吸いがらをためすぎないでください。
- 火のついたタバコや吸いがらなどは絶対に窓の外に投げ捨てないでください。道路を汚すばかりでなく、火災の原因になります。

コンソールボックス類



1 シートバックトレイ*

2 ドアポケット

3 オープントレイ

4 ボトルホルダー

5 アッパーボックス

6 物入れ

7 フック

8 シートバックポケット

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

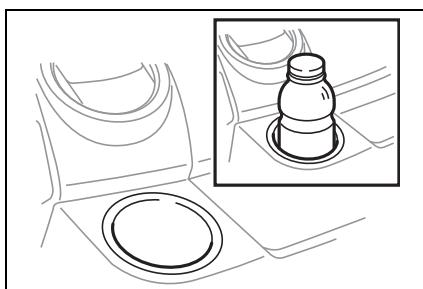
* コンソールボックス類はお車の仕様により異なります。

* ボックス類のドアを開けた状態で走行しないでください。

* ボックス類の中に高温で危険になるもの（ライター、強燃性スプレー缶、ペットボトルなど）や、変形するおそれがあるものは入れないでください。

ボトルホルダー

- ペットボトルなどのボトル類を入れて使用します。
- キャップ付きボトル以外は置かないでください。



▶ リヤクーラー付き車（ダブルキャブ車）

ボタンを押すと、ボトルホルダーが展開します。使用しないときは収納してください。



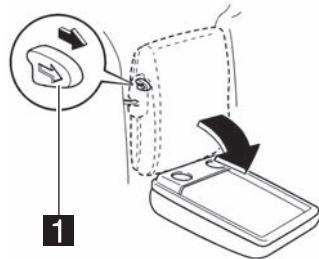
TH16-023A

シートバックトレイ★

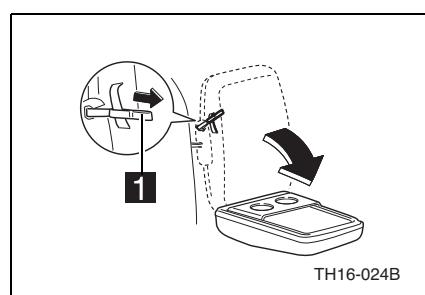
* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

使用するときは、ロック解除レバーまたはロック解除ストラップを引いて、背もたれを前に倒します。

▶ 標準キャブ車



1 ロック解除レバー

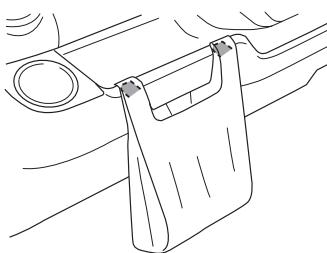


1 ロック解除ストラップ

買い物フック

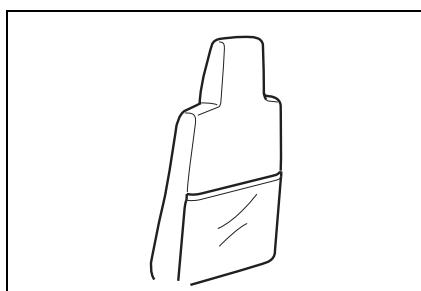
コンビニ袋やゴミ袋などをかけて使用します。

* 買い物フック（2カ所）の耐荷重は各1kg以下です。



シートバックポケット

雑誌などを入れて使用します。



▲警告

■コンソールボックスについて

走行する前にシートバットレイが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定していないと急ブレーキをかけたときなどにシートバットレイが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ボトルホルダーについて

- ボトルホルダーには、キャップ付きボトル以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。
- 急ブレーキをかけたときや衝突時に、ボトルホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。ボトルホルダーを使用しないときは収納しておいてください。
- キャブチルト操作をするときは、ボトルホルダーに飲料などがないことを確認してください。電気部品などにかかると故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

△注意

■シートバットレイについて

シートバットレイの上に乗ったり、大きな力を加えないでください。損傷するおそれがあります。

■ボトルホルダーについて

破損するおそれがあるため、ボトルホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

正しい運転操作

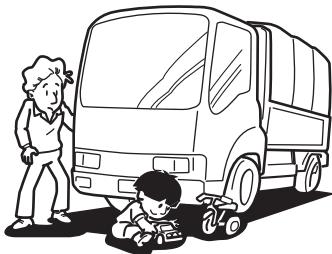
9

| | |
|----------------|--------|
| 発進前の準備 | P.9-2 |
| 走行時の注意 | P.9-4 |
| 駐・停車時の注意 | P.9-11 |
| 積荷 | P.9-12 |

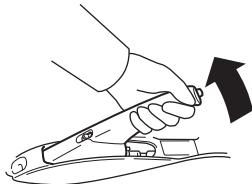
発進前の準備

エンジン始動前の準備

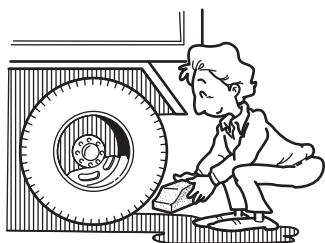
- 乗車する前に、車の周りに人や障害物がないことを確認する。



- パーキングブレーキが確実に効いていることを確認する。



- タイヤの前後に輪止めが掛けてある場合には外す。



- 正しい運転姿勢がとれるようにドライバーシート、ハンドルを調整する。



- 後方や側方および直前・直左の状況が十分に確認できるように、各ミラーを調整する。



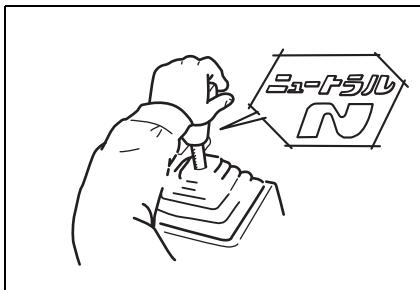
- シートベルトを正しく着用する。



- 不要なランプやアクセサリー類のスイッチを切る。



8. シフトレバーを「N」(AT車は「P」)の位置にあることを確認する。



要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。

▲警告

■スターターキーについて

スターターキーを抜いたまま、または「LOCK」の位置にしたままで絶対に走行しないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

■エンジン始動について

万一の急発進にそなえ必ずドライバーシートに座りエンジンをかけてください。(→P.9-2)

エンジンの始動・暖機

- * エンジンの始動方法には、「通常またはエンジンが暖まっているとき」と「寒冷時にエンジンをかけるとき」があります。(→P.5-3)
- * エンジンの暖機運転 (→P.5-50)

メーターパネル内の確認、レバー操作

以下の条件で発進してください。

1. 水温計の針が適正温度域内を指示
2. 警告灯消灯
3. パーキングブレーキレバーは完全に戻す
4. クラッチの損傷を防ぐため1速で発進してください。また、必

走行時の注意

走行中は次の点に注意するほか、異常が認められたら、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。なお、原因が不明なときや整備が困難なときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

走行中の注意

- エンジンスイッチは「ON」の位置以外にしないでください

警告灯類・メーター類の電気回路が作動しないだけでなく、電気部品をこわすおそれがあります。

- 各警告灯（赤ランプ）が消えているのが正常です

点灯またはブザーが鳴ったら、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。

- シフトレバーの操作は、ゆっくり行ってください

急発進・急停車は、緊急のとき以外はできるだけ避けてください。

- 各ミラーは、常に車両の直前・直左・側方・後方の状況が十分に確認できる位置に調整してください

- 異音・異常振動・異臭に注意してください

異常を認めたときはただちに安全な場所に停車させて点検してください。

- 過負荷運転はしないでください

過負荷状態で長時間運転すると、車両各部に悪影響をおよぼします。

- エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- ・ アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

- ・ ブレーキオーバーライドシステム作動中は、コンビネーションメーター内のインジケーターが点灯します。

- 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）（装着車のみ）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

- ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）この場合、コンビネーションメーター内のインジケーターが点灯します。

- ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

- * 状況によって操作できない場合があります。

ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新設などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

- 最大積載量を守ってください

過積載は法律で禁じられているだけでなく、車両各部に悪影響をおよぼしたり、事故の原因にもなります。

- 走行中は絶対にエンジンを止めないでください

- ・ ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

- ・ パワーステアリングが作動しない状態となり、ハンドルが急に重くなります。

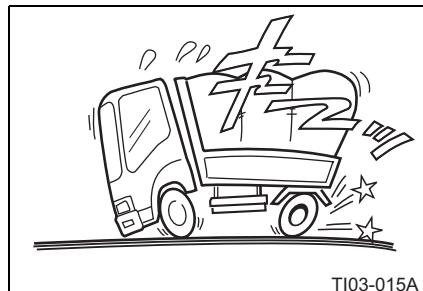
- クラッチペダルを踏んだまま、またニュートラルのまま走行しないでください
- ・ エンジンブレーキが効かなくなります。
- ・ クラッチペダルに足を乗せたまま運転しないでください。
- 半クラッチは、できるだけ使わないでください

クラッチを摩耗させる大きな原因になります。

- カーブを曲がるときは、あらかじめ減速してください
- ・ 内輪差に注意し、狭い街中などではアウターミラーにより十分後方・側方を確認してください。
- ・ ハンドルを切りながら強くブレーキをかけると、タイヤがスリップし、車両の最後部が流れたりすることがあります。
- ・ 滑りやすい路面（ぬれた路面・凍結路面・雪路など）では、スリップして方向を失いややすくなりますので、ブレーキのかけ方には注意してください。
- ・ 急ハンドルはタイヤを摩耗させるばかりでなく、車両の横転やスピンの原因になることがあります。
- ・ ハンドルが急に重くなるなど、異常を認めたときは、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。

■ 急ブレーキ

- * 緊急時はブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。急ブレーキがかかり急停車します。



下り坂の走行

■ 下り坂

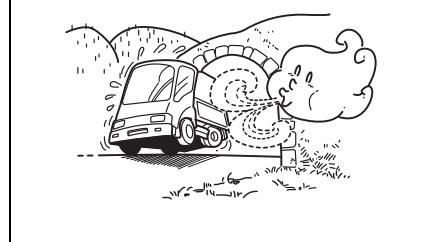
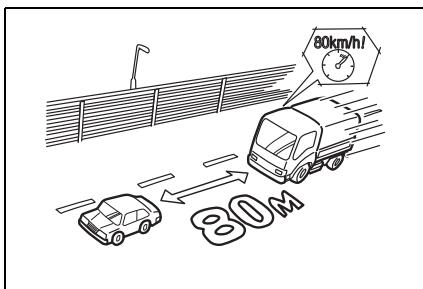
- 急勾配や長い坂道を下るときは、あらかじめブレーキをかけ、ブレーキが正常に作動することを確認してください。
- 下り坂では上り坂と同じ変速段を使用し、エンジンブレーキを有効活用し、必要に応じてフットブレーキを併用して、スピードの出しすぎに注意してください。また、これによりフットブレーキの負担を少なくすることができます。
- 下り坂ではエンジンをオーバーランさせないように注意してください。
- シフトダウンするときは、十分減速してからギヤチェンジを行ってください。

高速道路の走行

高速道路では、一般道路と比較して、ほとんど支障のないような小さな原因でも大事にいたるおそれがあります。

安全運転を心掛けるとともに、次のことを守って走行してください。

- 日常（運行前）点検を確實に行ってください。燃料、冷却水、エンジンオイル、Vベルト、タイヤは念入りに点検してください。（→P.12-1）
- シートベルトは必ず着用してください。
- 本線へ進入するときは、方向指示灯で早めに合図し、加速車線で十分加速しながら、後方および本線上の車の流れを十分確認してください。
- 高速走行は、速度に対するスピード感が大幅に鈍くなります。速度は常にスピードメーターにより確認してください。
- 高速では、わずかなハンドル操作でも車は大きく移動します。ハンドルは徐々に操作してください。
- 車間距離は十分とってください。
- 車間距離は少なくとも速度（km/h）を距離（m）におきかえた数値をあけてください。80km/hで走行しているときは80mの車間距離をとるようにします。また、レーンを変更するときは、特に後続車に注意し早めに合図してください。
- 雨天時はスピードを控えめにしてください。スリップを起こしたりタイヤが浮いてハンドルやブレーキがきかなくなるハイドロプレーニング現象が発生することがあります。
- 急ブレーキはスピンやスリップを起こしやすく非常に危険です。
- 急ブレーキをかける必要のない運転を心掛けてください。
- フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱し、フェード現象、ベーパーロック現象の発生やブレーキドラムまたはディスクローターおよびライニングまたはパッドそのほかの部品の早期摩耗・寿命短縮を招きます。
- エンジンブレーキを効果的に使い、必要に応じてフットブレーキを使用するように心掛けてください。
- 横風に注意してください。特にトンネルの出口付近や切り通しを出たとき、横風を受けて車体が流されることがあります、あわてずに速度を下げながら徐々に進路を修正してください。

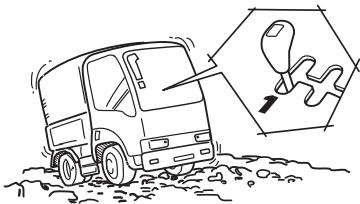


- 本線から出るときは、合図を早めに行いエンジンブレーキを有効活用し、必要に応じてフット

ブレーキなどを併用し、適切にシフトダウンをしながら減速して、減速車線に移動してください。

悪路の走行

砂利道、泥道などは低速ギヤでゆっくり走行してください。



悪天候時の走行

● 雨の降りはじめは、特にスリップしやすく危険です。車速を落とし、急ブレーキを避けて、十分注意しながら走行してください。



- 水たまりを走行すると、ブレーキの効きが低下することがありますので、注意してください。
- 霧のときは、フォグランプを点灯させ、センターラインや前方をよく確認し、低速で走行してください。

● 雪路または凍結路を走行するときは、タイヤチェーン、スノータイヤ、スタッドレスタイヤなどを装着し、スピードを控えめにしてください。



● 雪路または凍結路では、スリップしやすく危険です。急ブレーキや急ハンドル操作は避け、車間距離を大きくとり、十分注意しながら走行してください。

ABS付き車の運転上の注意

ABSは決して万能な装置ではなく、限界を超えた走行・停止を可能とするものではありません。

運転する場合は、次の注意事項に留意の上、安全運転を行ってください。

- ABSは、滑りやすい路面上での制動距離を短くする装置ではないため、ABS付き車であっても滑りやすい路面上では通常の乾燥舗装路に比べ制動距離は長くなります。深い雪・砂利道などではABSが作動すると、ABSが付いていない車よりも制動距離が若干延びることもあります。
- 路面の状態とタイヤの状態（タイヤの種類・摩耗状態など）を常に考慮し、安全運転を守り、

車間距離を適正に保って走行してください。

- ABS は車両の発進、加速、旋回など制動時以外で生じる車輪のスリップには働きません。また、非常に滑りやすい凍結した路面などでは、タイヤのグリップ力が低下し、ハンドルが適正に切れず、車両が不安定となることがあります。常に、路面およびタイヤの状態に合った安全速度を守って走行し、急ブレーキを避けるようにしてください。
- 非常に滑りやすい凍結した路面などでは、強いエンジンブレーキを働かせると、駆動輪がロックし、車両が不安定となることがあります。（この場合には、ABS は作動しません）このようなときは、クラッチを切るか、シフトレバーを「N」の位置にし、駆動輪へのエンジンブレーキの作用を一度断った後、適正なレバー位置にして走行してください。
- ABS が作動すると、ハンドルに若干の振動（特に、左右輪の路面状態が異なる場合）および取られを感じことがあります。また、ABS 機器から作動音が発生します。これらは、異常ではありません。あわてずに、適切なハンドル操作を行ってください。
- ブレーキペダルを踏んだとき、作動音とともにペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象で異常ではありません。

さらにブレーキペダルを強く踏み続けてください。

- ABS が装着されていない車両と同様、タイヤの状態と路面の状態を常に考慮し、安全速度を守り、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、安全運転を心掛けてください。
- 指定サイズ以外のタイヤを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

TRC 付き車の運転上の注意

TRC は決して万能な装置ではなく、限界を超えた走行を可能とするものではありません。

運転する場合は、次の注意事項に留意の上、安全運転を行ってください。

- TRC 付き車は、滑りやすい路面において発進・加速時のタイヤの空転を抑え、駆動の確保を補助しますが、タイヤのグリップ力が上がるわけではありません。
- TRC が作動すると、アクセルペダルを踏み込んでいてもエンジン回転数が低下することがありますが、TRC のエンジンコントロールが作動するため、異常ではありません。
- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。
- 指定サイズ以外のタイヤを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

👉 アドバイス

■ TRC を装着していてもアクセル、クラッチの急な操作は避けてください
特に、滑りやすい路面での発進は TRC を装着していない車と同様に半クラッチを効果的に使い、静かに発進してください。

📖 知識

■ エンジンブレーキとは

走行中、アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力です。

* 低速ギヤほどよく効きます。

■ フェード現象とは

ブレーキの摩擦面が過熱すると摩擦力が減少するため、同じ力でブレーキペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象です。

■ ベーパーロック現象とは

ブレーキの摩擦熱によりブレーキ液が過熱されて沸騰し、気泡が発生して、ブレーキペダルを踏み込んでも気泡を圧縮するだけでブレーキ力にならない現象です。

■ オーバーランとは

エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることです。

* 各部に無理が生じてエンジンなどを破損することになります。

■ ブレーキアシストとは

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ ハイドロブレーニング現象とは

路面が水でおおわれているときに高速で走行すると、ある速度以上になると水上スキーのようにタイヤが水の膜の上を滑走する状態になり、操縦不能になることをいいます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

雪路などの滑りやすい路面で急ブレーキをかけても車輪がロックしないようにし、車両の尻ぶりなどを抑え車両を安定した状態で停止しやすくする装置です。

■ TRC（トラクションコントロール）とは

雪路・氷結路などの滑りやすい路面で、駆動輪の空転を減少させ、発進・加速性、直進性、登坂性の向上によりドライバーの負担を減らし、走行安定性を確保しようとする装置です。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）とは

急なハンドル操作や旋回時に発生する車両の横滑りやロール現象を軽減する装置です。

⚠ 警告

■ エンジンブレーキを併用してください

フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して「フェード現象」や「ベーパーロック現象」を起こし、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

■ シフトレバーを「N」位置で走行しないでください

エンジンブレーキが働かないのでフットブレーキの効きが悪くなります。

■ 急ブレーキをかけるときは十分注意してください

停車時強いショックを伴います。

■緊急時以外は急ブレーキをかけないよう心掛けてください

急ブレーキを使いすぎると、タイヤ、ブレーキドラム、ディスクローター、ライニング、パッド等の部品の早期摩耗を起こし、寿命を非常に短くします。

■ハンドルの切り方に応じたブレーキをかけるようにしてください

旋回中の急ブレーキはスピンなどの原因になります。

■ペダルを踏み続けてください

ブレーキアシストが作動してブレーキペダルが大きく動いて床まで達することがありますが、そのままペダルを踏み続けてください。

■オーバーランを起こさないように注意してください

下り坂を走行するときは、シフトダウンを1段ずつ行ってください。

■TRCを過信しないでください

TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ランプが点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

■ABSを過信しないでください

●ABSが作動した状態でも、スリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ABSは過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。

●ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロブレーニング現象が起こった場合は効果を発揮できません。

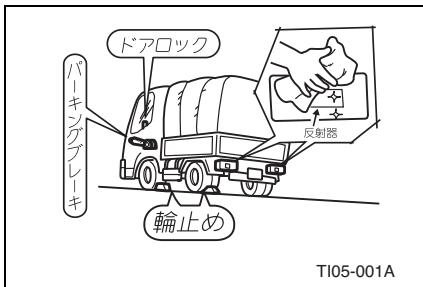
■ABSは制動距離を短くするための装置ではありません

次の場合などはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分とってください。

- ・砂利道、新雪路を走行しているとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき
- ・道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
- ・凸凹のある路面や石だらみなどの悪路を走行しているとき

駐・停車時の注意

- 駐停車が許されている場所で、かつほかの交通に迷惑をかけない安全な場所を選んでください。
- 坂道の駐車は避け、平らな場所を選んでください。坂道に駐車すると、駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず、坂道で駐車するときはパーキングブレーキを確実に効かせ、車が動かないことを確認してからタイヤの前後に輪止めをかけてください。



- 盗難防止のため、車内には貴重品を置かず、窓を確実に閉め、スターターキーを抜き取り、ドアロックしてください。
- ほかの交通から駐停車していることが良く分かるように、各ランプのレンズや反射器の汚れを良く拭き取ってください。
- レバーをいっぱいに引いた際、最後に「カチッ」というノッチ音を確認してください。
- フラットスポットを少なくするために駐車時は次の点に注意してください。
- ・ 適正空気圧、適正荷重の励行

- ・ 荷物を積んだまでの長時間駐車を避ける

| | |
|-----------------|-----------------|
| フラットスポットが発生しやすい | フラットスポットが発生しにくい |
| バイアスタイヤ | ラジアルタイヤ |
| 新品のタイヤ | 摩耗したタイヤ |

アドバイス

■ 万一のために

縁石など障害物のある方にハンドルを回しておくとより安全です。

知識

■ フラットスポットとは

特に冬期、長時間駐車して、タイヤ接地部の変形がしばらく元に戻らない現象をいいます。走り始めはゴトゴト振動しますが、5～30分の走行で元の状態に戻ります。

警告

■ 仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだり、シフトレバーを動かしたりすると事故やエンジン・排気管などの異常過熱による火災の原因になり危険です。

■ 風通しの悪い所で駐停車しないでください

周囲の状況によっては、排出ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキはいっぱいに引いてください
- パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- パーキングブレーキレバーを引いた際にレバーが正しく噛み合っていないと、レバーがずれて車が動き事故につながるおそれがあります。レバーをいっぱいに引き、最後に「カチッ」というノッチ音がすることを確認してください。
- 警告灯（（P））の点灯は、パーキングブレーキレバーの引きが十分であることを示すものではありません。レバーは常にいっぱいに引いてください。

■ 駐車するときは

坂道に駐車するときや、長時間の駐車および車両の点検・整備などの作業をするときは、危険防止のため必ずタイヤの前後に輪止めをかけてください。

■ ギヤ入れ駐車について

トランスマミッションのギヤを入れた状態で駐車する必要があるときは、パーキングブレーキを使用しエンジンが回されても始動しないように、スターターキーを抜き、さらにタイヤの前後に輪止めをかけてください。

■ 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください

走行直後は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

積荷

積荷は最大積載量以上に積まないでください。

荷の積み方

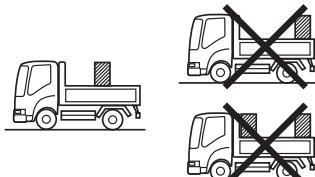
- 積荷の下にウマを用いるときは、ウマの位置に注意し均等に支えてください。



- 積荷は均等に積んでください。均等に積めない場合は極力荷台の中心付近に積んでください。



TI06-058A

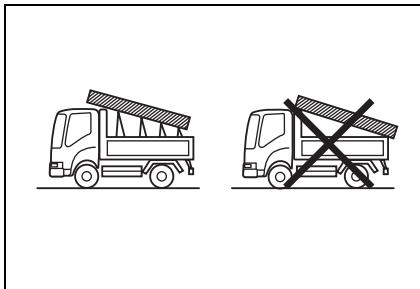


TI06-059A

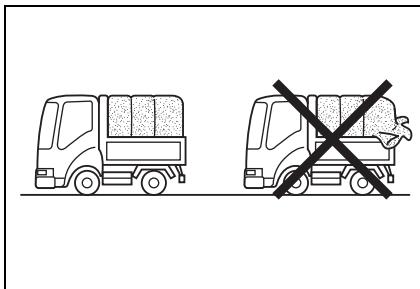


TI06-050A

- 長尺物は極力荷台後端より出さずウマを使用してください。なお、ガードフレームと荷台後端部の2点で支持するのは危険ですので避けてください。



- ロープ・シート掛けは確実に行ってください。
- * 積荷が重量物の場合は荷台に確実に固定してください。
- シート、幌などは、バタつかないようにロープなどで確実に固定してください。
- * 排気管に接触しないように気をつけてください。
- * 空気取り入れ口をふさがないように気をつけてください。シート、幌などが空気取り入れ口で吸われたときは、出力不足などが発生し、エンジン不調の原因になります。



▲ 警告

■ 過積載は法律で禁止されています

過積載をすると、通常より制動距離が延びるなど、思わぬ事故や故障の原因になります。また車両各部の損傷を早めます。

■ 積荷が滑りやすく、あるいはバランスをくずしやすいときは

積荷の滑り止めを行い、その上にワイヤーやロープで確実に荷台に固定してください。固定しないと制動時・旋回時に荷くずれを起こすおそれがあります。

■ シート端やロープをキャブと荷台の間に垂れ下げないでください

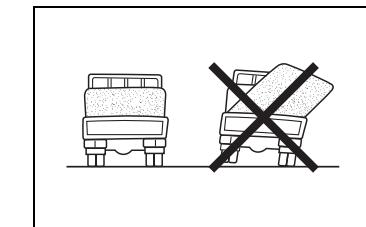
走行中、キャブと荷台の間に燃えやすいものがあると、エンジンの熱により火災の原因になります。

■ シートやロープを排気管に接触しないようにしてください

排気管の熱により火災の原因になります。

■ 荷は高く積まないでください

横風を受けたときや旋回時に車両が横転するおそれがあります。



■荷を積むときは誤った積み方をしないでください

積荷が不安定となり、荷くずれによる重大な事故の原因となるばかりでなく、集中的に荷重がかかり、荷台やフレーム周りを傷めるおそれがあります。

冬期・夏期の取り扱い

10

冬期の取り扱いP.10-2

夏期の取り扱いP.10-6

10

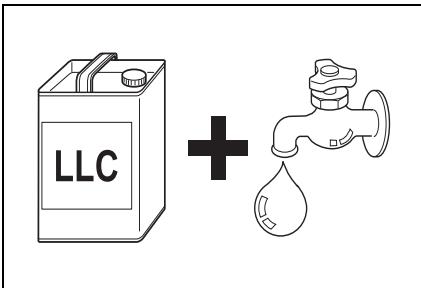
冬期・夏期の取り扱い

冬期の取り扱い

冷却水

冷却水の濃度を予想される最低外気温に合った混合割合に調整します。

* 冷却水の混合割合 (→P.13-17)

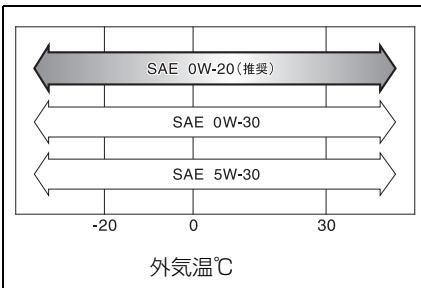


エンジンオイル

外気温が低下するとエンジンオイルの粘度が高く（硬く）なり、エンジンがまわりにくくなります。冬期に入る前に外気温に合ったオイルに交換します。

* エンジンオイルの交換 (→P.14-4)

■ エンジンオイルの粘度 (SAE 粘度)



燃料

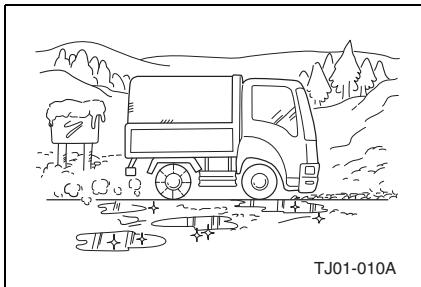
■ 軽油の凍結温度

| 燃料 | 凍結温度の目安 |
|-------------|------------|
| JIS 特 1 号軽油 | +5 °C 以下 |
| JIS 1 号軽油 | -2.5 °C 以下 |
| JIS 2 号軽油 | -7.5 °C 以下 |
| JIS 3 号軽油 | -20 °C 以下 |
| JIS 特 3 号軽油 | -30 °C 以下 |

- ディーゼル車の場合、冬期や寒冷地では燃料が凍結してエンジンが始動しにくくなることがあります。
- 通常の軽油 (JIS 2 号軽油) では約 -7.5 °C 以下になると凍結します。
- 寒冷地でかけるときは、あらかじめ現地の外気温に合ったものを補給してください。
- 上記の表は一つの目安です。バラツキもありますので、表にある温度より高い温度でも凍結することがあります。
- 特 1 号、1 号、2 号軽油を使用して冬期に寒冷地に行くと、燃料タンク内や燃料パイプ内で軽油が凍結する場合があり、エンジンの始動が困難になったり停止したりするなどの異常を生じます。
- 寒波に襲われタンクの燃料がそれに対処できるかどうか不明である場合、暖かいガレージに駐車してください。緊急用対策としてはエンジンを切らないこと。
- 適切な燃料を使用しなかった場合は、エンジン警告灯が点灯することがあります。

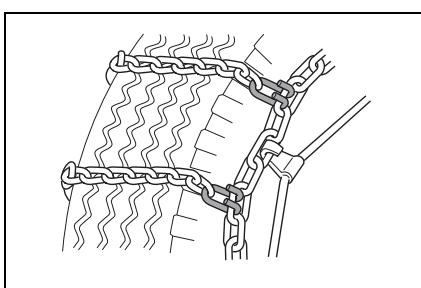
タイヤチェーンを取り付けるとき

雪路や凍結した路面またはぬかるみでは、安全に走行するためにタイヤチェーンを装着します。



1. タイヤチェーンを取り付ける前にチェーンの傷・摩耗を点検する。
2. タイヤチェーンを駆動輪に装着する。

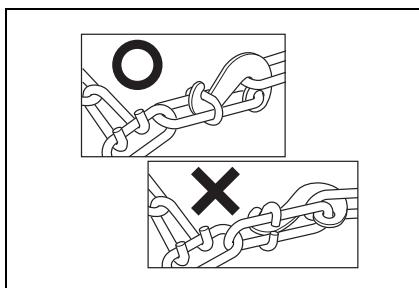
- * タイヤチェーンは必ずタイヤと同じサイズのものを使用してください。
- * フロントタイヤにはタイヤチェーンを使用しないでください。
- * タイヤチェーンは、コネクターの折り曲げ部がタイヤの外側に向くよう取り付けます。



3. 内側フックはチェーンの輪があまらないように掛け、外側に引っ張り内側チェーンのたるみ

をなくしてから外側フックを掛ける。

- * フックはタイヤ側面に対し平らになるように掛け、また、チェーンのねじれや曲がりがないことを確認してください。



4. チェーンがあまったときは、末端をワイヤーなどで固定し、ほかの部位と接触するのを防ぐ。
 5. スプリングバンドは、外側チェーンに対し3力以上バランスが取れるように掛ける。
- * ダブルタイヤに使用する場合は、ダブルタイヤ用のタイヤチェーンを使用してください。
 - * タイヤチェーンはゆるみのないように取り付け、5~10分走行後に点検し、その後も常にタイヤチェーンの取り付け状態に注意してください。
 - * タイヤチェーンを着脱するときは、タイヤ内側のハーネス・ホース・配管類に損傷を与えないように注意してください。

アドバイス

■ 燃料について

軽油を補給するときは、燃料タンクいっぱいに給油してください。

▲警告

■雪路・凍結路ではスリップに注意してください

- スタートはゆっくりスタートし、走行中は速度をひかえてください。
- 急ブレーキ・急ハンドルなど急のつく動作は厳禁です。
- 橋の上や日陰など路面が凍結しやすい場所では手前で十分に減速して通過するよう心掛けてください。
- シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横滑りするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけたままの状態で車の周りに雪が積もると排出ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するときは、風や雪がかからぬ場所を選んでください

- 車両前側がなるべく風下を向くように駐車してください。
- ブレーキ装置が凍結し、パーキングブレーキが解放できなくなるおそれがあるときは、次の順序で駐車してください。

1. 平坦な場所に停車する。
2. パーキングブレーキを確実に効かせる。
3. エンジンを止め、シフトレバーを「1」または「R」の位置にする。

(AT車は「P」の位置にします)

4. 車両が動かないようにタイヤの前後に輪止めを掛ける。

5. パーキングブレーキレバーを戻す。

■タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください

- タイヤチェーン装着時は、30 km/h またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。また、ABS 作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので慎重に運転してください。
- ダブルタイヤの外側タイヤのみシングルチェーンを取り付けないでください。チェーンが車体側にあたり走行に悪影響をおよぼし危険です。

▲注意

■冷却水

冷却水の混合割合を誤ると、冷却水が凍結してエンジンやラジエーターなどを破損させるおそれがあります。

■燃料について

燃料タンクに雪や水が入らないようにキャップを確実に締めてください。燃料に水が混じるとエンジン故障の原因になります。

■ タイヤチェーンの装着は確実に行つてください

確実に装着しないと機能低下はもとより走行中に接触・脱落して思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ タイヤチェーンを取り付けるときは、タイヤサイズに合ったものを使用してください

- タイヤサイズに合っていないタイヤチェーンを使用すると、車体側にあたり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

■ 外気温が低下するとバッテリーの性能が低下します

- バッテリー液量を点検し、完全に充電した状態で使用してください。

- バッテリーの点検 (→P.13-57)

■ バッテリー液の比重が低くなるとバッテリー液が凍結しやすくなります

- バッテリー液の比重を点検し、完全に充電した状態で使用してください。

- バッテリーの点検 (→P.13-57)

■ バッテリー液を補充したときは、必ず充電（走行）してください

バッテリー液が凍結し、ケースを破損させるおそれがあります。

■ ウィンドウォッシャー液の濃度を冬用にしてください

- ウォッシャー液の凍結は、ポンプの作動不良や故障を起こします。

- ウォッシャー液の混合割合 (→P.13-55)

■ ドアが凍結したときは、お湯をかけ、氷をとかしてください

- 無理に開けようするとドアまわりのゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。

- ドアが開いたらすぐに水分を十分拭いてください。

■ ワイパー、電動格納式アウターミラーなどが凍結したときは、お湯をかけ、氷をとかしてください

無理に動かそうとスイッチを押し続けると装置を損傷したりバッテリー上がりを起こす原因になります。

■ 予熱付き車のエンジンを始動するときは、予熱を行ってください

寒冷時のエンジンのかけ方 (→P.5-3)

■ 走行中にはね上げた雪や氷は、車に付着し氷になります

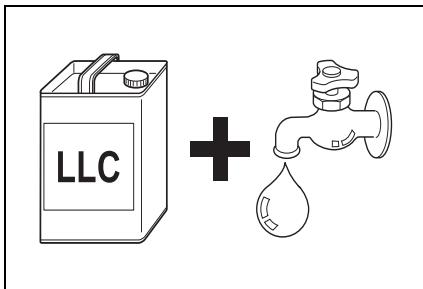
- タイヤハウスおよびリンク部やホース・パイプ類に付着した雪や氷で部品を傷つけないように取り除いてください。

- ブレーキ装置に付着するとブレーキの効きが悪くなることがありますので、時々直線路で軽くブレーキペダルを踏んで、ブレーキの効き具合を確認してください。

夏期の取り扱い

冷却水

- 夏期は特に冷却水の不足やラジエーターの汚れなどによるオーバーヒートを起こしやすくなります。
 - 井戸水や河川の水などの硬水は水あかが生じやすく、冷却水路を詰まらせて冷却効率を低下させるので使用しないでください。
- * 使用する冷却水 (→P.13-17)



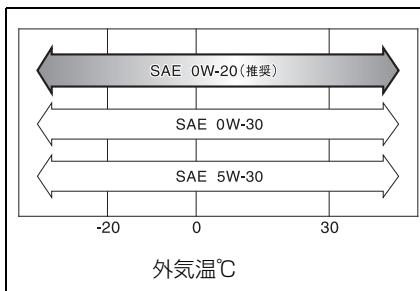
- ラジエーター前面が泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下するので点検・洗浄します。
- * 冷却水の混合割合 (→P.13-17)
 * ラジエーターコアの洗浄 (→P.13-18)

エンジンオイル

外気温が上昇すると、エンジンオイルの粘度が低く（やわらかく）なり、エンジンを十分に潤滑しなくなります。夏期に入る前に外気温に合ったオイルに交換してください。

* エンジンオイルの交換 (→P.14-4)

■ エンジンオイルの粘度 (SAE 粘度)



△ 注意

- 外気温が上昇するとバッテリー液の水分蒸発が多くなります
 - バッテリーの液量が減少しやすくなりますので、液量を点検してください。
 - バッテリーの点検 (→P.13-57)
 - エアコン用コンプレッサーベルトのゆるみ
- 滑りが生じて冷房能力が低下しますので、ゆるみがないように調整してください。
- 冷媒（ガス）が不足していると冷房能力が低下するだけでなく、エアコン故障の原因となります
 - 不足していないか点検してください。
 - 冷媒（ガス）充てん量の点検 (→P.13-53)
 - 冷媒（ガス）は HFC134a を使用しています

地球環境を守るため、大気放出しないよう修理・廃車時の処理はトヨタ販売店にご相談ください。

■エアコン用コンデンサユニット前面の泥やほこり

- ユニット前面が詰まっていると冷却効率が低下しますので点検・洗浄してください。
- コンデンサユニットの洗浄
(→P.13-54)

キャブチルト

11

キャブを上げる前の

準備 P.11-2

手動キャブチルト P.11-2

11

キャブチルト

キャブを上げる前の準備

▲警告

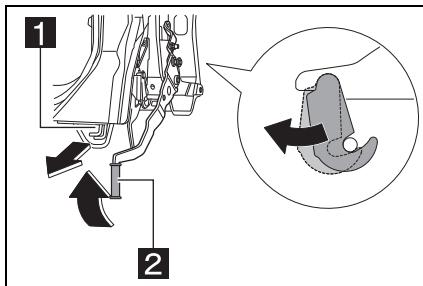
- 死亡、重大な傷害または財産損害につながるおそれがありますので、キャブを上げ下げるときは、必ず以下の内容を守ってください
- 平坦でキャブの周りに充分なスペースがある場所に停車してください。
- シフトレバーを「N」(AT車は「P」)の位置にし、パーキングブレーキを確実に効かせてからエンジンを止め、タイヤの前後に輪止めをかけてください。
- 走行直後は、ロック、ストッパー、ステーや、ラジエーター、エキゾーストパイプ、その他エンジン周辺部品が熱くなっている可能性があります。これらの部分が冷めたことを確認してから作業を行ってください。
- キャブ内やルーフ上の物品を取り除き、ドアを確実に閉めてください。
- ルーフ上に重量物が取り付けられている場合は、一人で作業を行わないでください。
- キャブ内やキャブ周りに人や障害物がないことを確認してください。
- キャブ内に缶飲料、カップ飲料、ボトル飲料がないことを確認してください。

手動キャブチルト★

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キャブの上げ方

1. レバーを手前に引いたままでハンドルを上げる。

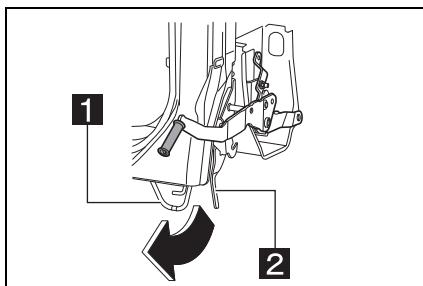


1 レバー

2 ハンドル

2. グリップを持ってキャブを保持し、ラッチを手前に引く。

* キャブが少し浮き上がります。

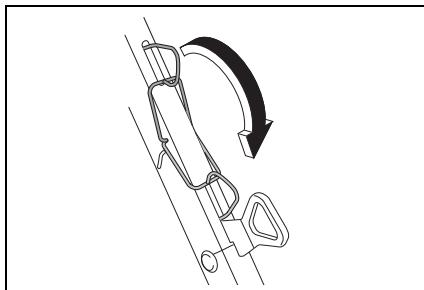


1 グリップ

2 ラッチ

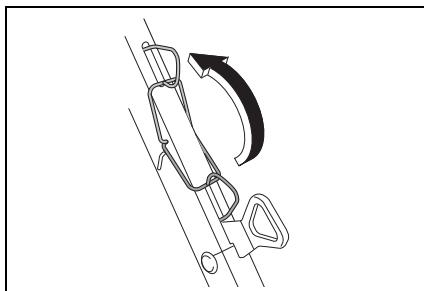
3. ロックが確実にかかるまで、グリップを持ってキャブを上げる。

4. ステーにストッパーを確実にかける。

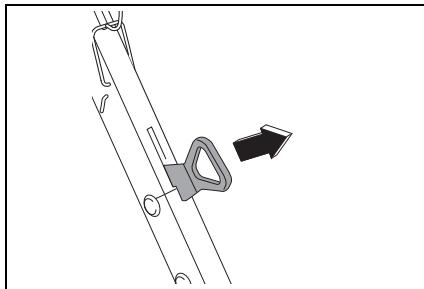


キャブの降ろし方

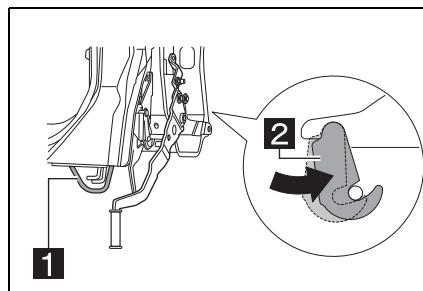
1. ストッパーを外す。



2. ロックを外す。



3. ラッチが確実にかかるまで、グリップを持ってゆっくりとキャブを下げる。



1 グリップ

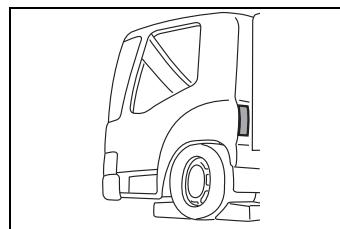
2 ラッチ

4. ハンドルを確実にロックするまで下げる。

アドバイス

■ ラベルが貼ってあります

記載事項をよく理解してから操作してください。



▲ 警告

■ 死亡、重大な傷害または財産損害につながるおそれがありますので、キャブを上げ下げる際には、必ず下記を守ってください

- 走行直後は、ロック、ストッパー、ステーや、ラジエーター、エキゾーストパイプ、その他エンジン周辺部品が熱くなっている可能性があります。これらの部分が冷めたことを確認してから作業を行ってください。

- ルーフ上に重量物が取り付けられている場合は、一人でキャブの上げ下げを行わないでください。
- キャブを上げ下げしている最中は、キャブの下に体を入れないでください。
- キャブを上げたあとは、ロックが確実にかかっていることを確認し、ストッパーを倒し、ロックに必ずかけてください。
- キャブチルトした状態でキャブのドアを開けないでください。
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。
- ハンドルを持ってキャブを下げないでください。
- キャブを下げる前に、キャブの下に工具やグローブなどの置き忘れがないことを確認してください。
- キャブを下げたあとは、ハンドルを確実にロックするまで下げてください。
- キャブチルト警告灯が点灯した場合は、ただちに車を安全な場所に止めてから、キャブを確実にロックしなおしてください。
- キャブをロックして消灯すればそのまま走行できます。消灯しない場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店へご連絡ください。

日常（運行前）点検

12

- 点検にあたっての注意 ... P.12-2
- 前日または前回運行中の
異状箇所 P.12-3
- ランプの汚れ・損傷 P.12-3
- ※ エンジンオイルの量 .. P.12-4
- ※ 冷却水の量 P.12-5
- ※ Vベルトの
緩み・損傷 P.12-7
- ※ バッテリー液の量 P.12-7
- タイヤの空気圧 P.12-8
- タイヤの亀裂・損傷 P.12-9
- タイヤの異常な摩耗 P.12-9
- タイヤの溝の深さ P.12-10
- ブレーキ液の量 P.12-11
- パーキングブレーキの
引きしろ P.12-11
- ※ エンジンの
かかり具合・異音 P.12-12
- ※ ウィンドウォッシャーの
液量・噴射状態 P.12-12
- ※ ワイパーの
拭き取り状態 P.12-13
- ランプ類の作用点検 P.12-15
- ブレーキペダルの
踏みしろ P.12-16
- ブレーキのきき具合 P.12-17
- ※ 低速・加速の状態 P.12-18

いつも安全で快適にご使用していただ
くため、運転する前に必ず日常（運行
前）点検を行い、異状がないことを確
認してください。

点検時、異状があるときはご自身で整
備するか、あるいはトヨタ販売店で整
備を受けてからご使用ください。

なお、道路運送車両法により使用者ま
たは運行する人は、この日常（運行前）
点検が義務づけられています。

※ の点検項目は、走行距離、運行時の
状態から判断した適切な時期に行って
ください。

点検にあたっての注意



知識

■ 交換後のオイル・冷却水・各種部品類の廃棄処理は

環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。

▲ 危険

■ 点検にあたって

- バッテリーの点検取り扱い時には、端子部との接触によるショートが起きないように十分注意してください。感電、爆発などのおそれがあり危険です。
- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。引火すると爆発するおそれがあり危険です。

▲ 警告

■ 点検にあたって

- 人や交通のさまたげとなる場所や傾斜地での点検は行わないでください。
- パーキングブレーキは確実に効かせ、シフトレバーを「N」(AT車は「P」)の位置にし、さらにタイヤの前後に輪止めをかけてください。パーキングブレーキが確実に効いていなかつたり、タイヤの前後に輪止めをしていないと車両が動き出し思わぬ事故の原因になります。
- ボデーの端部などでケガなどしないように軍手などを使用してください。

- キャブチルトやエンジン点検口を開けて点検するときは、安全に十分注意してください。（→P.11-1、3-10）

- 車をジャッキアップするときは、適切なジャッキを使用してください。

- 車載工具のジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外に使用しないでください。

- 換気の不十分な車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。排出ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

- エンジン停止直後は、排気管・ラジエーターなど高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。

■ キャブチルトやエンジン点検口を開けて点検するときは

- 必ずエンジンを止めてください。エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬケガをするおそれがあります。

- エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。

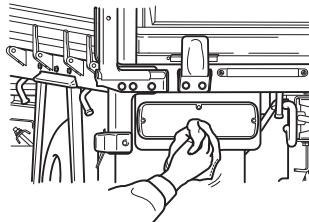
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。

前日または前回運行中の異状箇所

前日までの異状が使用時に引き続きあり、ご自分で整備できないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ランプの汚れ・損傷

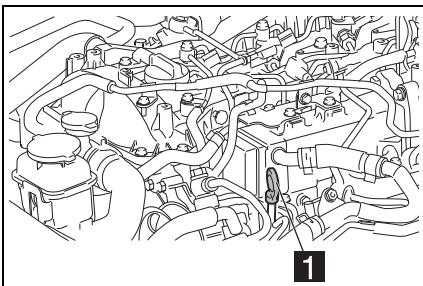
- 各ランプ類、レンズ、および反射器（リフレクター）に汚れや変色または損傷などがないかを点検します。
- 汚れているときは清掃し、損傷しているときは交換してください。（→P.15-16）



エンジンオイルの量

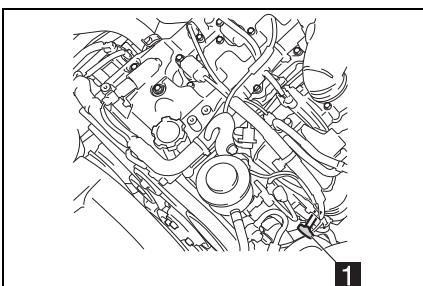
1. オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを布で拭き取る。

▶ ディーゼル車



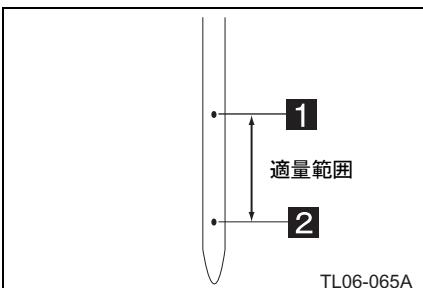
1 オイルレベルゲージ

▶ ガソリン車



1 オイルレベルゲージ

2. 再びいっぱいに差し込み、静かに抜き取り、油量を点検する。



1 フルレベル

2 ローレベル

* フルレベルとローレベルの範囲内に付着すれば良好です。

* 不足しているときは、補給します。
(→P.14-4)

* オイルが著しく汚れている場合は、オイル交換してください。

* オイルレベルゲージが差し込みづらい場合は、グリップを回しながらねじ込むように差してください。

* 差し込み後は、ゲージが浮いていないことを確認してください。(浮いている場合は、少し引き抜き、再びいっぱいに差し込んでください。)

3. 点検後は、オイルレベルゲージをいっぱいに差し込む。

知識

■ 点検は、エンジン始動前に行ってください

始動したときは、エンジンを停止させて 30 分以上たってからオイル量を測つてください。

▲ 警告

■ 補給時にオイルをこぼさないようにしてください

● 排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。

● オイル点検の際に、エンジルーム内に布などの置き忘れないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。

■ 運転直後はエンジンが高温になっています

やけどをしないように注意してください。

⚠ 注意

- オイルレベルゲージの「フルレベル」の位置以上にエンジンオイルを入れないでください

エンジン故障の原因になります。

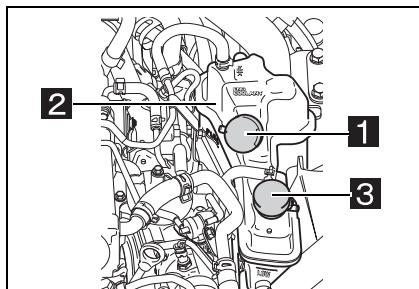
- オイル量がオイルレベルゲージの「ローレベル」の位置以下の場合、必ずエンジンオイルを補給してください

エンジンオイルが少ないと、潤滑不良となりエンジンが故障するおそれがあります。

冷却水の量

- 点検はエンジン始動前の冷却水が冷えているときに行います。
- リザーバータンク内の水量が規定の範囲内にあるかを点検します。
- ・ 「FULL」と「LOW」の線の間にあれば良好です。
- ・ 「LOW」より下の場合は、「FULL」の線まで補給してください。（→P.13-17）
- * ダブルキャブ車はマットをめくり、カバーを手前にひいてはずしてください。カバーを取り付けるときは、カバー下部のツメをはめ込み、カバー上部のツメをはめ込みます。

▶ ディーゼル車

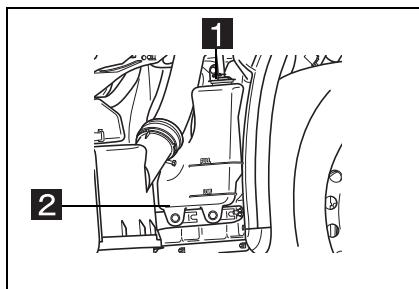


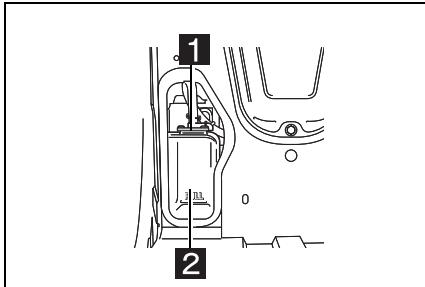
1 キャップ

2 リザーバータンク

3 キャップ（インターホークー冷却用）

▶ ガソリン車（シングルキャブ）



1 キャップ**2 リザーバータンク****▶ ガソリン車（ダブルキャブ）****△ 注意****■ 冷却水が異常に減少しているときは**

冷却水が異常に減少していたり、補給しても短期間で再び減少するときは、水漏れのおそれがありますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

1 キャップ**2 リザーバータンク****→ アドバイス****■ 水温が高いときは正確な水量が測れません**

水温が高いときに冷却水の点検を行うと温度による水の膨張で水量が正確に測れません。

■ リザーバータンク内が空のときは、ラジエーター本体の水量が不足しています

ラジエーターキャップを開けて給水してください。

△ 危険**■ 高温時は絶対にラジエーターキャップを外さないでください**

熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

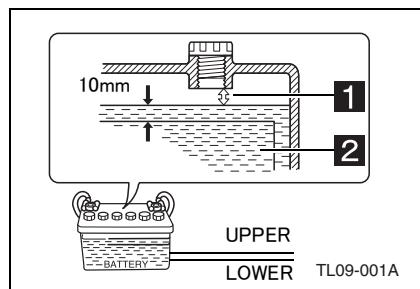
Vベルトの緩み・損傷

たわみ量の測定方法

オートテンショナーを採用していますので、ベルトのたわみ量の調整は不要です。

バッテリー液の量

- バッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が適正範囲内にあるかを点検します。
 - 液面がケース側面の「UPPER」と「LOWER」の線の間にあれば良好です。
 - 液面が「LOWER」の線より下の場合、補充液または蒸留水を補給してください。
- * レベルライン表示のないものは、液面が極板上 10 mm あれば良好です。



1 適正範囲

2 極版

アドバイス

■ 「UPPER」を超えないように補充してください

「UPPER」以上に入れるとバッテリー液があふれ、バッテリー端子などの腐食の原因になります。

■ 補充したときは、必ず充電（走行）してください

冬期はバッテリー液が凍結し、バッテリーケースが破損するおそれがあります。

▲ 危険

- 水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です

バッテリーから引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火気を近づけないでください。

- バッテリー液は皮膚や衣服に付着しないように注意してください

● バッテリー液は希硫酸ですから、皮膚や衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。もし、衣服に付着したときは石けんで十分洗い、また、万一皮膚に付着したり眼に入ったときはただちに清水で十分洗い流し医師の治療を受けてください。

● 誤ってバッテリー液を飲んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。

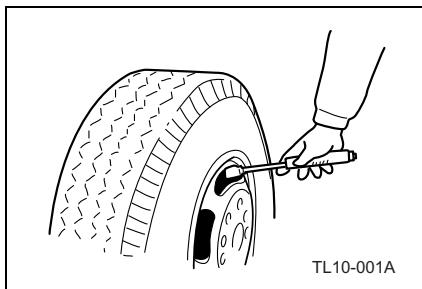
- バッテリー液量が「LOWER」レベル以下のまま使わないでください

劣化を早めたり、発熱や爆発するおそれがあります。

タイヤの空気圧

エアゲージでタイヤの空気圧を点検します。

- * 空気圧が不良のときは、標準空気圧に調整してください。
- * タイヤ標準空気圧を示したラベルがキャップの右側ドア部にあります。
- * 外したバルブキャップは、必ず取り付けてください。
- * 点検は、必ずタイヤが冷えているときに行ってください。



アドバイス

ダブルタイヤの場合、適合するバルブキャップレンチやエアゲージを使用すると点検が容易に行えます。

▲ 警告

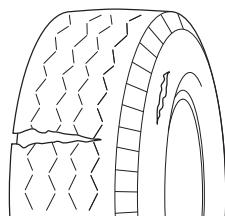
- 標準空気圧にしてください

- 空気圧が低すぎるとフラットスポットが発生したり過熱しやすく、バーストの原因になります。
- 空気圧が低すぎたり高すぎたりすると、乗り心地が悪くなったり、積荷が傷みやすくなります。また、タイヤの異状摩耗の原因になります。

タイヤの亀裂・損傷

タイヤの接地面全周や側面に亀裂や損傷がないかを点検します。また釘・石などの異物が刺さったりかみ込んだりしていないかをタイヤ全周にわたり点検します。

- * タイヤに亀裂・損傷などがあるときは、新品のタイヤに交換してください。（→P.13-32）

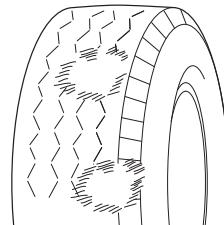


TL11-001A

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面に異常な摩耗がないかを点検します。

- * 異常な摩耗があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



TL12-001A

▲警告

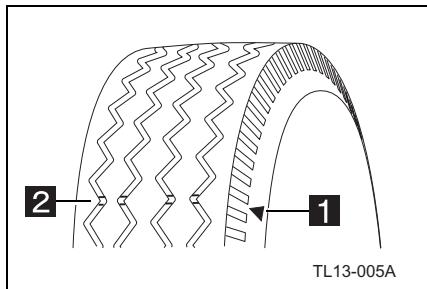
- 傷がコードに達したり、コードが露出したときは使用しないでください
本来のタイヤ強度がたもたれず
破損し、事故につながるおそれ
があり危険です。

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝が十分に残っているかを点検します。

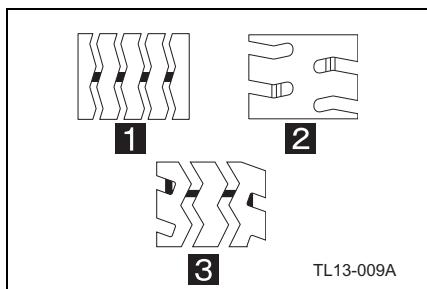
- * 残り溝が 1.6 mm になると、タイヤの▲位置にスリップサインが現れますので、新品のタイヤに交換してください。（→P.13-32）

| タイヤサイズ | 溝の深さ限度 | |
|-----------|--------|--------|
| | 高速道路 | 一般道 |
| 175/75R15 | | |
| 145/80R13 | 2.4 mm | 1.6 mm |
| 165/80R13 | | |



- 1** スリップサイン表示位置マーク
2 スリップサイン

■ タイヤパターン別スリップサイン



- 1** リブパターン
2 ラグパターン
3 リブラグパターン

▲ 警告

- スリップサイン（摩耗限度表示）が現れたときは、走行しないでください

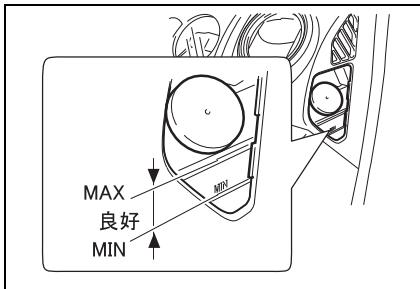
スリップし、制動距離が長くなったり、タイヤがバーストしたりしやすくなり非常に危険です。

- 高速道路を走行するときは、溝の深さを確認してください

溝の深さが規定以下のときは、危険なため走行しないでください。

ブレーキ液の量

リザーバータンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。



- * 液面が「MAX」と「MIN」の線の間にあれば良好です。
- * 「MIN」の線より下の場合、配管系に液漏れのないことを確認し、ブレーキフルードを「MAX」の線まで補給してください。（→P.14-15）

アドバイス

■ ブレーキ液の量を点検するときは、キャップを開けないでください

吸湿性が強いため、空気に触れると水分を吸収し性能が低下します。

知識

■ パッドの摩耗に伴いブレーキ液面が低下します

- 液漏れではありません。
- 必要に応じてブレーキフルードの補給を行ってください。

▲ 警告

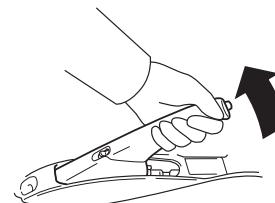
■ 液面が異常に低下しているときは、液漏れのおそれがあります

ブレーキが効かなくなるおそれがありますので、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

パーキングブレーキの引きしろ

引きしろが多すぎたり少なすぎたりしないかを、ノッチ音を聞いて点検します。

- * パーキングブレーキレバーを戻した状態から約 245 N {25 kgf} の操作力で静かに引きます。
- * レバーの引きしろが規定範囲外のときは、調整してください。（→P.13-31）



TA01-013B

レバーの引きしろ

6 ~ 10 ノッチ

- レバーを引いたときに、ラチェットが確実にかんでいるかも点検してください。
- レバーを引いた後、エンジンスイッチを「ON」の位置にし、(P)ランプが点灯するかを点検してください。

▲ 警告

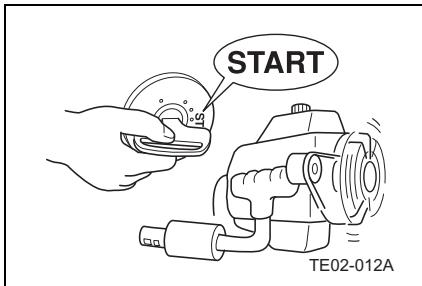
■ 点検は、ブレーキペダルを踏んだ状態で行ってください

車両が動き出すおそれがあります。

エンジンのかかり具合・異音

エンジンのかかり具合に異常はないか、またアイドリング回転で異音がないか点検します。

- * エンジンが正常にかからなかったり、異音が発生しているときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- * 寒冷時のエンジンのかけ方（→P.5-3）



アドバイス

■ 始動時にアクセルペダルを必要以上に踏まないでください

黒煙の発生につながります。

■ エンジンを始動するときは、エンジンが完全に停止している状態でエンジンスイッチの操作をしてください

注意

■ スターターを 30 秒以上連続して回さないでください

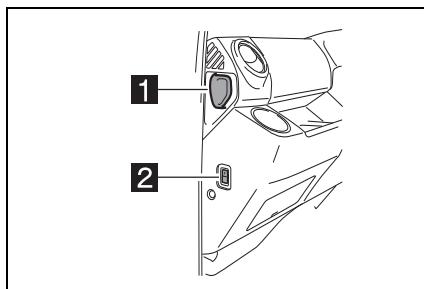
- スターターが故障したり、バッテリーあがりを起こす原因になります。

- 1 度でエンジンがかからないときは、バッテリーの機能回復のためエンジンスイッチを「ACC」の位置に戻し、20 秒以上待ってからかけなおしてください。

ウインドウォッシャーの液量・噴射状態

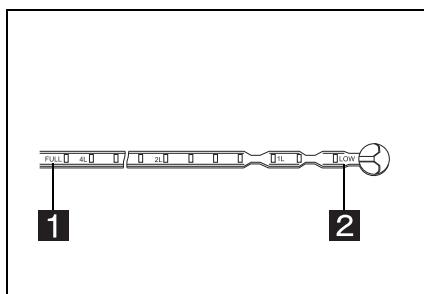
- ウインドウォッシャーの液量が不足していないかをキャップに付いているレベルゲージで点検します。

- * ウォッシャー液の補給（→P.13-55）



1 キャップ

2 満水確認窓



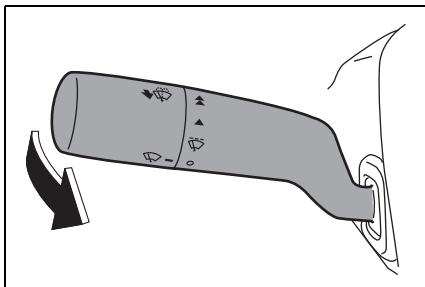
1 FULL

2 LOW

- ウォッシャー液が窓ガラスに噴射するかを点検します。

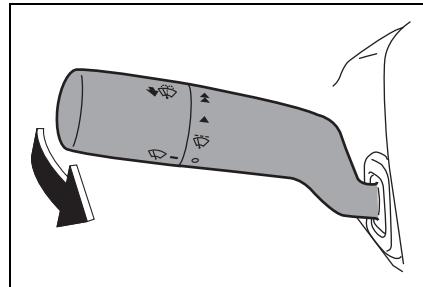
- * ノズルが詰まって噴射しないときは、細い針で清掃してください。

- * 清掃後も噴射しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



ワイパーの拭き取り状態

- ウインドウォッシャーを噴射させてからワイパーの払拭状態を点検します。
- 「INT」・「LO」・「HI」各位置にして正しく作動するか点検します。



- 払拭動作にむらやビビリがあるときはワイパーブレードを点検し、劣化している場合は新品と交換してください。

- * ワイパーのから拭きはガラス面を傷つけますので、必ずウォッシャー液を噴射してから動かしてください。
- * 作動状態が悪いときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- * ワイパーの交換（→P.13-56）

▲警告

- ウォッシャー液に、冷却液を使用しないでください

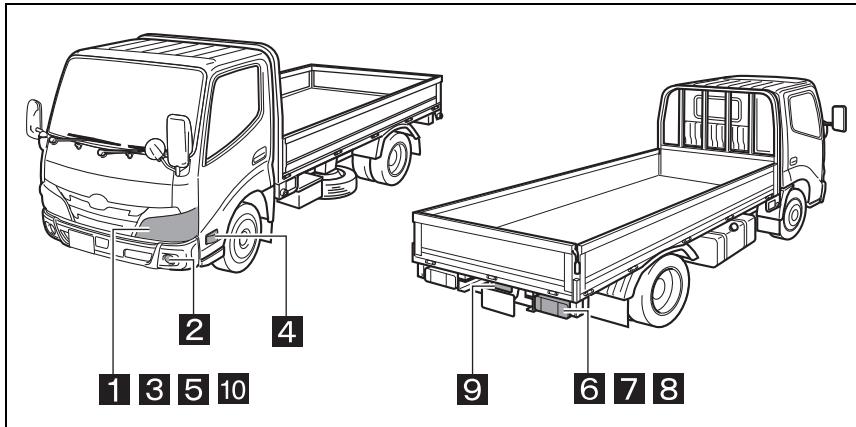
ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に妨げられ大変危険です。

 **注意**

- ワイパークリーナーのゴムがガラスに張り付いていることがあります
- 寒冷時や長期間使用していなかったときは、点検または作動前に確認してください。
- 凍結したときは、お湯をかけ氷をとかします。
- ガラスに張り付いたまま作動させるとワイパークリーナーの損傷やモーター故障のおそれがあります。

ランプ類の作用点検

- 各スイッチを「ON」にして各ランプが点灯または点滅するかを点検します。
- ブレーキペダルを踏んだとき、制動灯が点灯するかを点検します。
- 照射方向や明るさに異常がないかを点検します。



- ヘッドライト
- フォグランプ
- 車幅灯
- 方向指示灯（フロントサイド）
- 方向指示灯（フロント）
- 後退灯
- 制動灯 / 尾灯
- 方向指示灯（リヤ）
- 番号灯
- デイタイムランニングランプ

- シフトレバーを「R」の位置にしたとき、後退灯が点灯しブザーが鳴るかを点検します。
- * バックブザー減音スイッチが操作されている（表示灯が点灯している）ときは、車外のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。
- 各警告灯および表示灯の作動は正常かを点検します。エンジン

始動後、各警告灯が消えていれば正常です。

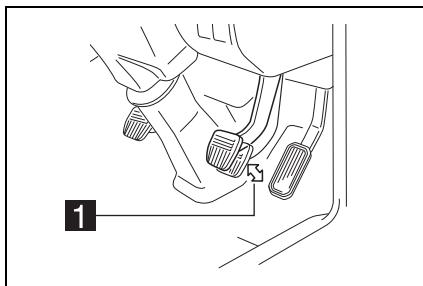
- * 点検時、点灯や点滅しないときは、球切れやヒューズ切れなどが考えられますので、点検し、不具合部品を交換してください。
- * 交換後も点灯や点滅しないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

* 交換は下記を参照してください。

- ・ ランプ（→P.15-16）
- ・ ヒューズ（→P.15-23）

ブレーキペダルの踏みしろ

ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んで、床板とのすきまが基準値より少なくなっているかを点検します。



1 すきま

| 基準値 |
|-------|
| 50 mm |

* 点検時、異常が認められたときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

▲警告

■ ブレーキの点検時は

- 坂道での点検は行わないでください。車両が動き出しあるが危険です。必ず車を平坦な場所に停車し、タイヤの前後に輪止めをかけてから点検してください。

- 周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

■ 踏みしろについて

- ペダルを踏み続けたときに、ペダルがさらに入り込むがないことを確認してください。

- 踏み残りしろが少なくなっているときやペダルをいっぱいに踏み込んだときの踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の漏れ、空気の混入によるブレーキの効き不良や片効きのおそれがありますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキのきき具合

走り始める前に、安全な場所で徐行し、ブレーキをかけ、効き具合は十分か、片効きはしていないかを点検します。不具合がある場合はブレーキの調整をしてください。

* お車の仕様により調整方法が異なります。調整は下記を参照してください。

- ・ ドラムブレーキ (→P.13-27)
- ・ ディスクブレーキ (→P.13-28)



TI03-015A

⚠ 注意

■ 点検するときは

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

低速・加速の状態

- エンジンを暖機させた状態で、アイドリングにむらがないかを点検します。
- 運行前に、安全な場所で徐行し、走行状態がスムーズか、またアクセルペダルを徐々に踏み込んでいったとき、ペダルに引っかかりがなくスムーズに加速するかを点検します。
- 低速走行が不安定だったり、アクセルペダルの踏み込み量に対しスピードが追従しないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

| | | | |
|------------------|---------|-------------------------------|---------|
| 点検・調整作業にあたっての注意 | P.13-3 | 配線関係 | P.13-61 |
| 車載工具 | P.13-5 | 車外騒音に 関わる部品 | P.13-61 |
| エンジンオイル フィルター | P.13-8 | 車のお手入れ | P.13-62 |
| 燃料フィルターの 水抜き | P.13-11 | 尿素 SCR (尿素選択式還元触媒) システム | P.13-66 |
| インタークーラー | P.13-12 | エアフローメーター | P.13-69 |
| エアクリーナー | P.13-13 | 低速・加速の状態 | P.13-69 |
| エアフィルター | P.13-15 | 計器類の点検 | P.13-70 |
| 冷却水 | P.13-17 | | |
| ラジエーター キャップ | P.13-23 | | |
| Vベルト | P.13-24 | | |
| フットブレーキ | P.13-25 | | |
| ドラムブレーキ | P.13-27 | | |
| ディスクブレーキ | P.13-28 | | |
| ブレーキのきき具合 | P.13-29 | | |
| クラッチ | P.13-29 | | |
| パーキングブレーキ | P.13-31 | | |
| ジャッキアップ | P.13-31 | | |
| タイヤの取り扱い | P.13-32 | | |
| タイヤ ローテーション | P.13-39 | | |
| スペアタイヤ | P.13-42 | | |
| ホイール | P.13-48 | | |
| ステアリング | P.13-50 | | |
| シャシスプリング | P.13-52 | | |
| エアコン | P.13-53 | | |
| ウインド ウォッシャー | P.13-55 | | |
| ワイパー | P.13-56 | | |
| バッテリー | P.13-57 | | |

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）と、弊社が指定するメーカー指定点検項目〔シビアコンディション（厳しい使われ方）項目および定期交換部品を含む〕があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。

別冊の「メンテナンスノート」にしたがいトヨタ販売店にお申し付けください。ここでは皆様にも簡単に行える点検・手入れについてまとめましたので、お車を快適にご使用いただくために実施されるよう推奨します。

アドバイス

点検および交換時期に關し、使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

知識

ここでは本文中の点検時期表記の見方について説明しています。

■ 例

| 点検時期 | |
|----------|-------------------------|
| 1 | 新車 1,000 km 走行時 |
| 2 | その後、事業用 3カ月ごと (距離項目) |
| 3 | 自家用 6カ月ごと (距離項目) |
| 4 | [シビアコンディション項目] |

1 新車時から 1,000 km または 5,000 km 走行時に点検・補給を勧めている項目であることを意味しています。

2 事業用自動車の点検が 3 カ月ごとであることと、※¹ 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 2,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 2,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

3 自家用貨物車の点検が 6 カ月ごとであることと、※¹ 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 4,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 4,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

4 この項目が※² シビアコンディション項目であることを表し、使用条件の厳しい車両は 1 カ月ごとの点検をトヨタ自動車が指定している項目であることを意味しています。

※¹ 距離項目

- ・ 自家用貨物車、事業用自動車の定期点検整備項目が法律で設定され、点検期間内の走行距離が短い場合、その点検を省略することができます。
- ・ 事業用自動車では、登録日または前回の定期点検からの走行距離が 2,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。
- ・ 自家用貨物自動車では、登録日または前回の定期点検時からの走行距離が 6

カ月の時点で 4,000 km 以下、12 カ月の時点で 8,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。

※2 シビアコンディション（厳しい使われ方）項目

定期点検整備は 1 カ月 5,000 km 程度を走行する場合を標準の時期として定めてあります。事業用自動車で特に走行距離が多いなど標準的な使用条件と著しく異なる車両には、シビアコンディション条件を定め、1 カ月ごとの点検・整備および定期交換をトヨタ自動車が推奨しています。

点検・調整作業にあたっての注意

▲ 危険

■ バッテリーの点検・取り扱い時には

端子部との接触によるショートが起きないように十分注意してください。感電、爆発などのおそれがあり危険です。

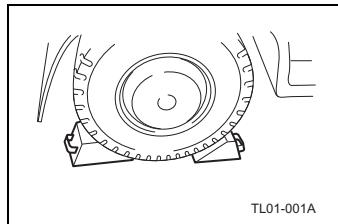
■ バッテリーに火気を近づけないでください

バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけると、可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

▲ 警告

■ 点検・調整作業にあたって

- 人や交通のさまたげとなる場所や傾斜地での点検・整備は行わないでください。
- エンジンを止め、スターターキーは必ず抜き取ってください。
- シフトレバーを「N」(AT 車) は「P」の位置にしてください。
- パーキングブレーキを確実に効かせ、タイヤの前後に輪止めをかけてください。車両が動き出し思わぬ事故の原因になります。



- 非常点滅灯を点滅させる。

- ボデーの端部などでケガなどしないように軍手などを使用してください。
- 点検・整備作業には適切な工具や機械および測定具を使用してください。
- エンジン停止直後は、排気管・ラジエーターなど高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- 車をジャッキアップするときは、適切なジャッキを使用してください。
- 車載工具のジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外に使用しないでください。
- ジャッキアップ後、車両の下に入つて作業するときは、必ずフレーム下面にスタンドを掛けるなど、車両の下の安全を確保してください。
- パイプ類や補機類には乗らないでください。破損や故障の原因になります。
- 電気系統の作業をするときは、コンピューターなど電気部品を破損するおそれがありますので、必ずバッテリーの \ominus 端子を外してから行ってください。
- 点検・調整後、各機能の作動が正常であるかを点検してください。
- バンパーには乗らないでください。落下などの事故につながり危険です。また、バンパーを損傷させるおそれがあります。
- 換気の不十分な車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください
排出ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■キャブチルトやエンジン点検口を開けて点検するときは

- 安全に十分注意してください。
(→P.3-10、P.11-1)
- 必ずエンジンを止めてください。エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣服などを巻き込まれたりして、思わぬケガをするおそれがあります。
- エンジンルーム内に布や手袋、工具類などを置き忘れないでください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また、工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。

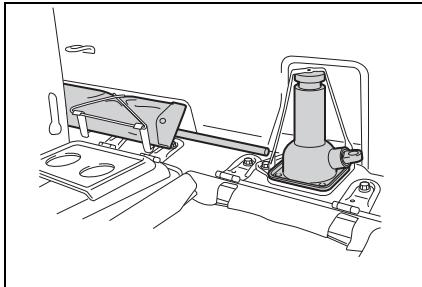
■交換後のオイル・冷却水・各種部品類の廃棄処理は

環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。

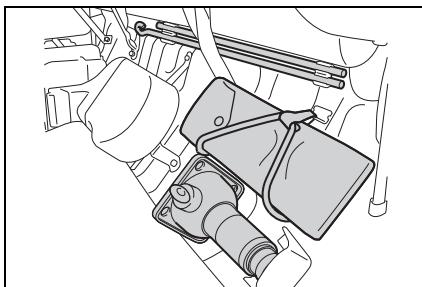
車載工具

格納場所

- ▶ シングルキャブ車
- シートの後ろにあります。
- 取り出すときはシートを前に倒します。



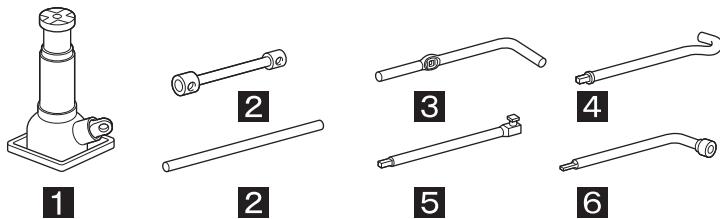
- ▶ ダブルキャブ車
- リヤシートの後ろにあります。
- 取り出すときはリヤシートを折りたたみます。



車載工具

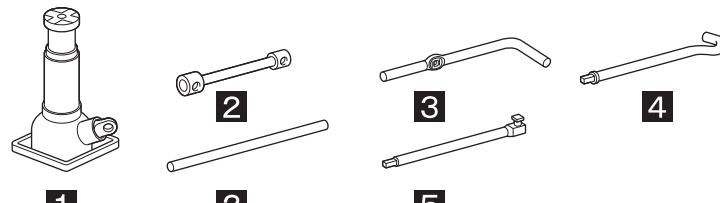
■ 下記の工具を車両に搭載してあります

► A タイプ



- 1 ジャッキ
- 2 ホイールナットレンチ
- 3 ジャッキハンドル
- 4 ジャッキハンドルバー
- 5 ジャッキハンドル延長バー
- 6 ホイールナットレンチ（前輪用）

► B タイプ

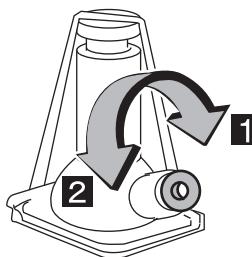


- 1 ジャッキ
- 2 ホイールナットレンチ
- 3 ジャッキハンドル
- 4 ジャッキハンドルバー
- 5 ジャッキハンドル延長バー

* 車両の分解・組立・調整に必要な特殊工具は別途販売しております。トヨタ販売店にご用命ください。

ジャッキの取り出しのしかた

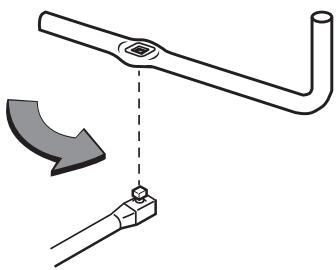
- シングルキャブ車は助手席シートを倒し、ダブルキャブ車はリヤシートを折りたたみます。



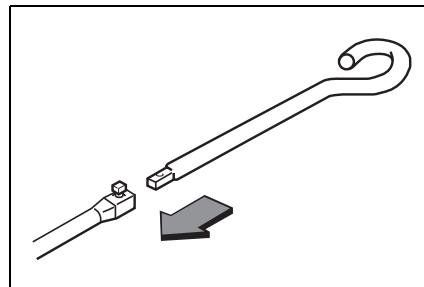
- 1 締まる
2 ゆるむ

ジャッキハンドルの組み付け方

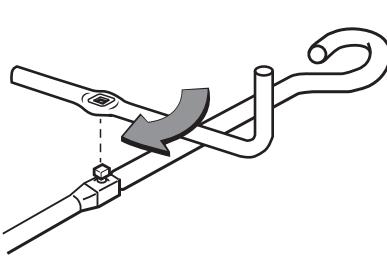
- ボルトをゆるめる。
- * ジャッキハンドルの穴を使用します。



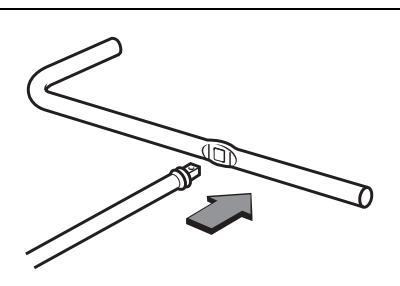
- ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーを接続する。



- ボルトを締めつける。
- * ジャッキハンドルの穴を使用します。



- 上記手順で組み付けたあと、ジャッキハンドルの穴に差し込む。



▲ 警告

■ 車載工具の取り扱いについて

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● ジャッキは確実に固定してください。確実に固定しないと、急ブレーキ時などにジャッキがはずれて飛び出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 車に搭載されているジャッキはお客様の車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

△ 注意

■ ジャッキのご使用について

車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外使用しないでください。

エンジンオイルフィルター

交換時期

► ディーゼル車

交換時期

20,000 km 走行ごと

[シビアコンディション時]

10,000 km 走行ごと

► ガソリン車

交換時期

15,000 km 走行ごと

[シビアコンディション時]

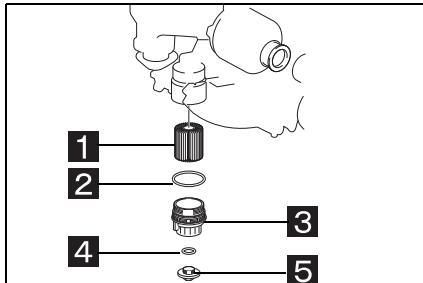
7,500 km 走行ごと

* エンジンオイルフィルターについては、シビアコンディション条件での交換時期が異なります。詳しくはメンテナンスノートを参照してください。

交換要領

* 作業を行う前に、オイルフィルター周りを清掃してください。ゴミが入る恐れがあります。

■ 取り外し



1 オイルフィルター エレメント

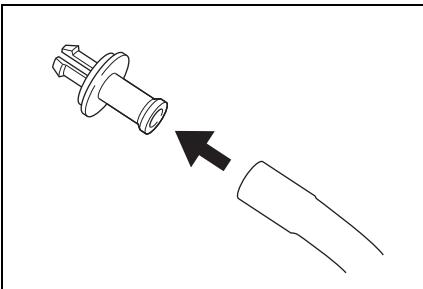
2 O-リング (キャップ用)

3 オイルフィルター キャップ

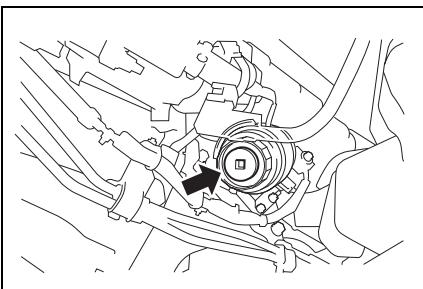
4 O-リング（ドレンプラグ用）**5 オイルフィルタードレンプラグ**

- 付属のパイプをホースに接続する。

* 内径 15mm のホースを使用してください。



- オイルフィルターの下に排油用の容器を置いてからドレンプラグをはずす。



- ホースに取り付けたパイプをキャップに差し込む。

* O-リング（ドレンプラグ用）はキャップ側についた状態でパイプを挿入してください。

- ホースからオイルを排出する。

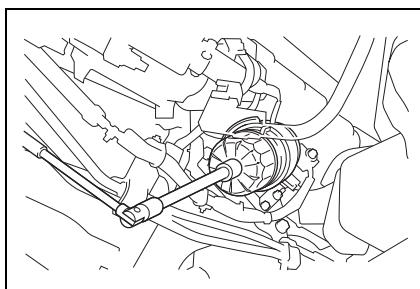
* 安全のため、地面を汚さないためにもオイルは必ず容器に受けてください。

* オイルをこぼしたら、必ず拭き取ってください。

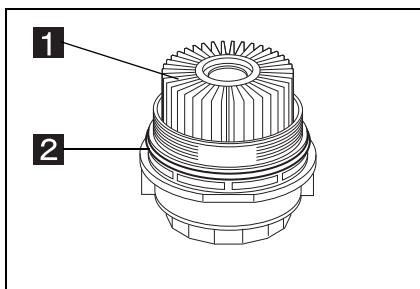
5 オイルが抜けたことを確認し、パイプおよびO-リング（ドレンプラグ用）を取りはずす。

* 取りはずす際はパイプを折り曲げないように取りはずしてください。

- キャップをオイルフィルターレンチで左に回して取りはずす。



- エレメントおよびO-リング（キャップ用）をキャップから取りはずす。



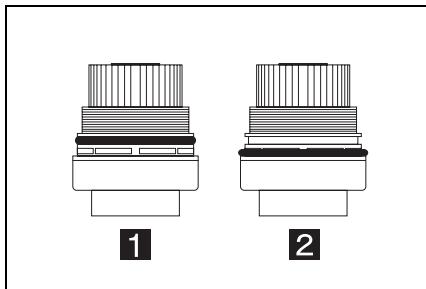
1 エレメント

2 O-リング（キャップ用）

■ 取り付け

- キャップの内部、ねじ部およびO-リング溝部の汚れを取り除く。
- 新品のO-リング（キャップ用）に少量のエンジンオイルを塗布し、キャップに取り付ける。

- * オイル漏れの原因となるため、O-リング（キャップ用）は所定の位置に確實に取り付けてください。
- * O-リング（キャップ用）はねじれのないように取り付ける。



1 正

2 誤

3. 新品のエレメントをキャップにセットする。
 4. エンジン側の取り付け面および内部の汚れ、異物を取り除く。
 5. 再度、O-リング（キャップ用）に少量のエンジンオイルを塗布し、キャップに取り付ける。
- * O-リング（キャップ用）をかみ込まないでください。
6. オイルフィルターレンチを使用して、キャップを締め付ける。
- * キャップ締め付け後、隙間がないことを確認してください。

締め付けトルク

25 N·m [255 kgf·cm]

7. 新品のO-リング（ドレーンプラグ用）に少量のエンジンオイルを塗布し、キャップに取り付ける。
- * 取り付け面の汚れ、異物は取り除いてください。

8. ドレーンプラグをキャップに取り付ける。
- * O-リング（ドレーンプラグ用）をかみ込ませないでください。

締め付けトルク

13 N·m [127 kgf·cm]

9. エンジンをかけエレメントにオイルを充満させてから、エンジンオイル量を点検する。
- * 交換についての不明な点はトヨタ販売店へご相談ください。

アドバイス

■ 交換時期について

エレメントを交換するときは、オイルも交換してください。

■ 交換要領について

オイルフィルターはエンジン型式によって種類が異なります。それぞれ専用品となっておりますので絶対に混用しないでください。

警告

■ エンジンオイルフィルター交換時の注意

- 走行後すぐに排油すると、エンジンオイルや周辺部品が高温になっていてやけどをするおそれがありますので、少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- エレメント交換後は、エンジンを始動させ試運転を行い、キャップおよびドレーンプラグ周りからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れは、火災の原因になります。

燃料フィルターの水抜き★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料系統に水が混入すると、運転不調などの原因となるばかりでなく、エンジンの損傷にもつながります。

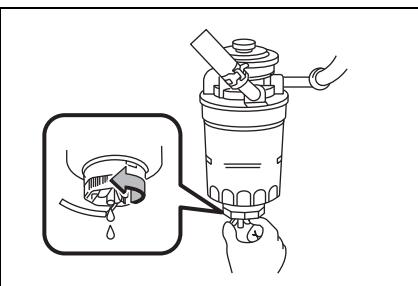
エンジン回転中、燃料フィルター内に規定レベル以上の水がたまると警告灯が点灯します。点灯したらすみやかに燃料フィルターの水抜きを行ってください。燃料フィルターは車体下部の左側についています。

■警告灯



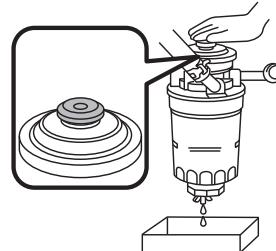
■排水方法

- エンジンスイッチを OFF にする。
- 燃料が飛散しないようドレンプラグの下に、受け皿を置く。
- ドレンプラグを左に回す。



- ポンプを押し排水する。

- * 目安としてコップ半分くらいの水を排水します。



- 排水が終わったらドレンプラグを確実に締める。

▲警告

■水抜き作業について

- 安全のため、地面を汚さないためにも、排水は必ず容器に受けてください。
- 作業中はタバコの火などを近づけないでください。着火のおそれがあり危険です。

△注意

■警告灯が点灯したまま走行を続けないでください

噴射系部品が焼き付きエンジンを損傷するおそれがあります。点灯したときは、すみやかに排水してください。

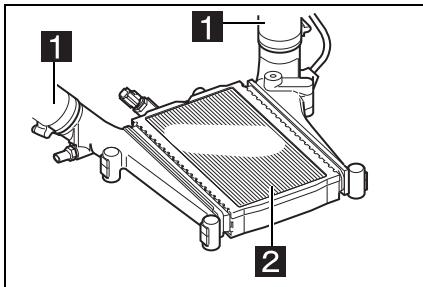
■水抜き作業時の注意

- 水を抜くときは、エンジンを停止させた状態で行ってください。
- ドレンプラグを締め付けた後、ドレンプラグから燃料漏れがないことを確認してください。

インターホーネー★

- * グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- ターボチャージャーで過給され高温になった吸入空気を冷却する装置です。
- ラジエーターの前面に取り付けられています。

■ インターホーネー本体の清掃



1 インターホーネー

2 インターホーネー

■ インターホーネー用冷却水の点検

- 「FULL」と「LOW」の線の間にあれば良好です。
- 「LOW」より下の場合は、「FULL」の線まで補給してください。



1 FULL

2 LOW

■ インターホーネーホースの点検

目視にて外周のひび割れ、亀裂およびかしめ部の抜け出しを点検します。

* 不具合があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

△ 注意

■ インターホーネー本体の清掃について

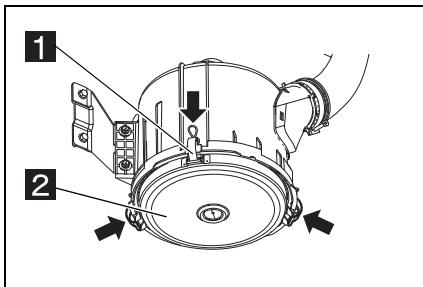
- インターホーネー内部を清掃するときは、水による清掃をしないでください。
- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路の走行後は、十分に洗浄してください。

エアクリーナー

エアクリーナーは、車両右側に搭載されています。

■エレメントの取り外しかた

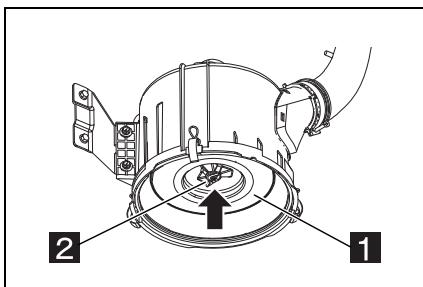
1. クランプを外しカバーを取り外す。



1 クランプ (3 カ所)

2 カバー

2. ウイングナットをはずし、エレメントを取りはずす。



1 エレメント

2 ウイングナット

■エアクリーナーの清掃のしかた

1. エアクリーナーのカバーとケース内部に付着しているほこりを布などで落とす。
- * エアクリーナーの中に直接水が入らないようにしてください。



2. シールラバー・ホースの破れ、クランプのゆるみなどを点検する。

* 破れているときは新品と交換します。

* クランプにゆるみがあるときは確実に締め付けます。

3. エレメントを清掃する。

■エレメントの取り付けかた

エレメントの取り外しと逆の順序で取り付けます。

* クランプおよびウイングナットは確実に固定してください。

■エレメントの状態

エレメントの汚れ、つまり、損傷がないか点検します。

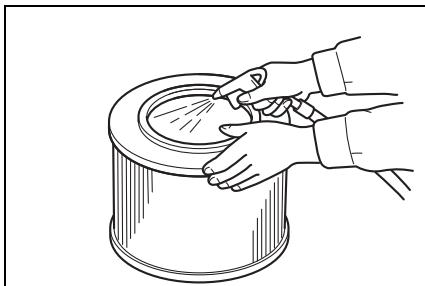
| 点検時期 |
|---|
| 事業用 3 カ月ごと (距離項目)、 自家用 6 カ月ごと (距離項目) [シビアコンディション項目] |

- ▶ 非舗装路などの埃の多い道を走行されるお客様は以下の要領でエレメントの清掃を行ってください。

| 清掃時期 |
|------------------------|
| 2 カ月または 10,000 km 走行ごと |

■エレメントの清掃（乾いたほこり）

エレメントの内側より外側に向けて、圧縮空気（空気圧力：690 kPa [7.0 kgf/cm²] 以下）を吹きつけて、ほこりを落とします。



■エレメントの交換

交換時期

50,000km 走行ごと

* シビアコンディション条件での交換時期が異なります。詳しくはメンテナンスノートを参照してください。

⚠ 注意

■エレメントの取り付けかたについて

クランプの取り付けが不完全な場合、エレメントパッキン面のシール不良となり、エンジン内部にほこりや異物を吸い込み、ピストンおよびライナーなどの早期摩耗の原因になります。

■エレメントの清掃について

圧縮空気の圧力が高すぎたり、たたいたりしてエレメントを変形させると、エンジン故障の原因になります。

■エレメントの清掃（乾いたほこり）について

ほこりを吸わないようにしてください。人体に悪い影響をあたえるおそれがあります。

■エレメントの交換について

エレメントは必ずトヨタ純正エレメントを使用してください。トヨタ純正以外のエレメントは、シール不良や締め付けによる破損を招き、ほこりを吸い込むおそれがあるため使用しないでください。

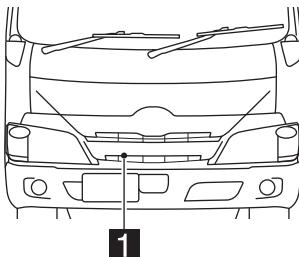
エアフィルター

■外気エアフィルターの清掃

清掃時期

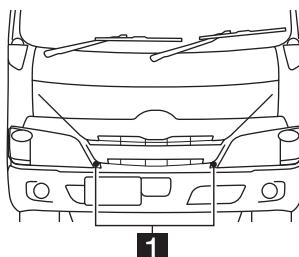
1 カ月ごと

1. ボルトを外す。



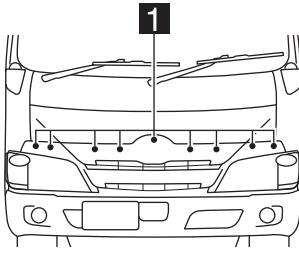
1 ボルト

2. グリル下側のクリップを外す。



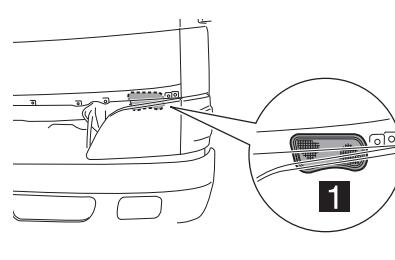
1 クリップ

3. グリル上側のクリップを外し、 グリルを手前に引いて取り外す。



1 クリップ

- 誤発進抑制機能システム付き車両は、グリル取り外し後コネクタを外してください。
- 助手席側ヘッドライト上部にあるエアフィルターをやわらかいブラシや布で清掃する。



1 外気エアフィルター

- 清掃後、フロントグリルをボディに取り付ける。
- ボルトを取り付ける。

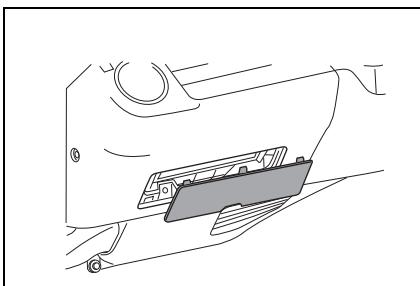
高性能内気エアフィルター

■清掃

清掃時期

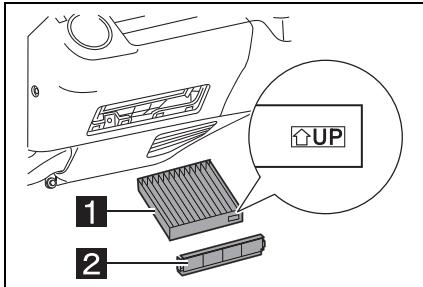
10,000 km 走行ごと

1. カバーを取り外す。



2. エアフィルターカバー両端のツメを押しながら引き出します。

3. エアフィルターを引き出す。



- 1 エアフィルター
- 2 エアフィルターカバー
4. 圧縮空気を吹きつけて清掃する。
5. 清掃後、エアフィルターを取り付ける。

■ 交換

交換時期

1年または30,000 km 走行ごと

△ 注意

- フロントグリルを外す場合は
車両前方にまっすぐ引いて取り外してください。無理に外そうとすると変形や破損のおそれがあります。
- エアフィルターを清掃するときは
 - エアコンの風が低下してきた場合は、フィルターの点検、又は交換を行ってください。
 - エアコンは必ずフィルターを取り付けた状態で作動させてください。
 - フィルターの交換は、必ずエアコンとエンジンを止めた状態で実施してください。
 - 高機能内気エアフィルターは、水洗い、洗剤での洗浄は出来ません。汚れがひどい場合は交換をして下さい。



アドバイス

■ エアフィルターがゴミやほこりで詰まる

風の出が悪くなつてエアコン・ヒーターおよびデフロスターの効きが悪くなりますので、定期的に点検してください。

■ エアフィルターの取り付けについて

フィルターは取り外した時と同じ向きになるように取り付けます。

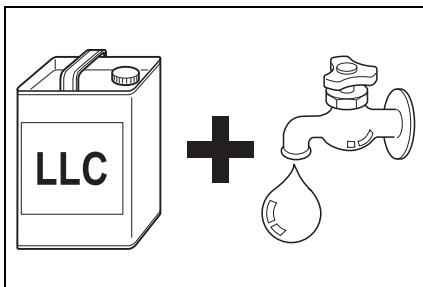
フィルターを取り付けるときは、”↑ UP”マークの矢印が上を向くように確認してください。

“↑ UP”マークを下向きに取り付けたり、フィルターが変形したまま取り付けないでください。

冷却水

使用する冷却水

冷却水は、冷却水と水道水を適正に混合したものを使用します。



■ 指定（推奨）銘柄

| 冷却水 |
|--------------------------|
| トヨタ純正 スーパーロングライフクーラント |

* 純正以外の冷却水を使用すると、冷却系の鋳などによる損傷を与える原因になります。選定にあたっては十分注意してください。

冷却水の作り方

■ 冷却水と水の混合割合

外気温度が 0 °C 以下に下がる期間および寒冷地域では、冷却水の凍結によってエンジンおよびラジエーターなどが破損するおそれがあります。冷却水は必ず下記の混合割合で使用してください。

| 外気温度 | 混合割合 |
|--------|------|
| -30 °C | 50% |
| -12 °C | 30% |

▶ ディーゼル車

| 車型 | 混合量 | | 冷却水 容量 |
|-----------------------|--------------|--------------|-----------|
| | 混合割 合 30% | 混合割 合 50% | |
| シングル キャブ (MT 車) | 3.0 L | 5.0 L | 10.1 L |
| シングル キャブ (AT 車) | 3.0 L | 5.0 L | 10.0 L |
| ダブル キャブ (MT 車) | 3.3 L | 5.5 L | 11.0 L |
| ダブル キャブ (AT 車) | 3.3 L | 5.5 L | 10.9 L |

| | 混合量 | | 冷却水 容量 |
|------------------------------------|--------------|--------------|-----------|
| | 混合割 合 30% | 混合割 合 50% | |
| インター クーラー 冷却用 (タンク 前側) | 0.5 L | 0.8 L | 1.6 L |

▶ ガソリン車

| 車型 | 混合量 | | 冷却水 容量 |
|-----------------------|--------------|--------------|-----------|
| | 混合割 合 30% | 混合割 合 50% | |
| シングル キャブ (MT 車) | 3.0 L | 5.0 L | 9.9 L |
| シングル キャブ (AT 車) | 2.9 L | 4.9 L | 9.8 L |

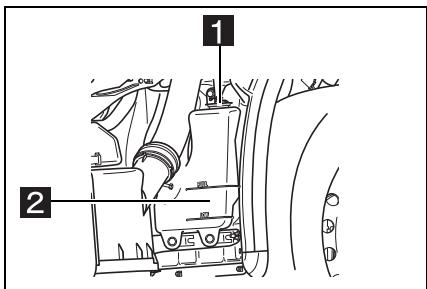
| | | | |
|-------------|------|------|-------|
| ダブルキャブ(MT車) | 3.2L | 5.4L | 10.7L |
| ダブルキャブ(AT車) | 3.2L | 5.3L | 10.6L |

補給

■エンジンが冷えているとき【日常(運行前)点検】

リザーバータンクのキャップを取り外し冷却水を「FULL」の線まで補給します。

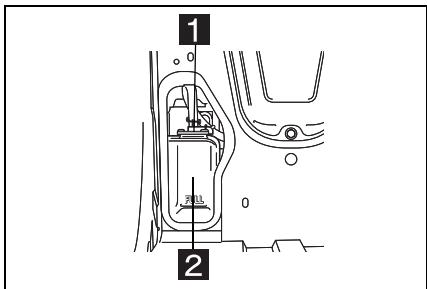
▶ ガソリン車(シングルキャブ)



1 キャップ

2 リザーバータンク

▶ ガソリン車(ダブルキャブ)

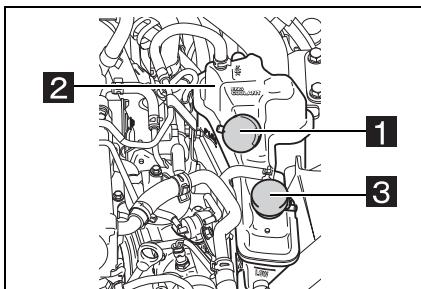


1 キャップ

2 リザーバータンク

* ダブルキャブ車はマットをめくり、カバーを手前にひいてはずしてください。カバーを取り付けるときは、カバー下部のツメをはめ込み、カバー上部のツメをはめ込みます。

▶ ディーゼル車



1 キャップ

2 リザーバータンク

3 キャップ(インターホーラー冷却用)

* リザーバータンクのキャップは、確実に取り付けてください。

■オーバーヒートしたとき

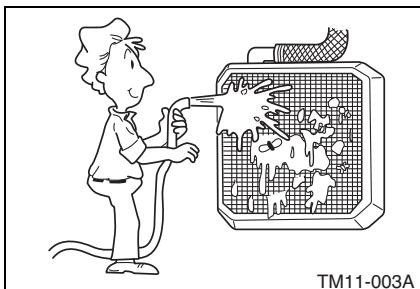
リザーバータンク以外にラジエーター本体の水量不足が考えられます。エンジン回転数をアイドリングの状態より若干高めにし、水温計の指針がゲージの中央付近まで下がるのを確認した後、ラジエーターキャップを開け給水口いっぱいまで給水し減水しない(約5秒間)ことを確認後、ラジエーターキャップを確実に締めます。また、リザーバータンクのキャップを取り外し冷却水を「FULL」の線まで補給します。

ラジエーターコアの洗浄

ラジエーターコアが泥やほこりで詰まっていると冷却効率の低下や

腐食の原因になるので、定期的に水洗いをします。

- * 洗浄するときは、フィンなどをつぶしたり傷つけたりしないでください。



冷却水路の洗浄

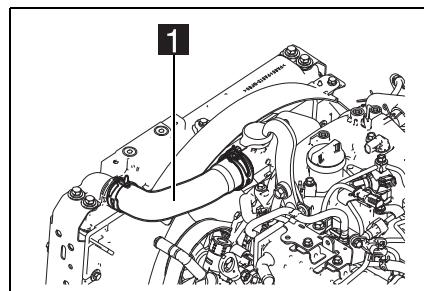
ラジエーター・ヒーターコアおよびエンジンの冷却系統内には、水あかや錆がついて冷却効果を低下させるので、冷却水交換時に水道水を使って洗浄します。

| 洗浄時期 |
|----------------------|
| 3年または300,000 km 走行ごと |

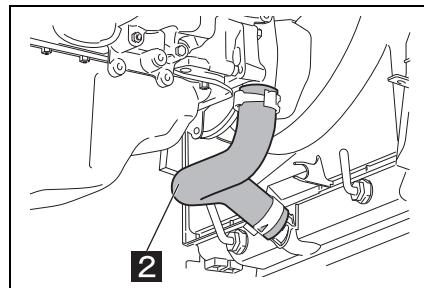
1. 冷却水を排水する。
2. 水道水を使用し、アイドリング回転にして約30分間洗浄後、排水する。
3. 冷却水（冷却水+水道水）を給水する。

ラジエーターホースの点検

- 亀裂や損傷がないかを点検します。
- 亀裂や損傷があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。



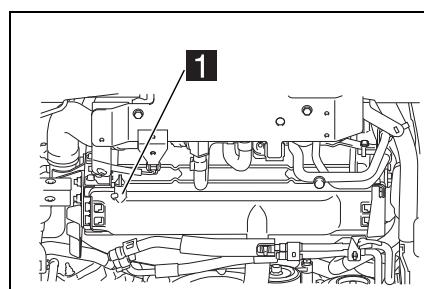
1 ラジエーター・アッパー・ホース



2 ラジエーター・ロア・ホース

エンジン用冷却水の交換のしかた（排水）【ディーゼル車】

- * 冷却水の温度が十分下がった状態で行います。
- 1. ラジエーターのドレーンコックを開けて排水する。
- * 安全のため、地面を汚さないためにも、冷却水は必ず容器に受けてください。



1 ドレーンコック

2. エンジン側のドレーンプラグを開けて排水する。

* 排水が近接部品にかかるないようにドレーン用のホースを使用してください。

3. リザーバータンクの排水完了後、ラジエーターキャップおよびリザーバータンク側のキャップを開ける。

* リザーバータンク排水完了前にラジエーターキャップおよびリザーバータンク側のキャップを開けると、リザーバータンクの排水ができなくなります。

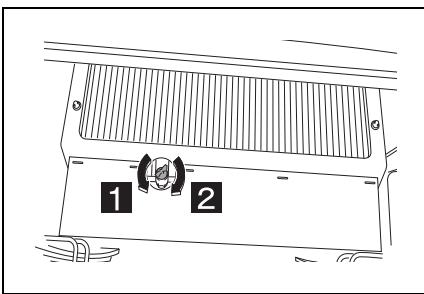
4. 排水完了後、各ドレーンコックおよびドレーンプラグを閉める。

交換のしかた（排水）【ガソリン車】

* 冷却水の温度が十分下がった状態で行います。

1. ラジエーターキャップを取り外し、ラジエーターのドレーンコックを開けて排水する。

* 安全のため、地面を汚さないためにも、冷却水は必ず容器に受けてください。

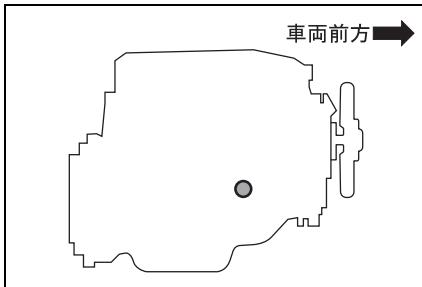


1 開

2 閉

2. エンジンのドレーンプラグを開けて排水する。

* 排水が近接部品にかかるないようにドレーン用のホースを使用してください。



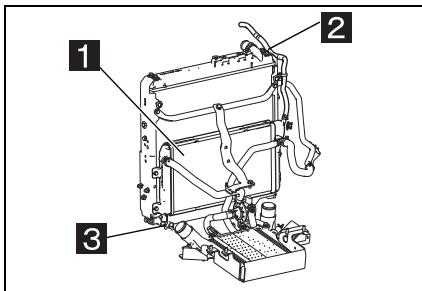
3. リザーバータンク内の冷却水を排水する。

* リザーバータンクを外して排水し、排水後は確実にホースを接続します。

4. 排水完了後、各ドレーンコックおよびドレーンプラグを閉める。

インタークーラー用冷却水の交換のしかた（排水）【ディーゼル車】

1. エア抜きホースを閉塞させます。

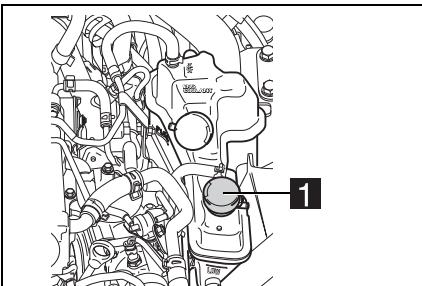


1 インタークーラー冷却用ラジエーター

2 エア抜きホース

③ ドレーンコック

2. インタークーラー冷却用ラジエーターのドレーンコックを開けます。
 3. インタークーラー冷却用リザーバータンクのキャップを開けます。
- * リザーバータンク内の排水ができないため、上記の手順に従い作業を行ってください。



1 キャップ

エンジン用冷却水の交換のしかた（給水）

1. ラジエーターキャップを開け、冷却水を給水口いっぱいまで、ゆっくり給水する。
2. 減水しない（約 15 秒間）ことを確認後、ラジエーターキャップを確実に締める。
3. リザーバータンク側のキャップを開け、液面レベル「FULL」まで給水する。
4. リザーバータンク側のキャップを確実に締める。
5. エンジンを始動し、エンジン回転を 3000rpm 程度で約 1 分間保持する。

* リザーバータンク内の液面レベルが「LOW」を下回った場合は中断し、再度 1. から行う。

6. エンジン回転がアイドル状態で約 15 秒経過後、リザーバータンク内の水位を確認する。
7. リザーバータンク内の水位が低下した場合は、1 ~ 6 を水位の低下がなくなるまで繰り返す。
8. リザーバータンク内の水位低下がなくなったら、ラジエーター口アホースが暖かくなるまで暖機運転をする。
9. 冷却水温を下がるまで放置し、水温が下がったらリザーバータンク内の水位を確認する。水位が低下していた場合は、補水する。
10. 給水口を開け、口元まで冷却水が入っているか確認する。水位が低下していた場合は、補水する。

* 給水口とリザーバータンク側のキャップは、同時に開けないこと。

* 冷却水が熱いときは、給水口およびリザーバータンク側のキャップを開けないこと。

インタークーラー用冷却水の交換のしかた（給水）〔ディーゼル車〕

1. リザーバータンク側のキャップを開け、液面レベル「FULL」までゆっくり給水する。
2. 減水しない（約 15 秒間）ことを確認後、ラジエーターキャップを確実に締める。
3. エンジンスイッチを ON にし、約 30 秒経過後に OFF にする。

4. リザーバータンク内の水位を確認し、水位が低下した場合は、1～3を水位の低下がなくなるまで繰り返す。

- * リザーバータンク内の水位は、液面レベル「FULL」を超えないこと。
- * 冷却水が熱いときは、給水口およびリザーバータンク側のキャップを開けないこと。



■ 冷却水の作りかた

冷却水と水との混合割合は、50%で使用してください。混合割合が30%以下になると防錆効果が減少し、60%以上では凍結防止性が低下します。



■ 冷却水の取り扱いについて

- 毒性があるので絶対に飲まないでください。飲んでしまったときはすぐにおう吐し、医師の処置を受けてください。
- 目に入ったときはすぐに清水で洗眼し、医師の治療を受けてください。

■ 交換（排水）について

- ドレーンコックは5回転以上回さないでください。冷却水が前方に飛び出し、高温時にはやけどをするおそれがあります。
- 水温計の指針がゲージの中央付近に下がるまでは、絶対にラジエーターキャップを外さないでください。不用意にキャップを開けると熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。



■ 注意

■ 使用する冷却水

冷却水に混合する水は水道水（軟水）をお使いください。河川や井戸水のような硬水を使用すると水あかや錆がつく原因になります。

■ 冷却水の作り方

- トヨタ純正品を使用してください。不凍液・防錆剤および市販の冷却水との混用は避けてください。
- 冷却水を補充するときは、注入してあるものと同一銘柄を用い、かつ同一濃度の補充液を注入してください。
- 水だけを補給すると冷却水の濃度が薄くなり、防錆効果および凍結防止性が低下します。

■ 冷却水の取り扱いについて

- 引火性があるので火気を近づけないでください。
- 皮膚や衣服についたときは、ただちに水洗いし、石けんで洗ってください。
- 保管するときは、確実にふたをしてお子さまの手の届かないところに置いてください。
- 塗装部に付着したときは、塗装部の損傷を防ぐため、ただちに水洗いしてください。

■ ラジエーターコアの洗浄について

海岸地帯・凍結防止剤を散布した道路走行後には、十分に洗浄してください。

■ 排水について

水なし運転はしないでください。ウォーターポンプの故障やエンジン焼き付きなどの原因になります。

■エアの混入について

オーバーヒートやウォーターポンプからの水漏れなどの原因になりますので、必ずエア抜きを行ってください。

■冷却水の廃棄処理について

排出した冷却水の廃棄処理は、規定の方法あるいは環境に留意した方法で行ってください。

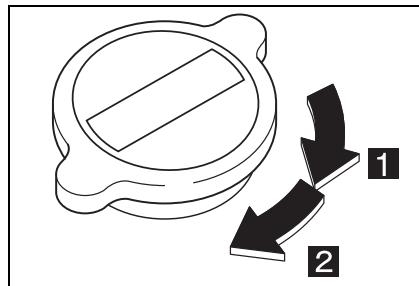
ラジエーターキャップ

■締めかた

▶ エンジン側

常に右いっぽい（2段目）に回した状態で使用してください。

* ラジエーターキャップは加圧式です。

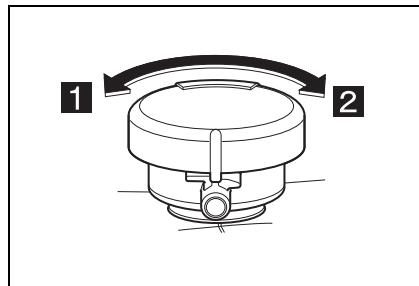


1 1段

2 2段

▶ リザーバータンク側（ディーゼル車）

キャップのストッパーが、タンク側のストッパーに接触するまで締めます。



1 開

2 閉

■エンジン高温時

エンジンが熱いときは絶対にラジエーターキャップを外さないでく

ださい。熱湯や蒸気が噴き出してやけどをするおそれがあります。

やむを得ずキャップを外すときは、次の要領にしたがってください。

1. 水温計の指針が赤色ゾーン近くを指示しているときは、エンジン回転数をアイドリング回転時より少し高めにしたまま指針がゲージの中央付近に下がるまで待つ。
 2. 厚手の布を数枚重ねてラジエーターキャップにかぶせキャップを徐々にゆるめる。
- * 著しく蒸気が噴き出すときには、ただちにキャップを締め直し、冷却水温が下がるまで待ちます。

▲ 危険

■ **高温時は絶対にラジエーターキャップを外さないでください**

熱湯や蒸気が噴き出して、やけどなど重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

▲ 警告

■ **キャップの締めかたについて**

キャップを締めるときは確実に締め付けてください。確実に締めておかないとオーバーヒートしたとき、高温の冷却水が噴き出すことがあります。

Vベルト

Vベルトのゆるみや張りすぎは、充電不良・オルタネーターの故障などを起こす原因になりますので、常に正しい張り具合に調整しておきます。また、ベルト張力が適正でない状態で走行すると、ベルトの早期寿命やベルト脱落による問題が起こる可能性があります。ベルトは常に正しい張り具合に調整しておきます。

ベルトのゆるみ、損傷の点検

点検時期

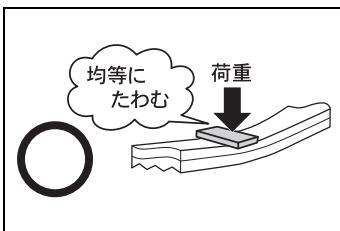
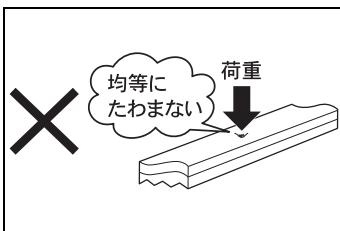
事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと、
[シビアコンディション項目]

* オートテンショナーを採用していますので、ベルトのたわみ量の調整は不要です。ただし、ベルトの張りがベルト使用可能範囲内であることを確認してください。

○ アドバイス

■ **新品のベルトに交換したときは**

● ベルトに初期なじみが出ていませんので 3 ~ 5 分間程度アイドリング回転させ、ベルトの張りを再度調整してください。ベルトのたわみ量を測定するときは、荷重を加える個所のベルトの上に、平らな板状のもの（プレート等）を置いてから行ってください。ベルトへの荷重が均等に加わるため、正しく測定することができます。



フットブレーキ

ブレーキは保安上重要な役割を果たしており、点検を怠ったり、調整や整備を誤ると重大事故につながります。

ブレーキの定期点検は、別冊の「メンテナンスノート」にしたがって実施し、異常が認められたときは、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

▲警告

■ベルトを点検するときは

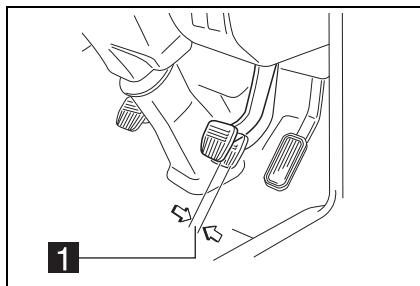
必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬケガをするおそれがあります。

点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと
[シビアコンディション項目]

* 使用状況によって隨時点検を行ってください。

ブレーキペダルを指で押したとき、ペダルの遊びが適正で異常なひっかかりがなく、スムーズに作動するかを点検します。



1遊び

基準値

ペダル先端で 1 ~ 3 mm

- * ペダルの遊びが基準値範囲外のときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

ホースおよびパイプなどの点検

点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと

- 他部品と接触していないか、固定用のクリップなどがゆるんでいないか、また、傷・液漏れなどがないかを点検します。不具合が認められたら確実に整備してください。
- 冬期に雪路や融雪路などを走行後、および日常（運行前）点検時、フレームからホイールシリンダー間のオイルホースに雪・泥水の付着で凍結したかたまりが付着していないかを点検します。付着しているときは、ホースを傷つけないように注意し、払い落とします。

ブレーキスイッチの取り付け状態の点検

点検時期

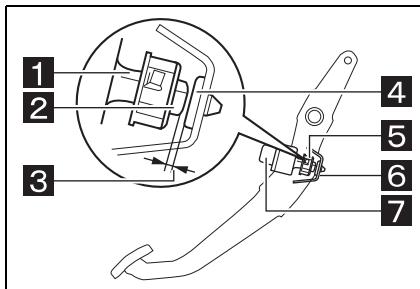
事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと
[シビアコンディション項目]

■ 点検方法

ブレーキペダルを踏んでいない状態で、スイッチ検知部の見える隙間を点検します。

基準値

0.7 ~ 1.7 mm



- 1** スイッチネジ部
2 スイッチ検知部
3 隙間
4 バッファラバー
5 ブッシュ
6 バッファ
7 スイッチ

隙間が基準値の範囲外のときは、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

▲ 警告

■ ブレーキスイッチの点検について

ブレーキスイッチの取り付け状態が正常でないと、事故の原因になりますので、定期点検をおこなってください。

■ フットブレーキの点検について

- 坂道での点検は行わないでください。車両が動き出すおそれがあり危険です。必ず車を平坦な場所に停止し、タイヤの前後に輪止めをかけてから点検してください。
- 周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

⚠ 注意

■ 冬期の雪路や融雪路などの走行について

雪や泥などのたまりが付着したまま走行しないでください。ホースの破損などの原因になります。

ドラムブレーキ

ブレーキライニングが摩耗すると、ドラムのすきまが大きくなり、ブレーキの効きが悪くなります。このブレーキにはオートアジャスタ機能がありますが、ライニングの摩耗状態の点検・調整は定期的に行ってください。

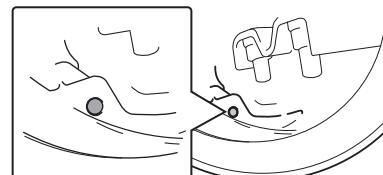
ドラムとライニングのすきまの点検

点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと
[シビアコンディション項目]

* 使用状況によって随時点検を行ってください。

1. 点検穴のラバープラグを取り外す。



2. 点検穴からシックネスゲージをライニング全幅にわたって差し込み、ドラムとライニングのすきまが基準値内にあるかを点検する。

基準値

0.24 ~ 0.64 mm

* 基準値を超えているときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

3. 点検後、取り外したラバープラグは確実に取り付ける。

ライニング摩耗量の点検

| 点検時期 |
|--------------------------------|
| 事業用 3 カ月ごと（距離項目）、 自家用 1 年ごと |

- * 使用状況によって隨時点検・調整を行ってください。
1. ドラムカバーにある点検穴のラバープラグを取り外す。
 2. ライニング端面の段差が残っているかを点検する。

| | 基準値 | 使用限度 〔残り代〕 |
|----------|--------|---------------|
| ジャストロー | 6.5 mm | 1.5 mm |
| フルジャストロー | 5.5 mm | 1.0 mm |

- * ライニングの交換は、トヨタ販売店にお申し付けください。
3. 点検後、取り外したラバープラグは確実に取り付ける。

▲警告

■点検・調整について

ジャッキアップ時は、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めを掛け、車両が動かないようにしておいてください。

■ライニングの使用限度について

使用限度を超えたまま走行しないでください。限度を超えて使用するとブレーキの効き具合が大幅に低下します。また、ドラムが損傷するおそれがあります。

ディスクブレーキ

ブレーキパッドの摩耗量の点検

| 点検時期 |
|--|
| 事業用 3 カ月ごと（距離項目）、 自家用 1 年ごと 〔シビアコンディション項目〕 |

- * ブレーキパッドが摩耗したとき、ブレーキからのキーキー音により運転者に知らせます。走行中、ブレーキからキーキー音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- * キーキー音が鳴らなくても点検時期になりましたら目視点検を行ってください。
- * 使用状況によって隨時点検を行ってください。
- * ブレーキパッドとローターのすきまは、自動的に適正が保たれるため、調整は不要です。

■ブレーキパッドの厚さ

| 基準値 | 使用限度 〔残り代〕 |
|---------|---------------|
| 10.0 mm | 3.0 mm |

▲警告

■ブレーキパッドの使用限度を超えたまま走行しないでください

限度を超えて使用すると、ブレーキの効き具合が大幅に低下します。またローターが損傷するおそれがあります。

ブレーキのきき具合

走り始める前に、安全な場所で徐行し、ブレーキをかけ、効き具合は十分か、片効きはしていないかを点検します。

点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと

- * お車の仕様により点検方法が異なります。点検は下記を参照してください。
 - ・ ドラムブレーキ (→P.13-27)
 - ・ ディスクブレーキ (→P.13-28)
- * 不具合がある場合は、トヨタ販売店で点検・調整を受けてください。

▲警告

■ 点検について

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

クラッチ★

- * グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クラッチは使用するにしたがい、クラッチディスクが摩耗してクラッチペダルの遊びが少なくなり、クラッチが滑りやすくなります。また、遊びが大きすぎるとクラッチの切れが悪くなり変速しにくくなります。

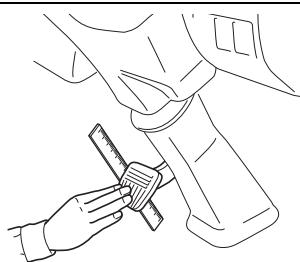
点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと、
[シビアコンディション項目]

- * クラッチペダルの遊び、およびクラッチの作用は定期的に点検してください。

ペダルの遊び点検

- ペダルを指で押し込んでいくと1段階に抵抗を感じます。1段階までのペダルの動き代が遊びです。
- ペダルを指で押し込み、ペダルの遊びをスケールなどで測定し、基準値内にあるかを点検します。



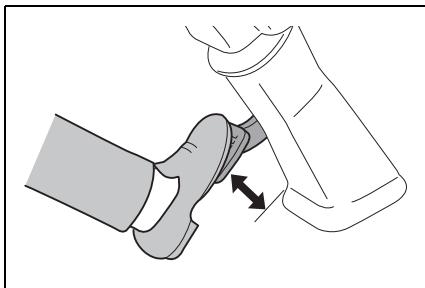
■ クラッチペダルの遊び

| 基準値 |
|----------|
| 1 ~ 5 mm |

* 基準値を外れている場合は、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

切れたときの床板とのすきまの点検

- エンジンを始動し、アイドリング回転でパーキングブレーキをかける。
- クラッチペダルをいっぱい踏み込んでシフトレバーを1速に入れる。
- クラッチペダルをゆっくり離しクラッチのつながる直前の状態（エンジン音が変化したり、振動が発生したりする）でペダルと床板（カーペットをめくった状態）とのすきまが基準値の範囲にあるか点検する。



■ 床板とのすきま

| 基準値 |
|----------|
| 25 mm 以上 |

* 点検するとき、車が急発進しないよう十分注意してください。

* 基準値を外れている場合は、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

クラッチの作用

■ アイドリング回転で、次の点検をします

- ペダルを踏み込んで、異常に重くないか、異音はしないか。
- ギヤチェンジがスムーズにできるか。
- ペダルを徐々に離して発進したとき、滑りがなく接続がなめらかにできるか。

* シフトレバーを「N」位置にし、クラッチペダルから急に足を離すと「ガシャ」と音がしますが異常ではありません。

* 異常が認められたときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

△ 注意

■ クラッチペダルの遊びについて

ペダルの遊び量を基準値より大きく調整しないでください。クラッチの切れが悪くなり、クラッチおよびトランスマッキシヨンを破損させるおそれがあります。

パーキングブレーキ

点検時期

事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと、
[シビアコンディション項目]

パーキングブレーキレバーの引きしろ（ラチェットの山数）が 10 ノッチ以上（操作力約 245 N [25 kgf] 時）になった場合は、ライニングの摩耗量の点検が必要です。

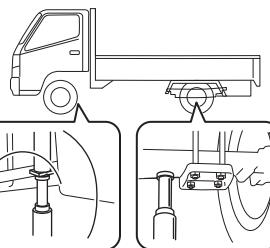


操作力約245N{25kgf}

TM19-001B

ジャッキアップ

ジャッキアップポイント



▲ 警告

■ 使用方法および取り扱いについて

ジャッキの本体に記載してありますので必ず使用前に確認してください。

■ ジャッキアップについて

- ジャッキアップしたときは、車両の下に絶対入らないでください。万一、ジャッキが外れると危険です。
- 車両の下に入って作業するときは必ずフレーム下面にスタンド（ウマ）を掛けるなど、車両の下の安全を確保してください。
- パーキングブレーキを確実に効かせ、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めをかけてください。
- ジャッキアップするときは、地面がかたい平坦な場所を選んでください。坂道および地面のやわらかいところでは、ジャッキが傾いたり滑ったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキレバーの引きしろ

基準値

6 ~ 10 ノッチ
(操作力約 245 N [25 kgf] 時)

* 基準値を外れている場合はトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

- ジャッキが、必ずジャッキアップポイントに掛かっていることを確かめてください。ジャッキアップポイント以外に掛けるとジャッキがたおれたり、部品が損傷するおそれがあります。
- ジャッキやジャッキアップポイントに油脂類が付着しているときは、完全に拭き取ってから掛けてください。すべて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキアップ中は、エンジンをかけないでください。振動で外れるおそれがあります。
- 長時間ジャッキアップしておくときは、安全のため、スタンドや角材などで車両を支えておいてください。
- 2台以上のジャッキを同時に使用しないでください。
- ジャッキを必要な高さ以上に上げないでください。
- ジャッキの上や下に物をはさまないでください。
- 車に搭載されているジャッキを他の車に使用したりしないでください。
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げないでください。

タイヤの取り扱い

タイヤの状態の点検

| 点検時期 |
|------------------------------------|
| 事業用 3カ月ごと（距離項目）、 自家用 1年ごと（距離項目） |

* タイヤの状態点検方法は下記を参照してください。

- ・ タイヤの空気圧（→P.12-8）
- ・ タイヤの異常な摩耗（→P.12-9）
- ・ タイヤの亀裂・損傷（→P.12-9）
- ・ タイヤの溝の深さ（→P.12-10）

タイヤの交換のしかた

■ タイヤの取り外し

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止し、タイヤの前後に輪止めを掛ける。

* フロントタイヤを取り外すときは、リヤタイヤの前後に輪止めを掛けます。

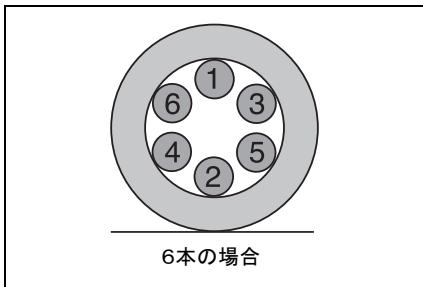
* リヤタイヤを取り外すときは、左右のフロントタイヤの前後に輪止めを掛けます。

2. ホイールナットを対角線上に、手で少し回るくらいまでゆるめる。

* 図のように回してゆるめてください。

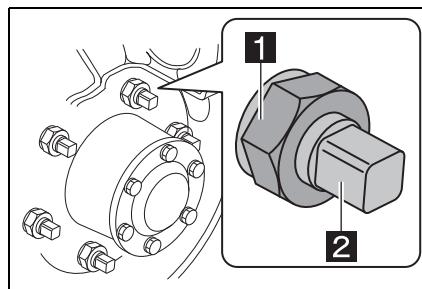
* ダブルタイヤは外側タイヤ（アウターホイールナット）をゆるめてから、内側タイヤ（インナーホイールナット）をゆるめます。

例) 対角締めのゆるめる順番



| | | 車両 左側 | 車両 右側 |
|--------------|-------------|----------|----------|
| ジャスト ロー | フロント リヤ | 左回転 | 左回転 |
| フルジャス トロー | フロント/ リヤ | 右回転 | 左回転 |

3. タイヤが取り外せる高さまでジャッキアップし、ゆるめてあるホイールナットを取り外す。
 - * ジャッキの取り扱い (→P.13-31)
 - * ホイールボルトのねじ山を傷つけないよう十分注意してください。
 - * ダブルタイヤの外側タイヤだけを取り外すときは、インナーホイールナットをゆるめる必要はありません。
4. タイヤを取り外す。
 - * フルジャストローのダブルタイヤの場合は、アウターホイールナットを取り外し、外側タイヤを取り外した後、いったんジャッキを下げタイヤを接地させてからインナーホイールナットを少しゆるめ、再びジャッキアップして同様に内側のタイヤを取り外します。



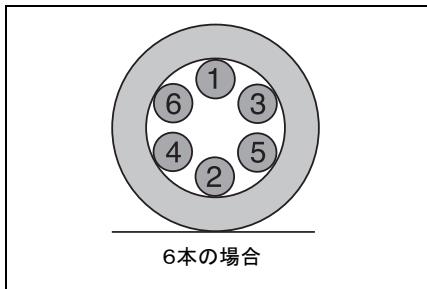
1 アウターホイールナット

2 インナーホイールナット

■ タイヤの取り付け

1. ホイールボルト、ホイールナットのねじ部およびディスクホイール取り付け面をよく清掃する。
2. ディスクホイールのボルト穴をホイールボルトに合わせながらタイヤを取り付ける。
3. ホイールボルトがディスクホイールのボルト穴の中央になるようタイヤをセットし、ガタつかない程度にホイールナットを仮締めする。
 - * ホイールナットのテーパー座部がディスクホイール側です。
4. ジャッキを回してタイヤを静かに降ろす。
5. ホイールナットを対角線上に2～3回に分けて締め付ける。
 - * 図のように回して締め付けてください。
 - * ダブルタイヤは内側タイヤ（インナー ホイールナット）を締め付けてから外側タイヤ（アウターホイールナット）を締め付けます。

例) 対角締めの締め付ける順番



| | | 車両 左側 | 車両 右側 |
|--------------|-------------|----------|----------|
| ジャスト ロー | フロント | 右回転 | 右回転 |
| | リヤ | 左回転 | 右回転 |
| フルジャス トロー | フロント/ リヤ | 左回転 | 右回転 |

6. 最後にトルクレンチなどを使用して、規定の締め付けトルクでホイールナットを締め付ける。

| ホイールナットの締め付けトルク | | |
|-----------------|-------------|--|
| ジャス トロー | フロント | 115 ~ 155 N・m {1,180 ~ 1,580 kgf・cm} |
| | リヤ | 145 ~ 195 N・m {1,480 ~ 1,980 kgf・cm} |
| フルジャ ストロー | フロント/ リヤ | 340 ~ 390 N・m {3,470 ~ 3,970 kgf・cm} |

☞ アドバイス

- ホイールナットのねじ方向は下記のようになっています。
- ホイールボルト、ホイールナットについて

ホイールボルト、ホイールナットには右側用と左側用があります。

▶ ジャストロー

| タイヤ仕様 | 項目 | 左側用 | 右側用 |
|-----------------|---------|--|--|
| フロント シングルタイヤ | ホイールボルト | ボルト先端の識別記号 は下記のいずれか    右ねじ | ボルト先端の識別記号 は下記のいずれか    右ねじ |
| | ホイールナット |  右ねじ |  右ねじ |
| リヤ ダブルタイヤ | ホイールボルト | ボルト先端の識別記号  左ねじ | ボルト先端の識別記号  右ねじ |
| | ホイールナット |  左ねじ |  右ねじ |

▶ フルジャストロー

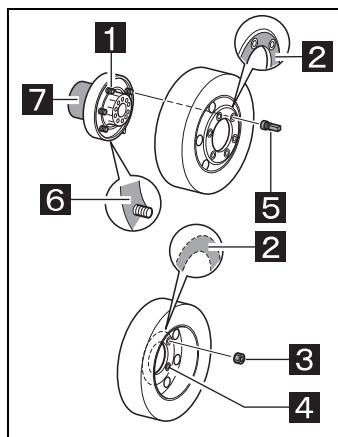
| タイヤ仕様 | 項目 | 左側用 | 右側用 |
|-----------------|-----------------|--|--|
| フロント シングルタイヤ | ホイールボルト | ボルト先端の識別記号  左ねじ | ボルト先端の識別記号  右ねじ |
| | ホイールナット |  左ねじ |  右ねじ |
| リヤ ダブルタイヤ | ホイールボルト | ボルト先端の識別記号  左ねじ | ボルト先端の識別記号  右ねじ |
| | インナー ホイールナット |  左ねじ |  右ねじ |
| | ホイールナット |  左ねじ |  右ねじ |

▲警告

■ タイヤの交換について

- レンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと、レンチが外れケガをするおそれがあります。
- ホイールナットはゆるめすぎないようにしてください。ゆるめすぎると、ねじ山を損傷させるおそれがあります。
- ホイールボルト・ホイールナットのねじ部が損耗しているものやディスクホイールに変形や亀裂があるものは交換してください。そのまま使い続けるとホイールナットのゆるみや脱輪の原因になります。
- ホイールの平面部、ナットのテーパー座部およびハブのホイール当たり面をきれいに清掃し、錆・ゴミ・追加塗装および異物などは取り除いてください。これらをはさんだまま取り付けると、ホイールナットがゆるむ原因になります。

- タイヤ取り付け時は、アウターホイールナット・インナーホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイールボルト・アウターホイールナット・インナーホイールナットやブレーキ部品を破損したり、ホイールがはずれるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。



- 1 ホイールボルト
- 2 ホイール当たり面（平面部）
- 3 アウターホイールナット
- 4 ホイールナットテーパー座部
- 5 インナーホイールナット
- 6 ホイール当たり面
- 7 ハブ

- タイヤを取り付けるホイールボルトやホイールナットにオイルやグリースを塗らないでください。必要以上に締め付けられてボルトが破損するおそれがあります。

■ フルジャストローのダブルタイヤについて

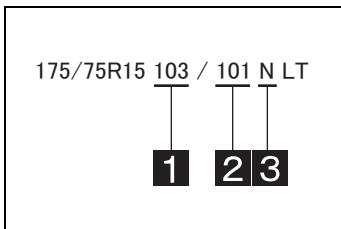
- フルジャストローのダブルタイヤの外側タイヤを交換したときは、必ずインナーホイールナットを締め付けてからアウターホイールナットを締め付けてください。
- ホイールナットのゆるみおよび締めすぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。

■ 点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。

■ 交換後のタイヤはロードインデックスと速度記号が交換前のタイヤと同一またはそれ以上になるタイヤを使用してください。



- 1 ロードインデックス（単輪使用時）
- 2 ロードインデックス（複輪使用時）
- 3 速度記号

- ・ メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ・ ラジアルタイヤ、バイアスペルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。

- ・ サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。
- ・ スペアタイヤは前後輪と同一サイズを装備しています。スペアタイヤに交換する時は前後輪共に同一サイズに交換してください。
- ・ 前後輪の指定サイズが異なる場合、必ず前後ともに指定サイズのタイヤを使用してください。

タイヤローテーション

タイヤは道路の状況・積荷・ブレーキ操作・取り付け位置などによってそれぞれ異なった摩耗をします。また、スペアタイヤは長時間使用しないと変質します。タイヤの摩耗を均等にし、寿命を延ばすためには定期的に位置交換をしてください。

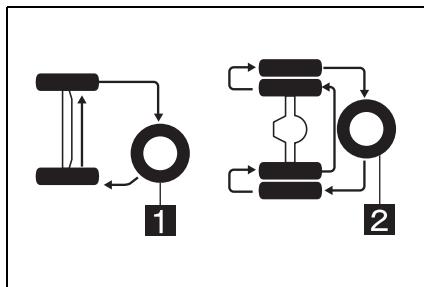
タイヤローテーション時期

5,000 km 走行ごと

■ タイヤローテーション例

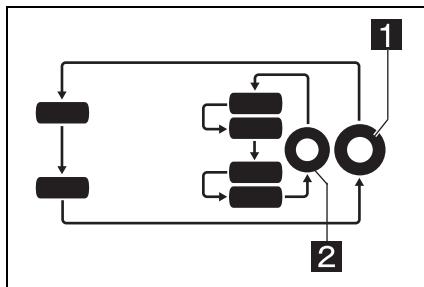
- ▶ リヤダブルタイヤ車
- 前後輪タイヤサイズが異なる場合

スペアタイヤが車両中央および後方の時



- 1 前輪用スペアタイヤ
(前輪タイヤと同一サイズ)
- 2 後輪用スペアタイヤ
(後輪タイヤと同一サイズ)

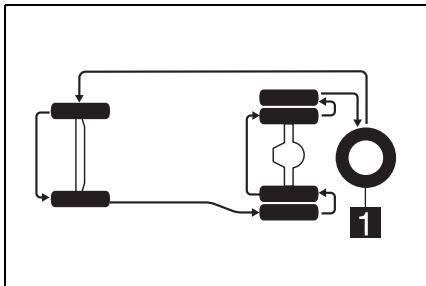
スペアタイヤが車両後方の時



- 1 前輪用スペアタイヤ
(前輪タイヤと同一サイズ)
- 2 後輪用スペアタイヤ
(後輪タイヤと同一サイズ)

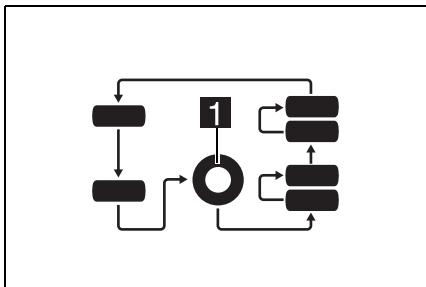
- 前後輪タイヤサイズが同じ場合

スペアタイヤが車両後方の時



1 スペアタイヤ
(前後輪タイヤと同一サイズ)

スペアタイヤが車両中央の時



1 スペアタイヤ
(前後輪タイヤと同一サイズ)

■ タイヤローテーション時の注意

- * タイヤの配置換えは、以前の回転方向と逆になる位置に取り付けてください。
- * 新品タイヤは発熱しやすく、摩耗が進みやすいため、フロントタイヤとして2本1組で取り付けてください。
- * タイヤは傷などのないものを使用し、ディスクホイールに組み込むときはバランスを取って使用してください。
- * タイヤは全て摩耗差のないタイヤを使用してください。
- * 時々、ディスクホイールを組み替えて、タイヤを裏返しにしてください。
- * ローテーションは同じプライ数間で行ってください。

⚠ 注意

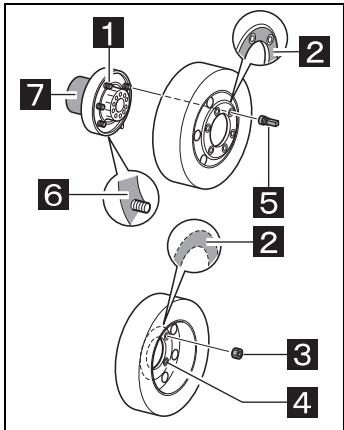
■ タイヤの取り付けについて

- タイヤ取り付け後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50～100km走行後、規定の締め付けトルクでホイールナットの増し締めを行ってください。
- 傷、変形があるナット・ホイールなどは使用しないでください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランス点検を受けてください。

⚠ 警告

■ タイヤローテーションについて

- 同一軸には、必ず同じ型式のタイヤを使用してください。同一軸内で異なる型式のタイヤを使用すると、制動時などに車両が左右に流れたりハンドルを取られたりする原因になります。
- 構造の違うタイヤ（バイアスタイヤとラジアルタイヤなど）の混用装着はしないでください。混用すると操縦性および安定性が悪くなります。
- タイヤローテーションの際、ホイール平面部のボデー色などの追加塗装面が相手部品（ハブ、ホイール）との当たり面となるときは、当たり面（平面部、ナットテーパー部）の塗装をはがし、ワイエーブラシなどで面をきれいに清掃した後、装着してください。塗装が厚いとホイールナットがゆるむ原因になります。
- タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象（高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象）によりタイヤが破裂したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 1 ホイールボルト
- 2 ホイール当たり面（平面部）
- 3 アウター ホイールナット
- 4 ホイールナット テーパー座
- 5 インナー ホイールナット
- 6 ホイール当たり面
- 7 ハブ

スペアタイヤ

スペアタイヤの点検

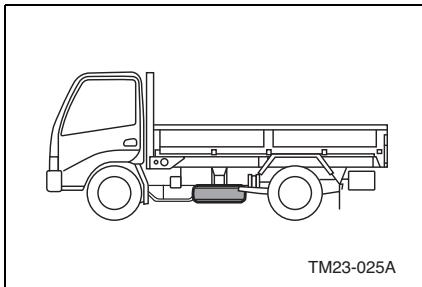
- スペアタイヤが確実に巻き上げられ、ガタや異常な傾きがないかを目視などで確認してください。また、スペアタイヤの取り付けにゆるみがないかをタイヤの上から体重をかけてゆするなどして点検してください。
- タイヤが動くときはスペアタイヤ取り付け装置の変形などの異常がないことを確認し、確実に巻き上げてください。

▲ 警告

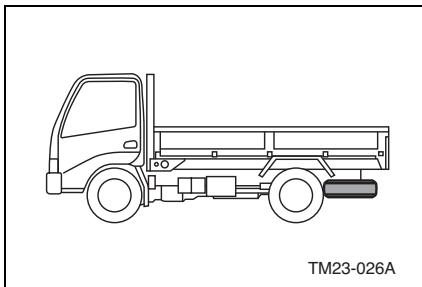
- スペアタイヤは確実に取り付けておいてください。スペアタイヤの取り付けがゆるんでいると、走行中に落下して、事故の原因になる恐れがあります。
- スペアタイヤの当たり面にもの（布、スポンジなど）を挟むと走行中の振動でゆるみ、タイヤがガタついたり落下につながる恐れがあります。
- タイヤキャリアが接地などにより変形したときは、締め付けが不完全となりスペアタイヤの脱落につながるため、トヨタ販売店で点検し新品と交換してください。

■格納場所

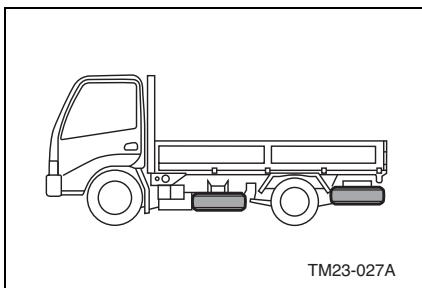
▶ フロント吊り下げ式



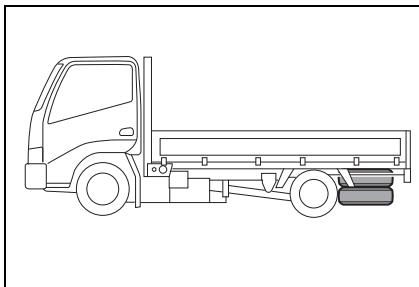
▶ リヤ吊り下げ式



▶ 前後吊り下げ式



▶ リヤ吊り下げ式（2段）

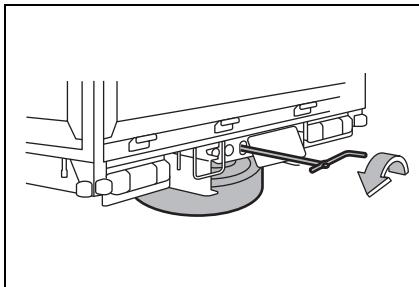


スペアタイヤの取り外し・取り付けかた

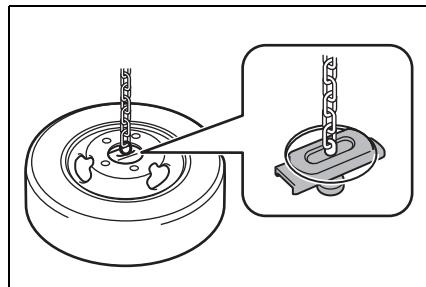
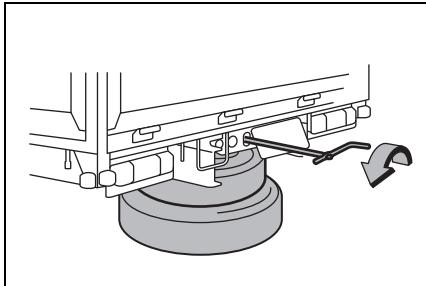
■取り外しかた

1. キャリアの穴に組み付けた
ジャッキハンドルバーを挿し込む。
* キャリアの穴は車両後部または車両左側にあります。
2. ハンドルを左にまわしてスペア
タイヤ／応急用タイヤをおろす。

▶ 1段吊り仕様



▶ 2段吊り仕様

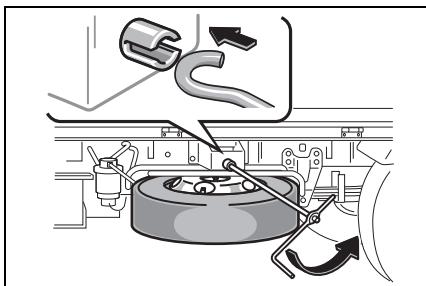


● B タイプ

ツメをホイールの穴にかけてアンカープレートを取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたわみをなくす。

* ツメがホイールの穴に確実にかかっていること、アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。

▶ フロント吊り仕様



- おろしたスペアタイヤ / 応急用タイヤからアンカープレートをはずす。

■ 取り付けかた

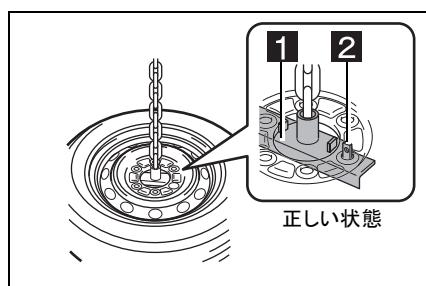
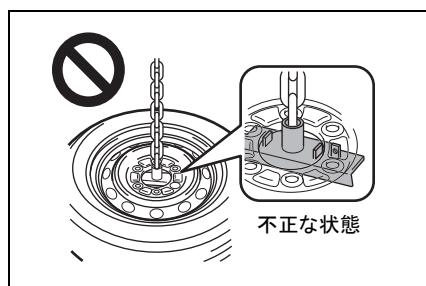
▶ 1段吊り仕様

- ホイール穴にアンカープレートをはめる。

● A タイプ

ホイール穴にアンカープレートを取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたわみをなくす。

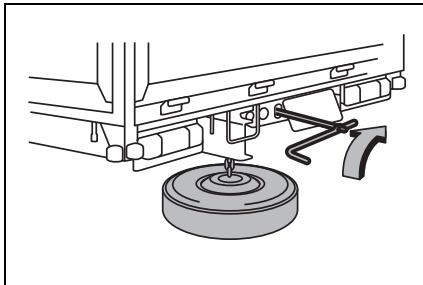
* アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。



1 アンカープレート

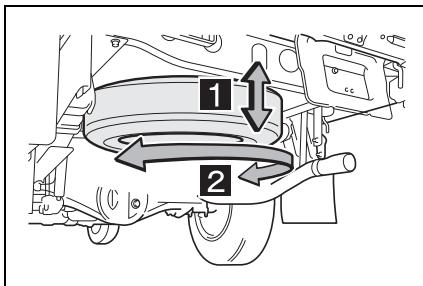
2 ツメ

2. 組み付けたジャッキハンドルバーをキャリアの穴に挿し込む。
 3. ハンドルを右にまわしてスペアタイヤ/応急用タイヤを巻き上げる。
- * イラストはリヤ吊り下げ式で表現しています。



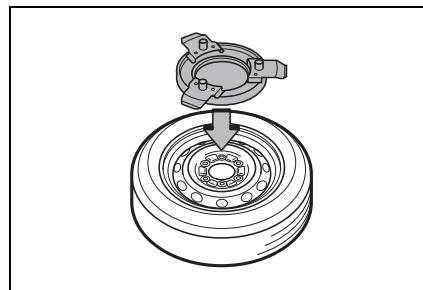
- | |
|----------------|
| 締め付け荷重 |
| 250 N [25 kgf] |
4. タイヤを巻き上げられたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する。

- * タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。ゆるんだり、正しく格納できなかつたりした場合は、3 と 4 を繰り返してください。



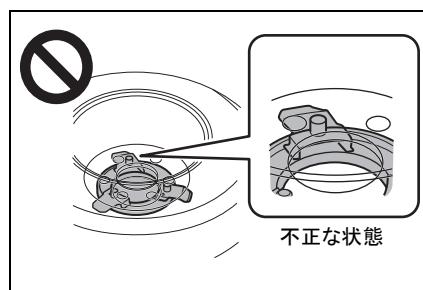
- 1** タイヤを上下にゆする
2 回転させる

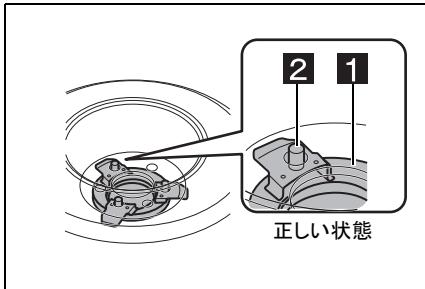
5. タイヤが下がったときや不安定なときは、4 を繰り返す。
 6. 工具・ジャッキを収納する。
- 2段吊り仕様
1. フロント用タイヤの上にスペーサーをのせる。



2. スペーサーの突起部にリヤ用タイヤのハブ穴を合わせてのせる。

* 突起部がホイールの穴に確実にかかっていること、スペーサーがホイールの中心にあることを確認してください。



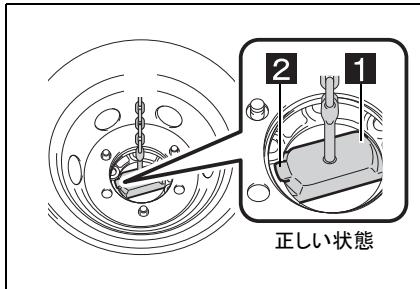
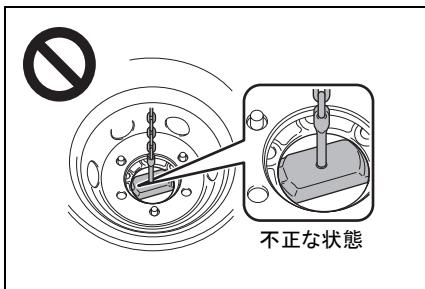


1 スペーサー

2 突起部

3. 下側のフロント用タイヤのホイール穴にアンカープレートをはめる。

- * ツメをホイールの穴にかけてアンカープレートを取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたわみをなくす。
- * ツメがホイールの穴に確実にかかっていること、アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。



1 アンカープレート

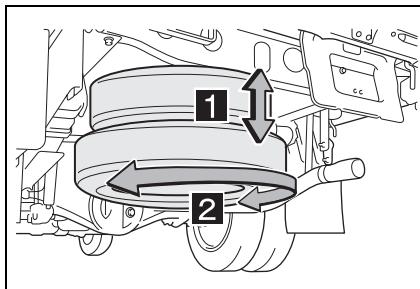
2 ツメ

4. 組み付けたジャッキハンドルバーをキャリアの穴に挿し込む。
5. ハンドルを右にまわしてスペアタイヤを巻き上げる。

| 締め付け荷重 |
|----------------|
| 250 N [25 kgf] |

6. タイヤを巻き上げられたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する。

- * タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。ゆるんだり、正しく格納できなかったりした場合は 5 と 6 を繰り返してください。



1 タイヤを上下にゆする

2 回転させる

- タイヤが下がったときや不安定なときは、6を繰り返す。
- 工具・ジャッキを収納する。

アドバイス

■スペアタイヤについて

スペアタイヤの空気圧は正常なタイヤでも時間がたつと自然漏れのため低下しますので、少し高めにしておいてください。また、使用するときは標準空気圧に調整してください。

▲警告

■取り外しについて

- 格納具からタイヤを取り外すときは、足の上などに落とさないようにゆっくりと降ろしてください。
- スペアタイヤはジャッキアップする前に格納具から取り外してください。

■取り付けについて

- スペアタイヤを格納したあとは、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中に外れるおそれがあります。
- アンカープレートがホイールセンター穴に確実にはまっていないまま走行すると、スペアタイヤが外れて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表で確認のうえ、調整してください。

- 巻き上げ後、ハンドルを約250N[25kgf]以上の力で締め上げて、タイヤを固定します。締め付けが不十分だったりチェーンがねじれたまま巻き上げたりすると走行中の振動でゆるみ、スペアタイヤが「ガタ」ついたり、落下することがありますので、確実に締め付けてください。

- 車載工具を使用しないで過大トルクで巻き上げると内部機構が損傷し、走行中にスペアタイヤの落下につながる恐れがあります。

- スペアタイヤの当たり面にもの（布、スポンジなど）を挟むと走行中の振動でゆるみ、タイヤがガタついたり落下につながる恐れがあります。

- タイヤキャリアが接地などにより変形したときは、締め付けが不完全となりスペアタイヤの脱落につながるため、トヨタ販売店で点検し新品と交換してください。

- スペアタイヤは確実に巻き上げておいてください。走行中にスペアタイヤを落とすと後続車や対向車が乗り上げたりして、事故の原因になります。

- 空気圧が不足している場合や調整できないときは、控えめな速度で走行してください。

- やむを得ず後輪用スペアタイヤを前輪に取り付けた場合は、ハンドルをしっかりと握り、急ブレーキを避け、極力速度を抑えて運転し、できるだけ早く正規のサイズのタイヤに交換してください。

- ジャストローのスペアタイヤで、前輪用と後輪用が別々に格納されている場合は、タイヤ交換の際は間違えないようにしてください。前輪用と後輪用の格納位置を間違えると、地上高が確保できなくなります。取り外した際と同じ位置に格納してください。
- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- ジャストローのスペアタイヤで2段吊り格納具を使用する場合は、タイヤ1本だけで格納しないでください。走行中にはずれ落ち、思わぬ事故につながるおそれがあります。

△ 注意

■ パンクしたままの走行について

- タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷となります。

ホイール

ホイールナットのゆるみ点検

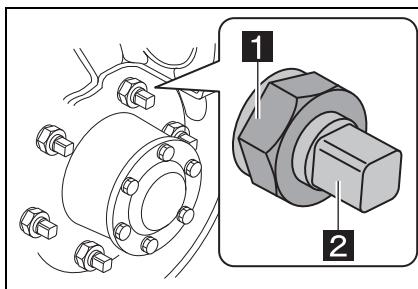
点検時期

事業用3カ月ごと、自家用6カ月ごと
[シビアコンディション項目]

ホイールナットのゆるみがないかを点検してください。

■ フルジャストローのダブルタイヤ

1. アウターホイールナットをゆるめる。
2. インナーホイールナットを締め付ける。
3. アウターホイールナットを締め付ける。



1 アウターホイールナット

2 インナーホイールナット

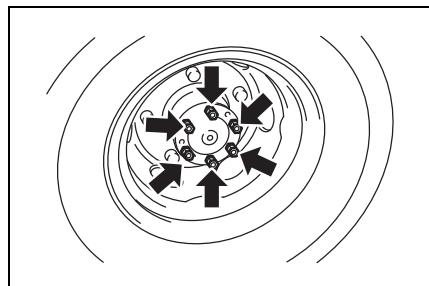
| 車型 | 締め付けトルク |
|----------|---|
| ジャストロー | 145 ~ 195 N・m [1,480 ~ 1,980 kgf・cm] |
| フルジャストロー | 340 ~ 390 N・m [3,470 ~ 3,970 kgf・cm] |

アクスルシャフト・ドライブシャフト

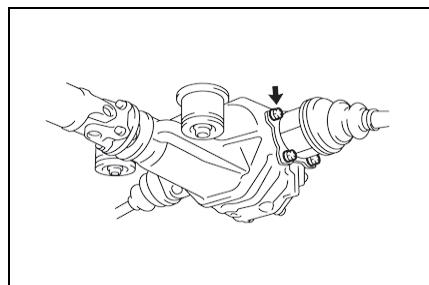
ホイールナットのゆるみの点検と同時にやってください。

■ 点検

| 点検時期 |
|---|
| 事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと [シビアコンディション項目] |



アクスルシャフト～ハブ（リヤ）
ハブ法兰ジ～ハブ（フロント）



ドライブシャフト～フロントディファレンシャル（フロント）

■ アクスルシャフト

ボルトのゆるみを点検します。

- ▶ アクスルシャフト取り付けナット
- 8 インチ（ディファレンシャル）

| 部位 | 締め付けトルク |
|-----------------|---------------------------------------|
| アクスルシャフト～ハブ（リヤ） | 26.4 ~ 39.6 N・m [270 ~ 404 kgf・cm] |

● 10.5 インチ（ディファレンシャル）

| 部位 | 締め付けトルク |
|-----------------|---------------------------------------|
| アクスルシャフト～ハブ（リヤ） | 47.2 ~ 70.8 N・m [482 ~ 722 kgf・cm] |

■ ドライブシャフト

ナットのゆるみを点検します。

- ▶ ドライブシャフト取り付けナット（4WD 車のみ）

| 部位 | 締め付けトルク |
|------------------------|---------------------------------------|
| ハブ法兰ジ～ハブ（フロント） | 24.0 ~ 36.0 N・m [244 ~ 366 kgf・cm] |
| ドライブシャフト～フロントディファレンシャル | 72.6 ~ 93.1 N・m [741 ~ 950 kgf・cm] |

アドバイス

■ ホイールナットについて

- ホイールナットおよびインナーホイールナット・アウターホイールナットのねじ方向は、表のようになっています。

| | 車両左側 | 車両右側 |
|--------|------------|------------|
| ジャストロー | フロント リヤ | 右ねじ 左ねじ |
| | | 右ねじ |

| | | | |
|------------|---------|-----|-----|
| フルジャストローラー | フロント/リヤ | 左ねじ | 右ねじ |
|------------|---------|-----|-----|

▲警告

■ ホイールナットについて

- タイヤを取り付けるホイールボルトやホイールナットにオイルやグリスを塗らないでください。必要以上に締め付けられてボルトが破損するおそれがあります。
- ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れケガをするおそれがあります。
- ホイールナットのゆるみおよび締めすぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。
- ダブルタイヤの点検のときは、アウターホイールナットだけでなくインナーホイールナットも忘れずに締め付けてください。

△注意

■ ホイールナットについて

ディスクホイールやホイールボルトおよびホイールナット交換後、タイヤローテーション後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50～100 km 走行後、規定の締め付けトルクでホイールナットの増し締めを行ってください。

ステアリング

保安上重要な役割を持っています。点検時、異常が認められたときは、ただちにトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

ハンドルの操作具合の点検

点検時期

1年ごと

■遊びの点検

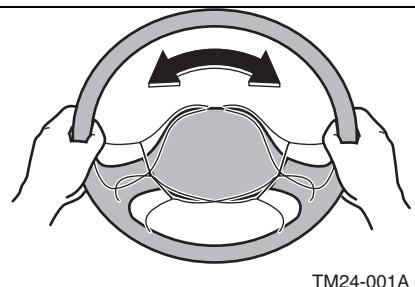
遊びはハンドル円周上で次の通りです。

基準値

25 mm 以下

前車輪を直進方向に正しく向けてから、ハンドルを左右に軽く回して遊びを点検します。

* 必ずエンジンをかけて点検してください。



■ガタの点検

ハンドルを前後・左右・上下に動かして、大きなガタがないかを点検します。

* ロックレバーは確実にロックしてください。

■振れ・取られの点検

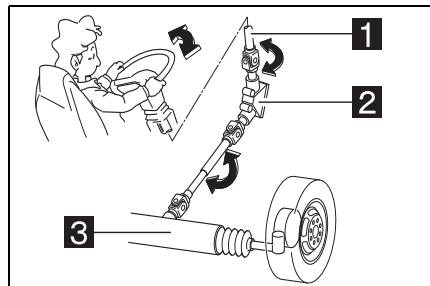
走行中、ハンドルが異常に振れ、左右取られ、重くないかを点検します。

■戻りの点検

旋回から直進へのハンドル操作時に異常な重さや引っかかりがないかを点検します。

■ステアリング装置各部の点検

| 点検時期 |
|------------------|
| 事業用 3 カ月ごと（距離項目） |
| 自家用 1 年ごと |

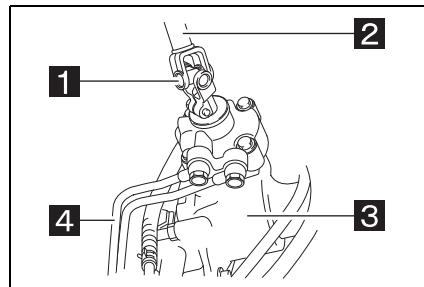


1 シャフト

2 ギヤボックス

3 リンク

- シャフトスライドの給脂状態とガタがないかを点検します。
- 取り付け各部のゆるみ・亀裂・摩耗および変形などがないかを点検します。



1 ステアリングユニバーサルジョイント

2 ステアリングシャフトスライド

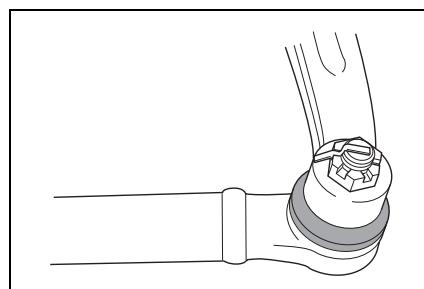
3 ギヤボックス

4 オイルパイプ

リンク連結部のダストカバーの点検

| 点検時期 |
|-------|
| 1 年ごと |

リンク連結部のダストカバーに摩耗や損傷および外れがないかを点検します。



ホースおよびパイプなどの点検

| 点検時期 |
|--------------------------------|
| 事業用 3 カ月ごと（距離項目）、 自家用 1 年ごと |

- パワーステアリングのオイルパイプやホースが他部と接触していないか、傷およびオイル漏れはないかを点検します。
- 雪路や融雪路などを走行後、日常（運行前）点検時にオイルパイプやリンク類に雪・泥水の付着で凍結したかたまりが付着していないかを点検します。付着しているときは、パイプやリンク類を傷つけないように注意し、払い落とします。

ホーンの点検

| 点検時期 |
|------|
| 1年ごと |

ホーンは鳴るか、また、取り付け部に異常がないかを点検します。

シャシスプリング

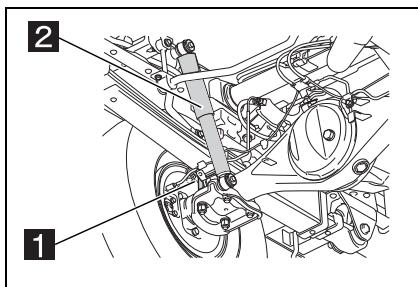
不具合は、乗り心地・積荷の傾き・走行安定性に悪影響をおよぼします。次の点検を行ってください。

シャシスプリングの点検

| 点検時期 |
|--------------------|
| 事業用 3カ月ごと、自家用 1年ごと |

シャシスプリング周りに異常がないかを点検します。

- U-ボルト、センターボルトのナットのゆるみ
- リーフスプリングの損傷
- ショックアブソーバーのオイル漏れ



1 U-ボルト

2 ショックアブソーバー

取り付け部のゆるみ、ガタ、損傷点検

| 点検時期 |
|------|
| 1年ごと |

シャシスプリング取り付け部および連結部の異常がないかを点検します。

- スプリング取り付け部の損傷
- スプリング連結部のガタ

エアコン

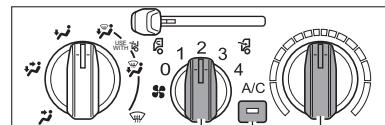
使用冷媒

| 車種 | 冷媒(ガス) の種類 | 冷媒(ガス) 規定量 |
|-------------------|---------------|---------------|
| リヤ クーラー 無し車 | HFC134a | 550±50 g |
| リヤ クーラー 付き車 | | 750±50 g |

冷媒(ガス)充てん量の点検

| 点検時期 |
|-------|
| 6カ月ごと |

1. エンジンをアイドリング回転する。
2. エアコンスイッチを「ON」、風量切り替えダイヤルを「4」、温度コントロールダイヤルを左いっぱいまで回す。

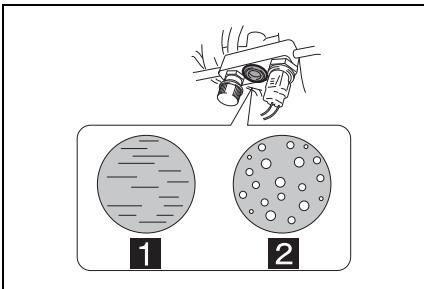


1. 温度コントロールダイヤル
2. エアコンスイッチ
3. 風量切り替えダイヤル
3. サイトグラスに気泡がないことを確認する。

サイトグラスに気泡が見えないのが正常です。気泡が見えるときは冷媒(ガス)

不足ですので、トヨタ販売店に充てんを依頼してください。

- * 冷媒（ガス）が不足すると冷房能力が低下します。



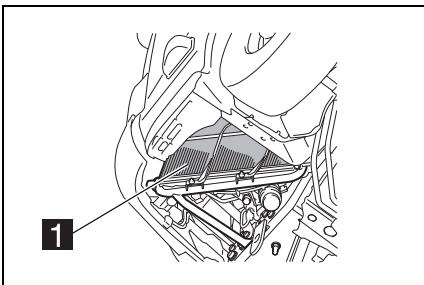
- 1 冷媒量適正**
2 冷媒量不足（泡が出ている）

コンデンサユニットの洗浄

洗浄時期

6カ月ごと

メインコンデンサユニットのフィンが泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下したり、腐食の原因になりますので、定期的に水洗いをしてください。



- 1 メインコンデンサユニット**

冷媒（ガス）配管接続部の点検

| 点検時期 |
|-------|
| 6カ月ごと |

- 冷媒（ガス）配管の各接続部にオイルのにじみがないかを目視で点検します。
- オイルのにじみが著しいときは、冷媒（ガス）漏れのおそれがありますので、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

アドバイス

■ 冷媒（ガス）充てん量の点検

- エアコンには環境保護のため、オゾン層を破壊しない冷媒（ガス）を使用しています。ただし、法令により大気放出は禁止されています。
- エアコンを廃棄する場合、冷媒（ガス）の回収が必要です。なお、補充・交換・回収の際は、トヨタ販売店にお申し付けください。

注意

■ 冷媒（ガス）の充てんについて

高圧ガスを取り扱うため、トヨタ販売店にお申し付けください。

■ コンデンサユニットの洗浄

- 水洗いするときは、必ずエアコンを停止してください。
- ブラシを使わないでください。フィンがつぶれます。
- フィンなどを傷つけないよう注意し、洗剤、高圧洗浄機は使用しないでください。

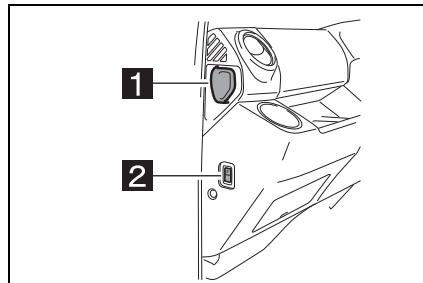
- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行した後は、十分に洗浄してください。

ウインドウォッシャー

ウォッシャー液の補給

キャップを取り外してウォッシャー液を補給します。ウォッシャー液の残量は、キャップに付いているゲージで確認できます。

* ウォッシャー液面が満水点検窓の「FULL」の線まで補給します。



1 キャップ

2 満水点検窓

ウォッシャー液の作り方

ウォッシャーの原液と水との混合割合は、外気温により異なりますので、下記を参考に原液を薄めてください。

| 使用地域 ・季節 | 混合割合 | 凍結温度 |
|-------------|------------|-----------|
| 通常 | 原液 1 : 水 2 | -10 °C 程度 |
| 冬期 | 原液 1 : 水 1 | -20 °C 程度 |
| 厳寒期 | 原液使用 | -50 °C 程度 |

ウインドウォッシャーの点検

点検時期

1 年ごと

▲警告

■ ウオッシャー液について

ウオッシャー液の代わりに冷却水を使用しないでください。ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に悪くなり危険です。

■ ウオッシャー液の原液について

揮発剤が含まれていますので、火気には近づけないでください。火災の原因になります。

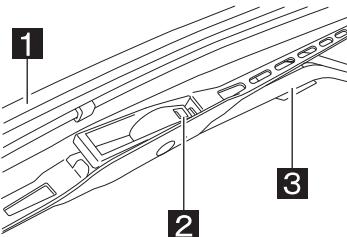
⚠ 注意

■ ウオッシャー液について

石けん水などを入れると目詰まりや塗装面のしみなどの原因になります。

ワイパー

ワイパー刃の交換



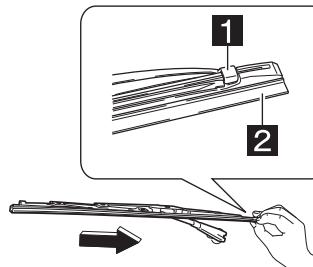
1 ワイパー刃

2 ツメ

3 ワイパー臂

1. ワイパー臂を手前に起こす。
2. 取り外す場合は、固定しているツメを押し込みながらワイパー臂取り付け部の方向に押す。
3. 取り付けは、新品のワイパー刃をワイパー臂に「カチッ」と音がするまで引き込む。
4. 取り付け後、ウインドウォッシャーを併用し、ワイパーを作動させて払拭状態を確認する。

ワイパーラバーの交換



1 スッパー**2 ワイパーラバー**

1. ワイパーラバーを手前に起こす。
2. スッパーを外してから、ワイパーラバーを取り外し、新品と交換する。
3. 取り外しと逆の順序で取り付けた後、ウインドウォッシャーを併用し、ワイパーを作動させて拭き状態を確認する。

* 交換は、トヨタ純正部品を使用してください。

ワイパーの点検**点検時期**

1年ごと

⚠ 注意**■ ワイパーについて**

ワイパーブレードおよびワイパーラバーを取り外したままアームを倒したり、ワイパーを作動させたりしないでください。車体やウインドウガラスに傷がつくことがあります。

バッテリー

この車両の電気装置は、以下の2種類があり、マイナス側をアースしています。

- 12V バッテリー
標準仕様車
- 12V のバッテリーを2個並列に接続した12V バッテリー
寒冷地仕様車

点検時期

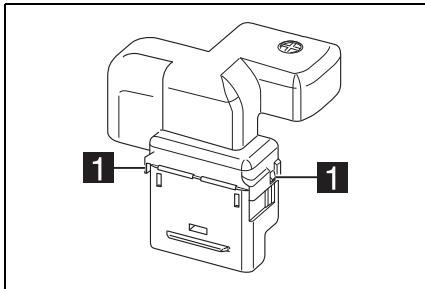
| 車型 | 点検時期 |
|-----|------------------------|
| 標準車 | 事業用 3ヶ月ごと、 自家用 1年ごと |

端子部の点検

- 端子部にゆるみや腐食がないかを点検します。
- 白い粉が付着しているときは、湯でよく洗いよく拭き取ります。
- 点検および清掃後、ゆるみが生じないよう確実に端子を締め付けます。
- カバーを外す時、取り付けるときは、ロック位置に気をつけて確実にロックされていることを確認してください。

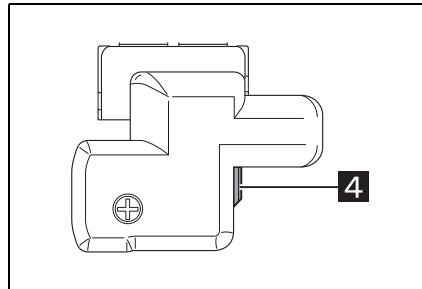
■ 室外バッテリーヒューズターミナルのバッテリーカバーの脱着

1. 左右のロック部を解除する。



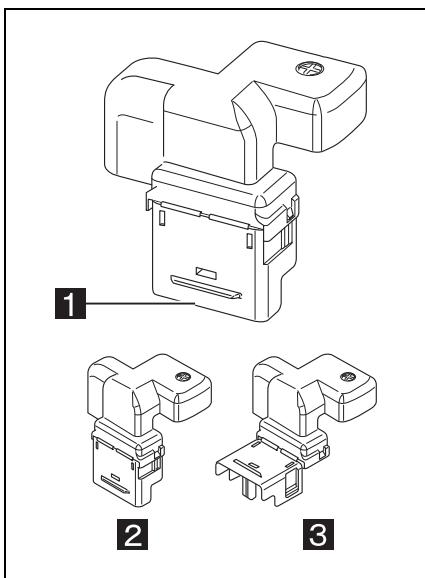
1 ロック部

- 下のロック部を解除して、Open状態にする。



4 突起部

- 元に戻す場合は、逆の手順で取り付ける。



1 ロック部

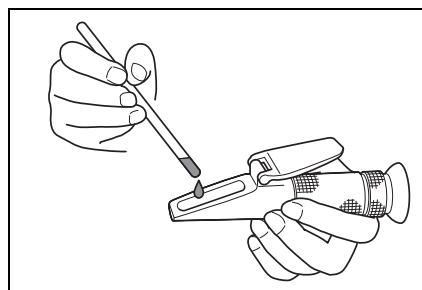
2 Close

3 Open

- 突起部に手をかけて引き抜く。

比重の点検

比重の点検は3ヶ月ごとに行ってください。また、測定の際は比重計を使用してください。



比重（液温 20 °C）

| | |
|-------------|----------|
| 1.24 ~ 1.29 | 良好 |
| 1.23 以下 | 不足（充電する） |

* 充電しても比重が1.24以上にならない場合は、新品に交換してください。

バッテリーの交換（Stop & Start搭載車）

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 装着されているバッテリーは、欧州規格のStop & Startシステム

ム専用品です。Stop & Start システム専用の LN4 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

- * 詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

充電時の注意

- 充電器で充電するときは、車両からバッテリーを取り外すかバッテリーコードを外してから行います。
- 液口栓を取り外して、風通しの良い場所で充電してください。
- 急速充電するときは、必ずバッテリーコードを外します。外さないとオルタネーターのダイオードが焼損することがあります。
- 充電器のクリップをバッテリー端子に接続する際、また、取り外す際は、充電器のスイッチを切っておいてください。

アドバイス

■ バッテリーの液口栓について

バッテリーの液口栓を開けたまま清掃しないでください。バッテリー液の中に異物が入り、バッテリーの寿命に悪影響をおぼします。

▲ 危険

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です。

▲ 警告

■ バッテリー液の取り扱いについて

- バッテリー液は希硫酸です。皮膚や衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。もし、衣服に付着したときは石けんで十分洗い、また、万一皮膚に付着あるいは眼に入ったときは、ただちに清水で十分洗い流し医師の治療を受けてください。
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。
- バッテリーを点検するときは以下の事項をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害を負ったり、車両の故障や損傷につながるおそれなどがあります
 - バッテリーを車両に取り付けるときは、ガタつきがないようにします。取り付けが不完全ですと走行中の振動でケースや極板を傷めことがあります。
 - バッテリーから直接 12 V の電源を取り出さないでください。また、24 V の電気負荷を追加するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- バッテリーは常に清潔にしておいてください。汚れたままにしておくと、電解液中に不純物が混入して極板を傷めたり、ふた上面でリーク（漏電）し、バッテリーの寿命を短くすることがあります。

■ 点検・整備するときは

- コンピューターなど電気部品を破損するおそれがあるので、バッテリーを含め電気系統の点検、整備をするときはエンジンスイッチやほかのスイッチを「OFF (LOCK)」にした後、バッテリーの \ominus 端子を外してから行います。
- \ominus 側が接続されていると、工具などが \oplus 端子と車体に触れたときにショートして危険です。また、電気系統の故障の原因になります。
- バッテリーは、必ず \ominus 端子（アース側）から取り外し、取り付けるときは \ominus 端子を最後にしてください。
- バッテリーの \oplus 端子と \ominus 端子を逆に接続しないでください。逆にすると、過大電流が流れてオルタネーターのダイオードや車体配線が焼損することがあります。
- バッテリー端子を外す際は、エンジンスイッチが「LOCK」の位置で5分以上経過した後外してください。この作業を実施しない場合、電子部品の故障や感電する恐れがあります。
(AT 車)

■ 取り外し注意点（バッテリーセンサー）(AT 車)

- バッテリーの \ominus 端子を外すときは、バッテリーセンサーごと取り外してください。

配線関係

配線止めのクリップのゆるみ、
損傷および折れ曲がりなどがな
いかを点検してください。

不具合があるときは、トヨタ販
売店で点検・整備を受けてくだ
さい。

無線関係の取り扱い

- 取り扱うには、申請し免許を受
けることが法律で定められてい
ます。
- 型式検定合格の無線機を使用す
るときは、操作のための資格は
必要としませんが、無線機の取
り付けによる車両電子機器への
悪影響も考えられますので、ト
ヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ 配線の追加について

追加配線は行わないでください。やむ
を得ず灯火器などを追加するときは、
トヨタ販売店にご相談ください。

車外騒音に関わる部品

👉 アドバイス

■ 取り扱いと点検

- 騒音カバーなどは、保安基準で決め
られた規制値を満足させるために取
り付けられたものであり、故意に改
造したり、取り外したりしないよう
にしてください。なお、整備のため
に取り外したときは、必ず元通りに
取り付けてください。
- マフラーおよび排気管などは、損傷
や腐食などによる本来の機能劣化を
防止するために「メンテナンスノー
ト」にしたがって点検してください。

⚠ 注意

■ 取り扱いと点検

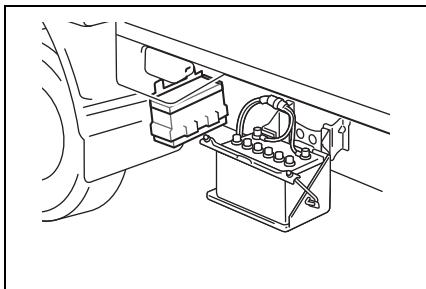
マフラーおよび排気管が損傷または腐
食したりすると、消音機能が低下した
りするおそれがありますので点検し、
異常があるときは交換してください。

車のお手入れ

車の外観を美しく保ち、性能・機能を十分に発揮し、長くご使用いただくために、次の手入れを行ってください。

洗車

- ホースなどで水をかけながら汚れを落としてください。キャブ周りだけでなく、タイヤハウス、フレーム、シャシスプリング、ラジエーターおよびブレーキパイプなども十分に洗います。
- 洗車するときは室外ヒュージブルリンクボックスのカバーが確実にロックされていることを確認してください。
- * イラストはシングルキャブを示します。



1 室外ヒュージブルリンクボックス

ワックスかけ

塗装を長持ちさせるため、月に1回程度のワックスかけをお勧めします。

- 洗車後、車体温度がおよそ体温以下になっているときに行ってください。

- コンパウンド（研磨剤）入りのワックスを使用すると、色落ちすることがあります。
- お使いになるワックスの説明をよく読んで正しくお手入れしてください。

メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る。
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る。
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る。

ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落してください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない。
 - ・ 硬いブラシを使用しない。
 - ・ 夏場の走行後や駐車場でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない。

補修塗装

洗車時には傷や錆がないかを点検します。傷や錆があるときは、正

しいタッチアップ塗装を行ってください。

* 詳細はトヨタ販売店にご相談ください。

内装の手入れ

カークリーナーなどでほこりを取り除いてください。また、汚れている個所は水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取ります。

▲警告

■洗車について

- ホースなどで水をかけるときは、インテークエアダクトの空気取り入れ口に水が入らないようにしてください。
- 高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。マフラー内部に水が浸入すると、触媒やセンサー破損の原因になります。
- 高圧洗車機を使用するときは駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のペアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

● シャシ周りコネクターへの高圧洗浄の直撃は極力行わないでください。コネクターは防水構造になっていますが、高圧洗浄を行うと防水用のゴムが変形し、コネクター内部への浸水を引き起します。そして一度内部に水が入ると、防水構造になっているため外部に水が出なくなり、錆や電食などにより断線する原因になります。

- エンジンルーム内の電気部品ハーネスコネクター・燃料噴射パイプコネクターに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障や錆などの原因になります。
- 洗車後、低速でブレーキペダルを踏み、効き具合を確認してください。ブレーキドラムに水が入ると効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。効きが悪いときは、低速で走行しながら効きが回復するまで数回ブレーキを踏み、ブレーキの湿りを乾かしてください。
- キャブをチルトして洗車するときはエンジンを止めてください。エンジン破損の原因になります。
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり走行できなくなる場合があります。
- 排気管は排出ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■内装の手入れについて

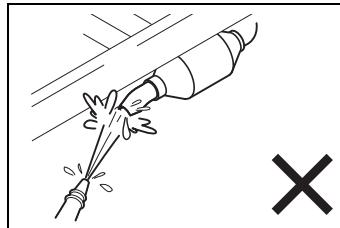
- 室内清掃時、電装部品に水をかけないでください。特に足元のスイッチ、センサー、ハーネスおよびコネクター等が被水するとリークや導通不良が発生し、エンジン制御やエアバッグなど電子制御機器の誤作動や故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。また、床が錆びたり、悪臭の原因になります。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、十分な効果が発揮できなくなるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思ひぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

△ 注意

■洗車について

- 特に、海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行後は、ラジエーター・インタークーラーを十分に洗浄してください。汚れたまま放置すると腐食の原因になることがあります。

- 下周り、足周りを洗うときは手にケガをしないように注意してください。
- アンテナは、収納した状態で洗車をしてください。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、かたいブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることができます。
- 目地がある素地部（塗装されていないバンパー・アウターミラーなどの樹脂部分）に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。
- 洗車するときは、ワイヤーブラシやたわしなどのかたい物を使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
- 洗車の際は、排気管開口から直接水を入れないでください。



- 尿素水タンク、尿素SCR周りなどの尿素配管接続部の洗車の際は、水で洗浄を行ってください。（汚れの状況により、やむを得ず洗剤を使用する場合は、中性洗剤の使用にとどめてください）コネクター部に洗剤が入ると、電熱線が腐食し尿素システム系異常に繋がるおそれがあります。

■次のようなときは、必ず洗車してください。

- ・海岸地帯を走行したとき
- ・樹液・鳥の粪・虫の死骸やコールタールが付着したとき
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ・ほこりや泥で汚れたとき
- ・煤煙・油煙・粉じん・鉄粉および化学物質などの降下の多い場所
- 高速道路で使用される多量の融雪塩が車両下部のフレームの早期腐食を招くおそれがあります。定期的に洗車や補修塗装を行ってください。
- 電気配線、電装品、コネクターおよびホーンなどの洗浄（特に高圧洗浄）は避けてください。また、寒冷時ドアのキー穴やゴム部品が凍結して開かなくなることがありますので、洗車後はドア周りなどの水分をよく拭き取ってください。
- プラスチックや樹脂部品を、シンナーやガソリンで清掃しないでください。変色や亀裂の原因になります。
- キャブをチルトして洗車するときは、エンジンの空気取り入れ口に水が入らないように処置してください。エンジン破損の原因になります。

■内装の手入れについて

- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装のはがれの原因になります。

●変色・しみ・塗装のはがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

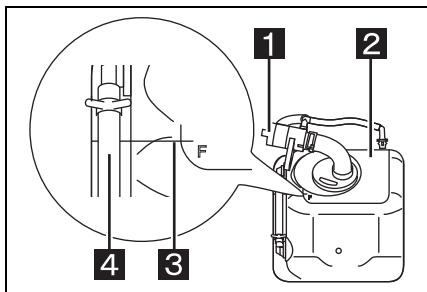
- ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶剤・変形の原因になるおそれがあります。

尿素 SCR (尿素選択式還元触媒) システム★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AdBlue® (尿素水) の給水のしかた

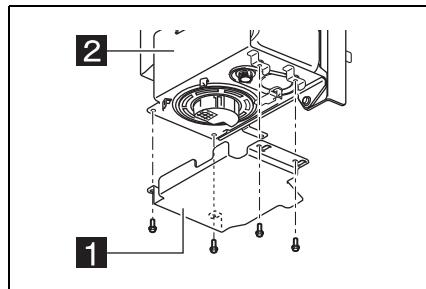
- フィラーキャップを外します。
- 規格に適合した AdBlue® (尿素水) をタンクに設けられた水位ゲージを見ながら、水位が満水ラインになるまで給水します。
- フィラーキャップを確実に締めます。



- 1 フィラーキャップ
2 尿素水タンク
3 満水ライン
4 AdBlue® ゲージ

AdBlue® (尿素水) の交換のしかた

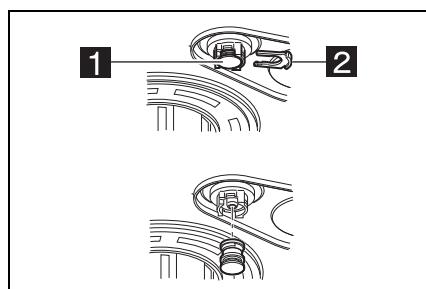
1. アフターランが終了したことを確認してください。
2. 尿素水タンクから尿素水タンクカバーを取り外します。



1 尿素水タンクカバー

2 尿素水タンク

3. ドレンープラグからクリップを取り外します。
- ドレンープラグを抜き、AdBlue® (尿素水) を受け皿に排水します。
- * 事前に排出用の受け皿を準備してください。
- * 作業を行うために配線のコネクターを外した場合は、外したコネクターに AdBlue® (尿素水) がかかるないように防水措置を行ってください。
- 排水が完了したら、ドレンープラグを清掃し、取り付けます。



1 ドレンープラグ

2 クリップ

4. フィラーキャップを外し、規格に適合した AdBlue® (尿素水) を 10L 以上尿素水タンクに給水します。

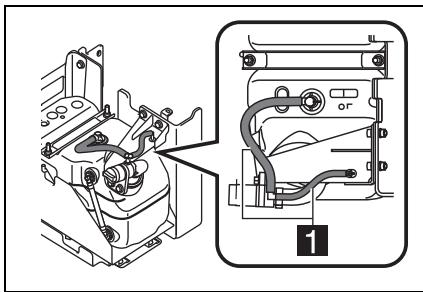
- フィラーキャップを取り付けます。
- * ドレーンプラグの周囲から、AdBlue[®]（尿素水）のにじみがないかを確認します。
- 尿素水タンクカバーを尿素水タンクに取り付けます。

締め付けトルク

31.0 N・m {316.0 kgf・cm}

尿素水タンクブリーザーホースの清掃のしかた

- ブリーザーホースがゴミなどで詰まると、AdBlue[®]（尿素水）の給水時にAdBlue[®]（尿素水）が吹きこぼれたり、尿素水タンクが変形するおそれがあります。
- 1. 尿素水タンクからブリーザーホースを取り外します。



1 ブリーザーホース

- 取り外したブリーザーホースの内側を蒸留水で洗い流します。
- ブリーザーホースを尿素水タンクに取り付けます。

尿素水の漏れの点検

- 尿素水タンク、尿素水ポンプ、尿素水配管からAdBlue[®]（尿素

水）が漏れていないことを確認してください。

- * 漏れを発見した場合は、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

尿素水ホースの点検

- ホースおよびコネクターに亀裂や損傷、折れ曲がりがないか点検してください。
- ホースのコネクターが確実に接続されているか点検してください。
- ホースの固定用のクリップなどがゆるんでいないか点検してください。

- * ホースおよびコネクターに亀裂や損傷、折れ曲がりがあるときは、最寄りのトヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

▲ 警告

■ 尿素水漏れおよび尿素水ホースの点検について

点検は、走行直後に行わないでください。排気管、マフラー、冷却水が高温になっており、やけどをするおそれがあります。

△ 注意

■ AdBlue[®]（尿素水）の給水について

- 故障の原因となるため尿素水タンク内にAdBlue[®]（尿素水）以外を入れないでください。
- 給水ガンを使用しての給水は、吹き返すおそれがありますのでお控えください。

- コンビネーションメーターに尿素水残量警告灯が点滅した場合、早めにAdBlue[®]（尿素水）を給水してください。点灯開始後一定距離を走行するとブザーが鳴り、警告灯が点灯します。このような状態でスターターキーを「ON」以外の位置にした後、エンジンの再始動ができなくなります。余裕をもって給水するようにしてください。
- コンビネーションメーターに尿素水残量警告灯が点灯しているときには、AdBlue[®]（尿素水）を5L以上給水してください。それ以下の場合、警報が消えないことがあります。
- 尿素水タンクに補給するときは、タンクに設けられた満水ライン以上給水しないでください。この位置を超えるとAdBlue[®]（尿素水）があふれます。
- 車両が傾いた状態でAdBlue[®]（尿素水）の給水を行うと水位ゲージが満水位を示す前にあふれる場合があります。
- AdBlue[®]（尿素水）があふれてしまったり、給水時にタンクや周辺部品に付着してしまった場合は速やかにウエス等で拭き取ってください。放つておくと白色化します。（これはAdBlue[®]（尿素水）の尿素成分が結晶化したものです。）結晶化した尿素は、乾燥すると白色化し拭き取りにくくなります。取れにくくなった結晶は、お湯を浸したウエスで拭くと取れやすくなります。
- 給水時は、尿素水タンク内にほこり等が入らないように注意してください。尿素水ポンプや配管詰まりの原因となります。
- 尿素水タンクのキャップやフィラーホースに尿素の結晶が付着しキャップが締めにくくなった場合は、無理に締めずにウエス等で結晶を除去してから締めるようにしてください。この際、タンク内にウエスの切れ端等が入らないようにしてください。
- 尿素水タンクのドレーンより抜いたAdBlue[®]（尿素水）は産業廃棄物として処分してください。
- AdBlue[®]（尿素水）は凍結すると膨張します。満水位以上に給水をし凍結した場合、タンク破裂の原因となります。（-11°C以下で凍結します。）

エアフローメーター

絶対に分解しないでください。
分解が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。(分解した場合、正常であってもアッセンブリー交換が必要になる場合があります。) また、精密機械のため、たたく等の強い衝撃を与えないでください。

点検 (ディーゼル車のみ)

点検時期

1年ごと

* 点検については、トヨタ販売店にお申し付けください。

低速・加速の状態

点検

点検時期

事業用 3カ月ごと、自家用 1年ごと

- エンジンを暖機させた状態で、アイドリングにむらがないかを点検します。
- 運行前に、安全な場所で徐行し、走行状態がスムーズか、またアクセルペダルを徐々に踏み込んでいったとき、ペダルにひっかかりがなくスムーズに加速するかを点検します。
- 低速走行が不安定だったり、アクセルペダルの踏み込み量に対してスピードが追従しないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

計器類の点検

エンジン回転計

エンジンを始動させ、アイドリング回転にして指針の振れはないか、またアクセルペダルを徐々に踏み込んでいき、エンジン回転計の指針に引っかかりがなくスムーズに上昇するかを点検します。点検時に異常が認められたときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

| | |
|------------------------------|---------|
| 純正油脂類 | P.14-3 |
| エンジンオイル | P.14-4 |
| トランスミッション・オイル (MT車) | P.14-8 |
| オート・トランスミッション・ フルード (AT車) | P.14-10 |
| トランスファー・ オイル | P.14-11 |
| ディファレンシャル・ オイル | P.14-12 |
| パワーステアリング フルード | P.14-14 |
| ブレーキフルード・ クラッチフルード | P.14-15 |
| 給脂図 | P.14-17 |
| 給脂 | P.14-18 |
| 油脂一覧表 | P.14-20 |

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）と、弊社が指定するメーカー指定点検項目〔シビアコンディション（厳しい使われ方）項目および定期交換部品を含む〕があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。

別冊の「メンテナンスノート」にしたがいトヨタ販売店にお申し付けください。ここでは皆様にも簡単に行える点検・給脂についてまとめましたので、お車を快適にご使用いただくために実施されるよう推奨します。



アドバイス

点検および交換時期に關し、使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。



知識

ここでは本文中の点検時期表記の見方について説明しています。

■例

| 点検時期 | |
|----------|-------------------------|
| 1 | 新車 1,000 km 走行時 |
| 2 | その後、事業用 3カ月ごと (距離項目) |
| 3 | 自家用 6カ月ごと (距離項目) |
| 4 | [シビアコンディション項目] |

1 新車時から 1,000 km または 5,000 km 走行時に点検・補給を勧めている項目であることを意味しています。

2 事業用自動車の点検が 3 カ月ごとであることと、※¹ 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 2,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 2,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

3 自家用貨物車の点検が 6 カ月ごとであることと、※¹ 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 4,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 4,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

4 この項目が※² シビアコンディション項目であることを表し、使用条件の厳しい車両は 1 カ月ごとの点検をトヨタ自動車が指定している項目であることを意味しています。

※¹ 距離項目

- 自家用貨物車、事業用自動車の定期点検整備項目が法律で設定され、点検期間内の走行距離が短い場合、その点検を省略することができます。

- 事業用自動車では、登録日または前回の定期点検からの走行距離が 2,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。

- 自家用貨物自動車では、登録日または前回の定期点検時からの走行距離が6カ月の時点で4,000km以下、12カ月の時点で8,000km以下の場合に、その項目を1回に限り省略することができる点検項目です。

※²シビアコンディション（厳しい使われ方）項目

定期点検整備は1カ月5,000km程度を走行する場合を標準の時期として定めてあります。事業用自動車で特に走行距離が多いなど標準的な使用条件と著しく異なる車両には、シビアコンディション条件を定め、1カ月ごとの点検・整備および定期交換をトヨタ自動車が推奨しています。

純正油脂類

- オイルやグリースの定期的な補給と交換は、車両の性能維持・寿命延長・事故防止などのために非常に重要なので確実に実施してください。
 - トヨタ純正油脂類は、車両性能を十分に発揮させるように作られておりますので、定期的な油脂類の補給および交換時は、トヨタ純正油脂類の使用を推奨します。
- オイルの補給および交換時の注意
- 補給前には漏れがないかを必ず点検し、漏れがあるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
 - 補給・交換後は、フィラーキャップ、フィラープラグおよびドレーンプラグ周りに付着したオイルをよく拭き取り、オイル漏れがないかを必ず点検してください。
 - 交換時は排油用の容器を必ず準備し、廃油は空地や溝などには絶対捨てないでください。

■給脂時の注意

- グリース不足は、回転部や摺動部の動きを悪くし、早期摩耗によるガタや異音および焼き付きの原因になります。常にグリースが保持されるようにしてください。
- 給脂はグリースニップル・ブリーダーおよび塗布部位の泥やほこりを取ってから行い、給脂後はあふれ出たグリースを必ず拭き取ってください。



アドバイス

■点検・交換時期に関して

使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

▲警告

■油脂類の取り扱いについて

- 油脂類の廃棄処理は、環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。
- エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。

■オイルの補給および交換について

周りに垂れたオイルは必ず拭き取ってください。そのままにしておくと火災の原因になります。

エンジンオイル

熱や酸化に対して安定していること、温度による粘度変化が少ないことが必要です。トヨタ純正部品は、これらの性能を十分に発揮するように作られていますので、車両の使用条件により、適正なオイル（以下、「指定銘柄」といいます）を使用してください。

指定（推奨）銘柄

▶ ディーゼル車

| オイルの名称 | 使用温度範囲 |
|---|-----------------------|
| トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20（推奨） (ACEA C5、SAE 0W-20) | -35 °C ～ +40 °C |
| トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 (JASO DL-1、SAE 0W-30) | -35 °C ～ +40 °C |
| トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 (JASO DL-1、SAE 5W-30) | -30 °C ～ +40 °C |

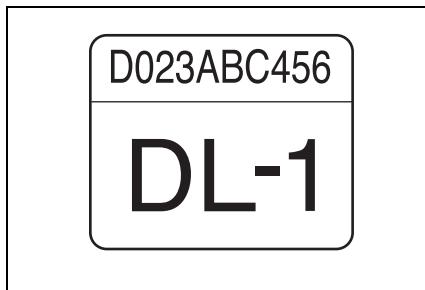
▶ ガソリン車

| オイルの名称 | 使用温度範囲 |
|---|-----------------------|
| トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20（推奨） (API SP/RC、ILSAC GF-6A、 SAE 0W-20) | -35 °C ～ +40 °C |
| トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 (API SP/RC、ILSAC GF-6A、 SAE 5W-30) | -35 °C ～ +40 °C |

■指定エンジンオイル

▶ ディーゼル車

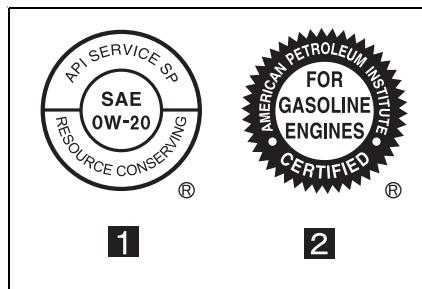
- ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークが付いています。



JASO DL-1 マーク

▶ ガソリン車

- API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています

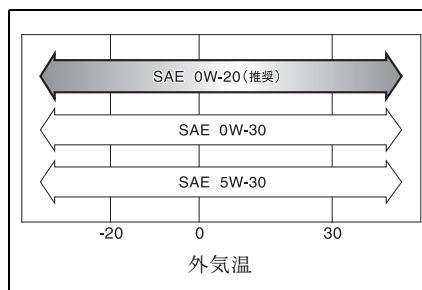


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■エンジンオイル推奨粘度

- 図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

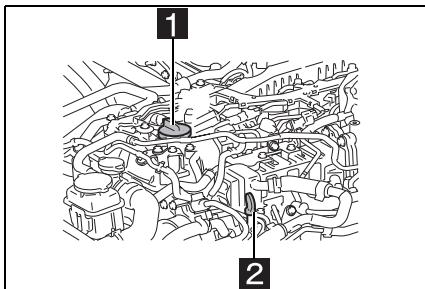


- オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）

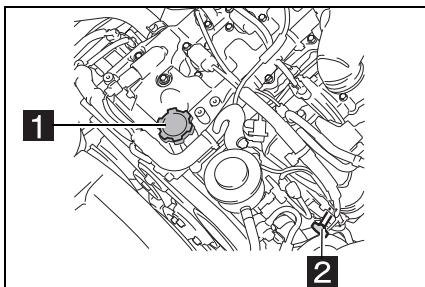
- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値の大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

補給

▶ ディーゼル車



▶ ガソリン車



1 フィラーキャップ

2 オイルレベルゲージ

1. フィラーキャップを外しエンジンオイルを補給する。
2. 補給後、10分程してからオイル量を点検する。

* オイル量の点検 (→P.12-4)

 知識

エンジンオイル注入口やそのキャップ裏面、およびオイルレベルゲージに白濁した物質が付着していることがあります。この白濁物質は、ブローバイガス中の水分がエンジン内部で結露してエンジンオイルと混合してクリーム状になったものです。短時間の走行や冬期などエンジンの温度が上がらないときに発生しますが、エンジンが温まって水温計が安定する程度の走行によりオイルと水分が分離して元に戻ります。

交換時期

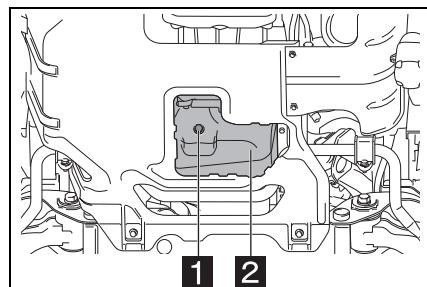
▶ ディーゼル車

| 交換時期 |
|------------------------------------|
| 1年または20,000km走行ごと [シビアコンディション時] |
| 0.5年ごとまたは10,000km走行ごと |

▶ ガソリン車

| 交換時期 |
|-------------------|
| 1年または15,000km走行ごと |

新車およびオーバーホール後1,000km走行時に交換したあとは、前記の表にしたがって定期的に交換してください。



1 ドレーンプラグ

2 オイルパン

1. エンジンアンダーカバー点検口を開け、フィラーキャップとオイルパンのドレーンプラグおよびオイルフィルターのドレーンプラグを取り外して排油する。

オイルが少し暖かいいうちに行うと容易に排出することができます。

- * 各プラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
- 2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付ける。

- * ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

3. オイルフィラーから給油する。

▶ ディーゼル車 (3GD-FTV)

| オイル量 | |
|---------|----------|
| オイルパン | オイルフィルター |
| 約 7.7 L | 約 0.4 L |

▶ ガソリン車 (1TR-FE)

| オイル量 | |
|---------|----------|
| オイルパン | オイルフィルター |
| 約 4.9 L | 約 0.4 L |

4. 給油後 10 分程してから、オイル量を点検します。
5. エンジンをかけてアイドリング回転にする。
6. エンジンを止め、30 分以上経過してからオイル量を点検する。
- 不足しているときは補給します。また、ドレーンプラグからオイル漏れがないことを確認してください。
- 入れすぎたときは、オイルを抜いてください。

👉 アドバイス

■ オイルの交換について

- オイル交換時期はオイルを補給せずに走行できる期間、距離を示したものではありません。定期的にオイルの状態をオイルレベルゲージで確認し、必要な場合はオイルを補給してください。
- オイル交換時にオイルフィルターエレメントも交換してください。

▲ 警告

■ 補給時にオイルをこぼさないようにしてください

排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。

■ オイル交換について

- 走行後すぐに排油すると、オイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- 排出ガス浄化装置★の機能を長時間維持するために指定（推奨）銘柄のエンジンオイルをお使いになることを推奨します。

⚠ 注意

■ オイル交換について

エンジンを高回転・高負荷で多く使用している場合は、走行キロ数または稼動時間にかかわらず早めに交換してください。また、オイル量点検時オイルが著しく汚れているときも走行キロ数または稼動時間にかかわらず早めに交換してください。

オイルチェンジャーには対応しておりませんので、必ずオイルパンのドレーンプラグより排油してください。

トランスミッション・オイル (MT 車)

指定 (推奨) 銘柄

- R452、R357F

オイルの名称

トヨタ純正
MG ギヤオイルスペシャルⅡ
GL-3 (API 分類) の SAE 75W-90

オイル量一覧表

- R451

オイル量

約 2.4 L

- R357F

オイル量

約 2.2 L

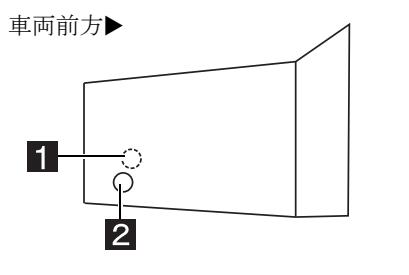
点検・補給

■ 油漏れやにじみおよび油量

点検時期

新車 1,000 km 走行時、その後、
事業用 3 カ月ごと (距離項目)、
自家用 6 カ月ごと (距離項目)
[シビアコンディション項目]

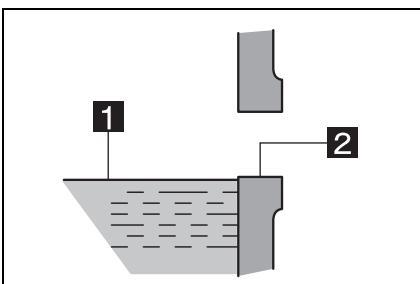
■ 油量の点検



1 フィラープラグ (車両左側)

2 ドレーンプラグ

1. 側面のフィラープラグを取り外す。
2. オイル面がフィラープラグのねじ穴下面から 0 ~ 5 mm 以内にあるかを点検する。



1 オイル面

2 オイル量 (ねじ穴下面)

- 不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

■ 油漏れやにじみの点検

1. トランスミッションの外観を見渡し、油漏れやにじみがないか確認ください。
2. 漏れ、にじみがある場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

交換

交換時期

2年または40,000km走行ごと

- ドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油する。
- オイルが少し暖かいうちにを行うと容易に排出することができます。
- ドレーンプラグはマグネット式になっています。付着した鉄粉は除去してください。
- * 各プラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付ける。
- * ドレーンプラグのガスケットは必ず新品と交換してください。
3. フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油する。
4. フィラープラグを確実に締め付ける。
- * フィラープラグのガスケットは必ず新品と交換してください。

▲ 注意

■ 点検・補給について

オイル量は、少なすぎても多すぎても、トランスミッションの故障の原因になります。

■ オイルの補給・交換後は

車両の試運転を行いドレーンプラグおよびフィラープラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れによりトランスミッションが損傷するおそれがあります。

■ トランスミッションオイルについて

指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

▲ 警告

■ 点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

オート・トランスミッション・フルード (AT 車)

指定（推奨）銘柄

| |
|-------------------------|
| オイルの名称 |
| トヨタ純正 オートフルード タイプ WS |

| |
|-----------------------|
| 交換時期 |
| 2 年または 40,000 km 走行ごと |

- * オイル交換はトヨタ販売店にお申し付けください。

オイル量一覧表

| |
|---------|
| オイル量 |
| 約 9.7 L |

▶ ディーゼル車 (3GD-FTV)

| |
|---------|
| オイル量 |
| 約 8.7 L |

点検

| |
|--|
| 点検時期 |
| 油漏れやにじみおよび油量： 新車 1 か月後、その後、 ※事業用 3 か月ごと、 自家用 6 か月ごと |

※ 印はシビアコンディション項目を表します。

1. AT および ATF クーラー、配管からオイルの漏れ、にじみがないことを確認してください。

2. 漏れ、にじみがある場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

▲ 警告

■ 点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

△ 注意

■ 故障を防ぐために

- ほかのオイルを使用したり、混合したりすると性能低下や焼き付きなどの不具合が発生しますので絶対に使用しないでください。
- オイル量は、少なすぎても多すぎても、オートマチックトランスミッションの故障の原因になります。

■ オイルの補給・交換後は

車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れによりオートマチックトランスミッションが損傷するおそれがあります。

トランスファ・オイル★

* : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

指定（推奨）銘柄

オイルの名称

トヨタ純正
MG ギヤオイルスペシャルⅡ GL-3
(API 分類) の SAE75W-90

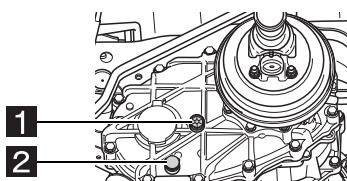
点検・補給

■ 油漏れやにじみおよび油量

点検時期

新車 1,000 km 走行時、その後、
事業用 3 カ月ごと（距離項目）、
自家用 6 カ月ごと（距離項目）
[シビアコンディション項目]

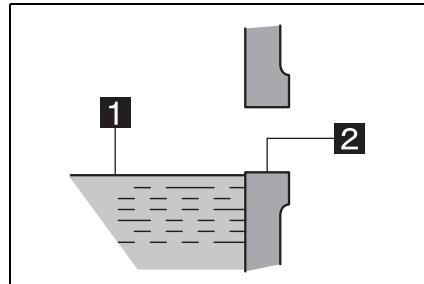
■ 油量の点検



1 フィラープラグ

2 ドレンプラグ

- トランスファーケースのフィラープラグを取り外します。
- オイル面がフィラープラグのねじ穴下面から 0 ~ 5 mm 以内にあるかを点検します。



1 オイル面

2 オイル量（ねじ穴下面）

- 不足しているときはフィラープラグのねじ穴から補給してください。

■ 油漏れやにじみの点検

- トランスファーの外観を見渡し、油漏れやにじみがないか確認ください。
- 漏れ、にじみがある場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

交換

交換時期

2 年または 40,000 km 走行ごと

オイル量

約 1.3 L

- トランスファーケースのドレンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油する。

- オイルが少し暖かいうちに排油すると容易に排出することができます。
- ドレンプラグおよびフィラープラグはマグネット式になっています。付着した鉄粉は除去してください。

- * 各プラグは油温と同じ温度で熱いため手を触れないよう注意してください。
- 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付ける。
 - ドレーンプラグのOーリングは、必ず新品と交換してください。(オイル塗布のこと)
 - フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油する。
 - フィラープラグを確実に締め付ける。
 - * フィラープラグのOーリングは、必ず新品と交換してください。(オイル塗布のこと)

▲警告

■点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

△注意

■オイルの補給・交換後は

車両の試運転を行いドレーンプラグおよびフィラープラグからオイル漏れないことを確認してください。オイル漏れによりトランスファーが損傷するおそれがあります。

■トランスファーオイルについて

指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル・オイル

指定(推奨)銘柄

オイルの名称

トヨタ純正
ハイポイドギヤオイル SX
(API GL-5, SAE 85W-90)

オイル量一覧表

▶ フロント

オイル量

約 1.35 L

▶ リヤ (8インチ)

オイル量

約 1.80 L

▶ リヤ (10.5インチ)

オイル量

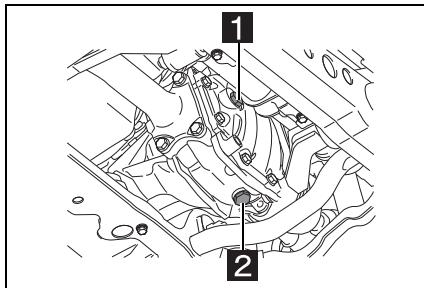
約 3.15 L

点検・補給

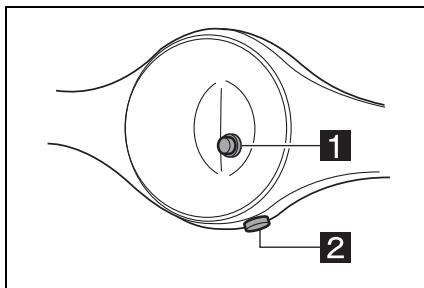
点検時期

油漏れやにじみ及び油量：
事業用 新車 1,000km 走行時、
自家用 新車時 1カ月、その後、
事業用 3カ月 (距離項目)、
自家用 6カ月ごと (距離項目)
[シビアコンディション項目]

▶ フロントディファレンシャル



- 1 フィラープラグ
2 ドレーンプラグ
- ▶ リヤディファレンシャル

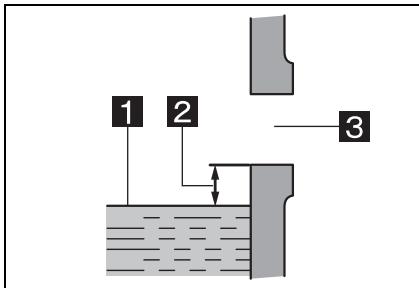


- 1 フィラープラグ
2 ドレーンプラグ

■ 油量の点検

1. アクスルハウジングのフィラープラグを取り外します。
2. ディファレンシャルのオイルが下記のオイル量まであるかを点検します。不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

■ オイル量



- 1 オイル面
2 オイル量（ねじ穴下面から 0 ~ 5 mm 下）

3 フィラープラグねじ穴

■ 油漏れやにじみの点検

1. ディファレンシャル周辺装置の外観を見渡し、油漏れやにじみがないか確認ください。
2. 油漏れ、にじみがある場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

交換

交換時期

2年または40,000 km 走行ごと

1. アクスルハウジング下部のドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油する。
 - オイルが少し暖かいうちにを行うと容易に排出することができます。
 - ドレーンプラグはマグネット式になっています。付着した鉄粉は除去してください。
- * 各プラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。
2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付ける。

- * ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。
- 3. オイル量まで給油する。

▲ 警告

■ 点検・補給・交換をするときは

走行後はオイルが高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。

⚠ 注意

■ オイルの補給・交換後は

車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れによりディファレンシャルが損傷するおそれがあります。

パワーステアリングフルード

指定（推奨）銘柄

オイルの名称

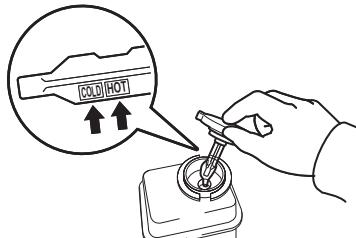
トヨタ純正
パワーステアリングフルード

点検・補給

点検時期

新車 1,000 km および 5,000 km 走行時、
その後、事業用 3 カ月ごと（距離項目）
自家用 1 年ごと

- リザーバータンク内のオイル量が規定範囲内にあるかを点検します。
- オイル量点検時に汚れ具合も点検します。汚れているときは交換が必要です。
- オイル量はタンク本体の目盛またはオイルレベルゲージで確認します。オイルが冷えているときはオイル面が「COLD」の範囲内に、暖まっているときはオイル面が「HOT」の範囲内にあるか点検してください。



交換**交換時期**

新車 5,000 km 走行時、その後、
1年または 60,000 km 走行ごと

- オイルの交換は、トヨタ販売店にお申し付けください。

オイル量

約 0.7 L

▲警告**■ オイルについて**

- 必ず純正のオイルを使用してください。異なったオイルを混合すると、作動不良の原因になります。
- オイルの不足や汚れは、ハンドル操作に支障をきたします。補給または交換をしてください。

■ 点検・補給をするときは

- キャップを外す際は、キャップの周りを十分に清掃し、タンク内にゴミや水などが入らないようにしてください。ゴミや水が入ると、作動不良の原因になります。
- 異常にオイルが不足するようであれば、オイル漏れによるものですから、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキフルード・クラッチフルード**指定（推奨）銘柄****フルードの名称**

トヨタ純正
ブレーキフルード 2500H-A

ブレーキフルードの取り扱い

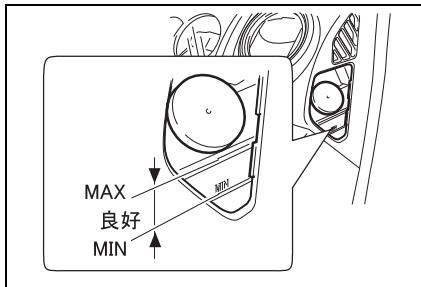
- * キャップを外すときはキャップの周りを清掃してください。
- * リザーバータンクに異物が沈殿しているときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
- * 補給時に使用する容器などに汚れがないかを点検し、汚れているときは洗浄してから使用してください。
- * 補給の際、こぼれた液が塗装面に付着すると塗装がはがれる原因になりますのですぐに拭き取ってください。(特に樹脂部品)
- * 吸湿性が強いため、点検や補給および保管中に水分が混入しないよう取り扱いに注意してください。
- * リザーバータンクホースに亀裂および傷がないかを点検してください。不具合があるときは、トヨタ販売店にお申し付けください。

点検・補給**点検時期**

事業用 3 カ月ごと、自家用 1 年ごと

- リザーバータンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。

- 液面が、「MAX」と「MIN」の線の間にあれば良好です。不足しているときは、配管系に液漏れがないことを確認し、ブレーキフルードを「MAX」の線まで補給します。



- * MT 車の場合、リザーバータンクはブレーキ、クラッチ共用です。点検および補給についてはブレーキの基準に従い実施してください。
- 液面が異常に低下しているときは、パイプなどからの漏れが考えられますので、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

交換

| 交換時期 |
|------|
| 2年ごと |

- ブレーキフルードは、必ず純正品の新しいものと全量交換します。また、交換はトヨタ販売店にお申し付けください。

知識

■ ブレーキフルードの液面低下について

ブレーキパッドの摩耗に伴いブレーキフルードの液面が低下しますが液漏れではありません。

▲ 警告

■ ブレーキフルードについて

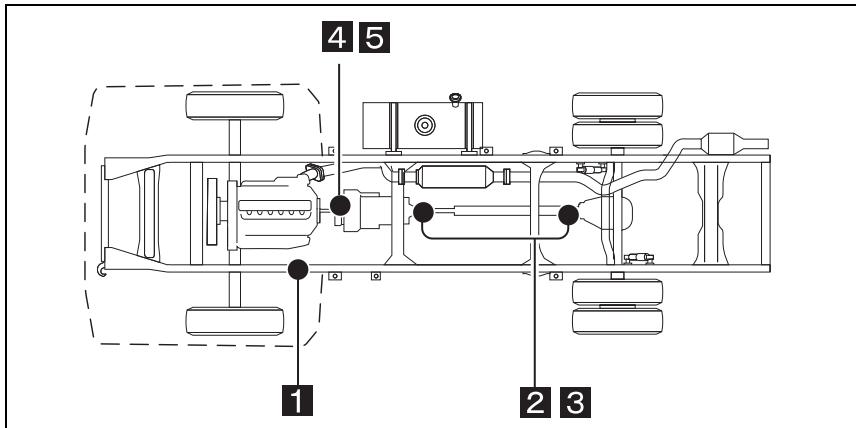
- 常に清浄なものを使用してください。異物が混入していると、ブレーキ系統の各装置に傷をつけるだけでなく、機能の障害を引き起こし、ブレーキの効き不良の原因になります。
- 必ず純正を使用してください。異なったブレーキフルードを混合すると、性状が変化して沸点の低下や部品の錆つきを招くことがあります。ほかの鉱物油が混入すると、ブレーキ装置のゴム部品を膨潤させブレーキの効き不良の原因になります。
- 長期間使用すると、水分吸収により沸点が大幅に低下し、ベーパーロックが発生しやすくなりますので、必ず交換時に純正品の新しいものと全量交換してください。

△ 注意

■ リザーバータンクの取り扱いについて

- リザーバータンクのキャップは補給以外では開けないでください。また、補給の際キャップを開けたときは、確実に閉めてください。
- 「MAX」の線を超えて補給しないでください。

給脂図



上記の「●」は、給脂箇所を示します。

| グリースの種類 | |
|---|---|
|  | リチューム系ベアリンググリース [トヨタ純正 MP グリース NO.2] |

 3,000 km 走行ごと

1 キャブロックリンク本体摺動部

 1ヶ月または 4,000 km 走行ごと

2 プロペラシャフトユニバーサルジョイント

3 プロペラシャフトスプラインヨーク

 6ヶ月または 5,000 km 走行ごと

4 リリースフォークとサポートの摺動部 (MT 車)

※ **5** リリースフォークとレリーズシリンダーロッドの摺動部 (MT 車)

 **アドバイス**

■ **給脂時期について**

給脂時期に期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で給脂をしてください。

給脂

グリースの種類

| グリースの種類 | |
|---|---|
|  | リチューム系ペアリンググリース 〔トヨタ純正 MP グリース NO.2〕 |

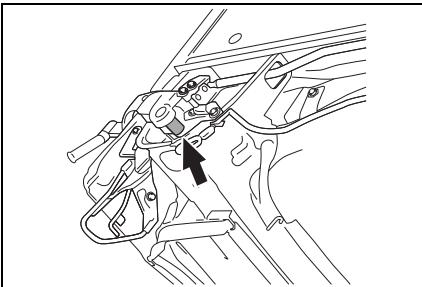
- * グリースニップルへの給脂はシール部からはみでるまで行い、はみだしたグリースを拭き取ってください。
- * グリースの補給が必要な箇所のみ記載してあります。分解整備および組み立て時の給脂は、トヨタ販売店にご相談ください。

→ は給脂部分。

3,000km 走行ごと

| 不足の場合、適量塗布 | |
|---|-----------------|
|  | リチューム系ペアリンググリース |

- 1** キャブロックリンク本体摺動部
- 点検はリンクカバーを取り外して行ってください。

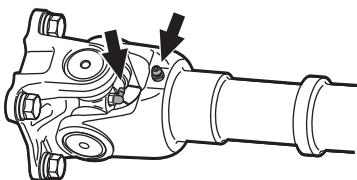


1カ月または4,000km 走行ごと

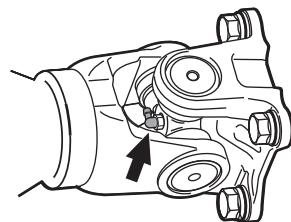
 リチューム系ペアリンググリース

適量

- ▶ リヤ
- 2** プロペラシャフトユニバーサルジョイント
- 3** プロペラシャフトスプラインヨーク

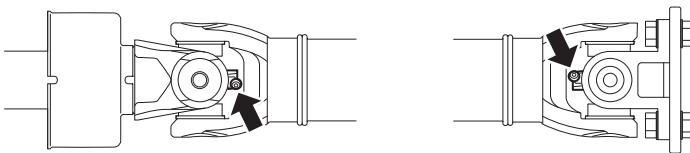


2 プロペラシャフトユニバーサルジョイント



▶ フロント（4WD 車のみ）

2 プロペラシャフトユニバーサルジョイント

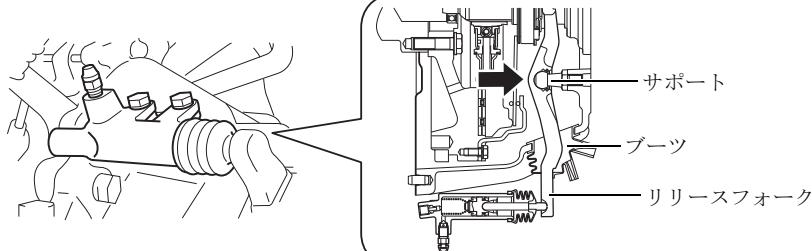


6 カ月または 5,000 km 走行ごと

リチューム系ペアリンググリース

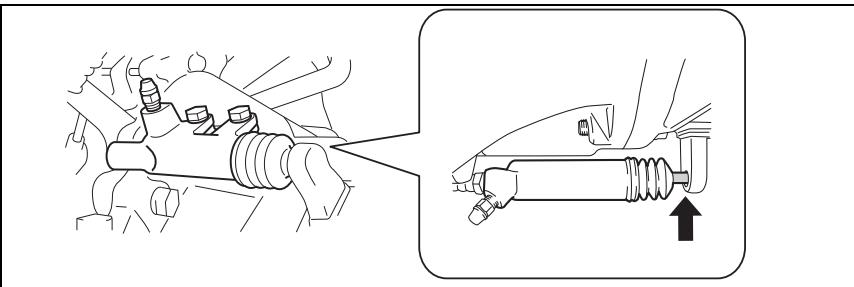
適量（ただし 4 はスプレータイプのグリース）

4 リリースフォークとサポートの摺動部（MT 車）



● 給脂は、ブーツを取り外し、内部にグリースガンを挿入します。

5 リリースフォークとレリーズシリンダーロッドの摺動部（MT 車）



油脂一覧表

エンジンオイル

■時期

| 点検 | 交換 |
|---------|---|
| 日常（運行前） | 1年または20,000km走行ごと [シビアコンディション時] 0.5年ごとまたは10,000km走行ごと |

備考：新車およびオーバーホール後1,000kmで交換。

■指定【推奨】油脂名・容量【ディーゼル車】

| 指定油脂 | オイル量 | |
|---|----------|------------------|
| | オイルのみ交換時 | オイルと フィルター交換時 |
| トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20（推奨）(ACEA C5、SAE 0W-20) | | |
| トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 (JASO DL-1、SAE 0W-30) | 約 7.7 L | 約 8.1 L |
| トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 (JASO DL-1、SAE 5W-30) | | |

■指定【推奨】油脂名・容量【ガソリン車】

| 指定油脂 | オイル量 | |
|--|----------|------------------|
| | オイルのみ交換時 | オイルと フィルター交換時 |
| トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20（推奨）(API SP/RC、ILSAC GF-6A、SAE 0W-20) | | |
| トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 (API SN/RC、SAE 5W-30) | 約 4.9 L | 約 5.3 L |

トランスミッション・オイル (MT 車)

■ 時期

| 点検 | 交換 |
|-----------------------------------|----------------------|
| ※事業用 3ヶ月 (距離項目) 自家用 6ヶ月 (距離項目) | 2年または 40,000 km 走行ごと |

備考：新車 1,000 km で点検。

※ 印は、シビアコンディション項目を表します。

■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

| 型式 | 指定〔推奨〕油脂名 | オイル量 |
|-------|------------------------|---------|
| R452 | トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ | 約 2.4 L |
| R357F | GL-3 (API 類) SAE75W-90 | 約 2.2 L |

オート・トランスミッション・フルード (AT 車)

■ 時期

| 点検 | 交換 |
|--|----------------------|
| 新車 1,000 km ※事業用 3ヶ月 (距離項目) 自家用 6ヶ月 (距離項目) | 2年または 40,000 km 走行ごと |

※ 印は、シビアコンディション項目を表します。

■ 指定〔推奨〕油脂名・容量

| 型式 | 指定〔推奨〕油脂名 | オイル量 (参考値) |
|--------|---------------------|---------------|
| ディーゼル車 | トヨタ純正オートフルード タイプ WS | 約 9.7 L |
| ガソリン車 | | 約 8.7 L |

トランスファ・オイル★

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 時期

| 点検 | 交換 |
|-----------------------------------|----------------------|
| ※事業用 3ヶ月 (距離項目) 自家用 6ヶ月 (距離項目) | 2年または 40,000 km 走行ごと |

備考 : 新車 1,000 km で点検。

* 印は、シビアコンディション項目を表します。

■ 指定【推奨】油脂名・容量

| 指定【推奨】油脂名 | オイル量 |
|---|---------|
| トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ GL-3 (API 分類) SAE 75W-90 | 約 1.3 L |

ディファレンシャル・オイル

■ 時期

| 点検 | 交換 |
|--|----------------------|
| 事業用 新車 1,000km 自家用 新車時 1ヶ月 ※事業用 3ヶ月 (距離項目) 自家用 6ヶ月 (距離項目) | 2年または 40,000 km 走行ごと |

* 印は、シビアコンディション項目を表します。

■ 指定【推奨】油脂名・容量

▶ フロント

| 指定【推奨】油脂名 | オイル量 |
|--|----------|
| トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5、SAE 85W-90) | 約 1.35 L |

▶ リヤ

| 指定【推奨】油脂名 | インチ | オイル量 |
|--|------|----------|
| トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5、SAE 85W-90) | 8 | 約 1.80 L |
| | 10.5 | 約 3.15 L |

パワーステアリングフルード

■ 時期

| 点検 | 交換 |
|-------------------------|----------------------|
| 事業用 3ヶ月（距離項目） 自家用 1年 | 1年または 60,000 km 走行ごと |

備考：新車 1,000 km および 5,000 km で点検。

備考：新車 5,000 km で交換。

■ 指定【推奨】油脂名・容量

| 指定【推奨】油脂名 | オイル量 |
|---------------------|---------|
| トヨタ純正 パワーステアリングフルード | 約 0.7 L |

ブレーキフルード・クラッチフルード

■ 時期

| 点検 | 交換 |
|--------------------|------|
| 事業用 3ヶ月ごと、自家用 1年ごと | 2年ごと |

■ 指定【推奨】油脂名

| 指定【推奨】油脂名 |
|------------------------|
| トヨタ純正 ブレーキフルード 2500H-A |

グリースの給油脂箇所

1 キャブロッククリンク本体摺動部

■ 時期

| 点検 |
|---------------|
| 3,000 km 走行ごと |

■指定〔推奨〕油脂名・容量

| 指定〔推奨〕油脂名 | 容量 |
|---------------------------------------|------------|
| リチューム系ベアリンググリース トヨタ純正 MP グリース NO.2 | 不足の場合、適量塗布 |

2 プロペラシャフトユニバーサルジョイント

3 プロペラシャフトスライド

■時期

| 補給 |
|----------------------|
| 1ヵ月または 4,000 km 走行ごと |

■指定〔推奨〕油脂名・容量

| 指定〔推奨〕油脂名 | 容量 |
|---------------------------------------|----|
| リチューム系ベアリンググリース トヨタ純正 MP グリース NO.2 | 適量 |

4 リリースフォークとサポートの摺動部 (MT 車)

5 リリースフォークとレリーズシリンダーロッドの摺動部 (MT 車)

■時期

| 補給 |
|----------------------|
| 6ヵ月または 5,000 km 走行ごと |

■指定〔推奨〕油脂名・容量

| 指定〔推奨〕油脂名 | 容量 |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| リチューム系ベアリンググリース トヨタ純正 MP グリース NO.2 | 適量 (MT 車) (4) はスプレータイプの グリース) |

| | | |
|----------------------------|---------|---|
| 不調時の原因と処置 | P.15-2 | 故障を防止するため、正しい運転と日常の手入れおよび定期的な点検・整備を確実に実施してください。 |
| 故障したとき | P.15-11 | 不調が発生したときは、大きな故障になる前に修理してください。 |
| 発炎筒 (緊急保安炎筒) | P.15-12 | 原因が不明なとき、ご自分で整備できないときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。 |
| 警告灯が 点灯したとき | P.15-13 | |
| メーターが異常を 示したとき | P.15-13 | |
| オーバーヒート したとき | P.15-14 | |
| 警告ブザーが 鳴ったとき | P.15-15 | |
| ランプ類が 点灯しないとき | P.15-16 | |
| ヒューズを 交換するとき | P.15-23 | |
| ヒュージブルリンクが 溶断したとき | P.15-31 | |
| リレーが 故障したとき | P.15-37 | |
| ブレーキの効きが 悪くなったら | P.15-37 | |
| 走行中エンジンが 止まったら | P.15-38 | |
| 走行中 パンクしたとき | P.15-38 | |
| 火災が発生したとき | P.15-39 | |
| 燃料が切れたとき | P.15-39 | |
| バッテリーが あがったとき | P.15-40 | |
| けん引について | P.15-42 | |
| 水没・冠水したとき | P.15-45 | |

不調時の原因と処置

エンジンがかからない

■ スターターが回らない、または回転が低い場合

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-----------------------|---------------------|-------|
| バッテリーがあがっている | 充電または交換 | 13-57 |
| バッテリー端子の外れ・ゆるみ・腐食 | 腐食部を清掃後、確実に締め付け | 13-57 |
| アースが外れている | 確実に取り付け | — |
| スターター、電気系統の故障 | トヨタ販売店へ | — |
| シフトポジションが「P」または「N」にない | レバーを「P」または「N」の位置にする | — |
| エンジンオイル粘度が高い | 適正のオイルと交換 | 14-4 |
| エンジンエンジンイモビライザー機能の故障 | トヨタ販売店へ | — |

■ スターターが正常に回る場合

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|--------------------------|-----------------------|-------|
| 予熱装置の故障 | トヨタ販売店へ | — |
| 燃料がない | 燃料補給 | 6-4 |
| 燃料フィルターが詰まっている | トヨタ販売店へ | 13-11 |
| エンジン警告灯が点灯 | トヨタ販売店へ | 6-18 |
| 燃料系統にエアがたまる | エア抜き | 15-39 |
| 燃料が凍結 | 燃料パイプをお湯（60 °C以下）で暖める | — |
| インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている | ふさいでいる物を除去 | 9-12 |
| エアクリーナーが詰まっている | エレメント清掃または交換 | 13-13 |
| インテークエアホースがつぶれている | トヨタ販売店へ | — |

■ クランクイング（回転）しない場合

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|------------------|---------|-------|
| エンジンイモビライザー機能の故障 | トヨタ販売店へ | — |

エンジンが止まらない

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|------------|---------|-------|
| エンジン警告灯が点灯 | トヨタ販売店へ | 6-18 |

低速回転が不調で止まりやすい

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|--------------------------|--------------|-------|
| 燃料がない | 燃料補給 | — |
| 燃料フィルター詰まり | トヨタ販売店へ | — |
| 燃料系統にエアがたまる | エア抜き | 15-39 |
| インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている | ふさいでいる物を除去 | 9-12 |
| エアクリーナーが詰まっている | エレメント清掃または交換 | 13-13 |
| インテークエアホースがつぶれている | トヨタ販売店へ | — |

エンジンの力がない

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|--------------------------|--------------|-------|
| 燃料フィルターが詰まっている | トヨタ販売店へ | 13-11 |
| 燃料系統にエアがたまる | エア抜き | 15-39 |
| インタークダクトの空気取り入れ口がふさがっている | ふさいでいる物を除去 | 9-12 |
| エアクリーナーが詰まっている | エレメント清掃または交換 | 13-13 |
| インタークエアホースがつぶれてい る | トヨタ販売店へ | — |
| ヒューズ切れ | ヒューズ交換 | 15-23 |
| パーキングブレーキが戻っていない | レバーをいっぱいに戻す | 5-15 |
| ブレーキを引きずっている | トヨタ販売店へ | — |
| クラッチが滑っている | ペダルの遊び調整 | 13-29 |
| エンジン警告灯が点灯 | トヨタ販売店へ | 6-18 |

エンジンがオーバーヒートする

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|----------------------------|-------------|-------|
| ラジエーターキャップが正常に締 まっているない | 正しく締めなおす | 13-23 |
| ラジエーターキャップの作動不良 | トヨタ販売店へ | — |
| 冷却水が不足 | 冷却水の漏れ点検・給水 | 13-17 |
| ラジエーター前面が詰まっている | 洗浄 | 13-18 |
| ラジエーターが水あかで詰まっている | 洗浄 | 13-18 |
| インタークーラー前面が詰まっている | 洗浄 | 13-12 |
| サーモスタットの作動不良 | トヨタ販売店へ | — |
| Vベルトがゆるんでいる | トヨタ販売店へ | 13-24 |
| ファンクラッチが故障 | トヨタ販売店へ | — |

排出ガスが黒い

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|--------------------------|----------------|-------|
| インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている | ふさいでいる物を除去 | 9-12 |
| エアクリーナーが詰まっている | エレメント清掃または交換 | 13-13 |
| インテークエアホースがつぶれている | トヨタ販売店へ | — |
| エンジン警告灯が点灯 | トヨタ販売店へ | 6-18 |
| アクセルを急激に踏んでいる | アクセル操作を急激に行わない | — |
| DPR が損傷★ | トヨタ販売店へ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料消費量が多い

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|--------------------------|-----------------------|-------|
| 燃料漏れ | 燃料系統を点検、ゆるみがあるときは増し締め | — |
| インテークダクトの空気取り入れ口がふさがっている | ふさいでいる物を除去 | 9-12 |
| エアクリーナーが詰まっている | エレメント清掃または交換 | 13-13 |
| インテークエアホースがつぶれている | トヨタ販売店へ | — |
| タイヤの空気圧が低い | 標準の空気圧にする | 12-8 |
| クラッチが滑っている | ペダルの遊びを調整 | 13-29 |
| ブレーキを引きずっている | トヨタ販売店へ | — |
| エンジン警告灯が点灯 | トヨタ販売店へ | — |

エンジンオイルの消費量が多い

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-------------------|-------------------------|-------|
| 使用オイルが不適正 | 正規オイルに交換 | 14-4 |
| オイル量が多すぎる | 正規オイル量にする | 12-4 |
| オイル漏れ | ボルトおよびナットがゆるんでいるときは増し締め | — |
| オイルの交換時期が遅い | 正規通りに交換 | 14-4 |
| オイルフィルターが目詰まりしている | エレメント交換 | 13-8 |
| 暖機運転を省略している | 正規通りに行う | 5-50 |

ギヤチェンジが困難

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|----------|--|-------|
| クラッチ液量不足 | 液量点検 ゆるみで液漏れがあるときは増し締め 止まらないときはトヨタ販売店へ | 14-15 |

ハンドルが重い

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|------------------|-----------|-------|
| 積荷が前にかたよっている | 正しく積みなおす | 9-12 |
| タイヤの空気圧が低い | 標準の空気圧にする | 12-8 |
| パワーステアリングのフルード不足 | 補給 | 14-14 |

走行中ハンドルが振れる

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-----------------------|------------|-------|
| ステアリング関係の連結部がゆるんできている | 増し締め | 13-50 |
| パワーステアリング回路にエアが混入 | エア抜き | — |
| タイヤのバランスが悪い | バランスを取りなおす | — |
| タイヤの空気圧が不均一 | 標準の空気圧にする | 12-8 |
| タイヤが偏摩耗している | タイヤ交換 | 12-9 |
| ホイールナットがゆるんでいる | 正規トルクで締め付け | 13-32 |

ブレーキの効きが悪い

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|------------------------------|--------------------------------------|-------|
| ライニングとドラムまたはパッドとローターのすきまが大きい | トヨタ販売店へ | — |
| ライニングまたはパッドが使用限度に達している | ライニングまたはパッド交換 | — |
| ライニングまたはパッド表面に油脂類が付着 | 油脂類の除去 ライニングまたはパッド交換 | — |
| ブレーキ液系統にエアが混入 | エア抜き | — |
| ブレーキ系統から液漏れ | ゆるみで液漏れがあるときは増し締め 止まらないときはトヨタ販売店へ | — |

ブレーキが引きすぎる

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|------------------------------|---------|-------|
| ライニングとドラムまたはパッドとローターのすきまが不適正 | トヨタ販売店へ | — |

ブレーキが片効きになる

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|------------------------------|-------------|-------|
| ライニングとドラムまたはパッドとローターのすきまが不適正 | トヨタ販売店へ | — |
| タイヤの空気圧が不均一 | 標準の空気圧にする | 12-8 |
| タイヤの摩耗が不均一 | タイヤ交換 | 12-9 |
| 積荷が左右どちらかによっている | 均等になるよう積みおす | 9-12 |

パーキングブレーキの効きが悪い

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-------------------|-------------------|-------|
| ライニングとドラムのすきまが大きい | トヨタ販売店へ | — |
| ライニングが使用限度に達している | ライニング交換 | — |
| ライニング表面に油脂類が付着 | 油脂類の除去 ライニング交換 | — |

ブレーキ液が減少する

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-------------|--|-------|
| ブレーキ系統から液漏れ | ゆるんでいるときは増し締め 止まらないときはトヨタ販売店へ | — |
| パッドが摩耗している | パッドの残り代を確認 ・ 残り代に余裕あるときは液補充 ・ 残り代がないときは交換 (トヨタ販売店へ) | 13-28 |

しばしばバッテリーがあがる

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-------------------|----------------|-------|
| バッテリー端子の腐食・外れ・ゆるみ | 腐食部を清掃し確実に取り付け | 13-57 |
| バッテリー液不足 | 補給 | 12-7 |
| バッテリーの寿命 | バッテリー交換 | 13-57 |
| オルタネーターの発電不良 | トヨタ販売店へ | — |
| Vベルトのゆるみまたは滑り | トヨタ販売店へ | 13-24 |

ランプがつかない

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-----------|------------------------------------|-------|
| バルブが切れている | バルブを交換する | 15-16 |
| ヒューズ切れ | ヒューズ交換 交換後さらにヒューズが切れるときはトヨタ販売店へ | 15-23 |
| 各部アース不良 | アースを確実に取り付ける | — |

走行中異音がする

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|------------------------------|------------|-------|
| タイヤ空気圧が不足（ウォーン音） | 標準の空気圧にする | 12-8 |
| タイヤに異物をかみ込み（ウォーン音） | 異物を取り除く | — |
| ホイールナットのゆるみ（ガタガタ音） | 正規トルクで締め付け | 13-32 |
| Vベルトのゆるみ（ギューン音） | トヨタ販売店へ | 13-24 |
| エンジンオイル不足 (エンジン音が全体にうるさい) | 補給 | 14-4 |
| パワーステアリングフルード不足 (ギューン音) | 補給 | 14-14 |
| 荷物を高く積んでいる（ゴーゴー音） | 積み方を変える | 9-12 |
| 排気管・マフラー取り付け部のゆるみ | トヨタ販売店へ | — |

走行中車両が異常に振動する

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|--------------------------|---------|-------|
| プロペラシャフトの各連結部のナットがゆるんでいる | 増し締め | — |
| プロペラシャフトの振れが大きい | トヨタ販売店へ | — |
| プロペラシャフトにガタがある | トヨタ販売店へ | — |

走行中キャブが異常に振動する

| 原因 | 処置 | 記載ページ |
|-------------------------|--------------|-------|
| シートやキャリアなどに過大な重量物を載せている | 上のせ重量を減らす | — |
| ショックアブソーバーから油漏れ | ショックアブソーバー交換 | — |

故障したとき

停車時の注意

あわてずに非常点滅灯を点灯させ、後続車に注意を促してください。そして、徐々にスピードを落とし、ほかの交通のさまたげとならない安全な場所に停車させてください。

故障車の表示方法

■表示には、次のような方法があります

- 非常点滅灯を点滅させる。
- 停止表示板を車両後方に置く。
- 赤旗の掲示または赤ランプを点灯させる。
- 白い布などを車外の目立つところに結びつける。
- 場合によっては、発炎筒（緊急保安炎筒）を着火させる。

故障とその処置

- 故障箇所を点検し、整備可能なときは、他車の通行に十分注意して作業してください。整備が不可能なときは、トヨタ販売店に連絡してください。
- 高速道路では、非常電話でロードサービスに連絡し、その指示にしたがってください。また、危険防止のための処置をした後、車内に残らずガードレールの外に避難してください。

知識

■停止表示板の準備

停止表示板はお客様のお車に標準で搭載されておりません。トヨタ販売店でお求めいただけます。

▲警告

■停車するときは

- トンネル内での停車は危険です。トンネルを出てから停車させてください。
- 停車後は、必ずタイヤの前後に輪止めをかけてください。
- 高速道路や自動車専用道路では、停車していることが後続車にわかるように、自動車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務づけられています。

■故障表示

車両故障により停車するときは、必ず故障の表示をしてください。故障の表示をしないと、後続車に追突されることがあります。

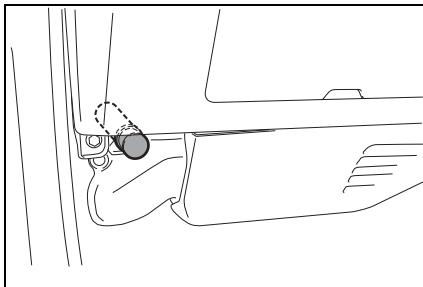
■トンネル内での整備

非常に危険ですので行わないでください。

発炎筒（緊急保安炎筒）

- 踏み切りや高速道路での故障などの非常時に使用します。
 - 発炎時間は約 5 分間です。
 - 取り付け位置は、助手席足元で、手前に引くと外れます。
- * 前もって発炎筒の脱着を確認しておいてください。

- 使用方法および取り扱いについては、発炎筒の記載を必ずお守りください。



▲ 警告

■ 発炎筒の取り扱いについて

- 炎が 15 cm 程度噴き出します。着火の際、筒先を顔や体に向けないでください。やけどをするおそれがあります。
- お子さまには手を触れさせないでください。いたずらなどにより発火し事故につながるおそれがあります。
- トンネル内では、煙で視界が悪くなりますので使用しないでください。非常点滅灯などを使用してください。
- ガソリンや燃えやすい物のそばでは使用しないでください。引火するおそれがあります。
- 発炎筒には有効期限があります。期限がすぎる前に新品と交換してください。

警告灯が点灯したとき

6. メーター・警告灯・表示灯を
参照してください。

メーターが異常を示したと き

6. メーター・警告灯・表示灯を
参照してください。

オーバーヒートしたとき

次のような状態がオーバーヒートです。

- 水温計の目盛りが最上部で点滅表示したり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）。
- 床下から蒸気が立ちのぼる。



■ 処置のしかた

1. 車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は「OFF」にする。
2. 床下から蒸気が出ているか確認する。
 - * 床下から蒸気が出ていない場合、エンジン点検口を開ける、またはキャブチルトしてそのままエンジンをかけておきます。
 - * 床下から蒸気が出ている場合、エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しをよくするためにエンジンをかけて、エンジン点検口を開ける、またはキャブチルトします。
3. ラジエーターのクーリングファンが作動していることを確認する。
 - * ファンが作動していないときは、エンジンを停止してトヨタ販売店に連絡してください。

4. 水温計の目盛りが下がってきたら、エンジンを停止する。
5. エンジンが十分冷えてからラジエータークリアップを外し、リザーバータンクの冷却水量の確認、およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていなければ、ごみなどが付着していないかなどを確認する。

- * ラジエータークリアップ（→P.13-23）
- * リザーバータンク（→P.13-17）
- 6. 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給する。
 - * 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
 - * 冷却水の補給（→P.13-17）
- 7. すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- * 移動途中で再び水温計の表示が上昇したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

▲ 危険

■ 高温時は絶対にラジエータークリアップを外さないでください

熱湯や蒸気が噴き出して、やけどなど重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

▲警告

- やけどなどしないように十分気をつけてください
- 床下から蒸気がでているときは、蒸気が出なくなるまでエンジン点検口を開けたり、キャブチルト操作しないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。エンジン点検口を開けたり、キャブチルト操作するときは十分注意してください。
- キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
- エンジンがまわっているときは、Vベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告ブザーが鳴ったとき

- 次の部位を確認してください。
 - 排出ガス浄化装置スイッチ★
→P.5-48
 - バキューム警告灯
→P.6-14
 - キャブチルト警告灯
→P.6-22
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください

急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はエンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

ランプ類が点灯しないとき

ランプ類の交換は必ずエンジンスイッチを「LOCK」の位置にし、各スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

* 記載されていないランプ類の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

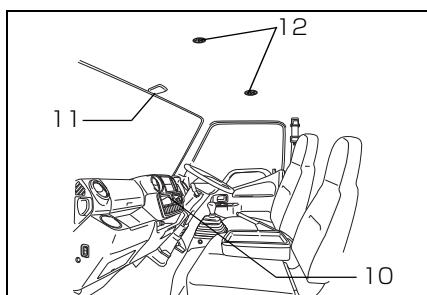
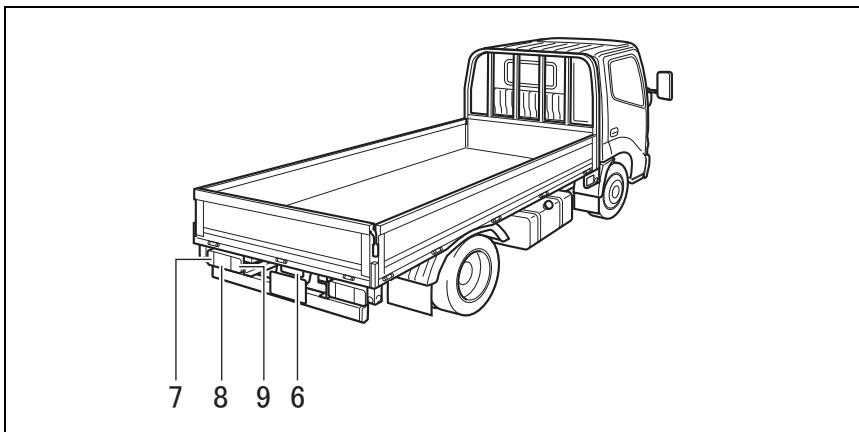
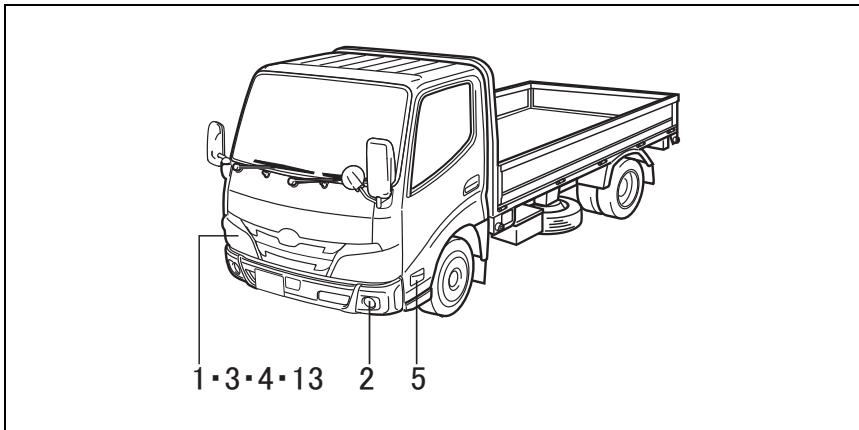
ランプ一覧表

| No. | ランプ類の名称 | 容量 |
|-----|--------------------------|------------|
| 1 | ヘッドランプ〔ハイビーム／ロービーム〕(LED) | 12V-25/20W |
| 2 | フォグランプ(LED) | 12V-5.4W |
| 3 | 方向指示灯(フロント) | 12V-21W |
| 4 | 車幅灯 | 12V-5W |
| 5 | 方向指示灯(フロントサイド) | 12V-21W |
| 6 | 番号灯 | 12V-5W |
| 7 | 方向指示灯(リヤ) | 12V-21W |
| 8 | 制動灯／尾灯 | 12V-21/5W |
| 9 | 後退灯 | 12V-21W |
| 10 | ヒーターコントロールパネルランプ | 12V-1.8W |
| 11 | フロントルームランプ | 12V-10W |
| 12 | 室内LED灯★ | 12V-1.2W |
| 13 | デイタイムランニングランプ(LED) | 12V-6W |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ランプ位置

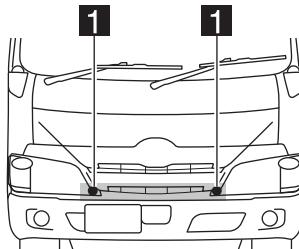
イラストの数字は一覧表の No. です。



ヘッドランプの交換

■ 下向き（ロービーム）ランプおよび上向き（ハイビーム）ランプの交換

LED ランプのため、ランプの交換は不要ですが、故障等が発生したときは、トヨタ販売店へご連絡ください。



フォグランプの交換

LED ランプのため、ランプの交換は不要ですが、故障等が発生したときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

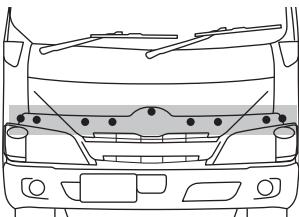
デイタイムランニングランプの交換

LED ランプのため、ランプの交換は不要ですが、故障等が発生したときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

1 クリップ

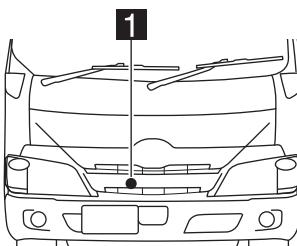
- 上側クリップを外し、グリルを引いて取り外す。

* 誤発進抑制機能システム付きの車両は、グリル取り外し後、コネクタを外してください。



車幅灯の交換

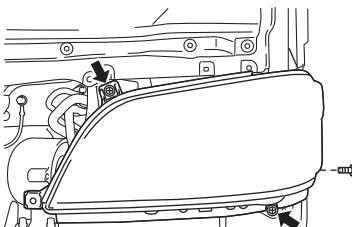
1. ボルトを外す。



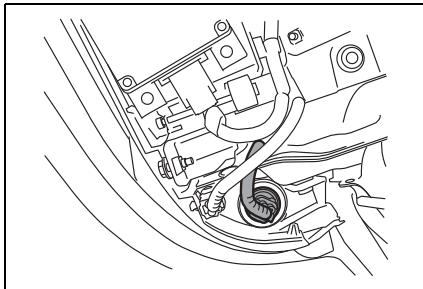
1 ボルト

2. 下側クリップを外す。

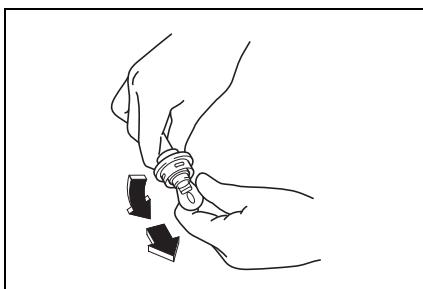
- ボルトを外し、ランプを取り出す。



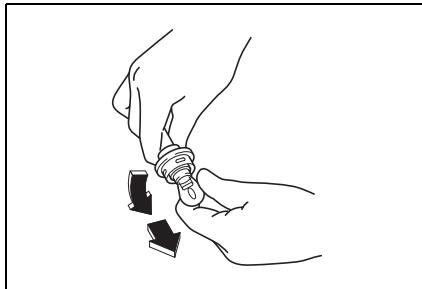
5. ソケットを取り外す。



6. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換する。



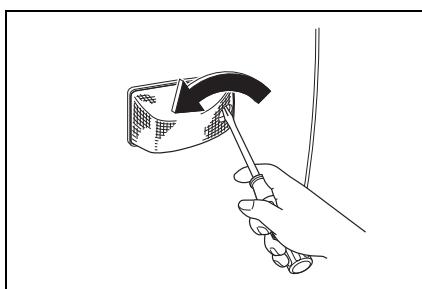
7. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。



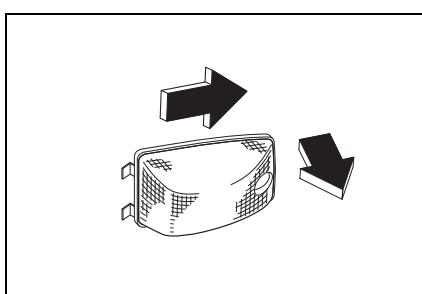
3. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

方向指示灯（フロントサイド）の交換

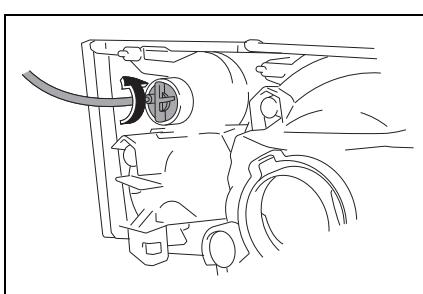
1. ネジを外す。



2. ランプをスライドさせ外す。

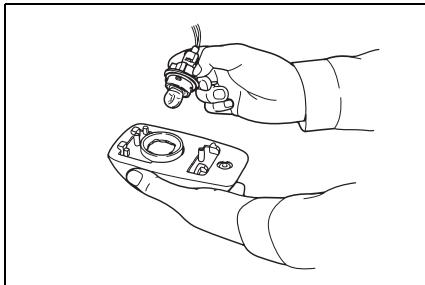


1. ソケットを取り外す。

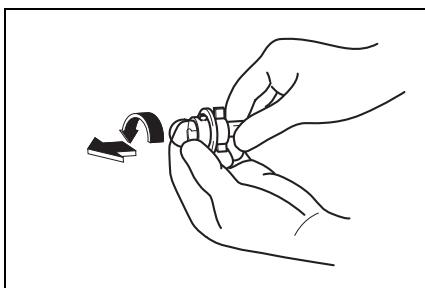


2. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換する。

3. ランプからソケットを取り出す。



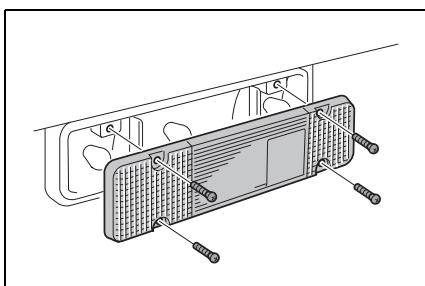
4. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換する。



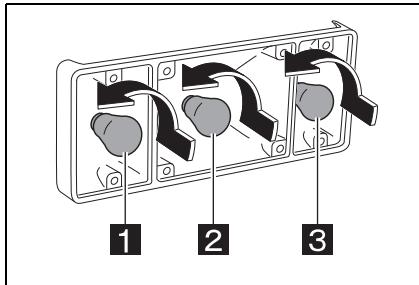
5. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

方向指示灯（リヤ）・後退灯・ 制動灯／尾灯の交換

1. ネジを外し、カバーを外す。



2. バルブを取り外し、新品のバルブと交換する。



1 方向指示灯

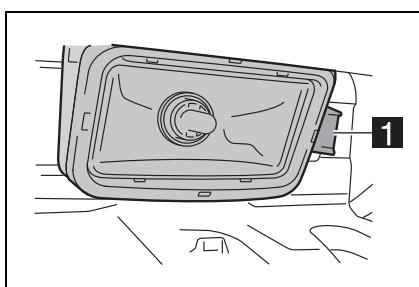
2 制動灯／尾灯

3 後退灯

3. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

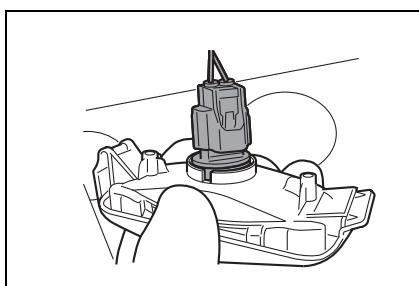
番号灯の交換（木製デッキ仕様）

1. ツマミを押してランプを取り外す。

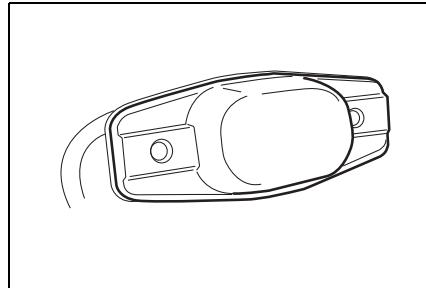
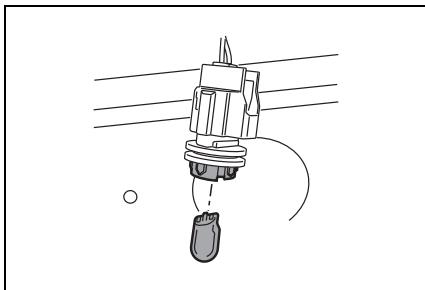


1 ツマミ

2. ランプからソケットを取り外す。



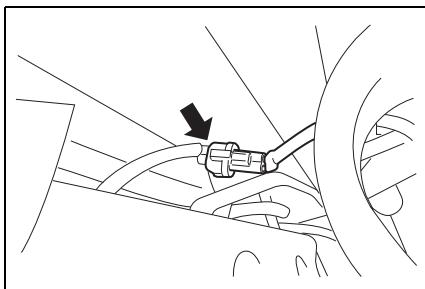
3. バルブを取り外し、新品のバルブと交換する。



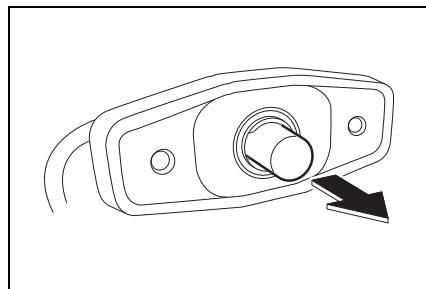
4. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

番号灯の交換（スチールデッキ仕様）

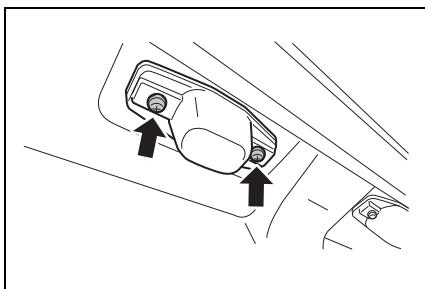
1. コネクターを切り離す。



4. バルブを取り外し、新品のバルブと交換する。



2. スクリュー2本をはずし、番号灯を取り外す。

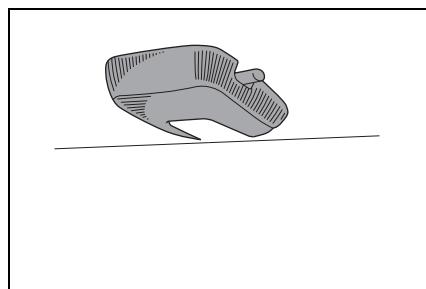


5. バルブ交換後、逆の手順で取り付ける。

ルームランプの交換

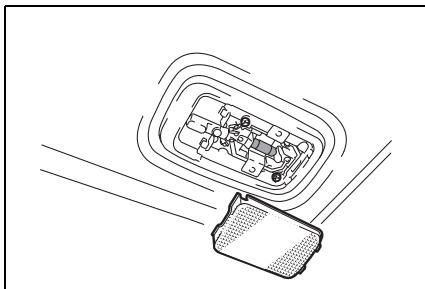
ドライバーをレンズの切り欠きに差し込み、レンズを取り外し、新品のバルブと交換します。

▶ フロント



▶ リヤ★

3. 番号灯レンズを取り外す。

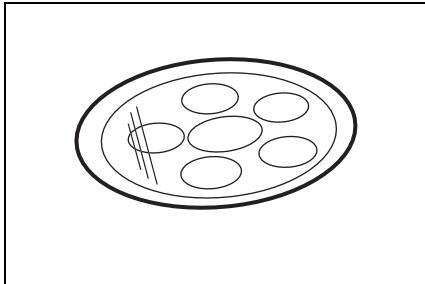


★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

室内 LED 灯の交換★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

LED ランプのため、ランプの交換
は不要ですが、故障等が発生した
ときは、トヨタ販売店へご連絡く
ださい。



アドバイス

■ ランプを交換するときは

- 片側のランプが切れた場合、もう一方のランプも寿命末期のため、左右同時に交換することをお勧めします。
- バルブを交換するときは、手袋を着用してください。

▲ 警告

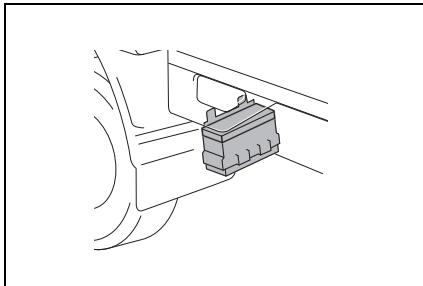
- ランプを交換するときは
 - 必ず規定ワット数の物を使用してください。配線過熱などによる火災の原因になります。
 - 消灯後すぐにランプ類を交換すると、高温になっていてやけどをするおそれがあります。少し時間をおいて温度が下がってから行ってください。
 - スイッチが「OFF」の位置にあることを確認してください。

ヒューズを交換するとき

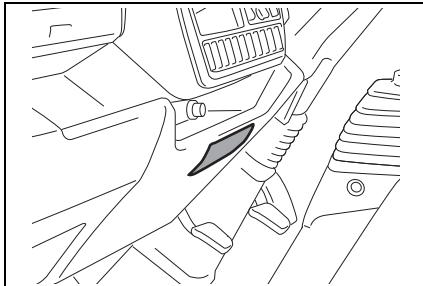
ヒューズの点検

▶ 室外ヒューズボックス 1

- * イラストはシングルキャブを示します。



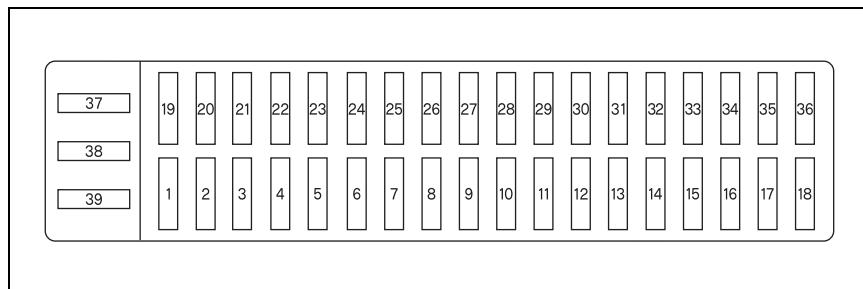
▶ 室内ヒューズブロック



1. エンジンスイッチを「LOCK」、
そのほかのスイッチを「OFF」
にする。
2. 該当すると思われるヒューズを
取り外し、ヒューズ切れがない
ことを確認する。切れている場
合は交換する。

- * 室外ヒューズボックスのカバーを取り付けるときは、確実にロックされてい
ることを確認してください。

■室内ヒューズブロック



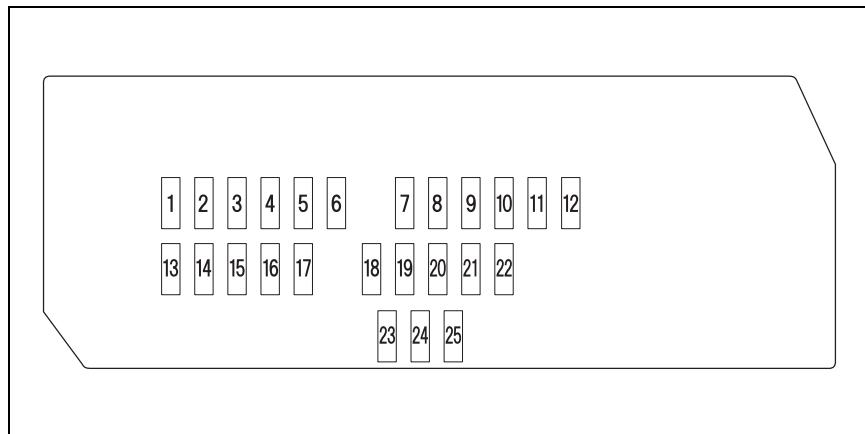
| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|---------------|------|-----------------------|
| 1 | SPARE | 30 A | — |
| 2 | ACC | 10 A | ラジオ、電格ミラー |
| 3 | ECU-ACC | 10 A | シフトロックコントローラー (A/T 車) |
| 4 | H-LP LH HI | 10 A | ヘッドランプ左 Hi |
| 5 | H-LP RH HI | 10 A | ヘッドランプ右 Hi |
| 6 | IG1 NO.1 | 10 A | エンジン ECU、ABS-ECU |
| 7 | METER | 10 A | メーター |
| 8 | P/W | 30 A | パワーウィンドウ FR |
| 9 | OBD | 10 A | 故障診断コネクター |
| 10 | — | — | — |
| 11 | ECU-B | 10 A | メーター、キーレスドアロック |
| 12 | STOP | 10 A | 制動灯 |
| 13 | — | — | — |
| 14 | AM1 | 10 A | 電源用リレー (ACC、IG) のコイル |
| 15 | AM2 | 10 A | スターターリレーのコイル |
| 16 | P/OUTLET NO.5 | 15 A | 用品オプション装着用 |
| 17 | A/BAG | 10 A | エアバッグ |
| 18 | P/W RR | 30 A | パワーウィンドウ RR |
| 19 | — | — | — |
| 20 | P/OUTLET NO.4 | 15 A | アクセサリーソケット |
| 21 | — | — | — |
| 22 | H-LP LH LO | 10 A | ヘッドランプ左 Lo |
| 23 | H-LP RH LO | 10 A | ヘッドランプ右 Lo |

| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|----------|------|------------------------------|
| 24 | — | — | — |
| 25 | TAIL | 10 A | 車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明、インパネスイッチ照明 |
| 26 | A/C | 10 A | エアコンスイッチ |
| 27 | IG1 NO.2 | 10 A | 後退灯、ヘッドランプクリーナースイッチ |
| 28 | A/C COMP | 10 A | エアコンプレッサーリレー |
| 29 | MIR HTR | 20 A | ミラーヒーター |
| 30 | DRL | 10 A | DRL |
| 31 | HAZ | 20 A | 非常点滅灯、方向指示灯 |
| 32 | HORN | 15 A | ホーン |
| 33 | RADIO | 10 A | ラジオ |
| 34 | DOME | 10 A | 室内照明 |
| 35 | WASHER | 10 A | ウォッシャー |
| 36 | WIPER | 30 A | ワイパー |
| 37 | SPARE | 10 A | 予備ヒューズ |
| 38 | SPARE | 15 A | 予備ヒューズ |
| 39 | SPARE | 20 A | 予備ヒューズ |

* 車両仕様によりヒューズの設定が無い場合があります。

■室外・床下ヒューズボックス 1

▶ ディーゼル車 Stop & Start システム付き車

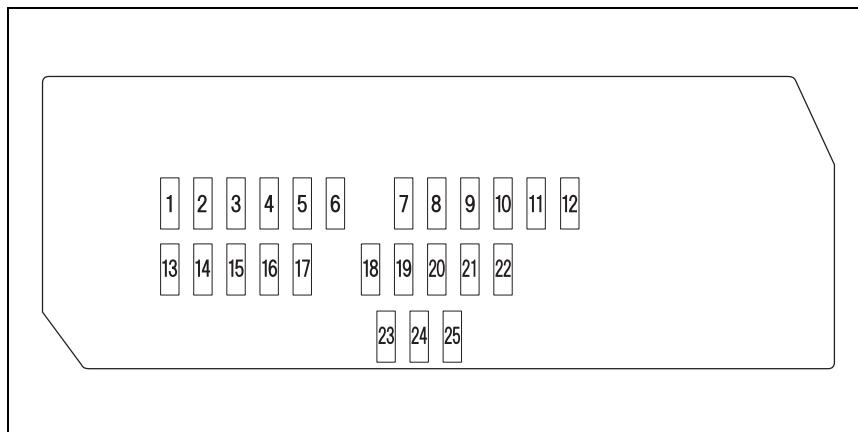


| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|---------------|------|------------------------------|
| 1 | NOX FR | 10 A | NOx センサー（フロント） |
| 2 | NOX RR | 10 A | NOx センサー（リヤ） |
| 3 | — | — | — |
| 4 | IG1 NO.3 | 10 A | 尿素 SCR |
| 5 | — | — | — |
| 6 | — | — | — |
| 7 | P/OUTLET NO.2 | 15 A | 予備電源 |
| 8 | P/OUTLET NO.3 | 15 A | 予備電源 |
| 9 | P/OUTLET NO.6 | 15 A | 予備電源 |
| 10 | — | — | — |
| 11 | — | — | — |
| 12 | PTC NO.1 | 20 A | PTC ヒーター |
| 13 | EFI NO.2 | 10 A | アイドリングストップ ECU、グローコントロールユニット |
| 14 | — | — | — |
| 15 | HTR RR | 15 A | ヒーター（リヤ） |
| 16 | DCU NO.2 | 10 A | 尿素 SCR |
| 17 | ST NO.2 | 30 A | スターター |
| 18 | H-LP MAIN | 30 A | ヘッドランプ |

| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|------------|------|--------------------|
| 19 | BATT SSR2 | 10 A | バッテリーセンサー |
| 20 | POWER NO.1 | 30 A | キャブ行き電源（非常点滅灯、ホーン） |
| 21 | EDU | 25 A | エンジン ECU |
| 22 | DCU NO.1 | 30 A | 尿素 SCR |
| 23 | EFI MAIN | 25 A | エンジン制御 |
| 24 | BATT SSR1 | 10 A | バッテリーセンサー |
| 25 | NOX PM | 20 A | PM センサー、NOx センサー |

* 車両仕様によりヒューズの設定が無い場合があります。

► ディーゼル車 Stop & Start システムなし車

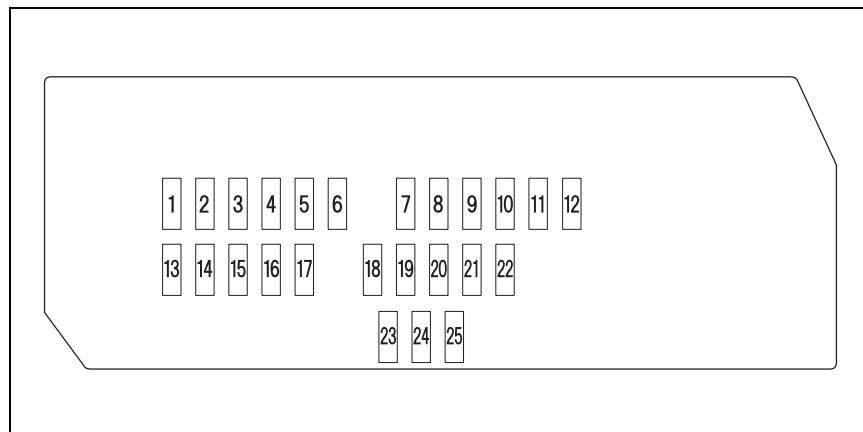


| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|---------------|------|----------------|
| 1 | NOX FR | 10 A | NOx センサー（フロント） |
| 2 | NOX RR | 10 A | NOx センサー（リヤ） |
| 3 | — | — | — |
| 4 | — | — | — |
| 5 | — | — | — |
| 6 | — | — | — |
| 7 | P/OUTLET NO.2 | 15 A | 予備電源 |
| 8 | P/OUTLET NO.3 | 15 A | 予備電源 |
| 9 | P/OUTLET NO.6 | 15 A | 予備電源 |
| 10 | — | — | — |

| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|------------|------|--------------------|
| 11 | FOG FR | 15 A | フロントフォグランプ |
| 12 | PTC NO.1 | 20 A | PTCヒーター |
| 13 | EFI NO.2 | 10 A | グローコントロールユニット |
| 14 | — | — | — |
| 15 | HTR RR | 15 A | ヒーター(リヤ) |
| 16 | — | — | — |
| 17 | — | — | — |
| 18 | H-LP MAIN | 30 A | ヘッドライト |
| 19 | IG1 NO.3 | 10 A | 尿素 SCR |
| 20 | POWER NO.1 | 30 A | キャブ行き電源(非常点滅灯、ホーン) |
| 21 | EDU | 25 A | エンジン ECU |
| 22 | DCU NO.1 | 30 A | 尿素 SCR |
| 23 | EFI MAIN | 25 A | エンジン制御 |
| 24 | DCU NO.2 | 10 A | 尿素 SCR |
| 25 | NOX PM | 20 A | PMセンサー、NOxセンサー |

* 車両仕様によりヒューズの設定が無い場合があります。

▶ ガソリン車



| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|---------------|------|------------|
| 1 | — | — | — |
| 2 | — | — | — |
| 3 | — | — | — |
| 4 | — | — | — |
| 5 | — | — | — |
| 6 | — | — | — |
| 7 | P/OUTLET NO.2 | 15 A | 予備電源 |
| 8 | P/OUTLET NO.3 | 15 A | 予備電源 |
| 9 | P/OUTLET NO.6 | 15 A | 予備電源 |
| 10 | — | — | — |
| 11 | FOG FR | 15 A | フロントフォグランプ |
| 12 | — | — | — |
| 13 | EVAP | 10 A | エアフローメーター |
| 14 | — | — | — |
| 15 | HTR RR | 15 A | ヒーター (リヤ) |
| 16 | — | — | — |
| 17 | — | — | — |
| 18 | H-LP MAIN | 30 A | ヘッドランプ |
| 19 | IG1 NO.3 | 10 A | エンジン ECU |

| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|--------------|------|--------------------|
| 20 | POWER NO.1 | 30 A | キャブ行き電源（非常点滅灯、ホーン） |
| 21 | EFI MAIN | 25 A | エンジン制御 |
| 22 | AIR PUMP HTR | 10 A | エアポンプヒーター |
| 23 | ETCS | 10 A | エンジン ECU |
| 24 | IGN | 15 A | エンジン制御 |
| 25 | A/F HTR | 15 A | A/F センサー |

* 車両仕様によりヒューズの設定が無い場合があります。

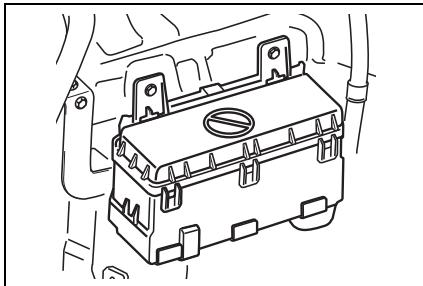
▲警告

- 車両の故障や火災を防ぐために
 - ヒューズ交換は、エンジンスイッチを「LOCK」の位置にし、そのほかのスイッチを「OFF」にしてから行ってください。
 - ヒューズ類は必ず規定のアンペアのものを使用してください。
 - ヒューズの代わりに針金や銅線を使わないでください。
 - エンジンスイッチが「ON」の位置にあるときはヒューズの交換をしないでください。
 - 何度もヒューズが切れるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。
 - ヒューズを交換するときは、バッテリーの \ominus 端子を取り外してから行ってください。

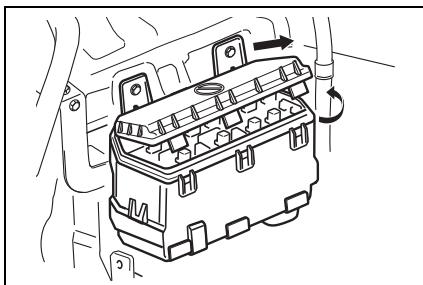
ヒュージブルリンクが溶断したとき

▶ 室外ヒュージブルリンクボックス

1. 車両正面の樹脂ロックを外す。

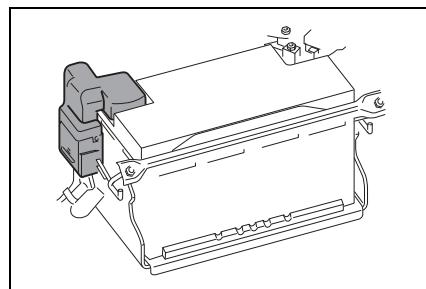


2. 外れる位置まで持ち上げ、斜め方向にスライドさせカバーを取り外す。

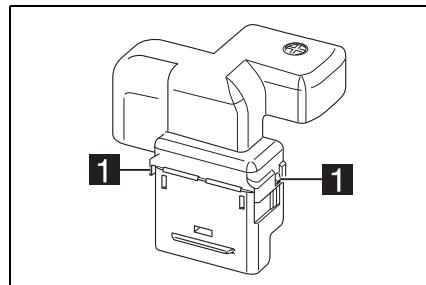


- バッテリーからヒューズボックス間、オルタネーター間の回路に過大電流が流れたとき、ヒュージブルリンクが溶断し、車体配線を保護する一種の安全ヒューズが、キャブのリヤアーチ付近に取り付けられています。
- ヒュージブルリンクは、カセット式になっています。
- カバーを取り付けるときは、確実にロックされていることを確認してください。

▶ 室外バッテリーヒューズスターーミナル

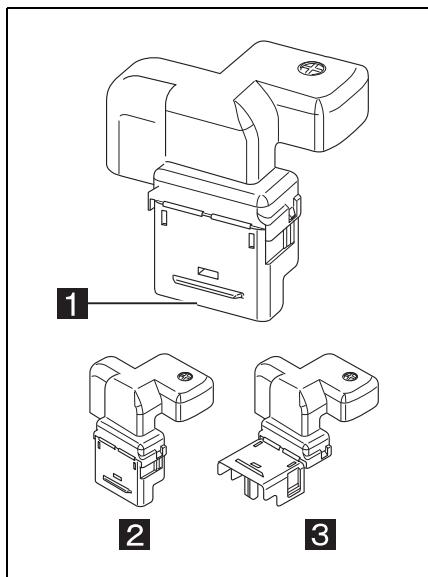


1. 左右のロック部を解除する。



1 ロック部

2. 下のロック部を解除して、Open状態にする。

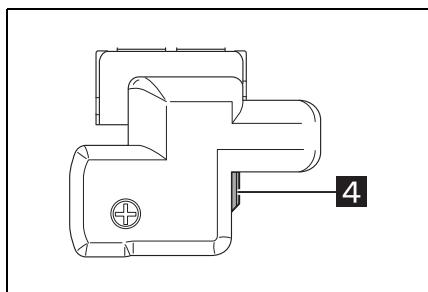


1 ロック部

2 Close

3 Open

3. 突起部に手をかけて引き抜く。

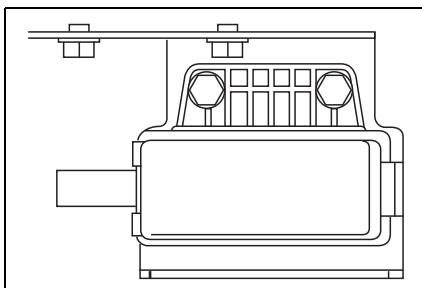


4 突起部

4. 元に戻す場合は、逆の手順で取り付ける。

● カバーを外す時、取り付けるときは、ロック位置に気をつけて確実にロックされていることを確認してください。

► 室外ヒューズボックス 2

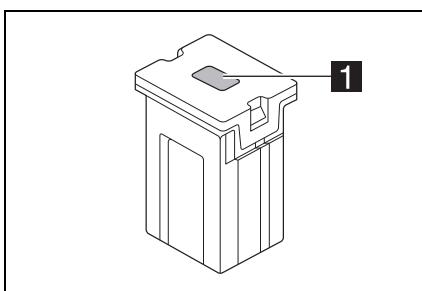


- ボックスのカバーを取り外す。
- ヒュージブルリンクは、カセット式になっています。
- カバーを取り付けるときは確実にロックされていることを確認してください。

ヒュージブルリンクの点検

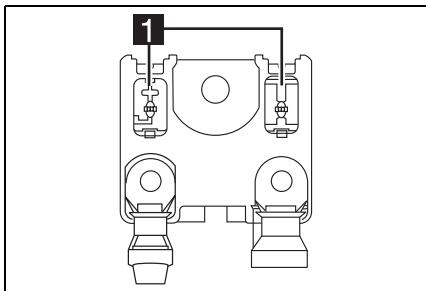
ヒュージブルリンク本体にある「窓」から溶断がないかを点検します。

► 室外ヒュージブルリンクボックス



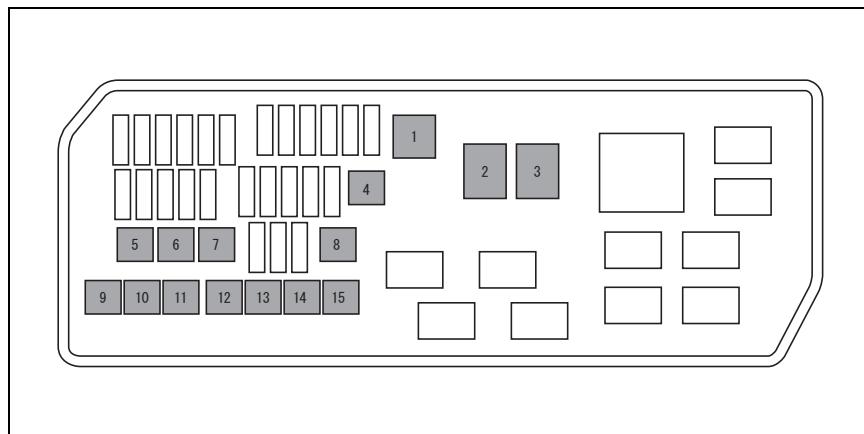
1 窓

► 室外バッテリーヒューズターミナル



1 窓

■室外・床下ヒュージブルリンクの一覧表



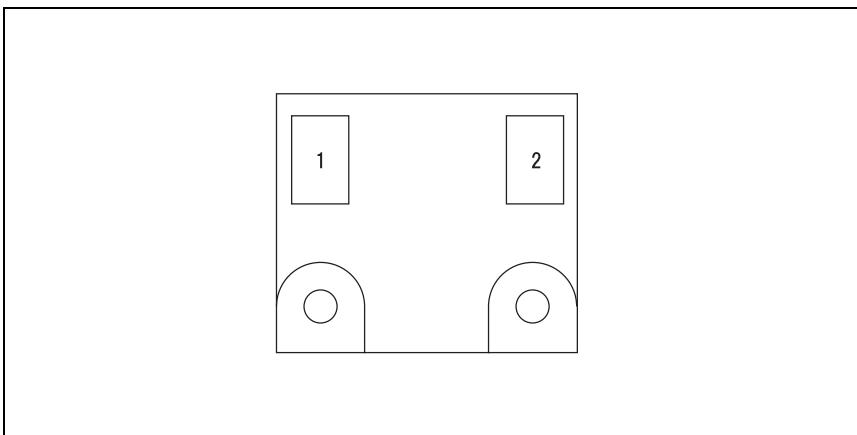
| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|----------------------|-------|-------------|
| 1 | HTR | 30 A | プロアモーター |
| 2 | ALT | 140 A | オルタネーター |
| 3 | GLOW | 80 A | グロープラグ |
| 4 | IG1 MAIN NO.1 | 50 A | 始動システム、制動灯 |
| 5 | ABS MTR | 50 A | ABS ユニット |
| 6 | D/L | 30 A | ドアロック |
| 7 | ABS | 50 A | ABS ユニット |
| 8 | H-LP CLN (ディーゼル車) | 20 A | ヘッドランプクリーナー |
| | AIR PMP (ガソリン車) | 50 A | AI ドライブ |
| 9 | IG1 MAIN NO.2 | 50 A | ワイパー、ウォッシャー |
| 10 | RR HTR | 30 A | リヤヒーター |
| 11 | MAIN NO.2 | 50 A | 尾灯、ACC 電源 |
| 12 | FAN | 30 A | 電動クーリングファン |
| 13 | ST | 60 A | スターター |

| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|--|------|--------------|
| 14 | MAIN NO.3 (Stop & Start システム付車) | 40 A | 尿素 SCR、スターター |
| | P/OUTLET NO.1 (ガソリン車) (Stop & Start システムなし車) | 40 A | 架装用電源 (冷凍車) |
| 15 | PTC_NO.2 (ディーゼル車) | 50 A | PTC ヒーター |
| | H-LP CLN (ガソリン車) | 20 A | ヘッドランプクリーナー |

* 車両仕様によりヒュージブルリンクの設定が無い場合があります。

■室外バッテリーヒューズターミナル

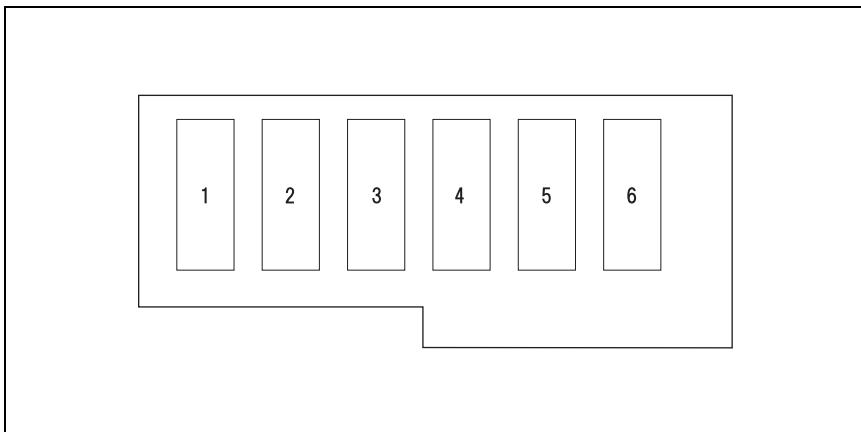
▶ ディーゼル車 Stop & Start システム付き車



| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|------|------|------------------------------------|
| 1 | BBC | 80A | アイドリングストップ ECU |
| 2 | MAIN | 200A | 室外・床下ヒューズボックス1用電源 室内ヒューズブロック用電源 |

■室外・床下ヒューズボックス 2

▶ ディーゼル車 Stop & Start システム付き車



| No. | 名称 | 表示容量 | 主な負荷 |
|-----|------|------|----------------|
| 1 | — | — | — |
| 2 | — | — | — |
| 3 | BBC1 | 40A | アイドリングストップ ECU |
| 4 | — | — | — |
| 5 | BBC2 | 40A | アイドリングストップ ECU |
| 6 | — | — | — |

⚠ 注意

■車両の故障を防ぐために

- コネクターを外したときは、必ず元の位置に戻してください。
- 指定容量以外のヒュージブルリンクを使用しないでください。

■ヒュージブルリンクが溶断したときは

- ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

リレーが故障したとき

⚠ 注意

■車両故障を防ぐために

- リレーの交換は、ご自身で行わないでください。

■リレーが故障したときは

- ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキの効きが悪くなったら

⚠ 警告

■ブレーキの効きの低下

- ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキペダルを強く踏み、さらにギヤシフトダウン、パーキングブレーキを併用し、ただちに安全な場所に停車させてください。停車後、トヨタ販売店に連絡してください。
- 停車したときは、絶対に車を動かさないでください。ブレーキの効きが低下している状態での走行は危険です。

走行中エンジンが止まつたら

- 走行中、エンジンが止まつたときは、あわてずに、ブレーキペダルを踏みながら減速し、安全な場所に停車させて点検してください。また、パワーステアリングが作動しなくなるためハンドルが急に重くなりますので、通常より強い力でハンドルを操作してください。
- 走行中に燃料切れでエンジンが止まつたときは、燃料系統にエアが入ってしまい、燃料を補給しただけでは始動できません。燃料系統のエア抜きを行ってください。（→P.15-39）

走行中パンクしたとき

急ブレーキを避け、ハンドルをしっかりと握り、非常点滅灯で後続車に注意を促してください。そして、徐々にスピードを落とし、安全で平坦な場所に停車させて、タイヤの交換をしてください。

* タイヤの取り扱い（→P.13-32）

▲ 警告

■ 走行中にパンクしたら

- 急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ大変危険ですので絶対に行わないでください。
- パンクしたままで走行しないでください。そのまま走行を続けると、タイヤがバースト（破裂）などを起こすおそれがあり危険です。

火災が発生したとき

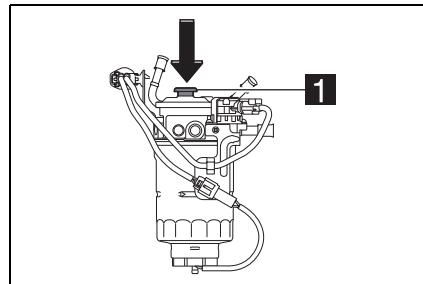
ただちに安全な場所に停車させてエンジンを止め、消火器などで消火してください。

燃料が切れたとき

ディーゼル車は燃料切れでエンジン停止したときや、燃料フィルターエレメントなどを交換したときは、燃料系統に空気が混入し、燃料を補給しただけではエンジンを始動できません。エア抜きを行ってください。

エア抜きのしかた

- 車両側燃料フィルターのプライミングポンプを上下に動かし、ポンプ抵抗を得られるまで繰り返す。



1 プライミングポンプ

- エア抜き後はエンジンをかけて燃料漏れがないことを確認する。
- エンジンがかからない場合は、1～2の手順を数回繰り返す。

* 噴射ポンプ関係に異常がみられたときは、トヨタ販売店で必ず点検・整備を受けてください。

▲警告

■車両火災を防ぐために

- 燃料漏れがあるときは、ガスケット交換または増し締めをしてください。

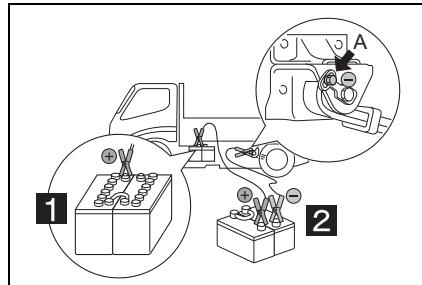
- 安全のため、地面を汚さないためにも、燃料は必ず容器に受けてください。
- エンジン各部に燃料がかかっては、よく拭き取ってください。
- 作業中はタバコの火などを近づけないでください。

△ 注意

- プライミングポンプの扱いについて
- プライミングポンプの操作は毎秒 2 往復までにしてください。
- プライミングポンプはフルストロークで押す必要があります。
- サプライポンプの燃料圧力が飽和圧力に達すると、プライミングポンプの抵抗が増加します。
- エア抜き中にプライミングポンプの操作が中断されると、燃料ライン内の燃料が燃料タンクに戻る可能性があります。プライミングポンプの抵抗が増加するまで動かしてください。
- 200回以上連続して押してもプライミングポンプの抵抗が上がらない場合は、燃料タンクと燃料フィルターの間に燃料漏れ、プライミングポンプの故障、燃料切れの可能性があります。
- プライミングポンプを使用したエア抜きが不完全な場合、コモンレール圧力が通常の使用に必要な圧力範囲まで上昇せず、エンジンを始動することができます。

バッテリーがあがったとき

ブースターケーブルで他車のバッテリーと接続してエンジンを始動させるときは、必ず次の順序で行ってください。故障車のエンジン始動は、記載している以外の方法では行わないでください。



1 故障車のバッテリー

2 正常車のバッテリー

1. 良好なバッテリー側の車両（正常車）のエンジンを停止させる。
2. 赤色ブースターケーブルを故障車のバッテリーの \oplus 端子に接続する。
3. 正常車のバッテリーの \oplus 端子に接続する。
4. 黒色ブースターケーブルを正常車の \ominus 端子に接続する。
5. 故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームか「A」に接続する。
6. 故障車のエンジンを始動させる。
7. エンジン始動後、ブースターケーブルを接続の逆の順序で取り外す。

👉 アドバイス

■ 寒冷時でエンジンがかかりにくいときは

正常車のエンジンを始動させ数分たつてから、故障車のエンジンを始動させてください。

⚠ 警告

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が「 LOWER 」以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。補充してから行ってください。
- 最後の接続時にはスパークが発生することがあり危険ですので、バッテリーからできるだけ離れた位置に接続してください。

■ 引きがけや坂道でエンジンをかけないで

引きがけや坂道で車を動かしてエンジンをかけないでください。追突事故につながるおそれがあり危険です。

■ 火気をバッテリーに近づけないでください

- 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する水素ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ・ 「A」の接続（手順5参照）は故障車バッテリーの \ominus 端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。

- ブースターケーブルを接続するとき、 \oplus と \ominus 端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気をバッテリーに近付けないでください。
- 充電中はバッテリーに近付かないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

■ バッテリー液の取り扱い

誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲み、医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

■ 救援車のバッテリーは 12 V を使用してください

- 他車（正常車）のバッテリーは 12 V でなければなりません。必ず確認してください。
- バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。



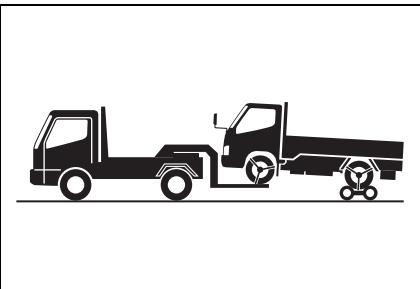
けん引の前に販売会社への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者にご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

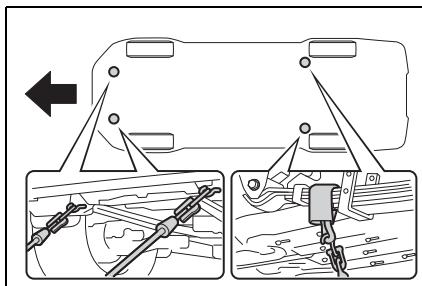
- ▶ 前向きにけん引するときは台車を使用して後輪を持ち上げる。



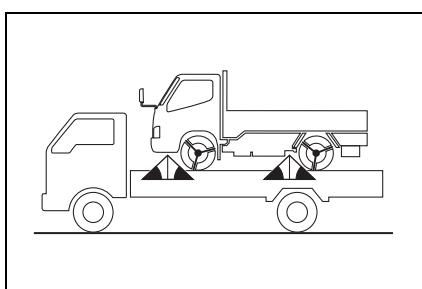
- ▶ うしろ向きにけん引するときは台車を使用して前輪を持ち上げる。

車両運搬車を使用するとき

- 車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する。



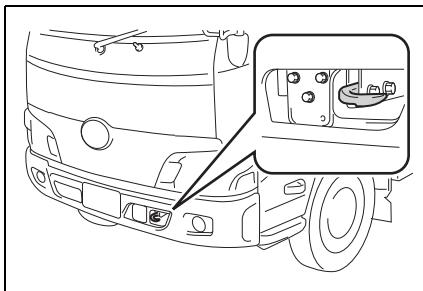
- 鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する。



他車にけん引してもらうとき

1. 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

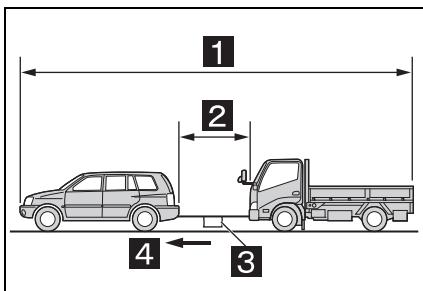
* 前進方向でけん引してください。



2. ロープの中央に白い布をつける

* 布の大きさ :

0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上



1 25m 以内

2 5m 以内

3 白い布

4 けん引方向

3. 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する。

* エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを「ON」にしてください。

4. けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する。

* けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

* シフトレバーがシフトできないとき
(→ P5-13)

知識

■ けん引フックの使用目的

フロントけん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

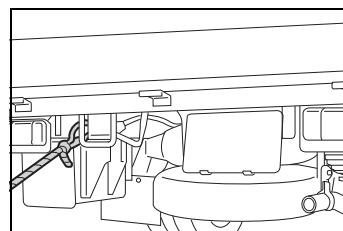
■ 他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■ リヤ側フックについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

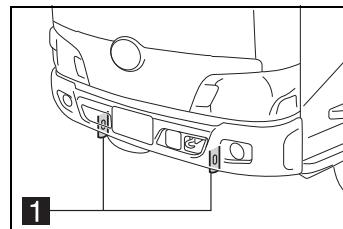
このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■ 輸送用フックについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。

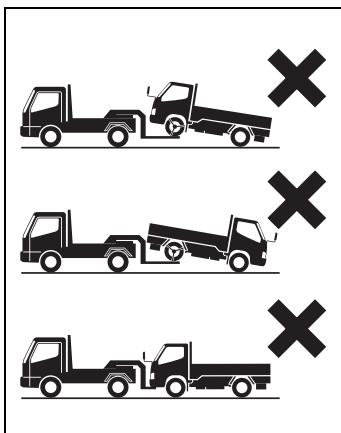


1 輸送用フック

▲警告

■ レッカー車でけん引するとき

- 2WD 車は、必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。
- 4WD 車は、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



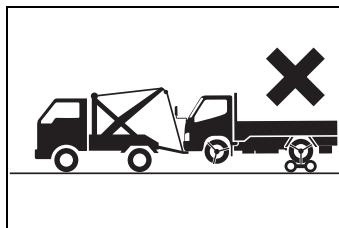
■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などは避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを「LOCK」の位置にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができないくなるおそれがあります。

△注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

水没・冠水したとき

この車両は、水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
 - ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
 - ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
 - 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
- * 車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー*の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されません。

* 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

▲警告**■走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

**アドバイス**

「安全・快適走行のために」を合わせてご覧ください。(\rightarrow P.1-7)

サービスデータ

16

ご自身でできる点検整備の基準値をまとめています。

タイヤ・ホイール・アクスルシャフト

■ タイヤ溝の深さ限度

| 基準値 | 参照ページ |
|------|-------|
| 本文参照 | 12-10 |

■ ホイールナットの締め付けトルク

| 車型 | 締め付けトルク | 参照ページ |
|----------|---|-------------|
| ジャストロー | フロント 115 ~ 155 N・m [1,180 ~ 1,580 kgf・cm] | 13-32、13-48 |
| | リヤ 145 ~ 195 N・m [1,480 ~ 1,980 kgf・cm] | |
| フルジャストロー | フロント / リヤ 340 ~ 390 N・m [3,470 ~ 3,970 kgf・cm] | |

■ アクスルシャフト・ドライブシャフトの締め付けトルク

| 締め付け箇所 | 対応車型 | 部位 | 締め付けトルク |
|---------------------|----------|--------------------------------|---------------------------------------|
| ドライブシャフト 取り付けナット | 4WD 車 | ハブフランジ～ ハブ(フロント) | 24.0 ~ 36.0 N・m [244 ~ 366 kgf・cm] |
| | | ドライブシャフト ～フロントディ ファレンシャル | 72.6 ~ 93.1 N・m [741 ~ 950 kgf・cm] |
| アクスルシャフト 取り付けナット | 8 インチ | アクスルシャフト ～ハブ(リヤ) | 26.4 ~ 39.6 N・m [270 ~ 404 kgf・cm] |
| | 10.5 インチ | | 47.2 ~ 70.8 N・m [482 ~ 722 kgf・cm] |

ラジエーター

■ 冷却水容量

▶ ディーゼル車

| 車種 | 冷却水容量 | 参照ページ |
|----------------|--------|-------|
| シングルキャブ (MT 車) | 9.9 L | 13-17 |
| シングルキャブ (AT 車) | 9.8 L | |
| ダブルキャブ (MT 車) | 11.0 L | |
| ダブルキャブ (AT 車) | 10.9 L | |

▶ ガソリン車

| 車種 | 冷却水容量 | 参照ページ |
|------|-------|-------|
| MT 車 | 9.9 L | 13-17 |
| AT 車 | 9.8 L | |

■ インタークーラー冷却用冷却水容量 (ディーゼル車)

| 冷却水容量 | 参照ページ |
|-------|-------|
| 1.8 L | 13-31 |

ブレーキ

■ パーキングブレーキレバーの引きしろ

| 基準値 | 参照ページ |
|------------|-------|
| 6 ~ 10 ノッチ | 13-31 |

■ ドラムとライニングのすき間 (ドラムブレーキ)

| 基準値 | 参照ページ |
|----------------|-------|
| 0.24 ~ 0.64 mm | 13-27 |

■ ブレーキペダルの遊び

| 基準値 | 参照ページ |
|-----------------|-------|
| ペダル先端で 1 ~ 3 mm | 13-27 |

サービスデーター 4

クラッチ

■ クラッチペダルの遊び

| 基準値 | 参照ページ |
|----------|-------|
| 1 ~ 5 mm | 13-29 |

■ クラッチペダルと床板のすき間

| 基準値 | 参照ページ |
|----------|-------|
| 25 mm 以上 | 13-29 |

ステアリング

■ ハンドルの遊び（円周上）

| 基準値 | 参照ページ |
|----------|-------|
| 25 mm 以下 | 13-50 |

エアコン

■ エアコン冷媒（ガス）規定量

| 規定量 | 参照ページ |
|-----------|------------|
| リヤクーラー無し車 | 550 ± 50 g |
| リヤクーラー付き車 | 750 ± 50 g |

ランプ

| ランプの名称 | 容量 | 参照ページ |
|----------------------------|-------------|-------|
| ヘッドランプ〔ハイビーム / ロービーム〕(LED) | 12V-25/20 W | 15-16 |
| フォグランプ | 12V-5.4 W | |
| 方向指示灯（フロント） | 12V-21 W | |
| 車幅灯 | 12V-5 W | |
| 方向指示灯（フロントサイド） | 12V-21 W | |
| 番号灯 | 12V-5 W | |
| 方向指示灯（リヤ） | 12V-21 W | |
| 制動灯／尾灯 | 12V-21/5 W | |
| 後退灯 | 12V-21 W | |
| ヒーターコントロールパネルランプ | 12V-1.8 W | |
| ルームランプ | 12V-10 W | |
| 室内 LED 灯★ | 12V-1.2 W | |
| デイタイムランニングランプ(LED) | 12V-6 W | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

五十音順さくいん
.....さくいん-2

五十音順さくいん

あ

| | |
|-------------|--------|
| アイドルアップスイッチ | P.5-50 |
| アクセサリーソケット | P.8-40 |
| 安全・快適走行のために | P.1-7 |
| アンテナ | P.8-2 |

い

| | |
|----------|---------|
| インターフーラー | P.13-12 |
|----------|---------|

う

| | |
|------------------------|---------|
| ウインドウォッシャー | P.13-55 |
| ウインドウォッシャーの 液量・噴射状態 | P.12-12 |
| 運転前に | P.1-2 |

え

| | |
|-----------------------------|--------------|
| エアクリーナー | P.13-13 |
| エアコン | P.7-3, 13-53 |
| エアフィルター | P.13-15 |
| エアフローメーター | P.13-69 |
| ABS 警告灯 | P.6-16 |
| SRS エアバッグ (シートベルト補助拘束装置) | P.5-17 |
| SRS エアバッグについて | P.1-24 |
| SRS エアバッグ / プリテンショナー 警告灯 | P.6-18 |
| エラー表示について | P.8-17 |
| エンジンオイル | P.14-4 |
| エンジンオイルの量 | P.12-4 |
| エンジンオイルフィルター | P.13-8 |
| エンジン警告灯 | P.6-18 |
| エンジンスイッチ | P.5-2 |
| エンジン点検口の開閉 | P.3-10 |
| エンジンのかかり具合・異音 | P.12-12 |
| エンジンのかけ方 | P.5-3 |
| エンジンの止め方 | P.5-4 |

お

| | |
|--------------------------------|---------|
| AUX 端子の使い方 | P.8-22 |
| オーディオシステムについて | P.8-29 |
| オーディオの種類 | P.8-3 |
| オーディオを上手に お使いいただくために | P.8-2 |
| オート・トランスマッision フルード (AT 車) | P.14-10 |
| オートマチック車を 運転するにあたって | P.1-15 |
| オートマチック トランスマッision (AT 車) | P.5-8 |
| オートマチックハイビーム | P.5-28 |
| オーバーヒート警告灯 | P.6-13 |
| オーバーヒートしたとき | P.15-14 |
| お子さまを乗せるときの 気くばり | P.1-20 |

か

| | |
|-----------|---------|
| 夏期の取り扱い | P.10-6 |
| 火災が発生したとき | P.15-39 |

き

| | |
|-------------|---------|
| キー | P.3-2 |
| 機能設定モード | P.8-7 |
| キャブチルト警告灯 | P.6-22 |
| キャブを上げる前の準備 | P.11-2 |
| 給脂 | P.14-18 |
| 給脂図 | P.14-17 |

く

| | |
|-------------------|---------|
| クラッチ | P.13-29 |
| クリアランスソナー システム | P.5-81 |
| 車のお手入れ | P.13-62 |
| 車の点検について | P.2-3 |

| | |
|-----------------------------|---------|
| け | |
| 計器類の点検 | P.13-70 |
| 警告灯・表示灯 | P.6-9 |
| 警告灯が点灯したとき | P.15-13 |
| 警報ブザーが鳴ったとき | P.15-15 |
| けん引について | P.15-42 |
| こ | |
| 故障したとき | P.15-11 |
| 誤発進抑制機能システム | P.5-73 |
| これは危ない！気をつけて | P.1-21 |
| コンソールボックス類 | P.8-42 |
| さ | |
| サンバイザー | P.8-39 |
| し | |
| システム設定 | P.8-29 |
| シート | P.4-2 |
| シートベルト | P.4-6 |
| シートベルト未装着 警報ランプ | P.6-17 |
| 車線逸脱警報装置 | P.5-53 |
| 室内 LED 灯 | P.8-33 |
| 車外騒音に関わる部品 | P.13-61 |
| 車載工具 | P.13-5 |
| シャシスプリング | P.13-52 |
| 車台番号 | P.2-6 |
| ジャッキアップ | P.13-31 |
| 車両への乗り降り | P.3-11 |
| 充電警告灯 | P.6-17 |
| 手動キャブチルト | P.11-2 |
| 手動式ミラー | P.5-37 |
| 純正油脂類 | P.14-3 |
| 新車時の取り扱い | P.2-5 |
| す | |
| ステアリング | P.13-50 |
| Stop & Start システム (AT 車) | P.5-86 |
| スピードメーター | P.6-3 |
| スペアタイヤ | P.13-42 |
| 水没・冠水したとき | P.15-45 |
| せ | |
| 選局操作 | P.8-11 |
| 前日または前回運行中の 異状箇所 | P.12-3 |
| そ | |
| 走行時の注意 | P.9-4 |
| 走行中エンジンが止まつたら | P.15-38 |
| 走行中パンクしたとき | P.15-38 |
| た | |
| ターボ車の取り扱い | P.1-14 |
| タイヤの異常な摩耗 | P.12-9 |
| タイヤの亀裂・損傷 | P.12-9 |
| タイヤの空気圧 | P.12-8 |
| タイヤの取り扱い | P.13-32 |
| タイヤの溝の深さ | P.12-10 |
| タイヤローテーション | P.13-39 |
| タコメーター | P.6-3 |
| ち | |
| 駐・停車時の注意 | P.9-11 |
| 駐・停車するとき | P.1-18 |
| つ | |
| ツールボックス | P.3-15 |
| 積荷 | P.9-12 |

て

| | |
|------------------------|---------------|
| 低速・加速の状態 | P.12-18、13-69 |
| ディスクブレーキ | P.13-28 |
| DPR（排出ガス浄化装置）の 取り扱い | P.1-26 |
| ディファレンシャル・オイル | P.14-12 |
| 点検・調整作業にあたっての 注意 | P.13-3 |
| 点検にあたっての注意 | P.12-2 |
| 電動格納式アウターミラー スイッチ | P.5-34 |

と

| | |
|------------------------|---------|
| ドア | P.3-6 |
| ドアガラスの開閉 | P.3-8 |
| 冬期の取り扱い | P.10-2 |
| ドラムブレーキ | P.13-27 |
| トランスファ・オイル | P.14-11 |
| トランスミッションオイル (MT 車) | P.14-8 |

に

| | |
|---------------------------|---------|
| 荷台 | P.9-12 |
| 2面鏡ミラー | P.5-47 |
| 尿素 SCR（尿素選択式 還元触媒）システム | P.13-66 |
| 尿素 SCR システム警告灯 | P.6-21 |
| 尿素水残量警告灯 | P.6-19 |

ね

| | |
|------------------|---------|
| 燃料が切れたとき | P.15-39 |
| 燃料・水分離器水位 警告灯 | P.6-15 |
| 燃料フィルターの 水抜き | P.13-11 |

は

| | |
|--------------|---------|
| パーキングブレーキ | P.13-31 |
| パーキングブレーキレバー | P.5-15 |

パーキングブレーキの

| | |
|----------------------|---------|
| 引きしろ | P.12-11 |
| 灰皿 | P.8-41 |
| 排出ガス浄化装置スイッチ | P.5-48 |
| 配線関係 | P.13-61 |
| バキューム警告ブザー | P.6-14 |
| 発炎筒（緊急保安炎筒） | P.15-12 |
| バックガイドモニター | P.5-39 |
| バックブザー減音スイッチ | P.5-91 |
| バックモニター付き インナーミラー | P.8-34 |
| 発進前の準備 | P.9-2 |
| バッテリー | P.13-57 |
| バッテリー液の量 | P.12-7 |
| バッテリーがあがったとき | P.15-40 |
| パワーステアリングフルード | P.14-14 |
| ハンドル | P.5-16 |

ひ

| | |
|----------------------|---------|
| 非常点滅灯スイッチ | P.5-32 |
| ヒュージブルリンクが 溶断したとき | P.15-31 |
| ヒューズを交換するとき | P.15-23 |
| PCS（プリクラッシュセーフティ） | P.5-57 |

ふ

| | |
|-------------------------|---------|
| Vベルト | P.13-24 |
| Vベルトの緩み・損傷 | P.12-7 |
| VSC・TRC | P.5-51 |
| フットブレーキ | P.13-25 |
| フォグランプスイッチ | P.5-33 |
| 吹き出し口の調整 | P.7-2 |
| 不調時の原因と処置 | P.15-2 |
| フューエルキャップ (燃料補給口) | P.3-12 |
| Bluetooth® オーディオの 操作 | P.8-18 |

| | |
|---------------------------|---------------|
| Bluetooth® 対応機器登録の しかた | P.8-9 |
| Bluetooth® 電話の使い方 | P.8-24 |
| ブレーキ液の量 | P.12-11 |
| ブレーキ警告灯 | |
| ・バキューム警告灯 | P.6-13 |
| ブレーキの効きが 悪くなったら | P.15-37 |
| ブレーキのきき具合 | P.12-17、13-29 |
| ブレーキフルード | |
| ・クラッチフルード | P.14-15 |
| ブレーキペダルの踏みしろ | P.12-16 |

へ

| | |
|-------------|--------|
| ペダル類 | P.5-6 |
| ヘッドランプクリーナー | |
| スイッチ | P.5-86 |
| ヘッドランプ光軸調整 | |
| スイッチ | P.5-33 |

ほ

| | |
|---------|---------|
| ホイール | P.13-48 |
| 方向指示レバー | P.5-32 |
| ホーンボタン | P.5-17 |
| 保証について | P.2-2 |

ま

| | |
|----------------------------|-------|
| マニュアルトランスマッision (MT 車) | P.5-7 |
| マルチインフォメーション | P.6-4 |

み

| | |
|-------------|--------|
| ミラーヒータースイッチ | P.5-36 |
|-------------|--------|

め

| | |
|-------------------|---------|
| メーターが異常を 示したとき | P.15-13 |
| メーター類の配置 | P.6-2 |

い

| | |
|---------|---------|
| USB の操作 | P.8-12 |
| 油圧警告灯 | P.6-15 |
| 油脂一覧表 | P.14-20 |

よ

| | |
|------------|--------|
| 予熱装置異常警告灯 | P.6-22 |
| 4WD 車の取り扱い | P.1-16 |

ら

| | |
|--------------|---------|
| ラジエーターキャップ | P.13-23 |
| ラジオの使い方 | P.8-5 |
| ランプスイッチ | P.5-25 |
| ランプ類が点灯しないとき | P.15-16 |
| ランプ類の作用点検 | P.12-15 |
| ランプの汚れ・損傷 | P.12-3 |

り

| | |
|------------|---------|
| リヤクーラー | P.7-8 |
| リヤヒーター | P.7-8 |
| リヤルームランプ | P.8-33 |
| リレーが故障したとき | P.15-37 |

る

| | |
|--------|--------|
| ルームランプ | P.8-32 |
|--------|--------|

れ

| | |
|-------|---------|
| 冷却水 | P.13-17 |
| 冷却水の量 | P.12-5 |

わ

| | |
|-------------|---------|
| ワイドビューミラー | P.5-37 |
| ワイパー | P.13-56 |
| ワイパー&ウォッシャー | |
| スイッチ | P.5-23 |
| ワイパーの拭き取り状態 | P.12-13 |
| ワイヤレスドアロック | P.3-3 |

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願ひいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

2025年9月 初版発行

2025年9月 OM-DR1524JPNJT-AALLA

不許複製

ト5710



M25710
01999-25710